財団法人山武郡市文化財センター発掘調査報告書　第93集

# 長倉鍛冶屋台遺跡

―国道126号山武東総道路建設に伴う発掘調査報告書Ⅴ―

2007
千　葉　県　道　路　公　社
財団法人　山武郡市文化財センター

# 長倉鍛冶屋台遺跡

— 国道126号山武東総道路建設に伴う発掘調査報告書Ⅴ —

長谷鍛冶屋谷遺跡

巻頭図版２

D－２１１

鍛冶屋台から寺方をのぞむ

弥生土器

土師器

鏡形模造品

子持勾玉

# 序　　文

財団法人山武郡市文化財センターは，山武郡市内における埋蔵文化財の調査研究，地域住民の文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和59年に設置され，以来，数多くの遺跡の発掘調査を実施し，その結果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび，山武郡市文化財センター発掘調査報告書第93集として，国道126号山武東総道路建設に伴って実施した，長倉鍛冶屋台遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

今回の調査では，旧石器時代から近世までのさまざまな遺構や遺物を検出することができました。特に古墳時代の鏡形土製品や子持勾玉の出土や中世の井戸状遺構の検出など，この地域において，連綿と営まれた人々の生活を知る上で，貴重な成果が得られました。

刊行にあたり，この報告書が学術資料として，また埋蔵文化財の保護として広く活用されることを願っております。

終わりに，調査に際し，ご指導，ご協力をいただきました千葉県道路公社，千葉県教育庁教育振興部文化財課，横芝光町教育委員会及び地元関係の皆様や関係機関，また，発掘調査から整理までご苦労をおかけした作業員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成19年３月

財団法人山武郡市文化財センター
理　事　長　　石井　利夫

# 例　　言

1　本書は，銚子連絡道建設事業に先立つ長倉鍛冶屋台遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　長倉鍛冶屋台遺跡は千葉県山武郡横芝光町長倉字鍛冶屋台にそれぞれ所在する。

3　調査は，千葉県道路公社の委託により，千葉県教育委員会及び横芝光町教育委員会の指導を得て，財団法人山武郡市文化財センターが実施した。

4　発掘調査面積は，確認調査面積（上層）1,052㎡/10,500㎡，（下層）484㎡/10,400㎡，本調査面積（上層）10,780㎡，（下層）484㎡である。

5　調査及び整理・報告書作成の機関は下記の通りである。

| | | |
|---|---|---|
| 確認調査期間 | （上層） | 平成14年２月25日～平成14年３月27日 |
| | | 平成16年２月２日～平成16年２月３日 |
| | （下層） | 平成14年５月１日～平成15年３月31日 |
| | | 平成16年４月12日～平成16年６月15日 |
| 本調査期間 | | 平成14年４月１日～平成14年４月30日 |
| | | 平成14年５月１日～平成15年３月31日 |
| | | 平成15年４月１日～平成16年３月23日 |
| | | 平成16年４月12日～平成16年６月15日 |
| 整理期間 | | 平成14年４月１日～平成15年３月28日 |
| | | 平成15年４月１日～平成15年12月24日 |
| | | 平成16年４月１日～平成17年３月25日 |
| | | 平成17年４月１日～平成18年３月31日 |
| | | 平成18年８月１日～平成18年　月　日 |

6　発掘調査は，調査課長　土屋潤一郎，島立桂の指導のもとに調査課長補佐　渡辺修司，主任調査研究員　稲見英輔，調査研究員　田中万里子が担当し，整理・報告書の作成は，調査課長　島立桂，調査係長　渡辺修司，主任調査研究員　吉田直也，調査研究員　田中万里子　調査課全員の協力を得た。

7　本書の執筆は第１章を島立桂，それ以外を田中が行い，島立，渡辺が加筆・補正を行った。

8　挿図の第１図は，国土地理院発行の１/25,000の地形図「多古」・「成東」を使用して作成した。

9　出土遺物，実測原図，写真は，財団法人山武郡市文化財センターが管理保管している。

10　発掘調査及び整理作業にあたり，次の方々から多大なるご指導・ご協力を賜った。ここに期して厚く御礼申し上げます。（敬称略・順不同）

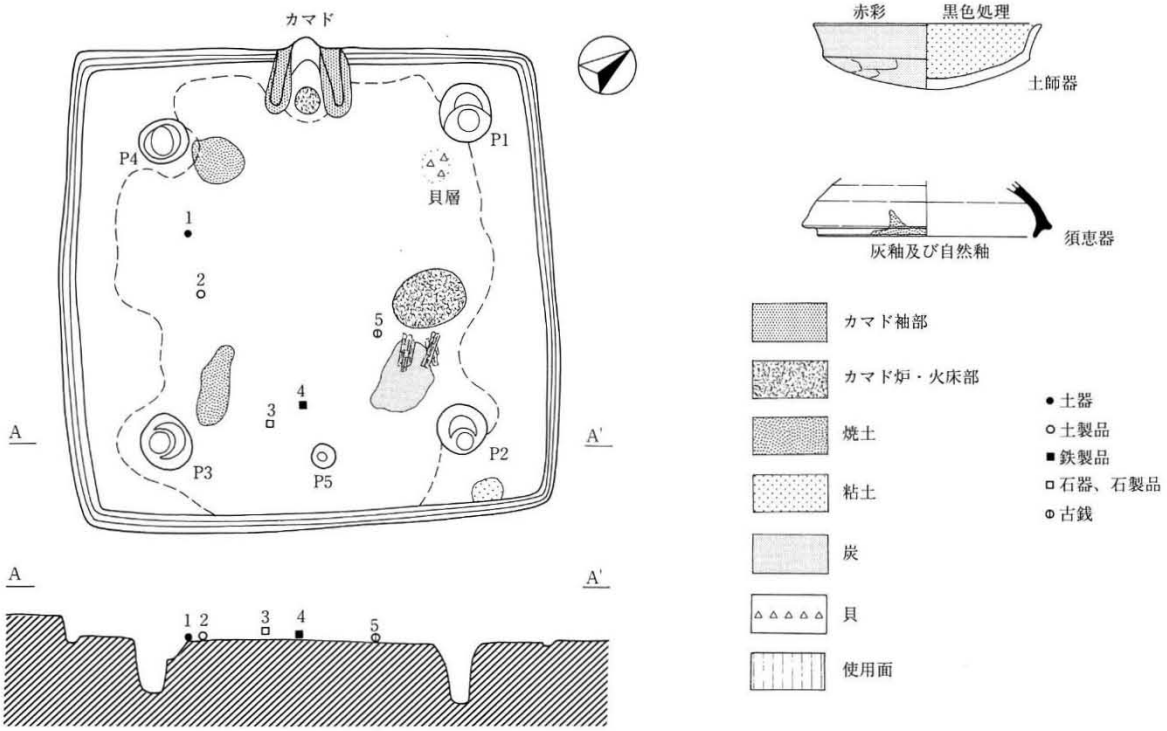
千葉県教育庁教育振興部文化財課，横芝光町教育委員会，渡辺修一，井上哲郎，植木雅博

凡例

1　描く実測図の縮尺については原則として下記のとおりに統一した。

遺構　竪穴住居跡１/80，掘立柱建物１/100，土坑・土坑墓・陥穴１/60　溝状遺構１/1,000

遺物　土器１/４，石製品１/４，土製品１/４，鉄製品１/２，玉・勾玉等２/３




凡　　例

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 石器 | ▲ 石刃 | ○ 使用痕ある剥片 | | ■ 石斧 |
| | ● 剥片 | □ 石核 | | |
| 石材 | ▲ 安山岩 | ■ 頁岩 | ● 黒曜石 | △ 砂岩 |
| | ○ 瑪瑙 | □ 蛇紋岩 | ◉ チャート | |

# 本 文 目 次

序　文
例言・凡例
序　章　調査概要……1
　第1節　発掘調査に至る経緯と経過
　第2節　調査の方法
　第3節　遺跡の位置と周辺の地域
第1章　旧石器時代……7
　第1節　概　要
　第2節　基本層序
　第3節　石器群の分布と出土遺物
第2章　縄文時代……29
　第1節　概　要
　第2節　陥　穴
第3章　弥生時代……33
　第1節　概　要
　第2節　竪穴住居跡
第4章　古墳時代……53
　第1節　概　要
　第2節　竪穴住居跡
　第3節　土　坑
第5章　奈良・平安時代……196
　第1節　概　要
　第2節　竪穴住居跡
　第3節　掘立柱建物跡
　第4節　柵　列
　第5節　土　坑
　第6節　溝
第6章　中　世……224
　第1節　概　要
　第2節　掘立柱建物跡および柵列
　第3節　柵　列
　第4節　土　坑
　第5節　土坑墓および粘土貼り土坑墓
　第6節　溝
第7章　近　世……305
　第1節　概　要
　第2節　土坑および地下式坑

第3節　溝
第8章　時期不明遺構・遺構外遺物・ピット群…… 321
第1節　概　要
第2節　竪穴住居跡
第3節　遺構外遺物
第4節　ピット群
終　章　まとめ…… 334
第1節　縄文時代の様相
第2節　弥生時代の様相
第3節　古墳時代の様相
第4節　奈良・平安時代の様相
第5節　中世の様相
第6節　近世の様相

# 挿　図　目　次


第１図　遺跡の位置と周辺の遺跡…… 2
第２図　長倉鍛冶屋台遺跡周辺の地形…… 3
第３図　長倉鍛冶屋台遺跡周辺の地形…… 4
第４図　本調査検出遺構…… 5
第５図　本調査検出遺構…… 6
第６図　基本土層図…… 7
第７図　旧石器時代調査概要図…… 8
第８図　第１地点出土遺物分布図（１）―石器別分布図―……10
第９図　第１地点出土遺物分布図（２）―石材別分布図―……10
第10図　第１地点出土遺物実測図……11
第11図　第２地点出土遺物分布図（１）―石器別分布図―……13
第12図　第２地点出土遺物分布図（２）―石材別分布図―……14
第13図　第２地点出土遺物実測図（１）……16
第14図　第２地点出土遺物実測図（２）……17
第15図　第３地点出土遺物分布図（１）―石器別分布図―……19
第16図　第３地点出土遺物分布図（２）―石材別布分図―……20
第17図　第３地点出土遺物実測図（１）……22
第18図　第３地点出土遺物実測図（２）……23
第19図　第３地点出土遺物実測図（３）……24
第20図　第４地点出土遺物分布図―石器別分布図―……25
第21図　第４地点出土遺物実測図……25
第22図　第２地点（１～９；Ⅸc 層）と第３地点（10～18；Ⅸa～Ⅸc 層）の主要石器……28
第23図　縄文時代遺構配置図……29
第24図　D－004・005・025・032実測図・出土遺物……31
第25図　D－050・051・188・200・209実測図 …32
第26図　弥生時代遺構配置図……33
第27図　H－021実測図・出土遺物 ……41
第28図　H－022実測図・出土遺物（１） ……42
第29図　H－022出土遺物（２） ……43
第30図　H－023実測図・出土遺物 ……44
第31図　H－025実測図・出土遺物 ……45
第32図　H－039・H－052実測図・出土遺物 ……46
第33図　H－054実測図・出土遺物 ……47
第34図　H－055実測図・出土遺物 ……48
第35図　H－057実測図・出土遺物 ……49
第36図　H－063実測図・出土遺物 ……50
第37図　H－073・H－104実測図 ……51
第38図　H－112実測図 ……52
第39図　古墳時代遺構配置図……53
第40図　H－001実測図・出土遺物（１） ……104
第41図　H－001出土遺物（２） ……105
第42図　H－002実測図・出土遺物 ……106
第43図　H－003実測図・出土遺物（１） ……107
第44図　H－003出土遺物（２） ……108
第45図　H－004実測図（１） ……109
第46図　H－004実測図（２）・出土遺物 ……110
第47図　H－005実測図・出土遺物（１） ……111
第48図　H－005出土遺物（２） ……112
第49図　H－006実測図・出土遺物（１） ……113
第50図　H－006出土遺物（２） ……114
第51図　H－007実測図・出土遺物（１） ……115
第52図　H－007出土遺物（２） ……116
第53図　H－007出土遺物（３） ……117
第54図　H－008実測図・出土遺物 ……118
第55図　H－009実測図・出土遺物（１） ……119
第56図　H－009出土遺物（２） ……120
第57図　H－010実測図・出土遺物 ……121
第58図　H－011実測図・出土遺物（１） ……122
第59図　H－011出土遺物（２）・H－013実測図・出土遺物 ……123
第60図　H－014・H－016実測図……124
第61図　H－016出土遺物・H－018実測図・出土遺物 ……125
第62図　H－019実測図・出土遺物（１） ……126
第63図　H－019出土遺物（２） ……127

第64図　H－020実測図・出土遺物・H－024実測図 ……128
第65図　H－026実測図・出土遺物（1）……129
第66図　H－026出土遺物（2）……130
第67図　H－027実測図・出土遺物……131
第68図　H－028実測図……132
第69図　H－028出土遺物……133
第70図　H－029実測図・出土遺物（1）……134
第71図　H－029出土遺物（2）……135
第72図　H－030実測図・出土遺物……136
第73図　H－031実測図・出土遺物……137
第74図　H－032実測図・出土遺物……138
第75図　H－033・H－034実測図・出土遺物……139
第76図　H－035実測図・出土遺物（1）……140
第77図　H－035出土遺物（2）……141
第78図　H－036実測図・出土遺物……142
第79図　H－038実測図・出土遺物……143
第80図　H－040実測図・出土遺物……144
第81図　H－041・H－042・H－059実測図……145
第82図　H－041出土遺物（1）……146
第83図　H－041・H－059出土遺物（2）・H－043実測図・出土遺物……147
第84図　H－045実測図・出土遺物……148
第85図　H－046実測図・出土遺物……149
第86図　H－047実測図・出土遺物（1）……150
第87図　H－047出土遺物（2）……151
第88図　H－048実測図・出土遺物……152
第89図　H－049実測図・出土遺物……153
第90図　H－050実測図・出土遺物（1）……154
第91図　H－050出土遺物（2）・H－051実測図 ……155
第92図　H－051出土遺物（2）・H－053実測図 ……156
第93図　H－056実測図・出土遺物（1）……157
第94図　H－056出土遺物（2）・H－058実測図・出土遺物……158
第95図　H－060実測図・出土遺物……159
第96図　H－062実測図・出土遺物……160
第97図　H－064実測図・出土遺物……161
第98図　H－067実測図・出土遺物（1）……162
第99図　H－067出土遺物（2）……163
第100図　H－069実測図・出土遺物……164
第101図　H－071実測図・出土遺物……165
第102図　H－072実測図・出土遺物……166
第103図　H－074・H－077実測図・出土遺物…167
第104図　H－076実測図・出土遺物……168
第105図　H－078実測図・出土遺物（1）……169
第106図　H－078出土遺物（2）・H－080実測図・出土遺物（1）……170
第107図　H－080出土遺物（2）・H－081実測図・出土遺物（1）……171
第108図　H－081出土遺物（2）・H－082実測図・出土遺物（1）……172
第109図　H－082出土遺物（2）・H－083実測図・出土遺物（1）……173
第110図　H－083実測図・出土遺物（2）……174
第111図　H－083出土遺物（3）・H－084実測図 ……175
第112図　H－085実測図・出土遺物・H－087実測図……176
第113図　H－086実測図・出土遺物……177
第114図　H－088実測図・出土遺物……178
第115図　H－089実測図・出土遺物……179
第116図　H－090実測図・出土遺物……180
第117図　H－091実測図・出土遺物……181
第118図　H－092実測図・出土遺物（1）……182
第119図　H－092出土遺物（2）・H－094実測図・出土遺物……183
第120図　H－093実測図・出土遺物（1）……184
第121図　H－093出土遺物（2）……185
第122図　H－095実測図・出土遺物……186
第123図　H－096実測図・出土遺物・H－102実測図……187
第124図　H－102出土遺物・H－105実測図・出土遺物……188
第125図　H－106実測図・出土遺物……189
第126図　H－107実測図・出土遺物……190
第127図　H－110実測図・出土遺物（1）……191

第128図　H－110出土遺物（2）・H－111実測図・出土遺物……192
第129図　H－114実測図・出土遺物 ……193
第130図　D－028・029・030・035・193・194実測図……195
第131図　奈良・平安時代遺構配置図……196
第132図　H－012実測図・出土遺物 ……204
第133図　H－015実測図・出土遺物・H－017実測図……205
第134図　H－017出土遺物・H－037実測図・出土遺物……206
第135図　H－061・H－065実測図・出土遺物 …207
第136図　H－066実測図・出土遺物・H－079実測図……208
第137図　H－079出土遺物・H－099実測図・出土遺物……209
第138図　H－100実測図・出土遺物 ……210
第139図　H－101実測図・出土遺物 ……211
第140図　H－103・H－108実測図・出土遺物 …212
第141図　H－113実測図・出土遺物 ……213
第142図　B－010・011実測図 ……215
第143図　柵列実測図……217
第144図　D－006・007・012・013・014・015実測図……220
第145図　D－016・017・021・022・023・027・031実測図・出土遺物 ……221
第146図　溝実測図……223
第147図　中世遺構配置図……224
第148図　B－001・002・S－001（A）・（B）実測図……230
第149図　B－003・004・S－007・008・009実測図・出土遺物……231
第150図　B－005・006実測図 ……232
第151図　B－007・008・S－002・003・004実測図・出土遺物……233
第152図　B－009・012実測図 ……234
第153図　B－013・014実測図 ……235
第154図　B－015・016実測図 ……236
第155図　B－017・018実測図 ……237
第156図　B－019実測図 ……238
第157図　B－020実測図 ……239
第158図　B－1001実測図 ……240
第159図　B－1002・1003実測図 ……241
第160図　B－1004・1005実測図 ……242
第161図　B－1006・1007実測図 ……243
第162図　B－1008実測図 ……244
第163図　S－1001・1002・1003・1004実測図 …246
第164図　D－001・002・003・008・011・024・036実測図・出土遺物 ……262
第165図　D－041・042・043・045・053実測図・出土遺物……263
第166図　D－044・054・065・068・074・078実測図……264
第167図　D－081～083・090～096実測図 ……265
第168図　D－097・100・102・103・104・112・113・119～123実測図・出土遺物 ……266
第169図　D－124実測図・出土遺物 ……267
第170図　D－128～136実測図 ……268
第171図　D－137～140・142・143・145・146実測図……269
第172図　D－147・148・151・153～159実測図……270
第173図　D－161・162・165～167・169・170・174・179・182実測図 ……271
第174図　D－184・187・189・190・192実測図……272
第175図　D－195～199・201～204実測図 ……273
第176図　D－207・208・210・213・215～217・227実測図 ……274
第177図　D－211実測図・出土遺物（1） ……275
第178図　D－211出土遺物（2） ……276
第179図　D－228～230・1001・1014・1023実測図・出土遺物……277
第180図　D－1003実測図・出土遺物 ……278
第181図　D－055～058・110・111・114実測図・出土遺物……288
第182図　D－105～107・115～117実測図 ……289
第183図　D－118・141・144・149・150・152実

測図・出土遺物……290
第184図　D－163・168・172・173・175・176実測図……291
第185図　D－164・177・178・180・181・183・218・220実測図……292
第186図　D－1000・1004・1012実測図・出土遺物……293
第187図　D－1006実測図・出土遺物・1013・1015実測図……294
第188図　D－1015出土遺物・D－1016・1028実測図・出土遺物……295
第189図　D－1024・1022・1026・1027実測図・出土遺物・N－001実測図……296
第190図　N－002・004実測図・N－003実測図・出土遺物……297
第191図　N－005実測図・出土遺物・N－006・007実測図……298
第192図　N－008・009・011～014実測図……299
第193図　溝実測図……303
第194図　溝実測図・出土遺物……304
第195図　近世遺構配置図……305
第196図　D－026・037～039・046～048実測図・出土遺物……312
第197図　D－049・059・060～064・066・067実測図……313
第198図　D－069～071・073・075～077・079・080実測図……314
第199図　D－084～089・098・099・125～127実測図……315
第200図　D－185・186・221～226実測図……316
第201図　D－033・206実測図……317
第202図　溝実測図・出土遺物……320
第203図　H－044・075・097・098・109実測図……322
第204図　遺構外遺物（1）……325
第205図　遺構外遺物（2）……326
第206図　遺構外遺物（3）……327
第207図　ピット群エリア分割図……328
第208図　ピット群実測図（1）……329
第209図　ピット群実測図（2）……330
第210図　ピット群実測図（3）……331
第211図　ピット群実測図（4）……332

# 図　版　目　次

図版1　旧石器時代遺物出土状況
図版2　第1地点・第2地点出土遺物（1）
図版3　第1地点・第2地点出土遺物（2）
図版4　第3地点・第4地点出土遺物（1）
図版5　第3地点・第4地点出土遺物（2）
図版6　弥生時代集落（1）
図版7　弥生時代集落（2）
図版8　古墳時代集落（1）
図版9　古墳時代集落（2）
図版10　古墳時代集落（3）
図版11　古墳時代集落（4）
図版12　古墳時代集落（5）
図版13　古墳時代集落（6）
図版14　古墳時代集落（7）
図版15　古墳時代集落（8）
図版16　古墳時代集落（9）
図版17　奈良・平安時代集落（1）
図版18　奈良・平安時代集落（2）
図版19　弥生時代集落の出土遺物（1）
図版20　弥生時代集落の出土遺物（2）
図版21　古墳時代集落の出土遺物（1）
図版22　古墳時代集落の出土遺物（2）
図版23　古墳時代集落の出土遺物（3）
図版24　古墳時代集落の出土遺物（4）
図版25　古墳時代集落の出土遺物（5）
図版26　古墳時代集落の出土遺物（6）
図版27　古墳時代集落の出土遺物（7）
図版28　古墳時代集落の出土遺物（8）
図版29　古墳時代集落の出土遺物（9）
図版30　古墳時代集落の出土遺物（10）
図版31　古墳時代集落の出土遺物（11）
図版32　古墳時代集落の出土遺物（12）

図版33　古墳時代集落の出土遺物（13）
図版34　古墳時代集落の出土遺物（14）
図版35　古墳時代集落の出土遺物（15）
図版36　古墳時代集落の出土遺物（16）
図版37　古墳時代集落の出土遺物（17）
図版38　古墳時代集落の出土遺物（18）
図版39　古墳時代集落の出土遺物（19）
図版40　古墳時代集落の出土遺物（20）
図版41　古墳時代集落の出土遺物（21）
図版42　古墳時代集落の出土遺物（22）
図版43　古墳時代集落の出土遺物（23）
図版44　古墳時代集落の出土遺物（24）
図版45　古墳時代集落の出土遺物（25）
図版46　古墳時代集落の出土遺物（26）
図版47　古墳時代集落の出土遺物（27）
図版48　古墳時代集落の出土遺物（28）
図版49　古墳時代集落の出土遺物（29）
図版50　古墳時代集落の出土遺物（30）
図版51　古墳時代集落の出土遺物（31）
図版52　古墳時代集落の出土遺物（32）
図版53　古墳時代集落の出土遺物（33）
図版54　古墳時代集落の出土遺物（34）
図版55　奈良・平安時代集落の出土遺物（1）
図版56　奈良・平安時代集落の出土遺物（2）
図版57　奈良・平安時代集落の出土遺物（3）
図版58　奈良・平安時代，中世集落の出土遺物（1）
図版59　縄文，古墳時代集落
図版60　奈良・平安時代集落および中世集落（1）
図版61　中世集落（2）
図版62　中世集落（3）
図版63　中世集落（4）
図版64　中世集落（5）
図版65　中世集落（6）
図版66　中世集落（7）
図版67　中世集落（8）
図版68　中世集落（9）
図版69　中世土坑墓（1）
図版70　中世土坑墓（2）
図版71　中世土坑墓（3）
図版72　中世土坑墓（4）
図版73　中世粘土貼り土坑墓（1）
図版74　中世粘土貼り土坑墓（2）
図版75　近世集落（1）
図版76　近世集落（2）
図版77　近世集落（3），地下式坑
図版78　奈良・平安時代，中世および遺構外出土遺物
図版79　弥生土器
図版80　玉・勾玉類
図版81　砥石・羽口
図版82　石製品・支脚
図版83　中世，近世陶磁器
図版84　紡錘車・古銭
図版85　軽石
図版86　土製品・種子
図版87　鉄製品（1）
図版88　鉄製品（2）
図版89　鉄製品（3）
図版90　鉄製品（4）
図版91　椀形滓他

# 序　章　調査概要

## 第１節　発掘調査に至る経緯と経過

長倉鍛冶屋台遺跡の所在した山武郡横芝光町長倉字上北田763番地地先の土地について，国道道路改築委託事業が計画され，平成10年１月26日付けで，千葉県道路公社より有料道路を建設する旨，「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱について（照会）」が横芝町教育委員会宛に提出された。横芝町教育委員会では，千葉県教育委員会へ副申し，平成10年２月25日に照会地が縄文時代から古墳時代にかけての散布地であるとの回答を得た。その後，埋蔵文化財の取扱について，県教育委員会・町教育委員会・開発事業者での三者協議を行い，有料道路の建設に先駆けて，遺跡の範囲・性格を把握するための埋蔵文化財確認調査を行うことになった。

確認調査は，上層については，確認調査対象面積の10％をトレンチ方式で，下層については，確認調査対象面積の４％をテスト・ピット方式で調査した。調査の結果，古墳時代を主体とする遺構・遺物が検出された。下層については，遺物が検出された。

この結果に基づき，再度，三者協議がもたれ，記録保存の措置としての埋蔵文化財の本調査を行うこととなった。

確認・本調査を含む埋蔵文化財調査は，財団法人山武郡市文化財センターが，千葉県道路公社の委託を受け，県教育委員会・町教育委員会の指導のもとに実施した。

## 第２節　調査の方法

確認・本調査は，表土除去・遺構確認・実測・発掘・写真撮影という手順で行った。表土除去は，地形や遺跡の性格，遺構の分布などに十分留意して，重機で行い，それ以後の調査過程は手作業で行った。

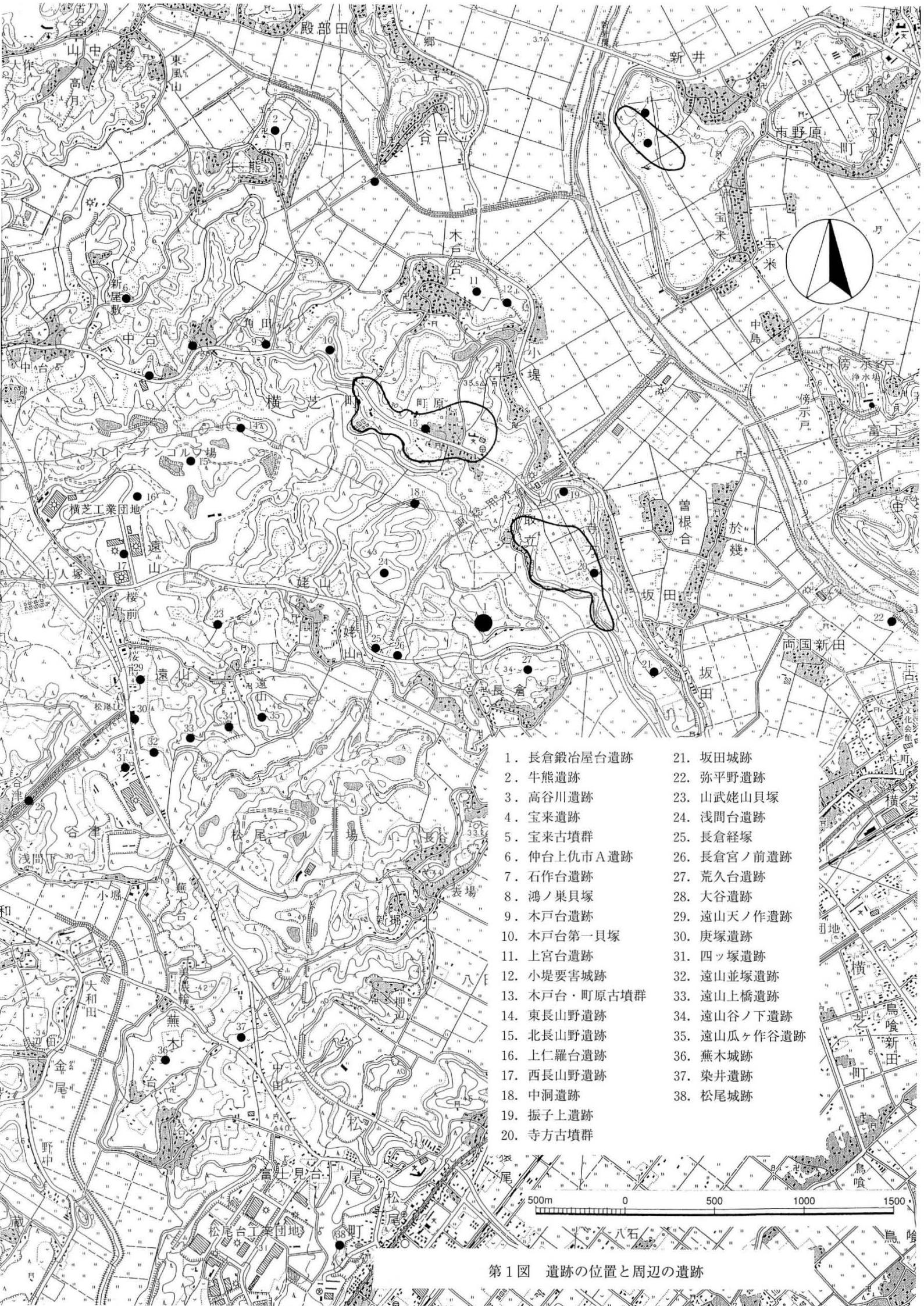
グリッドは，公共座標を基準にして，国道道路改築委託事業地全域に40m 方眼を大グリッド，その中に４m 方眼の100個の小グリッドを設定した。グリッドは，大グリッドが北から南へ１・２・3,西から東へＡ・Ｂ・Ｃと呼称し，小グリッドが00～99まで表記した。

## 第３節　遺跡の位置と周辺の地域（第１・２図）

長倉鍛冶屋台遺跡が所在する台地は，太平洋に注ぐ栗山川水系，長倉支谷により樹枝状に開析された独立丘を呈している。標高28～34m を測る長倉支台上に位置する。

本遺跡の南西約200m の位置には，小支谷を隔てて長倉宮ノ前遺跡が所在する。一方，東側約500m の位置には，前方後円墳を含む８基の古墳が分布する寺方古墳群が所在する。

周辺の遺跡の分布を第１図に示し，そのうち調査された遺跡には番号を記した。




第１図　遺跡の位置と周辺の遺跡

第２図　長倉鍛冶屋台遺跡周辺の地形

第３図　長倉鍛冶屋台遺跡周辺の地形

5G－00
5G－05
5H－00
5I－05
5F－55
5H－55
5I－50
5I－55
6I－00
6I－05
6F－55
6I－50
6I－55
7H－05
7I－00
0
(1：600)
30m

第４図　本調査検出遺構

D－1003
D－1013
D－1031
D－1014
N－013
D－1004
N－011
N－012
D－1023
S－001
B－1007
D－1024
N－006
D－1000
N－005
B－1008
B－1004
M－1004
D－1001
B－1005
D－1027
D－1026
D－1022
B－1003
B－1002
M－1003
D－1020
N－004
N－002
D－1029
B－1001
D－1016
D－1012
M－1001
B－1006
D－1028
D－1015
D－1010
S－1004
N－001
N－007
N－008
6E－91
N－003
S－1002
D－1006
6E－90
S－1003
M－1002
N－009
7E－01
7E－00
0
(1：100)
5m

第５図　本調査検出遺構

# 第１章　旧石器時代

## 第１節　概　要

長倉鍛冶屋台遺跡では，平成14年度から平成16年度にかけて下層の発掘調査を行った。

平成14年度は，調査範囲の東部を鍛冶屋台遺跡763地点として，4,100㎡の確認調査を実施し（164㎡を掘削），284㎡の本調査を行った（第３・４地点）。調査の結果，調査区中央部で旧石器時代の石器ブロックを１か所と単独出土地点１か所を検出した。

平成15年度は，調査範囲の西部を鍛冶屋台遺跡725地点として，3,600㎡の確認調査を実施し（236㎡を掘削），３か所のグリッドから旧石器時代の石器が出土した。このうち，調査区北西隅のグリッドから出土したものについては，周囲を精査した結果，遺物の広がりが限定されることが判明したことから，確認調査をもって調査終了とした（第１地点）。残りの２か所については，平成16年度に本調査を行った（第２地点）。

平成16年度は，調査範囲中央の現道部分を鍛冶屋台遺跡766地点として，2,700㎡の確認調査を実施し（84㎡を掘削），平成15年度に決定された本調査範囲と併せて，200㎡の本調査を行った（第２地点）。

第１点は，調査区北西隅の台地縁辺部に位置し，立川ローム層第２黒色帯下部のⅨa層とⅨc層の境界付近の層準で，石器ブロック１か所を検出した。小規模なブロックで，安山岩，頁岩による不定型の剥片類３点で構成される石器群である。

第２地点は，調査区中央の台地平坦部に位置し，立川ローム層第２黒色帯下部のⅨa層からⅨc層にかけての層準で，石器ブロック２か所を検出した。Ａブロック（西側）が10点，Ｂブロック（東側）が８点と，両ブロックとも小規模であるが，信州産黒曜石や瑪瑙による石刃，砂岩を用いた刃部磨製石斧など，Ⅸ層に特徴的な石器が出土している。また，両ブロックから離れて，信州産黒曜石の石刃１点が，単独で分布している。

第３地点は，第２地点の東側に隣接する台地平坦部に位置し，立川ローム層第２黒色帯下部のⅨa層からⅨc層にかけての層準で，石器ブロック１か所を検出した。長軸15mにおよぶ範囲から，安山岩やチャートによる剥片類41点，礫１点が出土した。

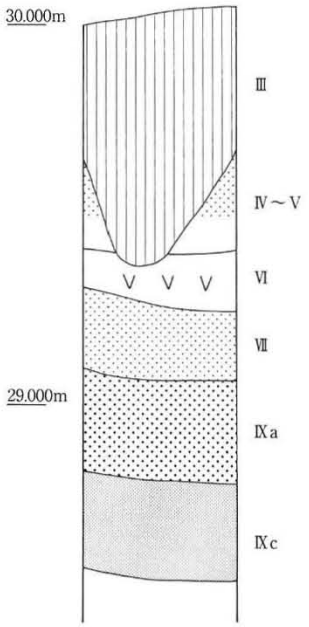
第４地点は，調査区東側の台地縁辺部に位置し，立川ローム層第２黒色帯下部のⅨa層とⅨc層の境界付近の層準で，嶺岡産頁岩による剥片１点が単独で出土した。

## 第２節　基本層序

本遺跡の立川ローム層は，下総台地における標準的な土層とおおむね一致する。

Ⅲ層：黄褐色軟質ローム層で，厚さは50cm～60cmである。

Ⅳ～Ⅴ層：黄褐色硬質ローム層で，下半部は立川ローム層第１黒色帯に相当する。厚さは20～




第６図　基本土層図

第７図　旧石器時代調査概要図

30cmである。Ⅳ層とⅤ層は，区分できなかった。

Ⅵ層：明黄褐色硬質ローム層で，黒色粒と火山ガラスを多く含み，姶良丹沢火山灰層（AT 層）に相当する。厚さは15cm～20cmである。

Ⅶ層：黄褐色硬質ローム層で，立川ローム層第２黒色帯上部に相当する。厚さは20cm～30cmである。

Ⅸa 層：褐色硬質ローム層で，第２黒色帯下部の上層である。赤色，暗緑色のスコリアを含む。厚さは30cmほどである。

Ⅸc 層：暗褐色硬質ローム層で，第２黒色帯下部の下層である。赤色，暗緑色のスコリアを多く含む。厚さは20cm～30cmである。

Ⅹ層：黄褐色硬質ローム層で，Ⅸ層に比べて軟質になる。スコリアは激減するが，部分的に赤橙色で小型のスコリアを含む。本層下底は波状を呈する。厚さは30cm～40cmである。

## 第３節　石器群の分布と出土遺物

１．第１地点（第８～10図，第１表）

１）概　要

第１地点は，調査区の西端で，傾斜変換点から30m ほどの台地縁辺部に位置する（第７図）。５F－75・84グリッドのⅨa 層とⅨc 層の境界付近から，安山岩の剥片２点と頁岩の剥片１点が出土した。なお，周囲を精査したが，石器群の広がりはみられなかった（第８・９図）。

２）母岩の特徴と内容（第１表）

本地点では，石器３点を対象として母岩分類した。内訳は，安山岩１母岩（５F－①；２点），頁岩１母岩（５F－②；１点）である。

５F－①：灰褐色に風化した安山岩である。夾雑物が，わずかに含まれる。自然面は紙ヤスリ状を呈し，緩やかな曲面となっており，原石は大型の円礫と推定される。同一母岩は，中型不定型の剥片２点で，相互に接合する（総重量69.0g）。

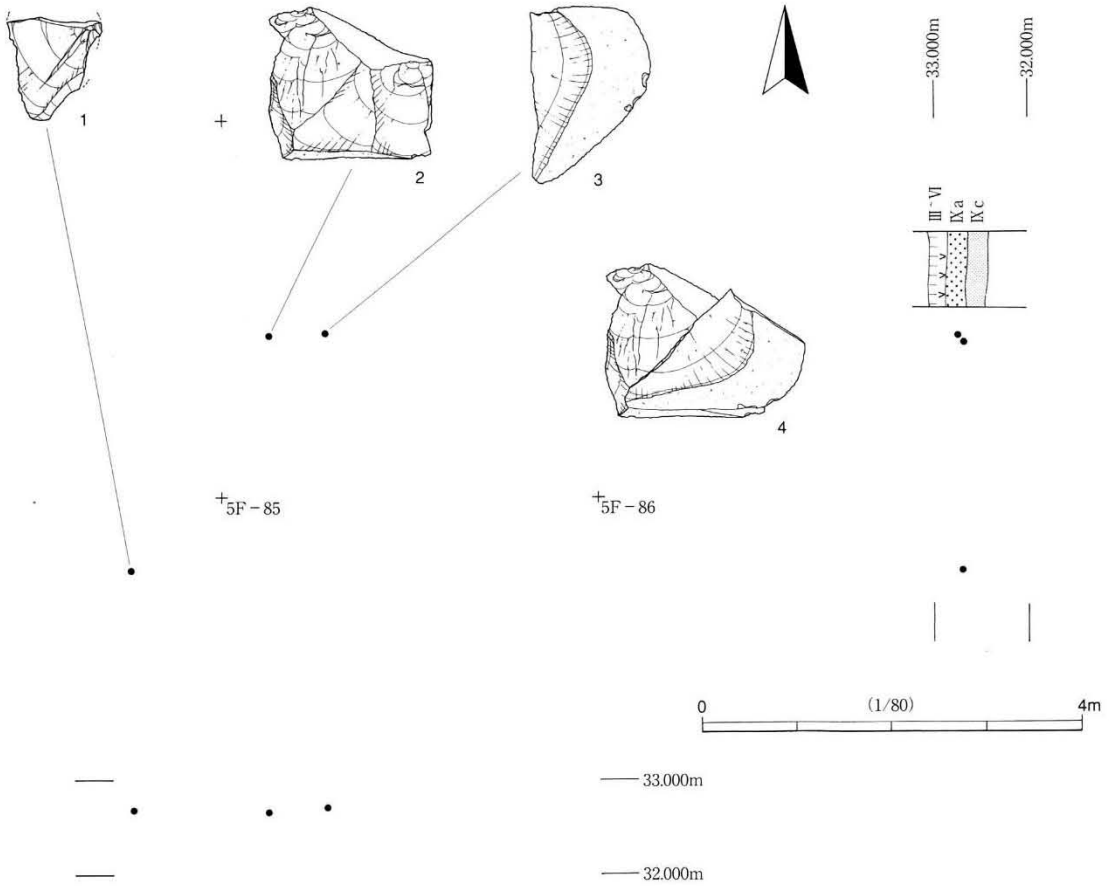
５F－②：淡黄褐色～灰白色に風化した，硬質緻密な珪質の頁岩である。北関東産と想定される。中型不定型の剥片１点の単独資料（3.2g）である。

３）出土遺物（第10図）

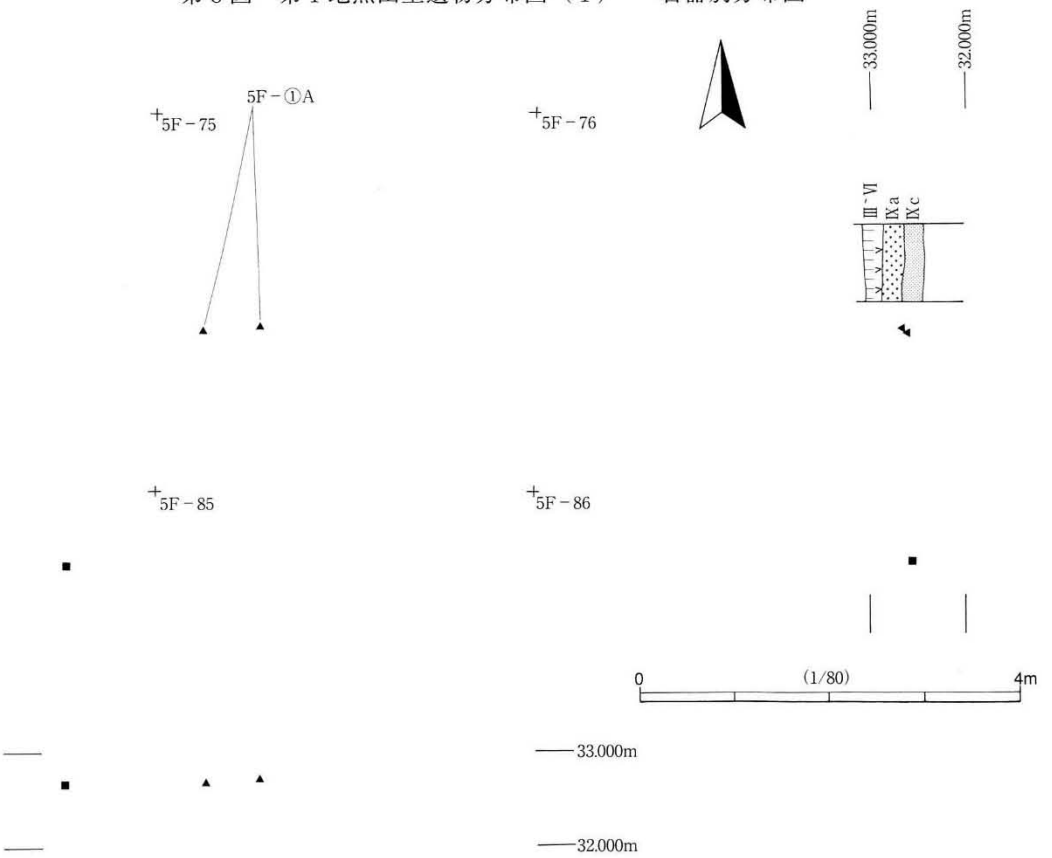
１は，頁岩による不定型の剥片である。表面は裏面（主要剥離面）と90度近く異なる方向の剥離面によって構成されている。上半部は欠損する。２・３は，安山岩による不定型の剥片で，４はその接合資料である。２・３の表面→２の打面→２→３の打面→３の順で剥離しており，打面側と表面側で交互に剥片を剥離している。

第１表　第１地点出土遺物組成表　―母岩別組成表―

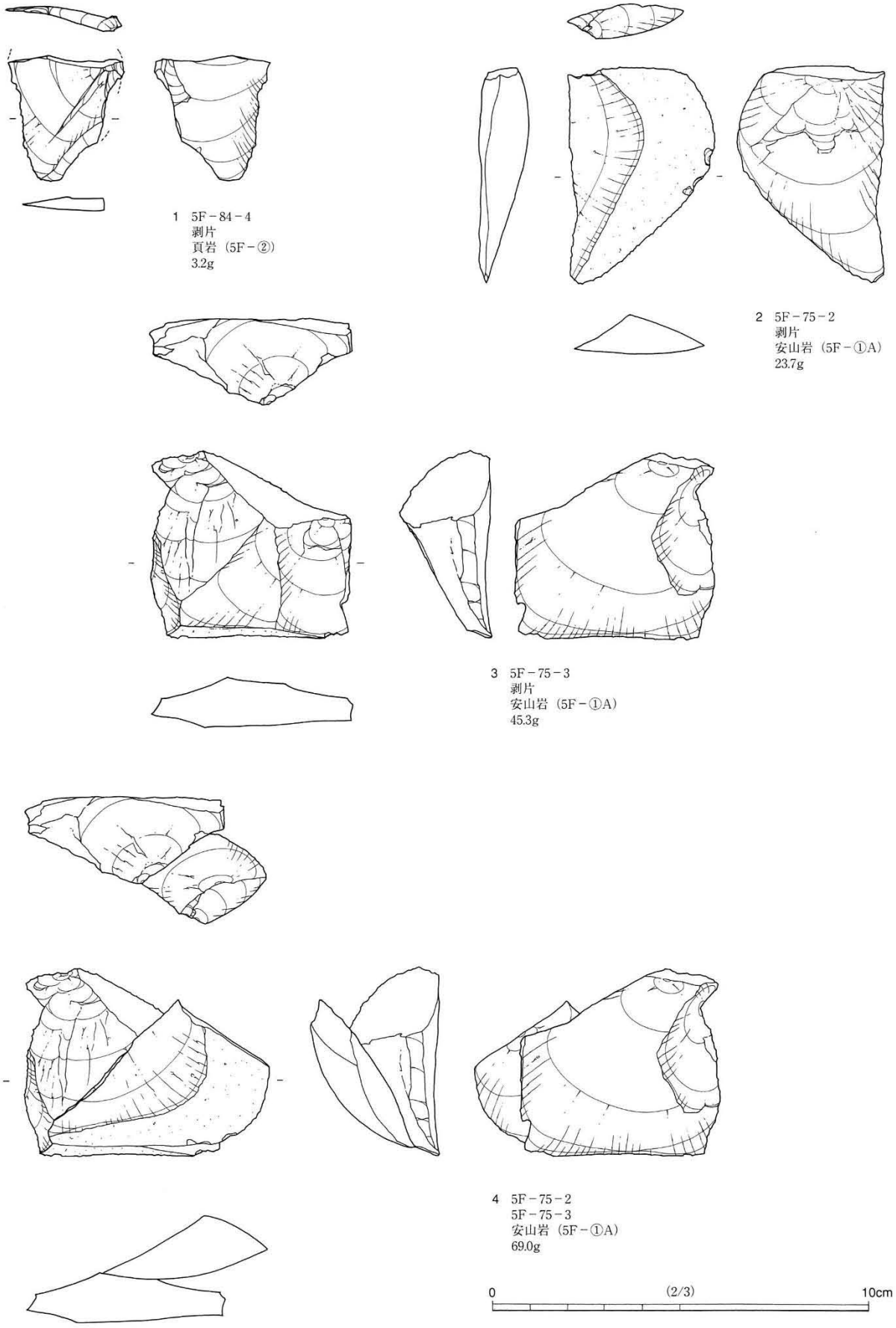
| 母岩番号 | 石　材 | Kn | Tr | Ss | Pi | Bl | Rf | Uf | Ax | Fl | Ch | Co | 合計 | 礫 | 重量 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ５F－① | 安 山 岩 | | | | | | | | | 2 | | | 2 | | 69.0 |
| ５F－② | 頁　　岩 | | | | | | | | | 1 | | | 1 | | 3.2 |
| 合　計 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 3 | 0 | 72.2 |




第８図　第１地点出土遺物分布図（１）　―石器別分布図―




第９図　第１地点出土遺物分布図（２）　―石材別分布図―




第10図　第１地点出土遺物実測図

２．第２地点（第11～14図，第２・３表）

１）概　要

第２地点は，調査区中央部にあり，台地のほぼ中央に位置する（第７図）。南北方向は，ほぼ平坦であるが，東西方向は，東に向かって下っている。石器群の出土したグリッドは，５Ｇ－47・49・57・68，５Ｈ－40・50グリッドである。

ブロックの規模と形状は，長軸13m，短軸10mほどの不整円形の範囲に19点の石器が分布する。ただし，この範囲に石器がまんべんなく分布しているわけではなく，小規模なまとまりが２か所あり，西側をＡブロック（長軸３m，短軸１m），東側をＢブロック（長軸6.5m，短軸２m）とした。また，５Ｇ－68グリッドには，２か所のブロックから離れて，石刃が１点分布する（第11・12図）。出土層位は，いずれもⅨc層を中心としており，地形の傾斜に沿って包含されている。

石器組成は，第２地点全体では，石刃７点，使用痕ある剥片２点，石斧６点（２個体），剥片４点，石器石材は，黒曜石８点，チャート１点，砂岩６点，瑪瑙４点である。

ブロックごとにみると，Ａブロックは，石器組成は，石刃４点，使用痕ある剥片１点，石斧５点（１個体），石器石材は，黒曜石５点，砂岩５点である。Ｂブロックは，石器組成は，石刃２点，使用痕ある剥片１点，石斧１点（Ａブロックとは別個体の破片），石器石材は，剥片４点，黒曜石２点，チャート１点，砂岩１点，瑪瑙４点である。単独出土は，黒曜石による石刃１点である。

Ａ・Ｂ両ブロックの間には，８ｍほどの空白があるが，石器組成，同一母岩の共有，出土層準からみて，同時期に形成されたと考えられる。

２）母岩の特徴と内容（第２・３表）

本地点では，石器19点のうち18点を対象として母岩分類した。内訳は，黒曜石３母岩（５Ｇ－①～③），チャート１母岩（５Ｈ－③），砂岩２母岩（５Ｇ－④，５Ｈ－②），瑪瑙１母岩（５Ｈ－①）である。

５Ｇ－①：漆黒色不透明の黒曜石である。白色で幅0.5㎜の縞が平行して多数みられるが，夾雑物はほとんど含まれていない。信州産と推定される。同一母岩は，石刃２点，使用痕ある剥片２点で，総重量は87.1gである。

接合資料，細かな破片等はなく，製品で構成されることから，すべて遺跡外で製作された搬入品と考えられる。

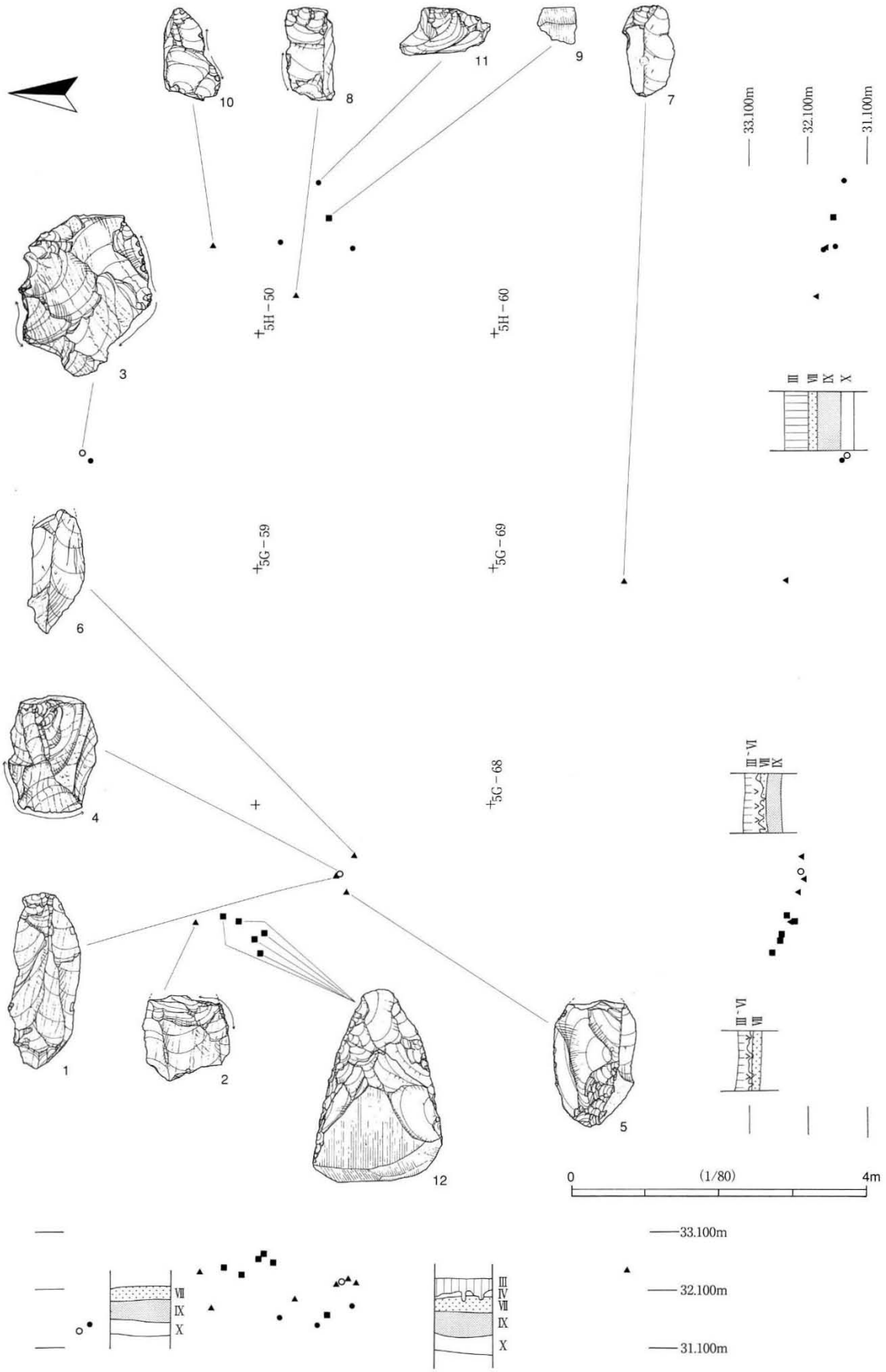
５Ｇ－②：灰色半透明の地に，淡黒色のモヤがかかったような黒曜石である。φ１㎜ほどの白色の夾雑物を少量含む。信州産と推定される。同一母岩は石刃２点で，総重量は39.4gである。

５Ｇ－③：灰色半透明の地に，淡黒色のモヤがかかったような黒曜石である。５Ｇ－②母岩は，モヤがより均質であるが，本母岩はモヤが編み目状になっており，異なっている。φ１㎜ほどの白色の夾雑物が，わずかに含まれる。自然面は平滑で，磨りガラスのようである。小型の石刃１点の単独資料（3.5g）である。

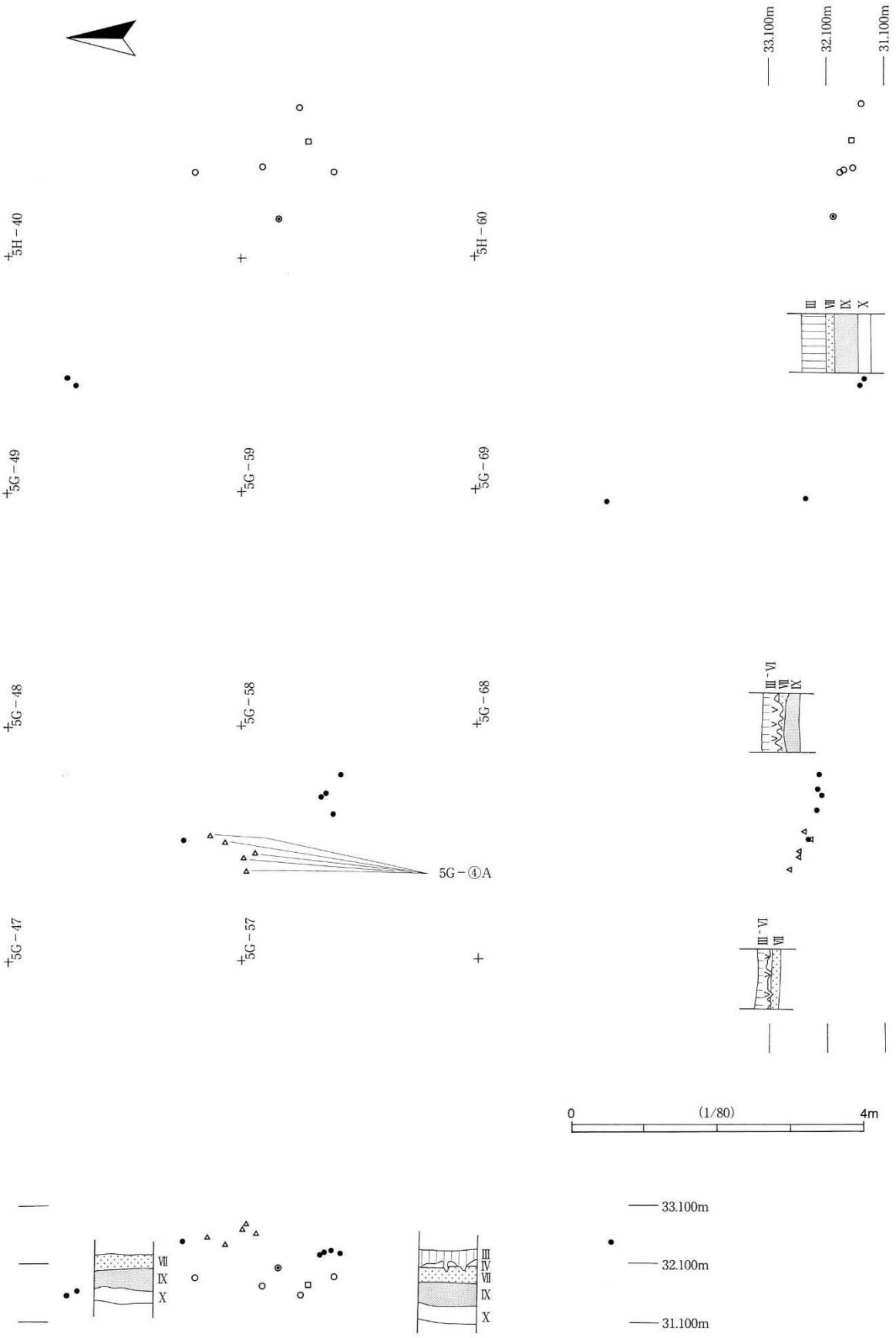
５Ｇ－④：淡灰褐色に風化した砂岩（あるいはホルンフェルス）である。全体に均質で，粒子は細かい。同一母岩は，石斧の破片５点（接合して１個体；68.5g）である。意図的に剥片を剥離したもので，刃部再生作業に失敗したものであろう。

５Ｈ－①：淡灰褐色半透明の地に，紫がかった淡黒灰色のモヤが入る瑪瑙（玉随）である。同一母岩は，小型の石刃１点，中・小型不定型の剥片３点で，総重量は8.6gである。

５Ｈ－②：淡黒灰色の粗悪な蛇紋岩である。石斧の刃部再生に係る小型の剥片１点の単独資料（1.1g）である。




第11図　第２地点出土遺物分布図（１）　―石器別分布図―




第12図　第２地点出土遺物分布図（２）　―石材別分布図―

５Ｈ－③：暗青灰色のチャートである。小型の石刃１点の単独資料（7.4g）である。

上記以外に，黒曜石の剥片１点がある。５Ｇ－②に似るが，小破片のため，同一母岩に認定しなかった。

以上，本ブロックは，おおむね搬入品によって形成されたと考えられる。ただし，５Ｈ－①母岩については，小規模な剥片生産が行われた可能性がある。

３）出土遺物（第13～14図）

１～４は，黒曜石による５Ｈ－①母岩の石刃，使用痕ある剥片である。１は，比較的大型厚手で粗製の石刃である。表面の多くは裏面（主要剥離面）と同一方向の剥離面によって構成されるが，末端部には，逆方向の剥離面が観察される。打面は，本石刃剥離時にはじけている。表面右側縁全体に，細かな刃こぼれがある。２は，大型の石刃の末端部片である。表面左側には，裏面とは逆方向の剥離面がある。表面右側縁から折れ面にかけて刃こぼれがあり，分割ないしは欠損後に利用されたと考えられる。なお，表面全体には細かな傷が多いことから，長期にわたって保持されていたと想定される。

３は，大型不定型の剥片を用いた使用痕ある剥片である。表面は多方向からの不定型な剥離面で構成されることから，石刃技法による打面形成，ないしは打面再生に係る剥片の可能性がある。なお，本資料も２と同様，表面に細かな傷がある。４は，中型不定型の剥片を用いた使用痕ある剥片である。表面は，おもに上下両方向からの剥離面であり，幅広の石刃にもみえるが，裏面は，表面とは直交する方向の剥離である。表面中央の自然面は平坦で，原石は大型の角礫と想定される。打面は，剥片剥離時に欠失している。

５・６は，黒曜石による５Ｇ－②母岩の石刃である。５は，中型厚手で幅広の石刃である。表面には，裏面と同一方向の剥離面のほかに，裏面とは直交する方向の剥離面もあり，稜形成に伴う石核調整と石刃剥離とが交互になされたと考えられる。打面は欠損する。なお，表面左側縁には，微細な剥離痕が散在する。６は，中型で，横断面が三角形の石刃である。

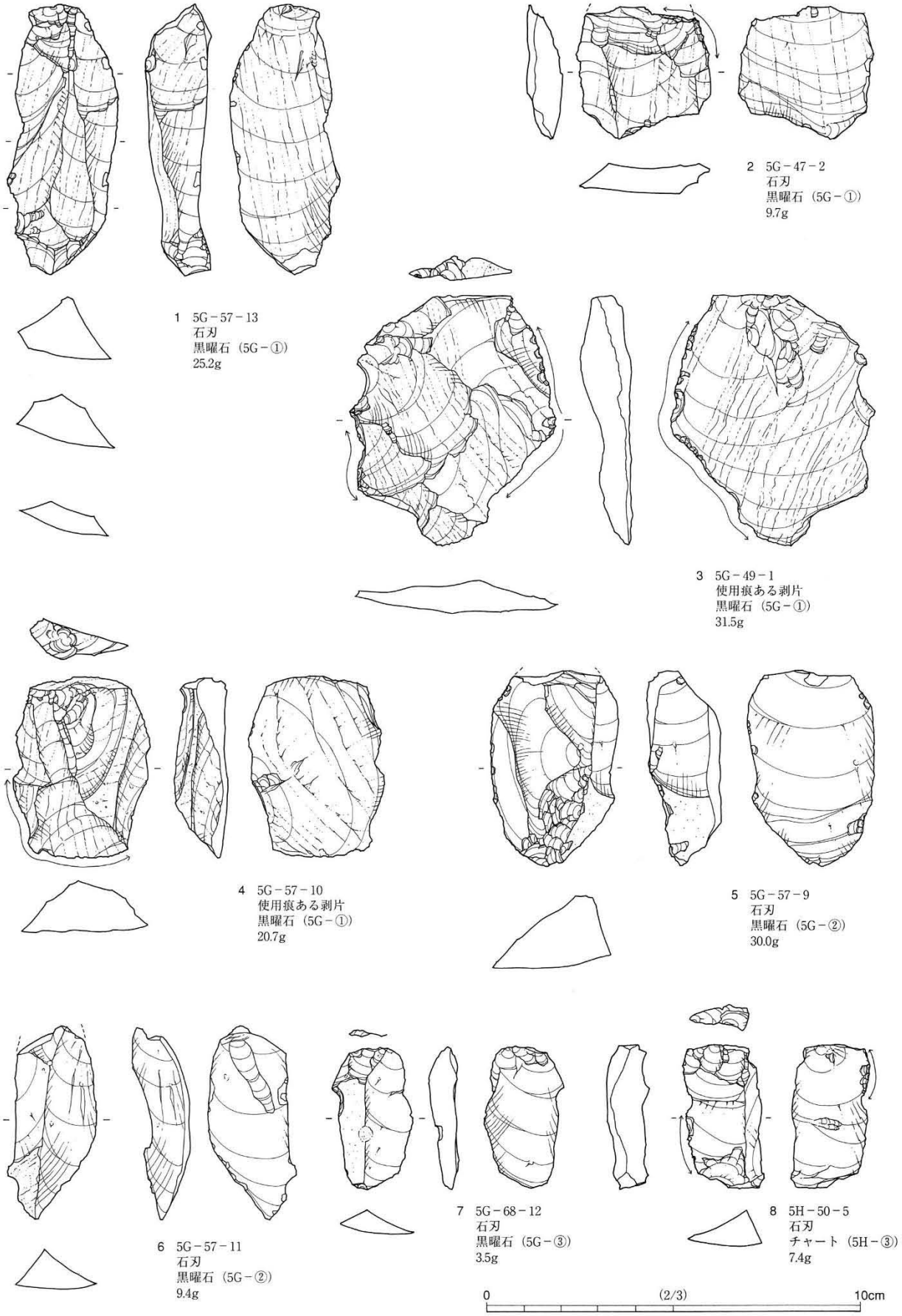
７は，黒曜石による５Ｇ－③母岩の小型の石刃である。表面は，裏面と同一方向の剥離面と自然面とで構

第２表　第２地点出土遺物組成表（１）　―母岩別組成表―

| 母岩番号 | 石　材 | Kn | Tr | Ss | Pi | Bl | Rf | Uf | Ax | Fl | Ch | Co | 合計 | 礫 | 重量 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ５Ｇ－① | 黒曜石 | | | | | 2 | | 2 | | | | | 4 | | 87.1 |
| ５Ｇ－② | 黒曜石 | | | | | 2 | | | | | | | 2 | | 39.4 |
| ５Ｇ－③ | 黒曜石 | | | | | 1 | | | | | | | 1 | | 3.5 |
| ５Ｇ－④ | 砂　岩 | | | | | | | | 5 | | | | 5 | | 68.5 |
| ５Ｈ－① | 瑪　瑙 | | | | | 1 | | | | 3 | | | 4 | | 8.6 |
| ５Ｈ－② | 蛇紋岩 | | | | | | | | 1 | | | | 1 | | 1.1 |
| ５Ｈ－③ | チャート | | | | | 1 | | | | | | | 1 | | 7.4 |
| その他 | 黒曜石 | | | | | | | | | 1 | | | 1 | | 0.2 |
| 合　計 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 7 | 0 | 2 | 6 | 4 | 0 | 0 | 19 | 0 | 215.8 |

第３表　第２地点出土遺物組成表（２）　―石材別組成表―

| 石　材 | Kn | Tr | Ss | Pi | Bl | Rf | Uf | Ax | Fl | Ch | Co | 合計 | 礫 | 重量 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 黒曜石 | | | | | 5 | | 2 | | 1 | | | 8 | | 130.2 |
| チャート | | | | | 1 | | | | | | | 1 | | 7.4 |
| 砂　岩 | | | | | | | | 5 | | | | 5 | | 68.5 |
| 蛇紋岩 | | | | | | | | 1 | | | | 1 | | 1.1 |
| 瑪　瑙 | | | | | 1 | | | | 3 | | | 4 | | 8.6 |
| 合　計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7 | 0 | 2 | 6 | 4 | 0 | 0 | 19 | 0 | 215.8 |




第13図　第２地点出土遺物実測図（１）

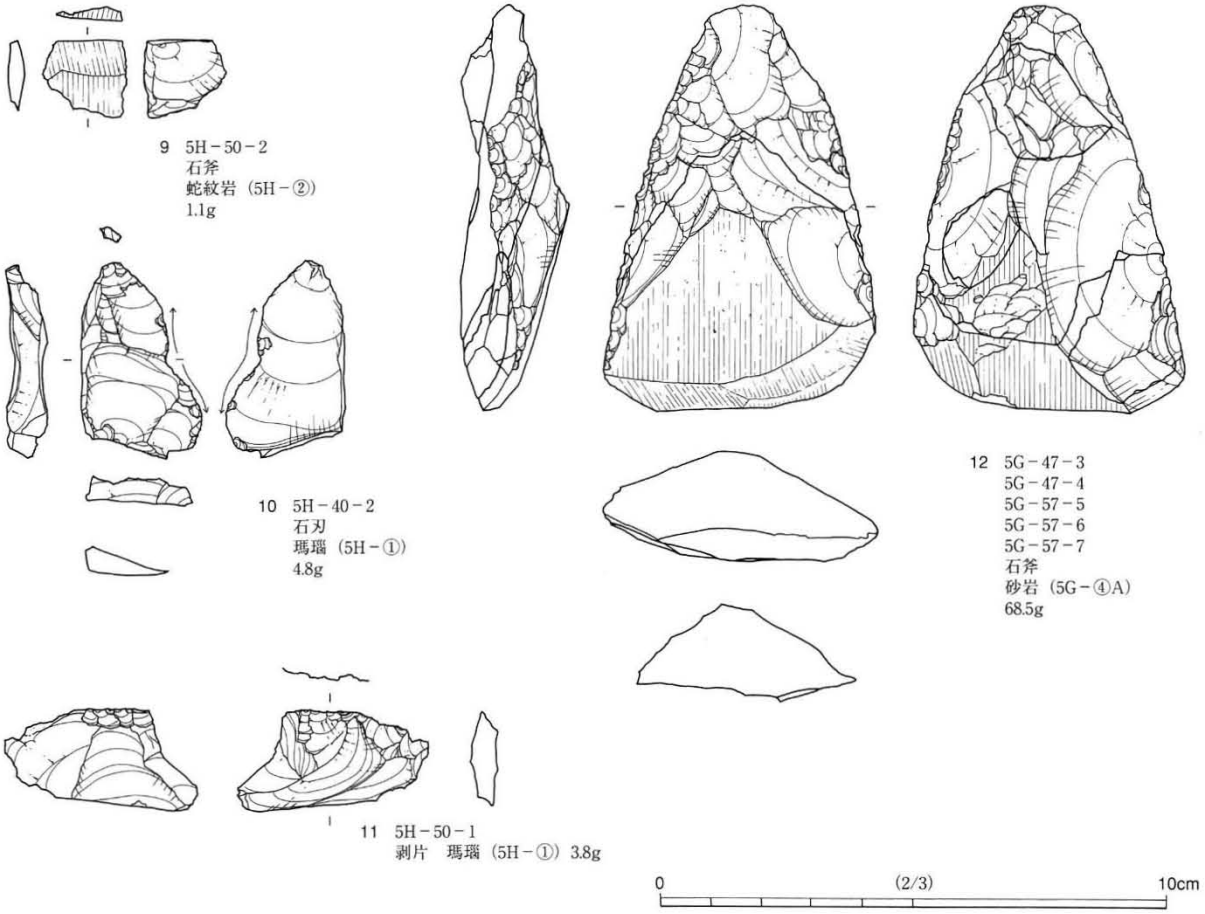
成される。打面は小さく，詳細ははっきりしないが，細かな調整のない複剥離打面と考えられる。

８は，チャートによる５Ｈ－③の小型の石刃である。末端部はウートラパッセになっており，石核の作業面が比較的低かったことを示している。打面は，非調整の平坦な打面である。表面右側面は，石刃剥離面ではなく，石核の素材時の分割面のようである。鋭利な表面左側縁に刃こぼれがみられる。

９は，蛇紋岩による５Ｈ－②母岩を用いた刃部磨製石斧の刃部再生剥片である。表面は方向が若干異なる２枚の研磨面で構成され，打面は表面とは70度の角度で交差する研磨面である。打面と表面の境界は鋭利な直線をなすことから，石斧の刃部と想定される。

10・11は，瑪瑙（玉随）による５Ｈ－①母岩の石刃，剥片である。10は，上下両端に打面をもつ小型の石核より剥離された石刃である。表面は，上下両方向の剥離面で構成されるが，左側面にはこれらとは直交する方向の節理面があり，石核素材時の分割面と考えられる。下端部に付着する打面は広く平坦であるが，上位の本石刃の打面は小さく，詳細は不明である。右側縁に刃こぼれがある。11は，横長不定型の剥片である。表面には石核素材時のポジティブな面が広く残っており，これを裏面とは逆方向の剥離面が切っている。打面は，線状になっている。

12は，砂岩による刃部磨製石斧である。求心的に剥離した不定型の剥片３点と，大きく２点に割れた本体と併せて，５点の接合資料である。刃部再生に伴う形状変更の過程で破損し，機能が停止したと考えられる。なお，上半部は，研磨痕を切る剥離面によって広く覆われていることから，形状変更に伴って，かなりの枚数の剥片が剥離されたことがわかる。また，本ブロックに分布する剥片類が少ないことから，ブロック外で形状変更の作業が行われ，一定の大きさのものに限って，ブロック内に持ち込まれた可能性がある。




第14図　第２地点出土遺物実測図（２）

３．第３地点（第15～19図，第４・５表）

１）概　要

第３地点は，調査区の中央部にあり，第２地点の東側に隣接する（第７図）。石器群の出土したグリッドは，５H44・53～55・64～66・74・75グリッドである。

ブロックの規模と形状は，長軸15m，短軸10mほどの不整円形の範囲に42点の石器・礫が散在する（第15・16図）。出土層位は，Ⅸa層とⅨc層の境界付近を中心として，60cmほどの高低差をもって包含されている。

石器組成は，石刃６点，使用痕ある剥片１点，剥片28点，石核６点，礫１点，石器石材は，安山岩16点，頁岩２点，チャート22点，瑪瑙（玉随）１点，礫の石材は，砂岩１点である。

砂岩の礫は，４cm×３cm×0.4cmほどの小型の扁平礫の半分ほど遺存したものである。被熱した形跡はなく，性格不明である。

２）母岩の特徴と内容（第４・５表）

本地点では，石器41点のすべてを対象として母岩分類した。内訳は，安山岩３母岩（５H－④～⑥），頁岩２母岩（５H－⑦・⑧），チャート６母岩（５H－⑪～⑯），瑪瑙２母岩（５H－⑨・⑩）である。

５H－④：灰褐色に風化した安山岩である。φ0.5mmの夾雑物が散在する。自然面は紙ヤスリ状で，緩やかな曲面をなす。同一母岩は，中型の石刃１点，使用痕ある剥片１点，中・小型不定型の剥片７点，剥片素材の石核２点で，総重量は135.5gである。

５H－⑤：淡赤紫色（小豆色）に風化した火成岩で，ここでは安山岩とした。通常の安山岩と同じ質感で，φ１mmほどの白色の夾雑物を含む。自然面は，水磨されてなめらかな曲面をなしており，原石は円礫であることがわかる。ただし，大きさははっきりしない。同一母岩は，小型不定型の剥片１点，剥片素材の石核３点（接合して２個体）で，総重量は130.7gである。

５H－⑥：灰白色に風化した軟質の安山岩（トロトロ石）である。中型不定型の剥片１点の単独資料（11.5g）である。

５H－⑦：緑がかった淡褐色～暗褐色に風化した，硬質緻密質な珪化した頁岩である。産地ははっきりしないが，北関東産であろうか。小型の石刃１点の単独資料（3.0g）である。

５H－⑧：自然面は赤みがかった褐色，内部は明灰緑色に風化した，硬質緻密質な珪化した頁岩である。北関東産と推定される。小型の石刃１点の単独資料（3.4g）である。

５H－⑨：青灰色の地に，褐色の斑が入る瑪瑙である。中型不整形の石刃１点の単独資料（4.2g）である。

５H－⑩：淡黄褐色半透明の瑪瑙である。小型の石刃の頭部片１点の単独資料（0.7g）である。

５H－⑪：自然面は暗灰緑色，内部は灰緑色のチャートである。同一母岩は，中型厚手の剥片１点，剥片素材の小型の石核１点で，総重量は57.3gである。

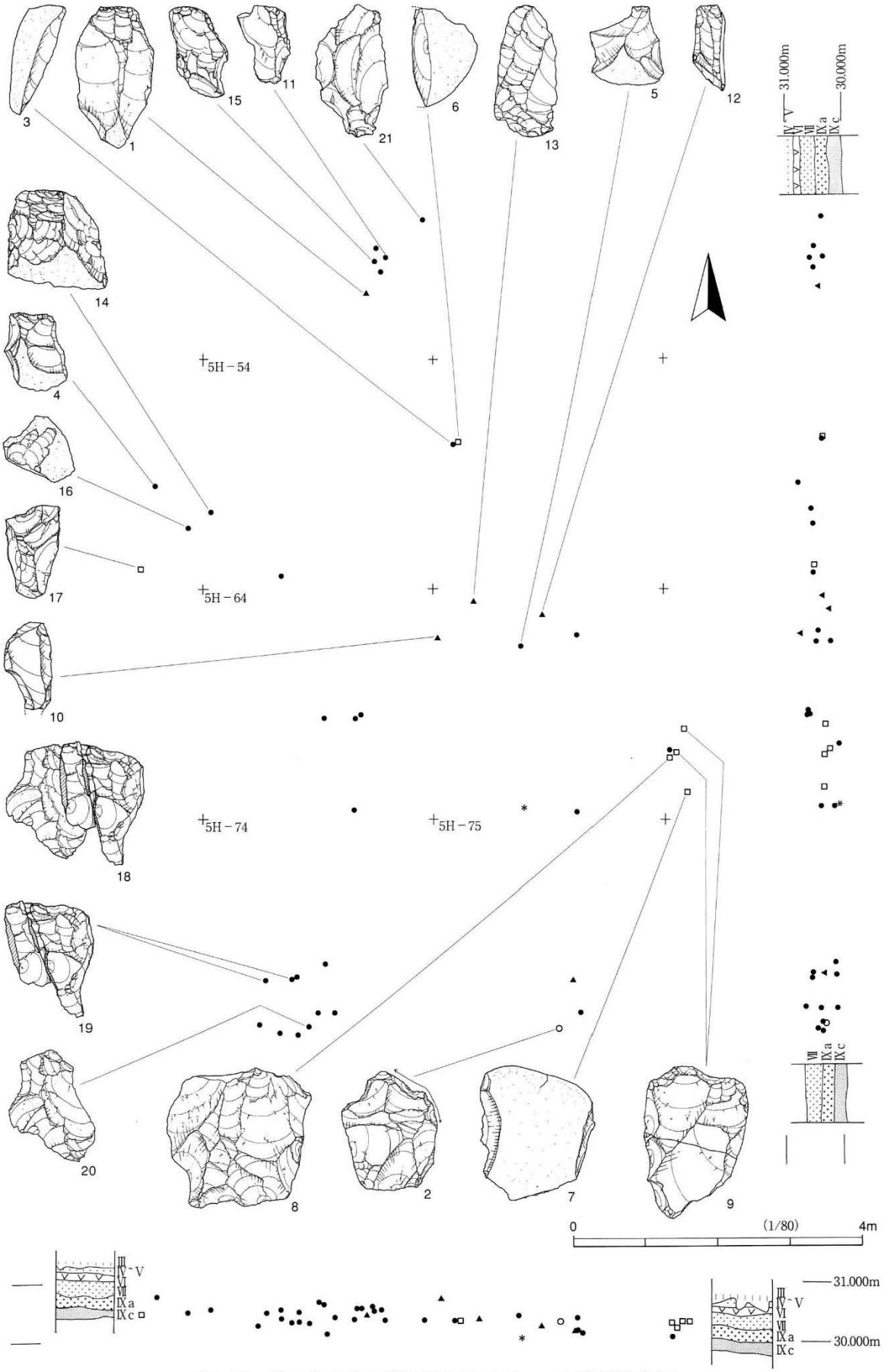
５H－⑫：通常部分は青灰色，節理面は灰緑色のチャートである。中型の石刃１点の単独資料（12.9g）である。

５H－⑬：灰白色半透明の地に，青灰色のモヤが入る良質なチャートである。小型不定型の剥片１点の単独資料（0.8g）である。

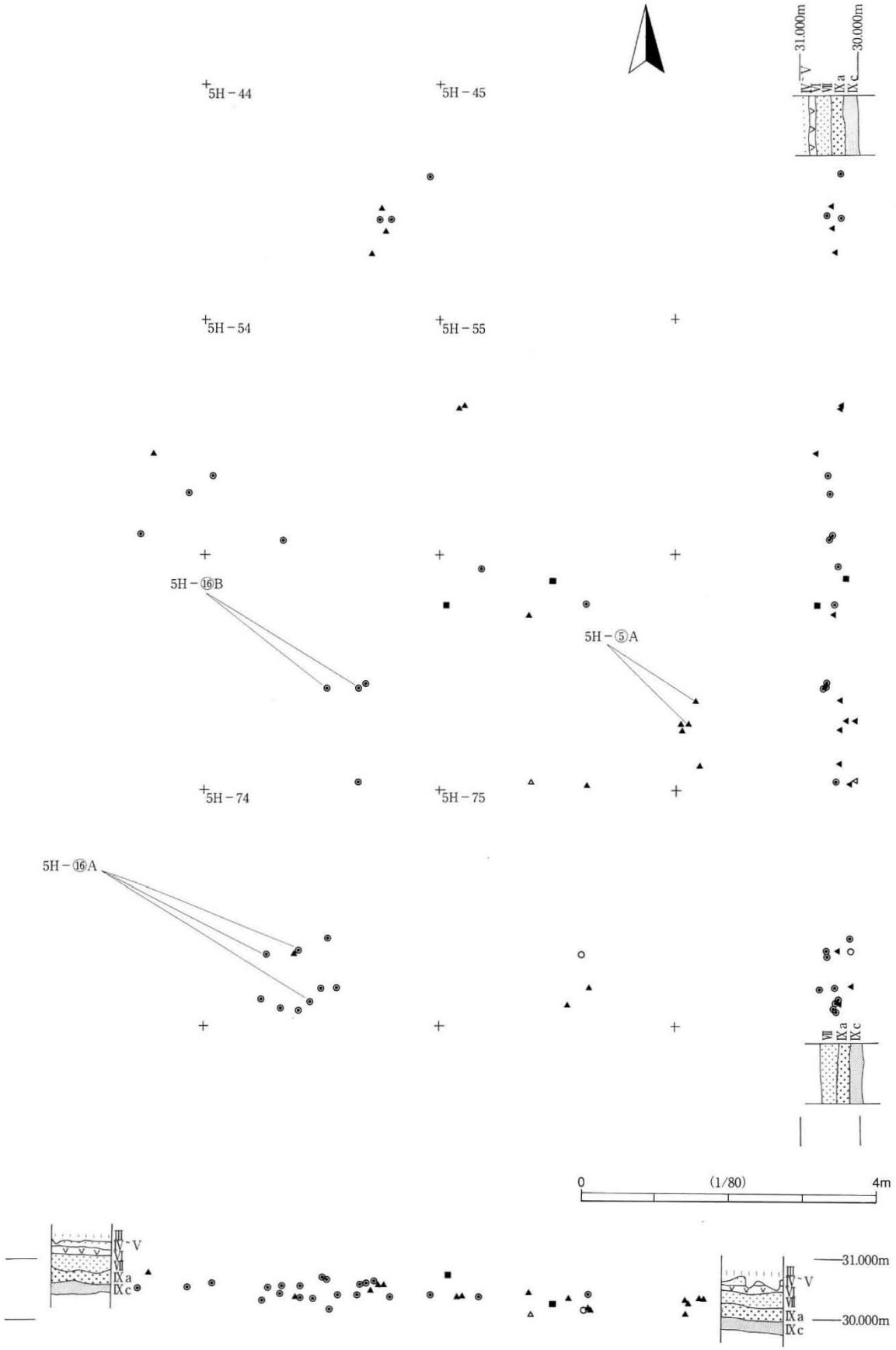
５H－⑭：灰白色の地に，淡黒色や黄褐色の縞が入るチャートである。節理が発達しており，荒れた部分が多い。同一母岩は，中・小型不定型の剥片２点で，総重量は9.5gである。

５H－⑮：暗青灰色のチャートである。不定型の剥片（破片）１点の単独資料（2.3g）である。

５H－⑯：灰緑色で灰白色の斑が入る粗悪なチャートである。同一母岩は中・小型不定型の剥片14点で，総




第15図　第３地点出土遺物分布図（１）　―石器別分布図―




第16図　第３地点出土遺物分布図（２）　―石材別分布図―

重量は72.2gである。とくに，石質が不良のため，破損品が多い。

接合資料は，Ａ；中型不定型の剥片３点（接合して２個体）が表裏で接合するもの，Ｂ；小型不定型の剥片２点が接合して１個体になるものがある。

３）出土遺物（第17～19図）

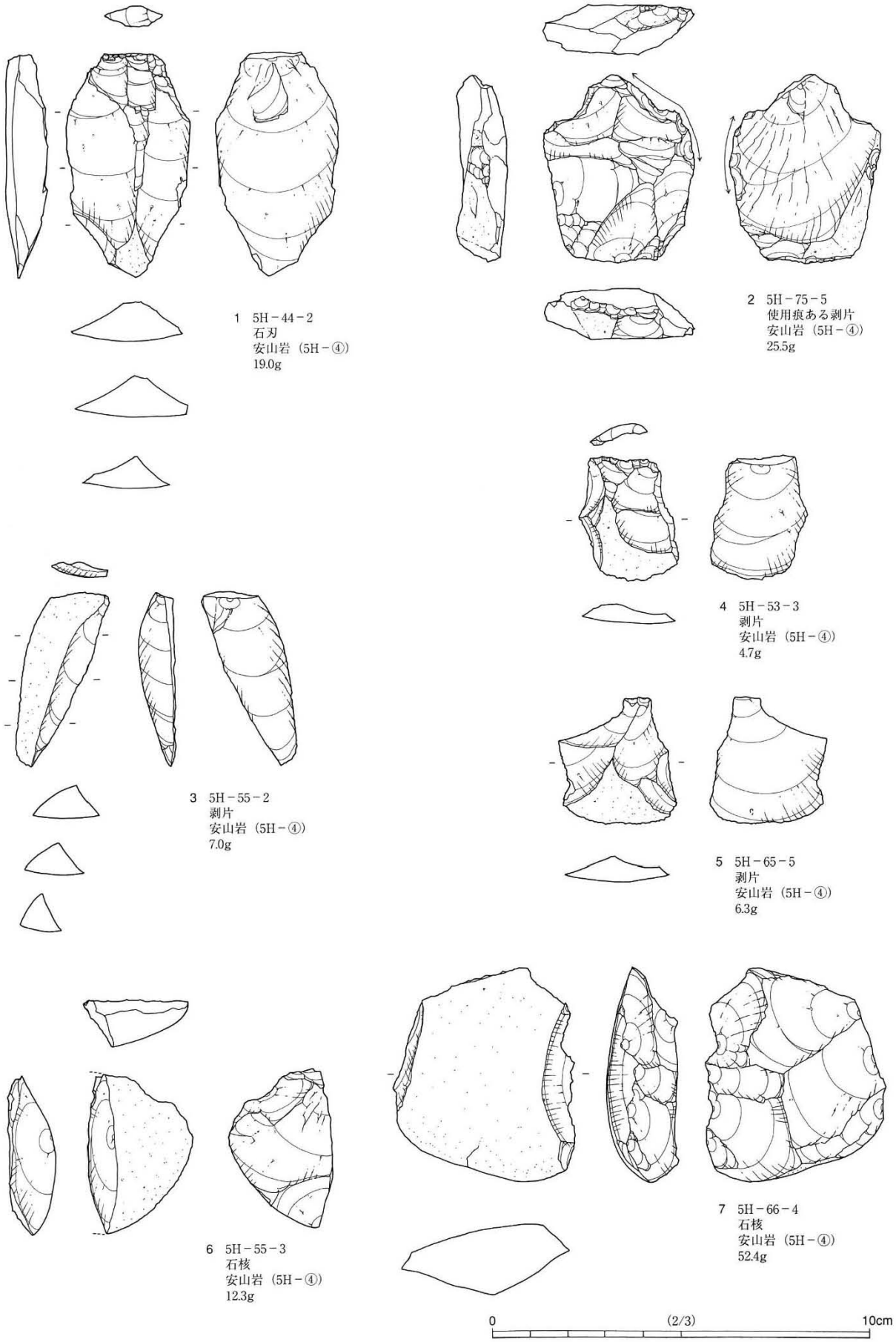
１～７は，安山岩による５Ｈ－④母岩に帰属する石器群である。１は，中型の石刃である。平坦打面で，表面を構成する剥離面は，おおむね裏面と同一方向である。打面下には頭部調整があり，打面幅がこの石刃の最大幅にはなっていない。２は，中型不定型の剥片を用いた使用痕ある剥片である。表面は，多方向からの剥離面で構成されており，剥片剥離作業にあたって求心的な打点移動がなされたことがわかる。裏面には，石核裏面の剥離面および自然面がウートラパッセとして付着しており，素材剥片を剥離した石核が，比較的薄手の両面体であったと判断される。裏面左側縁に，不規則な剥離痕がある。３は，表面が自然面と１枚の剥離面で構成される中型の縦長剥片，４・５は，中型不定型の剥片である。６は，表面が自然面，裏面に作業面をもつ石核の欠損品である。石核素材時の主要剥離面を作業面として，上下から不定型の剥片を生産している。７も６と同様の石核で，完存品である。厚手の剥片を石核の素材とし，表面（自然面側）の左右で剥片を剥離した後，それぞれの剥離面を打面，裏面を作業面として，左右から中型不定型の剥片を剥離

第４表　第３地点出土遺物組成表（１）　―母岩別組成表―

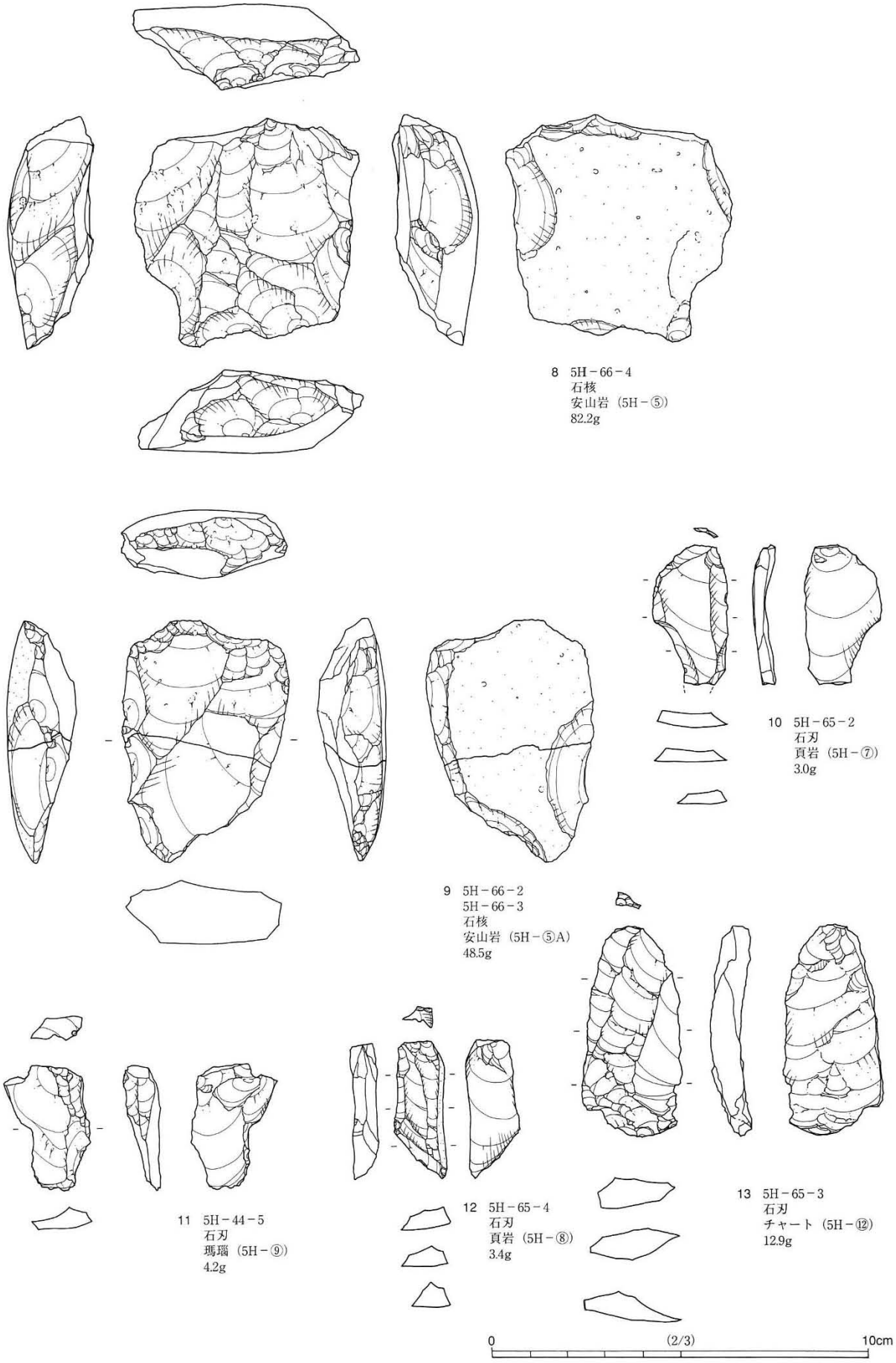
| 母岩番号 | 石　材 | Kn | Tr | Ss | Pi | Bl | Rf | Uf | Ax | Fl | Ch | Co | 合計 | 礫 | 重量 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ５Ｈ－④ | 安 山 岩 | | | | | 1 | | 1 | | 7 | | 2 | 11 | | 135.5 |
| ５Ｈ－⑤ | 安 山 岩 | | | | | | | | | 1 | | 3 | 4 | | 130.7 |
| ５Ｈ－⑥ | 安 山 岩 | | | | | | | | | 1 | | | 1 | | 11.5 |
| ５Ｈ－⑦ | 頁　　岩 | | | | | 1 | | | | | | | 1 | | 3.0 |
| ５Ｈ－⑧ | 頁　　岩 | | | | | 1 | | | | | | | 1 | | 3.4 |
| ５Ｈ－⑨ | 瑪　　瑙 | | | | | 1 | | | | | | | 1 | | 4.2 |
| ５Ｈ－⑩ | 瑪　　瑙 | | | | | 1 | | | | | | | 1 | | 0.7 |
| ５Ｈ－⑪ | チャート | | | | | | | | | 1 | | 1 | 2 | | 57.3 |
| ５Ｈ－⑫ | チャート | | | | | 1 | | | | | | | 1 | | 12.9 |
| ５Ｈ－⑬ | チャート | | | | | | | | | 1 | | | 1 | | 0.8 |
| ５Ｈ－⑭ | チャート | | | | | | | | | 2 | | | 2 | | 9.5 |
| ５Ｈ－⑮ | チャート | | | | | | | | | 1 | | | 1 | | 2.3 |
| ５Ｈ－⑯ | チャート | | | | | | | | | 14 | | | 14 | | 72.2 |
| ５HR－① | 砂　　岩 | | | | | | | | | | | | 0 | 1 | 5.5 |
| 合　計 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 6 | 0 | 1 | 0 | 28 | 0 | 6 | 41 | 1 | 449.5 |

第５表　第３地点出土遺物組成表（２）　―石材別組成表―

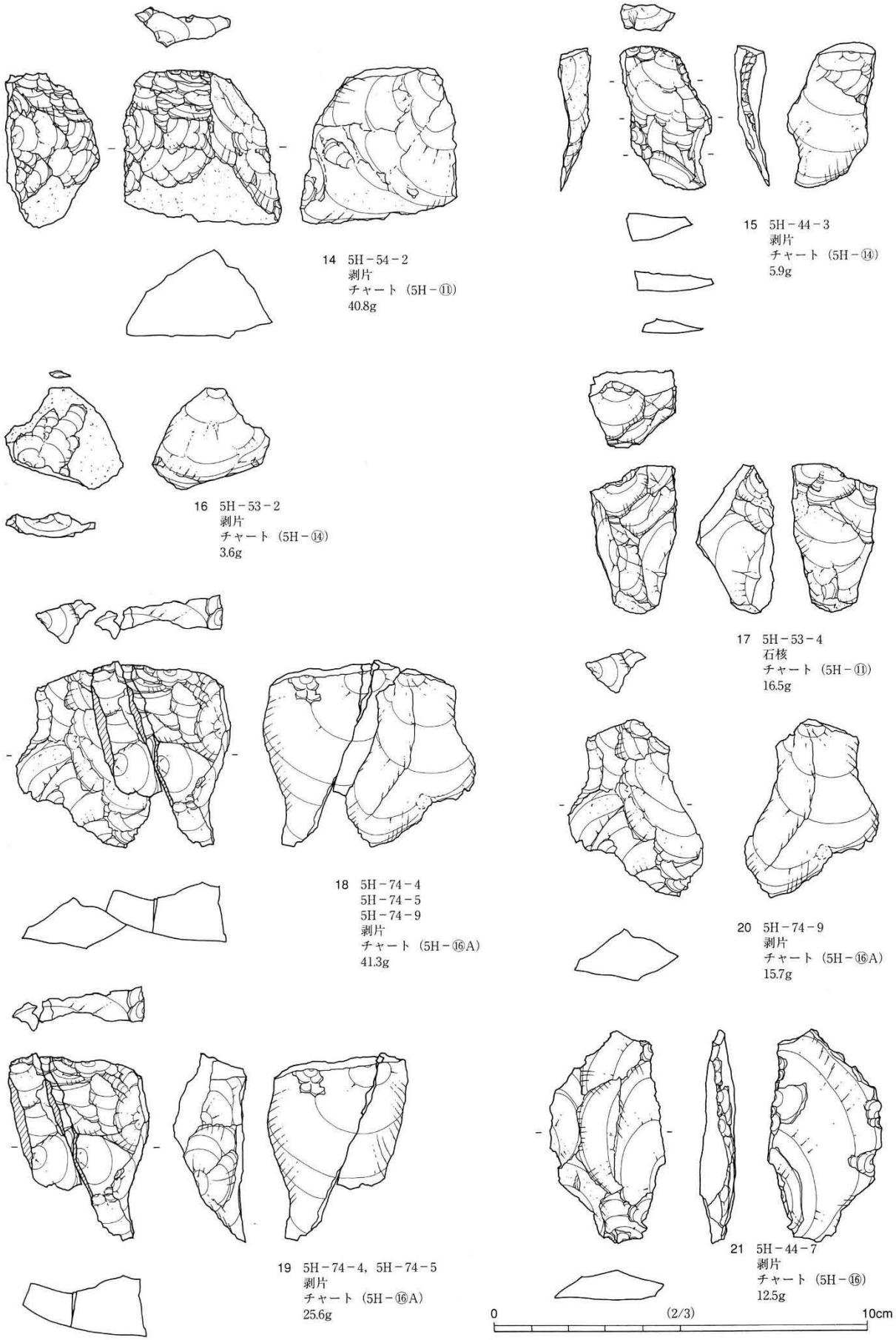
| 石　材 | Kn | Tr | Ss | Pi | Bl | Rf | Uf | Ax | Fl | Ch | Co | 合計 | 礫 | 重量 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 安 山 岩 | | | | | 1 | | 1 | | 9 | | 5 | 16 | | 277.7 |
| 頁　　岩 | | | | | 2 | | | | | | | 2 | | 6.4 |
| チャート | | | | | 1 | | | | 19 | | 1 | 21 | | 155.0 |
| 砂　　岩 | | | | | | | | | | | | 0 | 1 | 5.5 |
| 瑪　　瑙 | | | | | 2 | | | | | | | 2 | | 4.9 |
| 合　計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 6 | 0 | 1 | 0 | 28 | 0 | 6 | 41 | 1 | 449.5 |




第17図　第３地点出土遺物実測図（１）




第18図　第３地点出土遺物実測図（２）




第19図　第３地点出土遺物実測図（３）

している。作業面は，不定型の剥離面に覆われており，素材時の主要剥離面は残されていない。

８・９は，安山岩による５Ｈ－⑤母岩の石核である。いずれも，７と同様，厚手の剥片を石核の素材として，おもに主要剥離面側を作業面にあて，打点を各所に移動しながら，中型不定型の剥片を生産している。

10は，頁岩による５Ｈ－⑦母岩の小型の石刃，12は，頁岩による５Ｈ－⑧母岩の小型の石刃，13は，チャートによる中型の石刃である。いずれも，単独資料の搬入品であるが，明瞭な刃こぼれ等は観察できない。11は，瑪瑙による５Ｈ－⑨母岩を用いた石刃である。

14・17は，チャートによる５Ｈ－⑪母岩の剥片・石核である。14は，不定型厚手の剥片である。左側面に中・小型の剥離痕が連続するが，これは裏面（主要剥離面）を切っているものではなく，左側面と裏面との間に線状に残る打面から剥離されたものである。表面上部のものも含めて，石質が粗悪なためか，剥離がスムーズに通っていない短めの剥離面が多い。17は，厚手の剥片ないしは分割礫素材の石核である。表面右側面に大きなネガティブな剥離面が，左側面にポジティブな剥離面があり，さらに，この二つの剥離面を切って，裏面下部にポジティブな剥離面があり，これらが石核素材時の剥片の表裏に対応する可能性が高い。表裏の上端で，交互剥離によって小型不定型の剥片を剥離している。

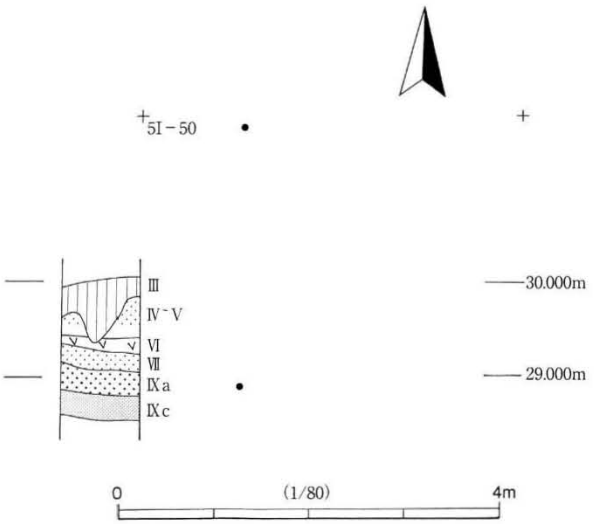
15・16は，チャートによる５Ｈ－⑭母岩の中型不定型の剥片である。ほかの剥片類と同様，打点は一定しない。

18は，剥片３点（接合して２個体；19・20）の接合資料，21は，中型薄手の不定型な剥片で，いずれもチャートによる５Ｈ－⑯母岩に帰属する。19・20は同一の打面を用いて連続的に剥離されたものであるが，表面は多方向からの剥離面で構成される。不純物が層状に入り，各所で偶発的な折れが生じている。21の表面も同様に多方向からの剥離面で構成されるが，裏面の打面付近には不規則な剥離痕が並んでおり，台形石器として調整加工がなされたものかも知れない。

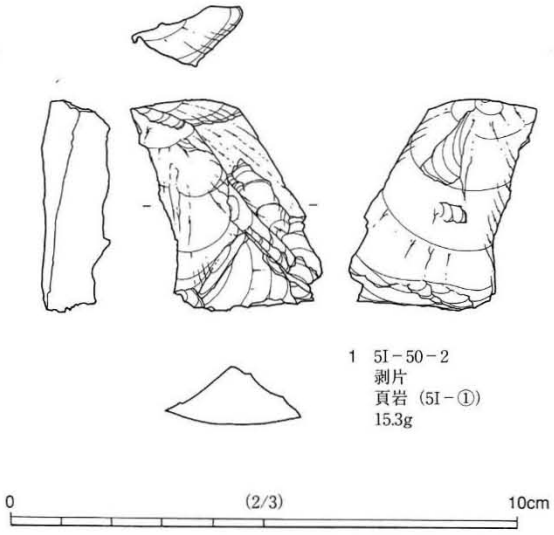
４．第４地点（第20～21図）

１）概　要

第４地点は，調査区東側で，傾斜変換点から20mほどの台地縁辺部に位置する。石器は，５Ｉ－50グリッ




第20図　第４地点出土遺物分布図
―石器別分布図―




第21図　第４地点出土遺物実測図

ドの立川ローム層第2黒色帯下部から単独で出土した。

1は，嶺岡産の頁岩による不定型な剥片である。表面は，裏面と同一方向の剥離面と節理面で構成される。節理面は橙褐色，内部は灰緑色に風化しており，比較的珪化した石材である。

5．まとめ

本遺跡では，第2地点と第3地点において，立川ローム層Ⅸ層に帰属する資料が出土した。とくに，第2地点からは，信州産と推定される黒曜石を用いた石刃とそれに関連する資料を得ることができた。類例の多くはない資料であるので，若干の検討を行い，まとめとしたい。

はじめに，第2地点から出土した黒曜石による石刃関連資料からは，①石刃は，比較的大型であること，②打面調整や頭部調整の有無については，欠損等によりはっきりしないが，打面は，幅広の剥片を多方向から剥離して形成する複剥離打面であること，③両設打面により石刃生産を行っていること，④石刃の剥離方向と直交する剥離による側面調整をもつこと，⑤作業面は小口等に限定されず，比較的広いこと，などの内容がわかる。また，小型の剥片類や石核がみられないことから，本遺跡外で生産された石刃，剥片類が搬入されたと考えられる。資料数が少ないうえに，ナイフ形石器等定型的な石器も含まれていないため，細かな対比は困難であるが，県内から出土している既存資料との関連について考えてみたい。

房総半島では，立川ローム層Ⅸ層を出土層準とする信州産黒曜石を用いた石刃石器群として，千葉市餅ヶ崎遺跡第Ⅱ文化層，市原市草刈六之台遺跡第3文化層，同ヤジ山遺跡第2文化層，東金市鉢ヶ谷遺跡第5地点第Ⅰ文化層などがあげられる。

上記諸遺跡のなかで，資料のまとまっている草刈六之台遺跡第3文化層では，信州麦草峠産や和田峠周辺産による黒曜石を用いて，大・小の多種多様な石刃を遺跡内で生産しており，その一部は小型の基部調整，2側縁調整のナイフ形石器（石器の長軸と素材の長軸は概ね一致し，基部に打面を残すものが多い）に加工されている。石刃技法は，複剥離打面で，単設打面と両設打面の両者がある。打面調整，頭部調整，石核の側面調整は，いずれも顕著ではない。黒曜石以外には，北関東産と推定される頁岩を用いた大型の石刃が搬入品として存在し，また，石斧や刃部再生剥片類，砥石も伴っている。出土層準はⅨ層上部で，他の遺跡も概ね同時期と考えられる。

つぎに，Ⅸ層下部出土の石器群をみると，石刃関連資料は黒曜石を用いた例が少なく，北関東産と推定される各種頁岩系の石材が主流である。黒曜石については，安山岩とともに，横長剥片や不定型な剥片，それらを素材とした台形石器などに用いられることが多い。こうした，台形石器等に用いられる黒曜石は，分析例は多くはないが，柏市中山新田Ⅰ遺跡下層では栃木県高原山産，草刈六之台遺跡第2文化層では東京都神津島産，成田市南三里塚宮原第1遺跡では東京都神津島産を主体として，少量の栃木県高原山産が含まれるという結果が得られており，信州産はみあたらない。

Ⅸ層下部出土の黒曜石による石刃については，富里市古込遺跡で，栃木県高原山産と推定される黒曜石を用いた石刃関連資料が台形石器とともに出土している。石刃技法は，分割された素材の小口面を作業面とし，先細りの石刃を生産するものである。黒曜石の原産地，石刃技法ともに，本遺跡と異なる。

栃木県高原山産黒曜石を用いた石刃石器群は，柏市石揚遺跡において典型的にみられるとおり，Ⅶ層にまとまっており，Ⅸ層には少ない。

以上のとおり，Ⅸ層出土の信州産黒曜石による石刃石器群は，概ねⅨ層上部に位置づけられ，本遺跡の出土例も，その脈絡で考えるべきかもしれない。ただし，現在整理中の資料ではあるが，山武市四ツ塚遺跡で，信州産黒曜石による石刃，基部調整のナイフ形石器，平坦剥離による台形石器などをもつ石器群が出土して

おり，刃部磨製石斧が伴うことも含めて，Ⅸ層下部の可能性が高い。したがって，さらなる資料の検索と検討のなかで，Ⅸ層下部とⅨ層上部における石刃石器群と黒曜石との関連を考えていかねばならない。

## 参考文献

宇井義典ほか編　2004年『千葉県成田市南三里塚宮原第１遺跡・宮原第２遺跡　―（仮）南三里塚物流基地建設予定地内埋蔵文化財調査―』（財）印旛郡市文化財センター

太田文雄ほか編　1994年『石揚遺跡　―手賀の丘少年自然の家建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―』（財）千葉県文化財センター

白井久美子編　1994年『千原台ニュータウンⅥ　―草刈六之台遺跡―』（財）千葉県文化財センター

杉原重夫ほか　2005「千葉県成田市南三里塚宮原第１遺跡出土旧石器時代黒耀石遺物の産地推定」『財団法人印旛郡市文化財センター年報21　―平成16年度―』（財）印旛郡市文化財センター

田村　隆編　1986年『常磐自動車道埋蔵文化財調査報告書Ⅳ　―元割・聖人塚・中山新田Ⅰ―』（財）千葉県文化財センター

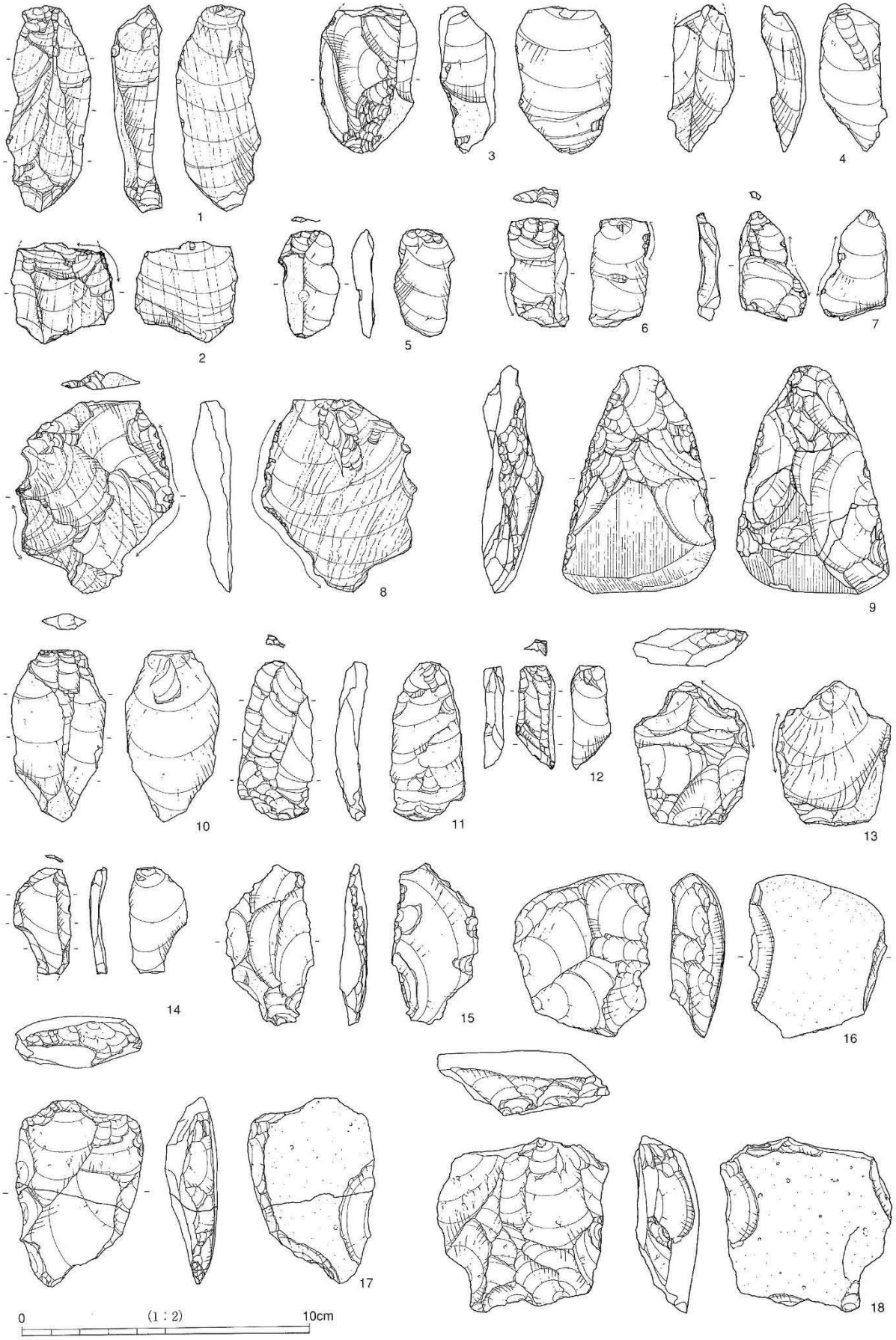
豊田秀治ほか編　2000年『東関東自動車道（千葉・富津線）埋蔵文化財調査報告書５　―市原市中伊沢遺跡・百目木遺跡・下椎木遺跡・志保知遺跡・ヤジ山遺跡・細山（１）（２）遺跡―』（財）千葉県文化財センター

二宮修治　1987年「第３章第６節　黒曜石，黒色緻密質安山岩，メノウの機器中性子放射化分析による原産地推定」『千葉県文化財センター研究紀要11　自然科学の手法による遺跡，遺物の研究５　―先土器時代の石器石材の研究―』（財）千葉県文化財センター

二宮修治ほか　1994年「第９章第１節　草刈六之台遺跡出土黒曜石資料の原産地推定　―エネルギー分散型蛍光Ｘ線分析を用いる非破壊測定による予備的調査―」『千原台ニュータウンⅥ　―草刈六之台遺跡―』（財）千葉県文化財センター

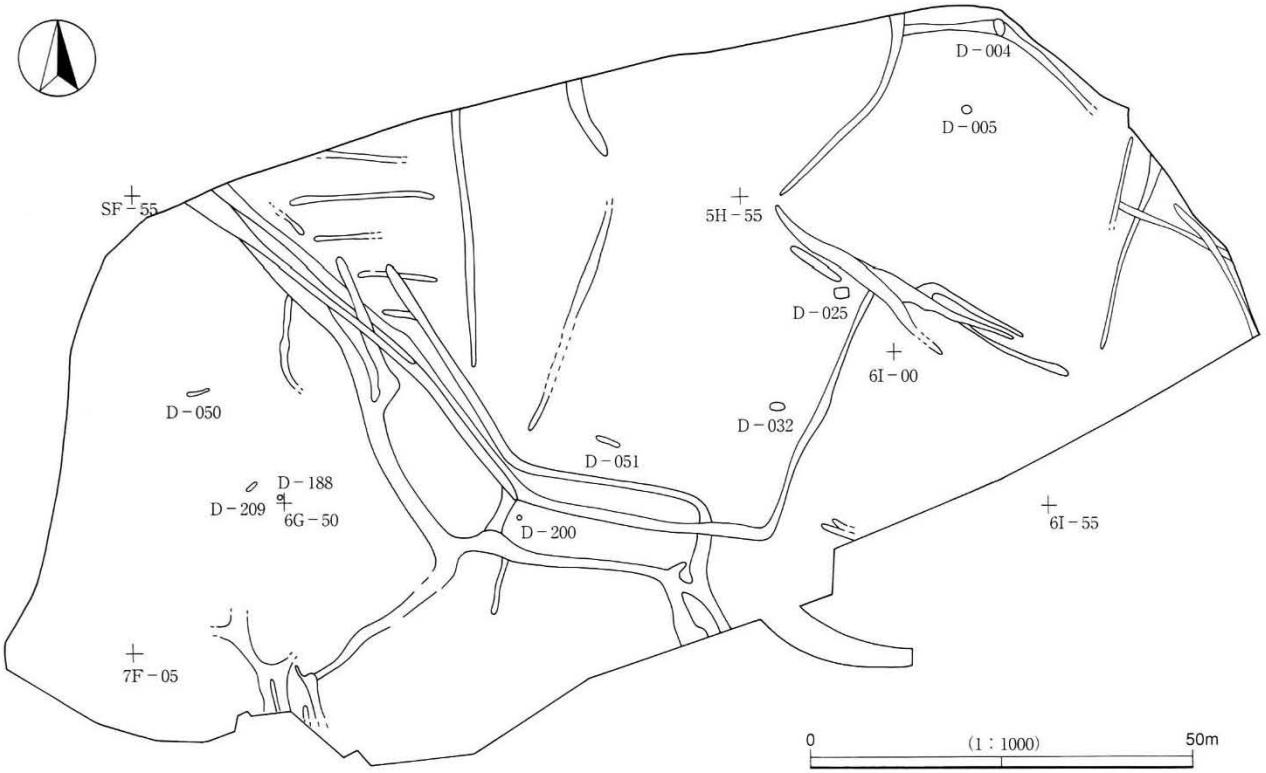
村田六郎太編　1988年『千葉市餅ヶ崎遺跡　―昭和60年度発掘調査報告書―』（財）千葉市文化財調査協会

吉田直哉編　2001年『小野山田遺跡群Ⅲ（第２分冊）　―先土器時代篇―』（財）山武郡市文化財センター




第22図　第２地点（１～９；Ⅸc層）と第３地点（10～18；Ⅸa～Ⅸc層）の主要石器

# 第２章　縄文時代




第23図　縄文時代遺構配置図

## 第１節　概　要

陥穴が９基を検出した。

## 第２節　陥　穴

D－004（第24図）

調査区北東部に位置する。平面形は，プラン・底部とも円形を呈する。長径1.95m×短径1.90m×深さ0.81m を測る。

本土坑は陥穴であると思われる。

D－005（第24図）

調査区北東部に位置する。平面形は，プラン・底部とも楕円形を呈する。長径1.30m×短径0.90m×深さ1.20m を測る。

本土坑は陥穴である。

D－025（第24図）

調査区北東部に位置する。平面形は，プラン・底部とも隅丸長方形を呈する。長径1.93m×短径1.30m×深さ2.09mを測る。

本土坑は陥穴である。

本遺構より砥石1点を図示した。現存長5.1cm，幅3.2cm，厚さ1.30cm，重量30.8gである。

D－032（第24図）

調査区中央部に位置する。平面形は，プラン・底部とも隅丸長方形を呈する。長径1.75m×短径1.25m×深さ1.63mを測る。

本土坑の性格は不明である。

D－050（第25図）

調査区西部に位置する。平面形は，プラン・底部とも楕円形を呈する。長径3.35m×短径0.46m×深さ0.88mを測る。

本土坑は陥穴である。

D－051（第25図）

調査区中央部に位置する。平面形は，プラン・底部とも楕円形を呈する。長径3.60m×短径1.0m×深さ1.19mを測る。

本土坑は陥穴である。

D－188（第25図）

調査区西部に位置する。平面形は，プラン・底部ともやや楕円形を呈する。長径0.83m×短径0.70m×深さ0.76mを測る。

本土坑は陥穴である。

D－200（第25図）

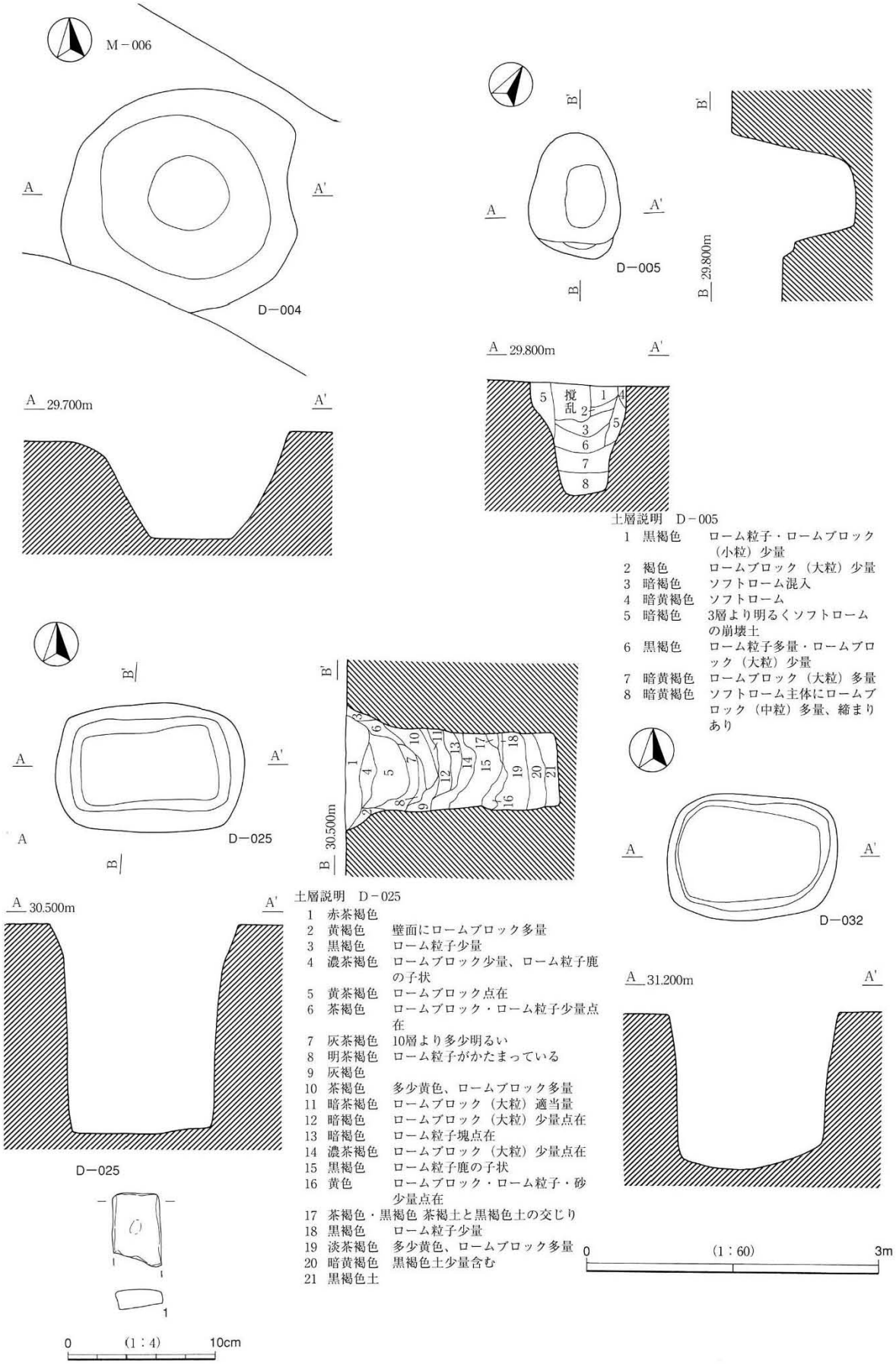
調査区南西部に位置する。平面形は，プラン・底部とも円形を呈する。長径1.48m×短径1.20m×深さ1.85mを測る。

本土坑は陥穴である。

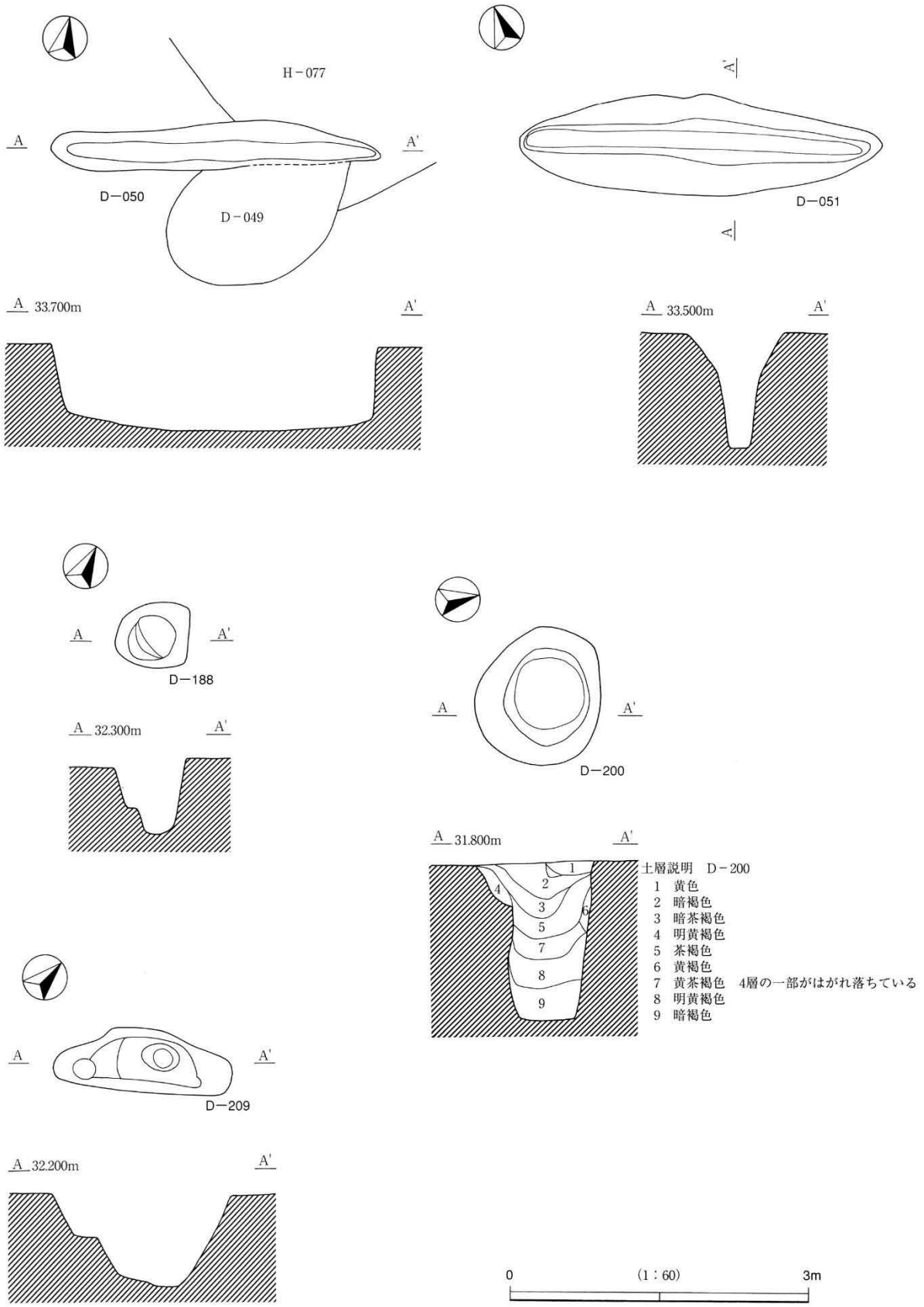
D－209（第25図）

調査区南西部に位置する。平面形は，プラン・底部とも長楕円形を呈する。長径1.78m×短径0.65m×深さ0.64mを測る。

本土坑の性格は陥穴である。

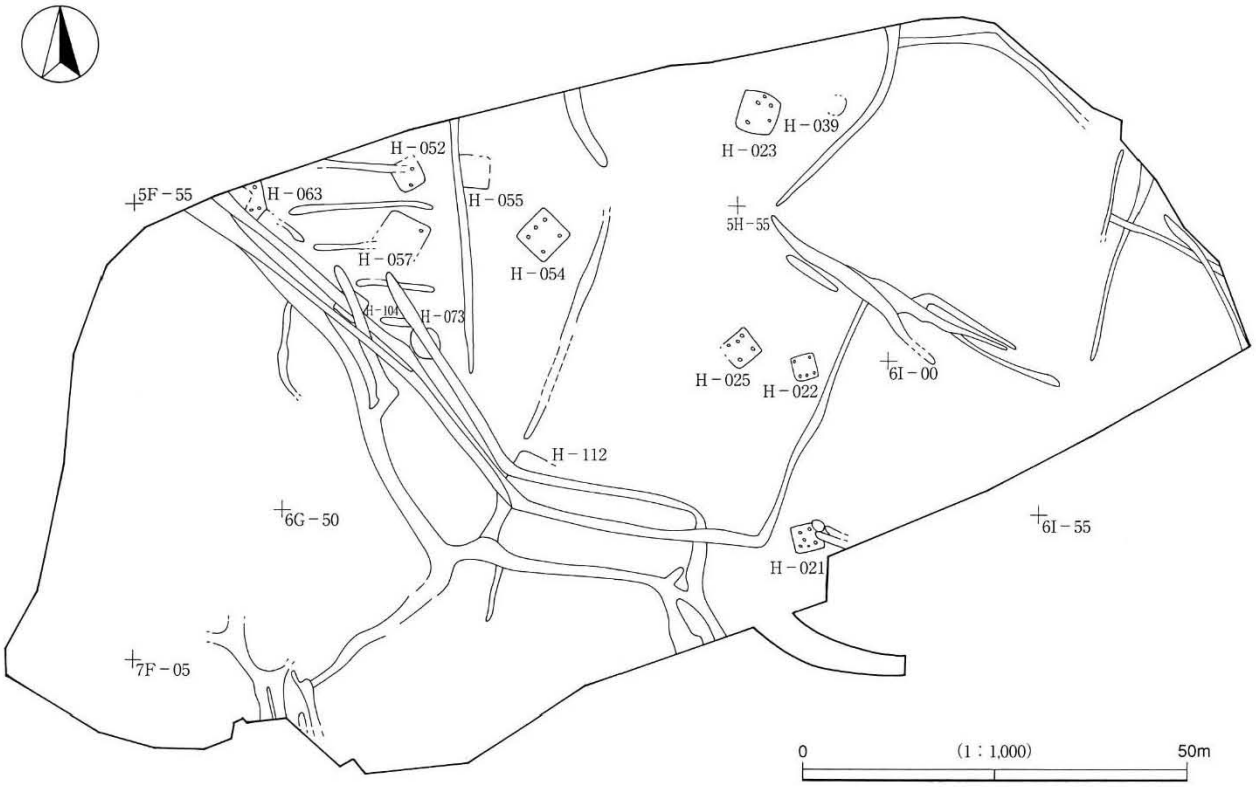



第24図　D－004・005・025・032実測図・出土遺物




第25図　D－050・051・188・200・209実測図

# 第３章　弥生時代




第26図　弥生時代遺構配置図

# 第３章　弥生時代

## 第１節　概　要

住居跡13軒が出土した。調査区中央部に点在している。

## 第２節　竪穴住居跡

Ｈ－021（第27図）

調査区東南部に位置する。Ｍ－009とＤ－023に切られている。規模は4.00m（推定）×4.25mを測り，形状は隅丸方形を呈する。

覆土は４層に分層され，人為的に埋め戻されている。床面に焼土あり。壁高は約43cm（西壁）を測る。

ピットは床面に７本検出された。主柱穴はＰ－１（径30cm×32cm，深さ64cm）・Ｐ－２（径33cm×25cm，深さ68cm）・Ｐ－３（径38cm×26cm，深さ61cm）・Ｐ－４（径27cm×25cm，深さ62cm）の４本が対角線上に配置している。梯子穴と考えられるＰ－５は（径34cm×26cm，深さ23cm）を測る。Ｐ－６（径42cm×35cm，深さ14cm）・Ｐ－７（径17cm×17cm，深さ16cm）は補助柱穴である。炉は北壁付近より検出した。単式炉が，なしくずしに拡がった様相である。火床部はよく焼けている。

本住居跡から出土した遺物のうち，甕１点，石製品４点，計５点を図示した。

１は土師器甕である。底部のみ遺存する。外面ヘラケズリ，底部に木葉痕あり。残存器高2.5cm，底径6.8cmを測る。

２は用途不明の石である。長さ7.3cm，幅3.4cm，厚さ2.1cm，重量76.0gを測る。

３は軽石である。長さ7.90cm，幅9.00cm，厚さ6.90cm，重量56.5gを測る。

４は石製の紡錘車である。径5.5cm，厚さ2.7cm，重量74.8gを測る。

５は火打ち石である。長さ1.3cm，幅1.3cm，厚さ0.9cm，重量2.2gを測る。

Ｈ－022（第28・29図）

調査区中央部に位置する。規模は3.17m×3.63mを測り，形状は隅丸方形を呈する。

覆土は７層に分層され，人為的に埋め戻されている。壁高は約50cm（西壁）を測る。

ピットは床面に７本検出された。主柱穴はＰ－１（径22cm×29cm，深さ57cm）・Ｐ－２（径21cm×28cm，深さ49cm）・Ｐ－３（径23cm×25cm，深さ54cm）・Ｐ－４（径36cm×32cm，深さ58cm）の４本が対角線上に配され，炉と正対して位置するＰ－５は（径26cm×32cm，深さ28cm）を測る。Ｐ－６（径35cm×26cm，深さ10cm）・Ｐ－７（径21cm×19cm，深さ20cm）は壁柱穴である。炉は北壁付近より検出した。

本住居跡から出土した遺物のうち，坏１点，鉢１点，甕７点，小型甕１点，壺12点，手捏土器１点，石製品１点，計24点である。

１は土師器坏である。口縁部～底部１／３遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。口径13.6cm，器高5.5cm，底径6.5cmを測る。

２は鉢である。口縁部～胴部を１／４遺存する。複合口縁をもつ。口縁部外面単節LR縄文，外面胴部ヘラケズリ，内面ナデ。復元口径13.0cm，残存器高5.4cmを測る。

３は小型甕である。口縁部～底部１／２遺存する。口縁部外面輪積痕を残す。胴部外面Ｓ字結束文，撚糸文を施している。内面ナデ，輪積痕もみられる。法量は口径12.0cm，器高11.4cm，底径4.6cmを測る。

４～８は甕である。４は口縁部～胴部１／２遺存する。折返口縁をもつ。輪積痕を残している。外面は緻

密にミガキあり。内面器面剥離のため調整不明。法量は口径12.8cm，残存器高9.2cmを測る。５は底部２／５遺存する。外面ヘラケズリ，単節RL縄文，内面ナデ。底部に木葉痕有り。法量は残存器高4.3cm，底径8.0cmを測る。６はほぼ完形である。口縁部と高台に輪積痕がみられる。全体に雑な作りである。外面ヘラケズリ後ヘラミガキ，内面ヘラミガキ。底部に木葉痕あり。法量は口径18.6cm，器高16.7cm，底径8.1cmを測る。７は胴部下端～底部１／４遺存する。外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は残存器高6.0cm，底径8.0cmを測る。８は口縁部～底部１／２遺存する。口縁部原体波状押圧，胴部円形竹管文，胴部外面ヘラケズリ，口縁部内面ヘラナデ，内面胴部ナデ。法量は復元口径17.0cm，器高17.3cm，底径6.0cmを測る。

９～15は壺である。９は頸部１／４遺存する。頸部外面に貼り付け文，ヘラケズリ，内面ナデ後ヘラミガキ。法量は残存器高4.7cmを測る。10は頸部～底部１／２遺存する。頸部半裁竹管文，胴部山形状沈線文，残存器高17.8cm，底径7.0cmを測る。11は胴部１／２遺存する。胴部外面単節RL縄文，結束文，内面ナデ。法量は残存器高10.5cmを測る。12は頸部～底部１／５遺存する。頸部波状の沈線文　胴部結束縄文，内面剥落のため調整不明。法量は残存器高62.0cm，復元底径18.6cmを測る。13は底部のみである。法量は残存器高1.9cm，復元底径5.6cm，14は底部のみである。外面ヘラケズリ，内面ナデ。底部に木葉痕あり。法量は残存器高1.8cm，底径4.0cm測る。15は底部のみで１／２遺存する。外面ヘラケズリ，内面ナデ。底部に木葉痕あり。法量は残存器高3.0cm，復元底径7.0cmを測る。

16は手捏土器である。完形である。指頭痕，指ナデ。法量は口径5.4cm，器高2.6cm，底径3.2cmを測る。

17は壺底部のみである。外面ヘラケズリ，内面ナデ。残存器高2.6cm，復元底径5.0cmである。

18は甕の口縁片である。口縁部外面輪積痕を残し，撚糸文を施している。19は甕の口縁片である。口縁部外面に輪積痕を残し，撚糸文を施している。

20～23は壺である。20は壺の胴片である。外面頸部波状沈線文，胴部単節RL縄文，内面は器面剥離のため調整不明。21は頸部片である。外面貼り付け文，単節RL縄文。内面ナデ。内面赤彩。22は頸部片である。頸部外面結束文，単節RL縄文，貼り付け文，内面ナデ。内面赤彩。23は胴部片である。外面単節RL縄文，結束文，内面器面剥離で調整不明。外面一部赤彩か（結束文と結束文の間）。

24は砥石か。長さ6.8cm，幅3.7cm，厚さ0.5cm，重量25.1gを測る。

H－023（第30図）

調査区北東部に位置する。規模は5.25m×6.35mを測り，形状は楕円形を呈する。

覆土は１層で人為的に埋め戻されている。壁高は約16cm（東壁）を測る。

ピットは床面に14本検出された。主柱穴はP－１（径42cm×40cm，深さ74cm）・P－２（径38cm×32cm，深さ64cm）・P－３（径31cm×27cm，深さ69cm）・P－４（径37cm×26cm，深さ69cm）の４本が対角線上に配され，炉と正対して位置するP－５は（径48cm×29cm，深さ41cm）を測る。補助柱穴はP－６（径55cm×40cm，深さ21cm）・P－７（径44cm×28cm，深さ８cm）・P－８（径25cm×32cm，深さ11cm）・P－９（径24cm×25cm，深さ６cm）・P－10（径19cm×21cm，深さ５cm）・P－11（径11cm×13cm，深さ21cm）・P－12（径29cm×25cm，深さ６cm）・P－13（径17cm×17cm，深さ20cm）・P－14（径27cm×18cm，深さ17cm）である。炉は北壁付近より検出した。

本住居跡から出土した遺物のうち，甕６点，壺２点，計８点を図示した。

１～６は甕である。１は口縁部～頸部１／４遺存する。口縁部原体波状押圧，内外面ナデ，内面に一部赤彩か。法量は復元口径21.0cm，残存器高5.6cmを測る。２は底部一部である。外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は残存器高3.1cm，復元底径8.4cmを測る。３は底部のみである。外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は残

存器高2.6cm，底径7.6cmを測る。４は胴部片である。口縁部外面に輪積痕残す。外面ヘラケズリ，内面ナデ。５は口縁片である。口縁部外面に輪積痕残す。内外面ナデ。６は口縁片である。口縁部外面に輪積痕残す。内面ナデ。

７・８は壺である。７は底部１／４遺存する。法量は残存器高3.8cm，復元底径8.4cmを測る。８は底部片である。外面ヘラケズリ，内面器面剥離のため調整不明。法量は残存器高1.7cm，復元底径8.0cmを測る。

Ｈ－025（第31図）

調査区中央部に位置する。規模は4.50m×4.94m を測り，形状は楕円形を呈する。

覆土は８層に分層され，人為的に埋め戻されている。壁高は約40cm（西壁）を測る。周溝は，断続的に南壁を除いて，断続的に存在する。幅12cm，深さ５cmを測る。

ピットは床面に34本検出された。主柱穴はＰ－１（径45cm×38cm，深さ80cm）・Ｐ－２（径55cm×26cm，深さ82cm）・Ｐ－３（径55cm×28cm，深さ74cm）・Ｐ－４（径48cm×42cm，深さ79cm）の４本が対角線上に配され，炉と正対して位置するＰ－５（径25cm×33cm，深さ79cm）・Ｐ－６は（径48×71cm，深さ13cm）を測る。補助柱穴はＰ－７（径40cm×28cm，深さ19cm）・Ｐ－８（径42cm×28cm，深さ50cm）・Ｐ－９（径28cm×28cm，深さ64cm）・Ｐ－10（径26cm×26cm，深さ４cm）・Ｐ－11（径28cm×30cm，深さ10cm）・Ｐ－12（径24cm×28cm，深さ54cm）・Ｐ－13（径24cm×28cm，深さ51cm）・Ｐ－14（径28cm×28cm，深さ４cm）・Ｐ－15（径42cm×38cm，深さ４cm）・Ｐ－16（径30cm×20cm，深さ３cm）・Ｐ－17（径28cm×32cm，深さ43cm）・Ｐ－18（径20cm×30cm，深さ３cm）・Ｐ－19（径24cm×24cm，深さ９cm）・Ｐ－20（径20cm×26cm，深さ５cm）・Ｐ－21（径24cm×36cm，深さ９cm）・Ｐ－22（径28cm×38cm，深さ５cm）・Ｐ－23（径24cm×36cm，深さ５cm）・Ｐ－24（径20cm×20cm，深さ10cm）・Ｐ－25（径28cm×40cm，深さ６cm）・Ｐ－26（径32cm×60cm，深さ９cm）・Ｐ－27（径28cm×28cm，深さ８cm）・Ｐ－28（径38cm×38cm，深さ６cm）・Ｐ－29（径36cm×28cm，深さ６cm）・Ｐ－30（径24cm×24cm，深さ７cm）・Ｐ－31（径28cm×30cm，深さ８cm）・Ｐ－32（径28cm×38cm，深さ10cm）・Ｐ－33（径20cm×20cm，深さ７cm）・Ｐ－34（径28cm×36cm，深さ５cm）である。炉は北壁付近より検出した。

本住居跡から出土した遺物のうち，甕４点，石製品１点，計５点を図示した。

１～４は甕である。１は胴部～底部１／６遺存する。外面単節 RL 縄文，内面ナデ。法量は残存器高4.7cm，復元底径8.0cmを測る。２は胴部片である。単節 RL 縄文，結束撚糸文，内面ナデ。３は甕の口縁片である。口縁部ヨコナデ，口縁部外面に貼り付け文，外面単節 RL 縄文，内面ナデ。４は口縁片である。口縁部外面に浅く薄く原体波状押圧がみとめられる。外面単節 RL 縄文，内面ナデ。

５は砥石である。長さ7.0cm，幅6.1cm，厚さ1.1cm，重量80.4g を測る。

Ｈ－039（第32図）

調査区北東部に位置する。Ｈ－035に切られて規模は不明。

壁高は約20cm（東壁）を測る。床面は全体に貼っている。

ピットは床面に１本検出された。Ｐ－１（径22cm×22cm，深さ55cm）は主柱穴と考えられる。

本住居跡の遺物は出土しなかった。

Ｈ－052（第32図）

調査区北西部に位置する。Ｍ－015，Ｂ－008に切られる。規模は4.55m×4.03m を測り，形状は楕円形である。

覆土は７層に分層され，人為的に埋め戻されている。壁高は約30cm（南壁）を測る。

ピットは床面に16本検出された。主柱穴はＰ－２（径40cm×35cm，深さ50cm）・Ｐ－４（径30cm×28cm，深さ50cm）・Ｐ－６（径35cm×38cm，深さ54cm）・Ｐ－８（径28cm×30cm，深さ48cm）の４本が対角線上に配され，炉と正対して位置するＰ－５は（径20cm×30cm，深さ16cm）を測る。Ｐ－１（径33cm×28cm，深さ82cm）・Ｐ－３（径15cm×18cm，深さ41cm）・Ｐ－７（径22cm×26cm，深さ11cm）は補助柱である。Ｐ－11（径13cm×19cm，深さ４cm）・Ｐ－12（径15cm×20cm，深さ６cm）・Ｐ－13（径13cm×14cm，深さ３cm）・Ｐ－14（径15cm×17cm，深さ４cm）・Ｐ－15（径12cm×14cm，深さ３cm）・Ｐ－16（径16cm×15cm，深さ４cm）は補助柱か。Ｐ－９（径50cm×61cm，深さ20cm）・Ｐ－10（径73cm×62cm，深さ15cm）は貯蔵穴である。炉は東壁付近より検出した。

本住居跡から出土した遺物のうち，甕１点，石製品３点，計４点を図示した。

１は甕である。口縁部のみ遺存する。口縁部外面輪積痕残す。外面ナデ後撚り戻し縄文，内面ナデ。法量は口径22.5cm，残存器高8.5cmを測る。

２～４は軽石である。２は長さ8.1cm，幅6.4cm，厚さ4.5cm，重量54.9gを測る。３は長さ7.0cm，幅6.1cm，厚さ4.5cm。重量33.9gを測る。４は長さ6.5cm，幅8.8cm，厚さ5.5cm，重量46.7gを測る。

Ｈ－054（第33図）

調査区中央北部に位置する。規模は5.05m×6.03mを測り，形状は隅丸方形を呈する。

覆土は３層に分層され，人為的に埋め戻されている。床面はほぼ全体に硬化面がみられる。壁高は約30cm（東壁）を測る。周溝は撹乱に切られているものの全周している。幅21cm，深さ２cmを測る。

ピットは床面に16本検出された。主柱穴はＰ－１（径45cm×22cm，深さ50cm）・Ｐ－２（径33cm×37cm，深さ57cm）・Ｐ－３（径59cm×27cm，深さ52cm）・Ｐ－４（径43cm×21cm，深さ61cm）の４本が対角線上に配され，炉と正対して位置するＰ－５は（径21cm×22cm，深さ19cm）を測る。壁柱穴はＰ－６（径53cm×48cm，深さ19cm）・Ｐ－９（径24cm×19cm，深さ33cm）・Ｐ－10（径26cm×32cm，深さ８cm）・Ｐ－11（径33cm×26cm，深さ38cm）である。補助柱穴と思われるのはＰ－７（径29cm×27cm，深さ36cm）・Ｐ－８（径27cm×23cm，深さ28cm）・Ｐ－12（径55cm×43cm，深さ20cm）・Ｐ－13（径32cm×26cm，深さ７cm）・Ｐ－14（径23cm×21cm，深さ６cm）・Ｐ－15（径23cm×26cm，深さ４cm）Ｐ－16（径約14cm×29cm，深さ５cm）である。炉は北壁付近より検出した。

本住居跡の出土遺物のうち，甕１点，土製品１点，石製品１点，計３点を図示した。

１は甕の口縁片である。複合口縁をもつ。外面羽状縄文。内面ナデ。

２は砥石である。長さ3.1cm，幅3.8cm，厚さ1.2cm，重量19.65gを測る。

３は土製紡錘車である。径6.8cm，厚さ2.3cm，孔径0.9cm，重量111.1gを測る。

土製品１点は写真のみの掲載である。

Ｈ－055（第34図）

調査区中央北部に位置する。Ｈ－047・Ｈ－048とＭ－014と撹乱に切られる。規模は4.98m×4.09mを測り，形状は隅丸方形と思われる。

覆土は３層に分層され，人為的に埋め戻されている。

炉の周辺に硬化面がみられる。床面に焼土検出。壁高は約30cm（西壁）を測る。周溝は西壁および南壁より検出された。幅は26cm，深さ４cmを測る。

ピットは床面に７本検出された。主柱穴はＰ－１（径43cm×43cm，深さ50cm）・Ｐ－２（径31cm×23cm，深さ46cm）・Ｐ－３（径41cm×21cm，深さ61cm）・Ｐ－４（径50cm×24cm，深さ53cm）の４本が対角線上に配され，炉と正対して位置するＰ－５は（径53cm×26cm，深さ17cm）を測る。補助柱穴はＰ－６（径45cm×36cm，深さ９cm）・Ｐ－７（径18cm×19cm，深さ21cm）である。炉は西壁付近より検出した。

本住居跡から出土した遺物のうち，甕２点を図示した。

１～２は甕である。１は口縁部～胴部１／３遺存する。口縁部に輪積痕残す。撚糸文（頸部除く），Ｓ字結束文，内面ナデ。法量は復元口径12.2cm，残存器高14.4cmを測る。２は頸部～底部２／３遺存する。胴部上端にＳ字結束文が巡り，胴部下端には主に撚糸文が施されているがＳ字結束文とナデが不定期に存在する。内面ナデ。法量は残存器高12.5cm，底径7.0cmを測る。

Ｈ－057（第35図）

調査区北西部に位置する。Ｈ－056と撹乱に切られている。規模は6.33m×5.88mを測り，形状は隅丸方形を呈する。

壁高は約30cm（西壁）を測る。周溝は断続的に巡っている。幅20cm，深さ４cmを測る。

ピットは床面に40本検出された。主柱穴はＰ－１（径45cm×74cm，深さ61cm）・Ｐ－２（径28cm×52cm，深さ54cm）・Ｐ－３（径34cm×60cm，深さ61cm）・Ｐ－４（径40cm×85cm，深さ70cm）の４本が対角線上に配され，炉と正対して位置するＰ－５は（径28cm×36cm，深さ32cm）を測る。補助柱穴はＰ－６（径20cm×36cm，深さ12cm）・Ｐ－７（径18cm×22cm，深さ15cm）・Ｐ－８（径20cm×20cm，深さ６cm）・Ｐ－９（径24cm×26cm，深さ７cm）・Ｐ－10（径30cm×32cm，深さ30cm）・Ｐ－11（径34cm×34cm，深さ４cm）・Ｐ－12（径14cm×14cm，深さ10cm）・Ｐ－13（径35cm×35cm，深さ27cm）・Ｐ－14（径25cm×35cm，深さ12cm）・Ｐ－15（径35cm×30cm，深さ11cm）・Ｐ－17（径20cm×25cm，深さ24cm）・Ｐ－18（径32cm×36cm，深さ23cm）・Ｐ－19（径30cm×35cm，深さ13cm）・Ｐ－20（径28cm×34cm，深さ15cm）・Ｐ－21（径22cm×26cm，深さ17cm）・Ｐ－22（径40cm×46cm，深さ10cm）・Ｐ－23（径18cm×18cm，深さ24cm）・Ｐ－24（径22cm×32cm，深さ29cm）・Ｐ－25（径18cm×22cm，深さ40cm）・Ｐ－26（径20cm×32cm，深さ17cm）・Ｐ－27（径20cm×20cm，深さ14cm）・Ｐ－28（径34cm×34cm，深さ11cm）・Ｐ－29（径40cm×42cm，深さ17cm）・Ｐ－30（径34cm×34cm，深さ17cm）・Ｐ－31（径34cm×34cm，深さ８cm）・Ｐ－32（径24cm×28cm，深さ13cm）・Ｐ－33（径30cm×34cm，深さ13cm）・Ｐ－34（径26cm×26cm，深さ５cm）・Ｐ－35（径28cm×32cm，深さ４cm）・Ｐ－36（径30cm×36cm，深さ９cm）・Ｐ－37（径28cm×32cm，深さ８cm）・Ｐ－38（径20cm×20cm，深さ11cm）・Ｐ－39（径20cm×30cm，深さ３cm）・Ｐ－40（径24cm×32cm，深さ10cm）である。Ｐ－16（径66cm×60cm，深さ20cm）は貯蔵穴である。炉は検出できなかった。

本住居跡から出土した遺物のうち，甕７点，壺２点，玉１点，計10点を図示した。

１・２は甕である。１は底部のみである。撚糸文，内面ナデ，底部に木葉痕あり。法量は残存器高3.6cm，底径7.8cmを測る。２は胴部のみ１／２遺存する。外面撚り戻し縄文，内面ナデ。法量は残存器高12.3cmを測る。

３は壺底部のみである。外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は残存器高1.8cm，底径3.4cmを測る。

４は甕片である。外面原体鋸歯状押圧文，羽状縄文，内面ナデ。

５は壺片である。鋸歯状に沈線区画し，上端に単節LR縄文，結束文，下端に単節RL縄文。鋸歯状沈線の部分に赤彩か。

６～９は甕片である。６は外面単節RL縄文，口唇部単節LR縄文，内面ナデ。７は外面撚糸文，内面ナデ。８は外面撚り戻し縄文，Ｓ字結束文が二条，内面ナデ。９は外面撚り戻し縄文。内面ナデ。

10は土製管玉で完形である。長さ2.6cm，径0.7cm，孔径0.1cm，重量1.7gを測る。

H－063（第36図）

調査区西北部に位置する。H－062，M－042に切られる。形状は不明である。

床面にはP－４，P－５の周辺に硬化面がみられる。壁高は約16cm（西壁）を測る。

ピットは床面に６本検出された。主柱穴はP－１（径40cm×30cm，深さ50cm）・P－２（径39cm×40cm，深さ49cm）・P－３（径25cm×24cm，深さ10cm）である。補助柱穴はP－４（径45cm×82cm，深さ30cm）・P－５（径31cm×35cm，深さ16cm）である。P－６（径88cm×82cm，深さ18cm）は貯蔵穴か。炉は検出されなかった。

本住居跡の出土した遺物のうち，甕２点，壺１点，土製品１点，計４点を図示した。

１・２は甕である。１は胴部～底部３／４遺存する。外面Ｓ字結束文二条，単節RL縄文，内面ナデ，輪積痕あり。法量は現存器高18.4cm，底径7.5cmを測る。２は片である。外面単節RL縄文，内面ナデ。

３は壺の胴部片である。外面頸部および胴部結束縄文，縄文の縁にＳ字結束文。内面器面剥離。

４は土製紡錘車で完形である。径6.8cm，厚さ2.6cm，孔径1.1cm，重量140.2gを測る。

H－073（第37図）

調査区中央部やや西よりに位置する。M－013に切られる。規模は不明です。形状は円形である。

覆土は２層に分層され，人為的に埋め戻されている。壁高は約50cm（西壁）を測る。

ピットは床面に12本検出された。P－１（径25cm×28cm，深さ11cm）・P－２（径20cm×24cm，深さ17cm）・P－３（径35cm×34cm，深さ11cm）・P－４（径27cm×18cm，深さ９cm）・P－５（径30cm×29cm，深さ29cm）・P－６（径28cm×24cm，深さ29cm）・P－10（径30cm×23cm，深さ24cm）は，壁柱穴のように巡る。P－７（径18cm×12cm，深さ9.0cm）・P－８（径13cm×24cm，深さ11cm）・P－９（径12cm×10cm，深さ9.0cm）は補助柱か。P－11（径40cm×35cm，深さ9.0cm）・P－12は（径36cm×30cm，深さ40cm）を測る。

炉は東壁付近より検出した。

本住居跡から出土した遺物は，流れ込みであったため，図示しなかった。

H－104（第37図）

調査区西北部に位置する。M－020に切られ，M－042と重複している。規模は3.60m×3.43mを測り，形状は隅丸方形を呈する。

床面は全体に貼っている。壁高は約６cm（東壁）を測る。周溝はM－020に切られている。幅は19cm，深さ２cmを測る。

ピットは床面に４本検出された。P－１（径23cm×24cm，深さ９cm）・P－２（径13cm×11cm，深さ４cm）・P－３（径20cm×19cm，深さ４cm）が壁柱穴のように巡る。P－４（径約44cm×30cm，深さ15cm）は貯蔵穴か。炉は西壁付近より検出した。

本住居跡からの出土遺物は流れ込みであったため，図示しなかった。

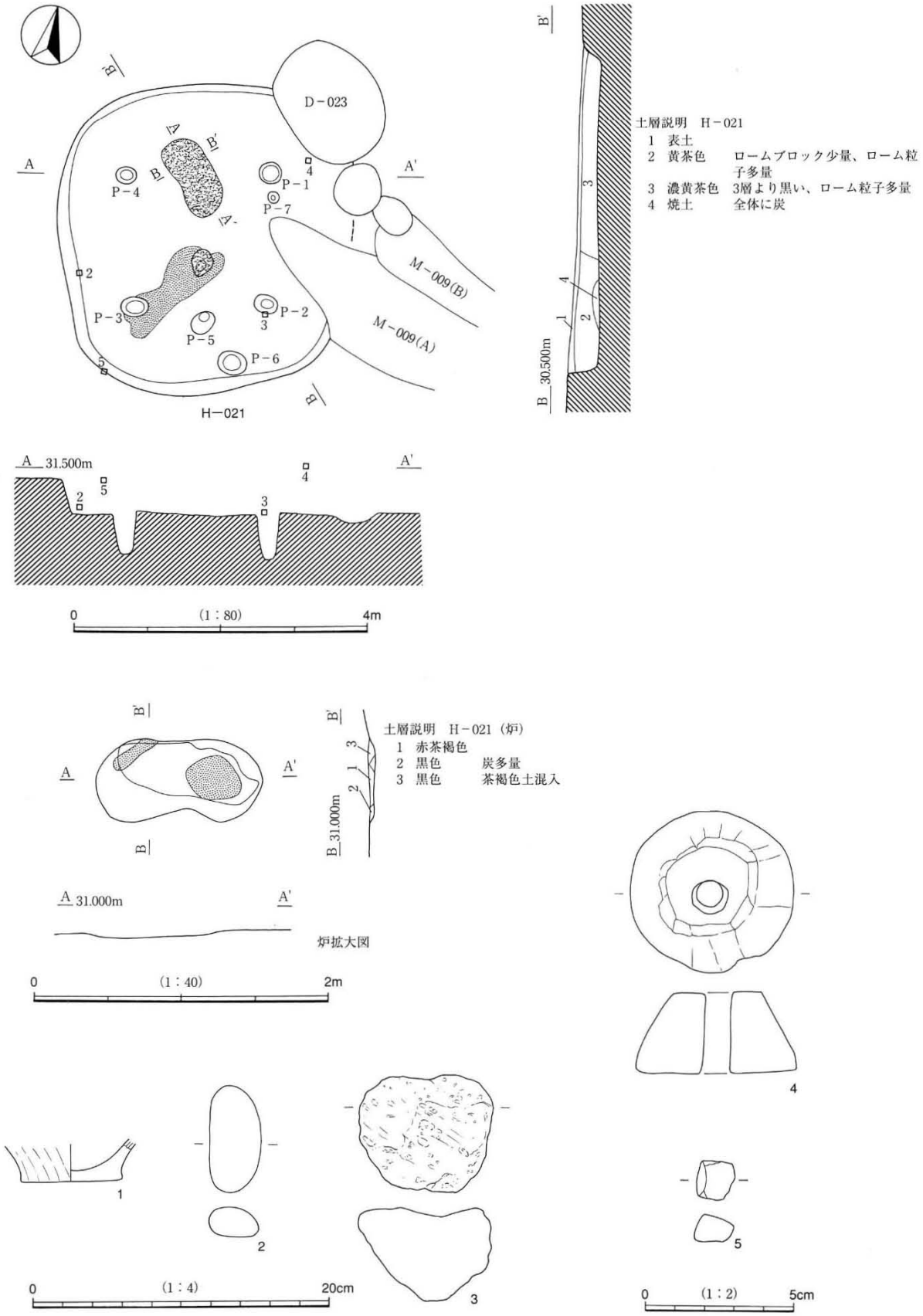
H－112（第38図）

調査区中央部やや南よりに位置する。H－110，M－001，041に切られる。規模は3.17m×3.63mを測り，形状は楕円形と思われる。

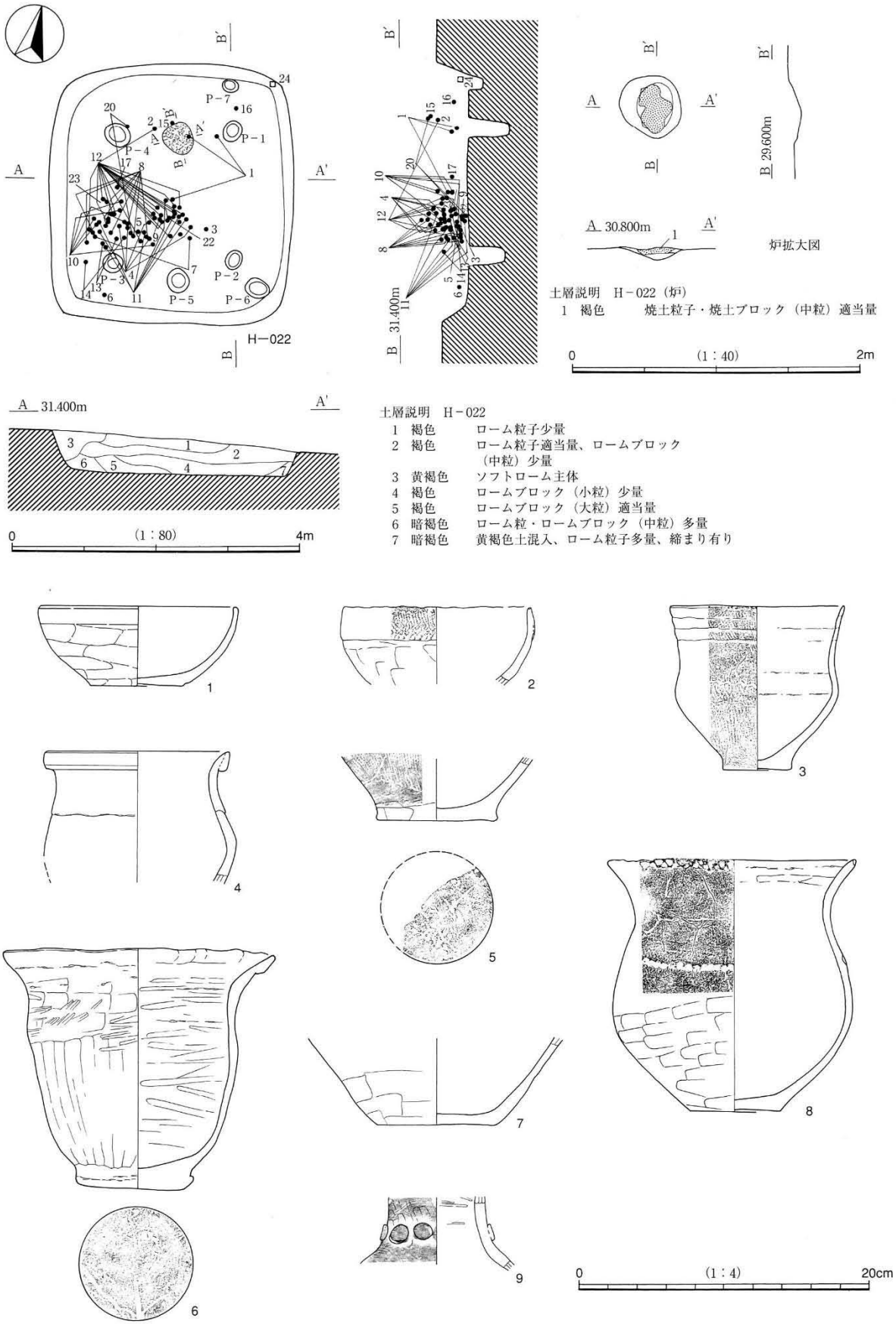
壁高は約16cm（西壁）を測る。周溝は他遺構に切られる。幅16cm，深さ２cmを測る。

ピットは床面に６本検出された。Ｐ－１（径24cm×18cm，深さ24cm）・Ｐ－２（径19cm×16cm，深さ19cm）・Ｐ－３（径16cm×16cm，深さ19cm）・Ｐ－４（径16cm×18cm，深さ26cm）・Ｐ－５（径18cm×18cm，深さ47cm）・Ｐ－６（径26cm×26cm，深さ72cm）のピットを検出した。炉は検出できなかった。

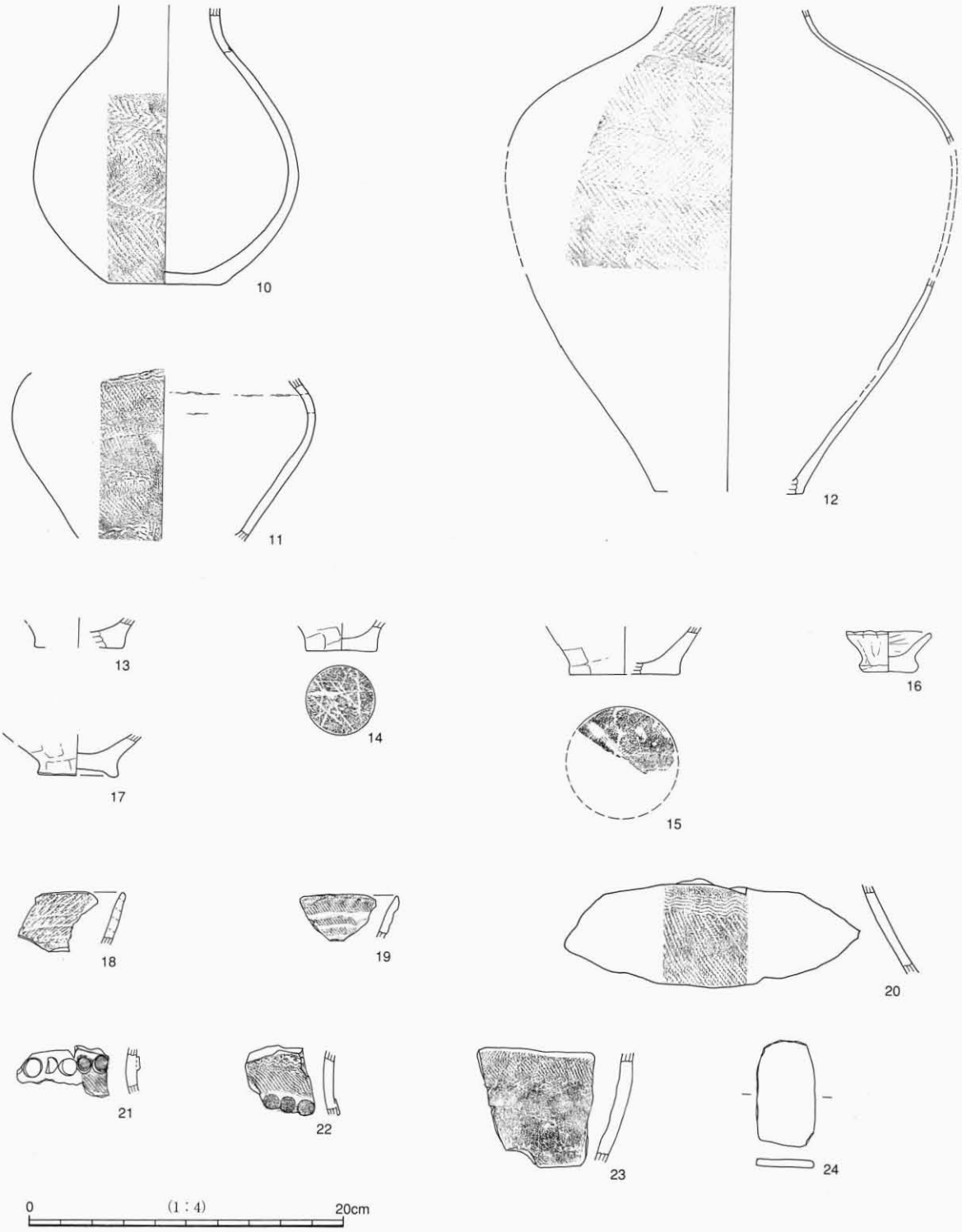
本住居跡から出土した遺物は流れ込みであったため，図示しなかった。



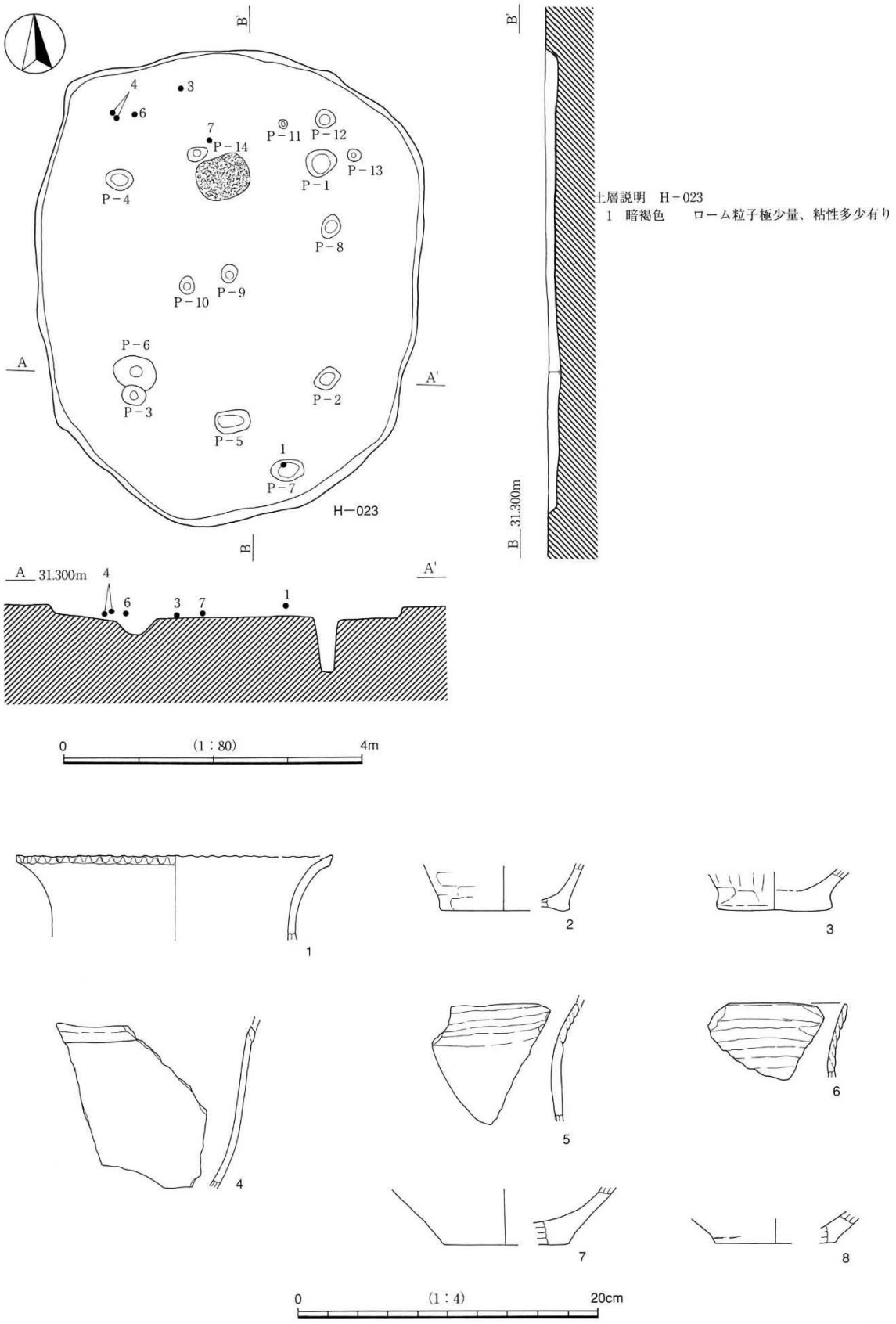

第27図　H－021実測図・出土遺物



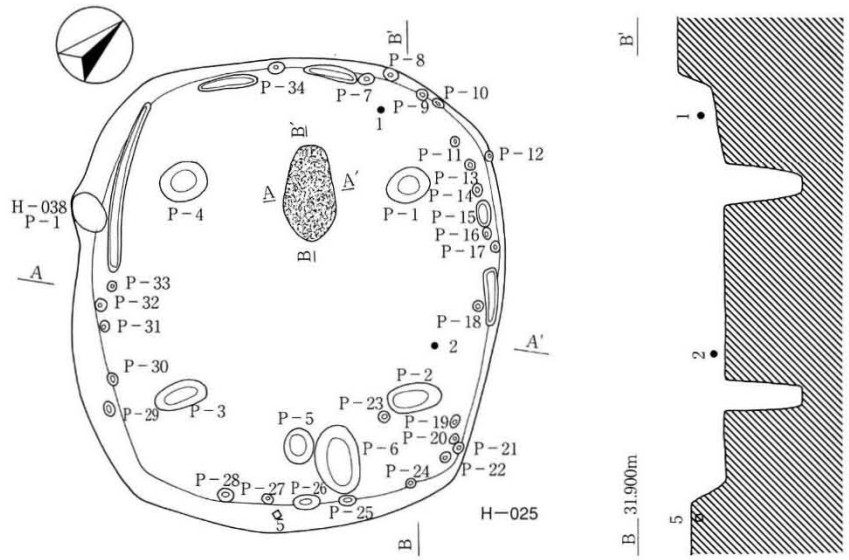

第28図　Ｈ－022実測図・出土遺物（１）

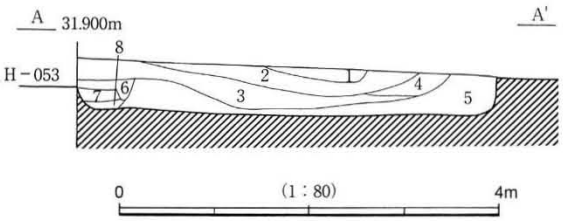



第29図　Ｈ－022出土遺物（２）



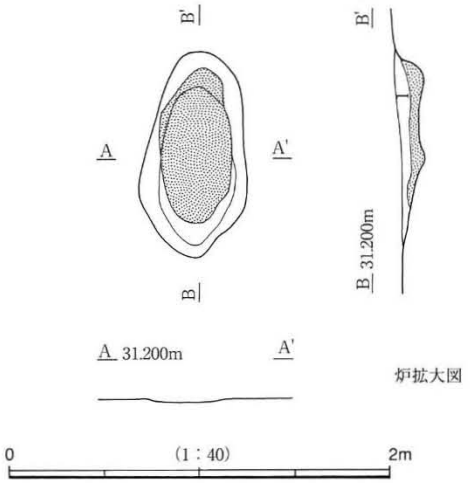

第30図　Ｈ－023実測図・出土遺物




土層説明　H－025

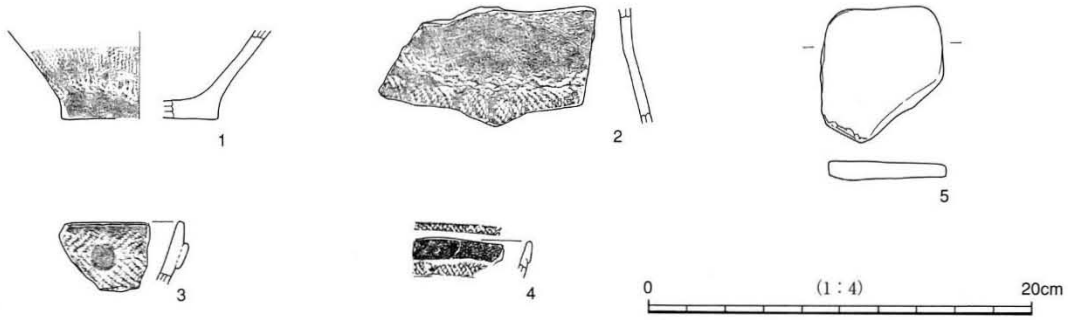
1　黒色
2　濃茶褐色　ローム粒子・ロームブロック少量
3　灰褐色　炭・焼土粒多量
4　赤茶褐色　ローム粒子・ロームブロック少量
5　黒茶褐色　ローム粒子・ロームブロック・焼土粒適当量
6　暗赤褐色　ロームブロック少量
7　黄茶色
8　黒褐色　ローム粒子少量



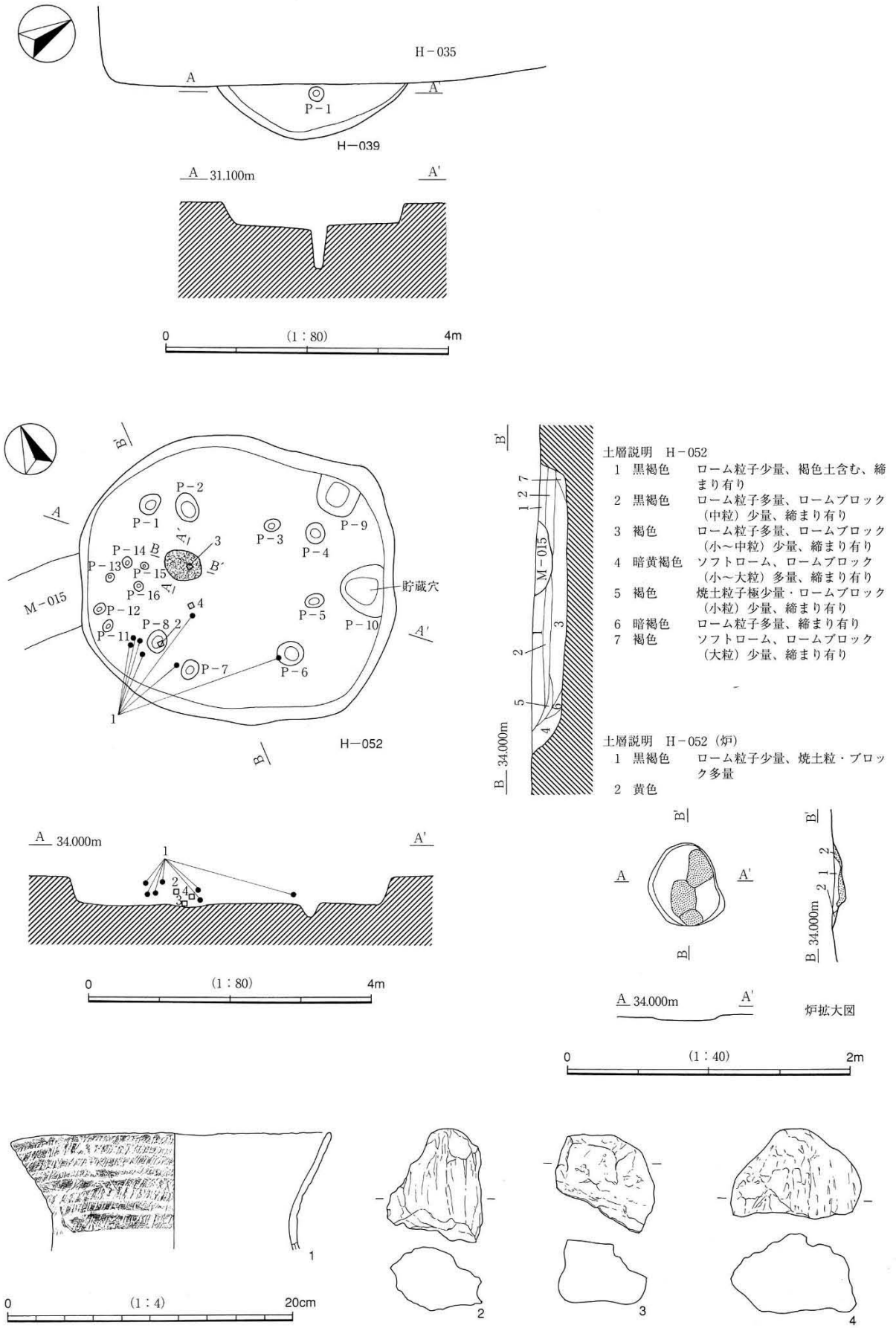

炉拡大図

土層説明　H－025（炉）

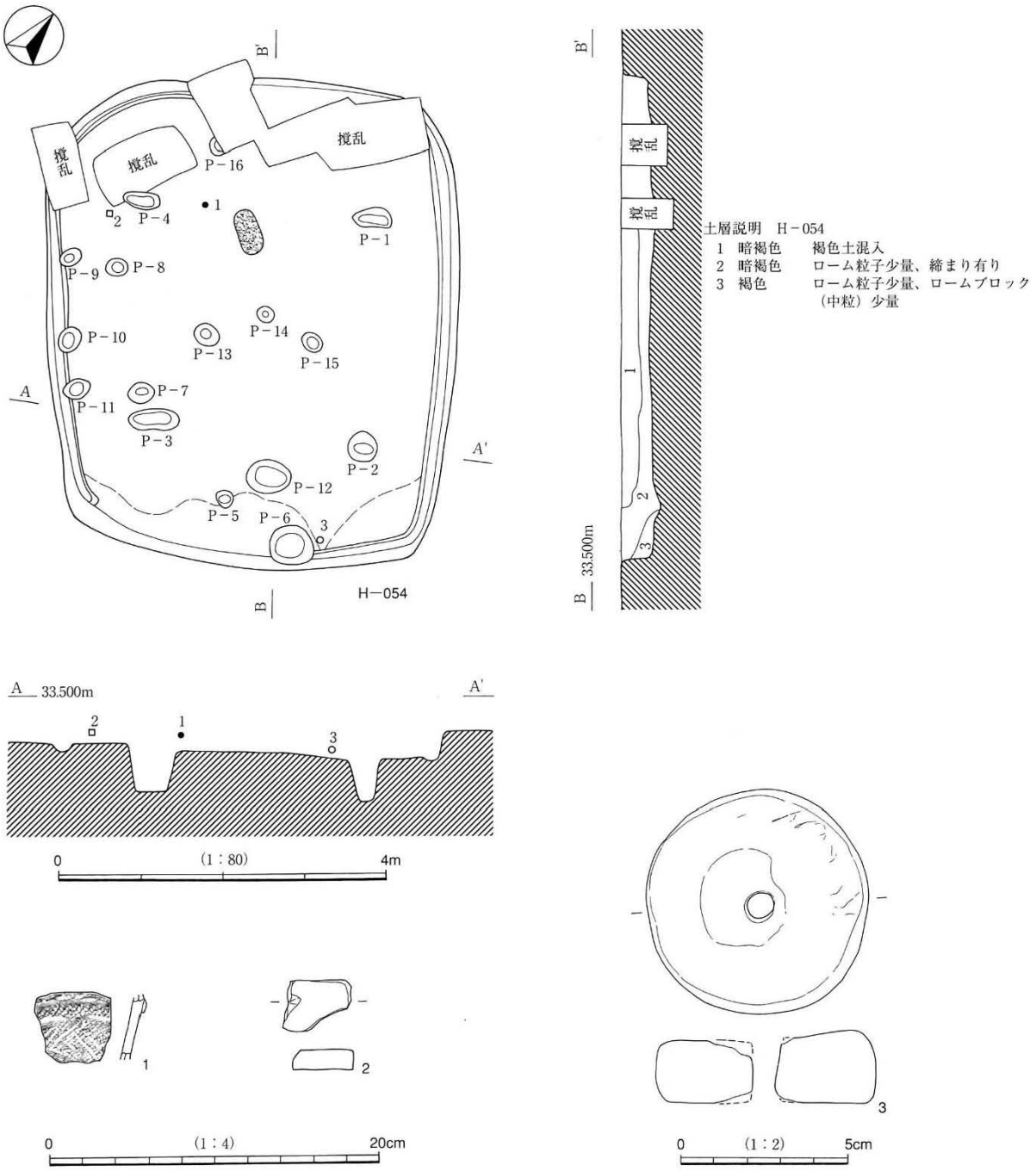
1　黒褐色　焼土粒・焼土ブロック少量混合



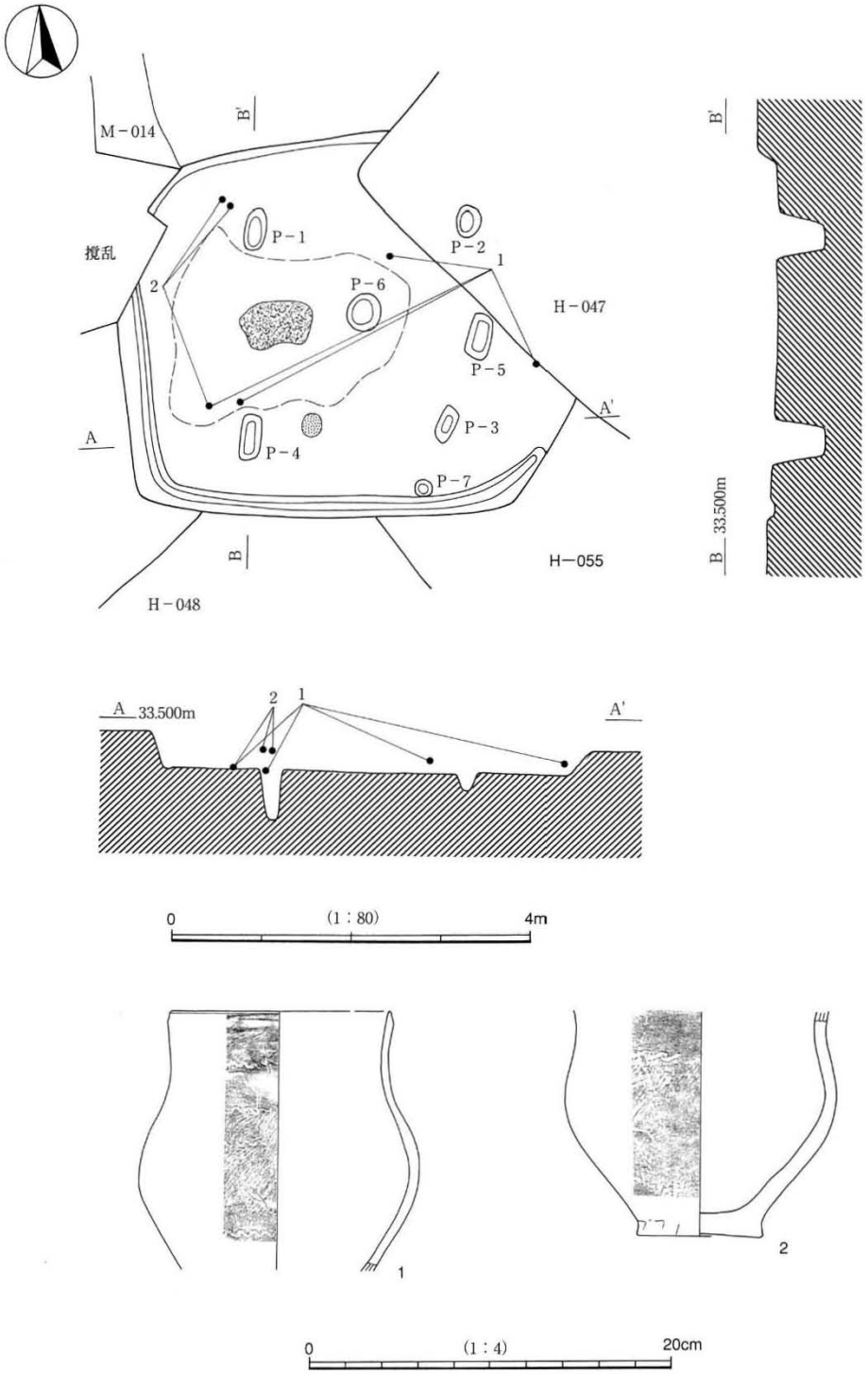

第31図　H－025実測図・出土遺物



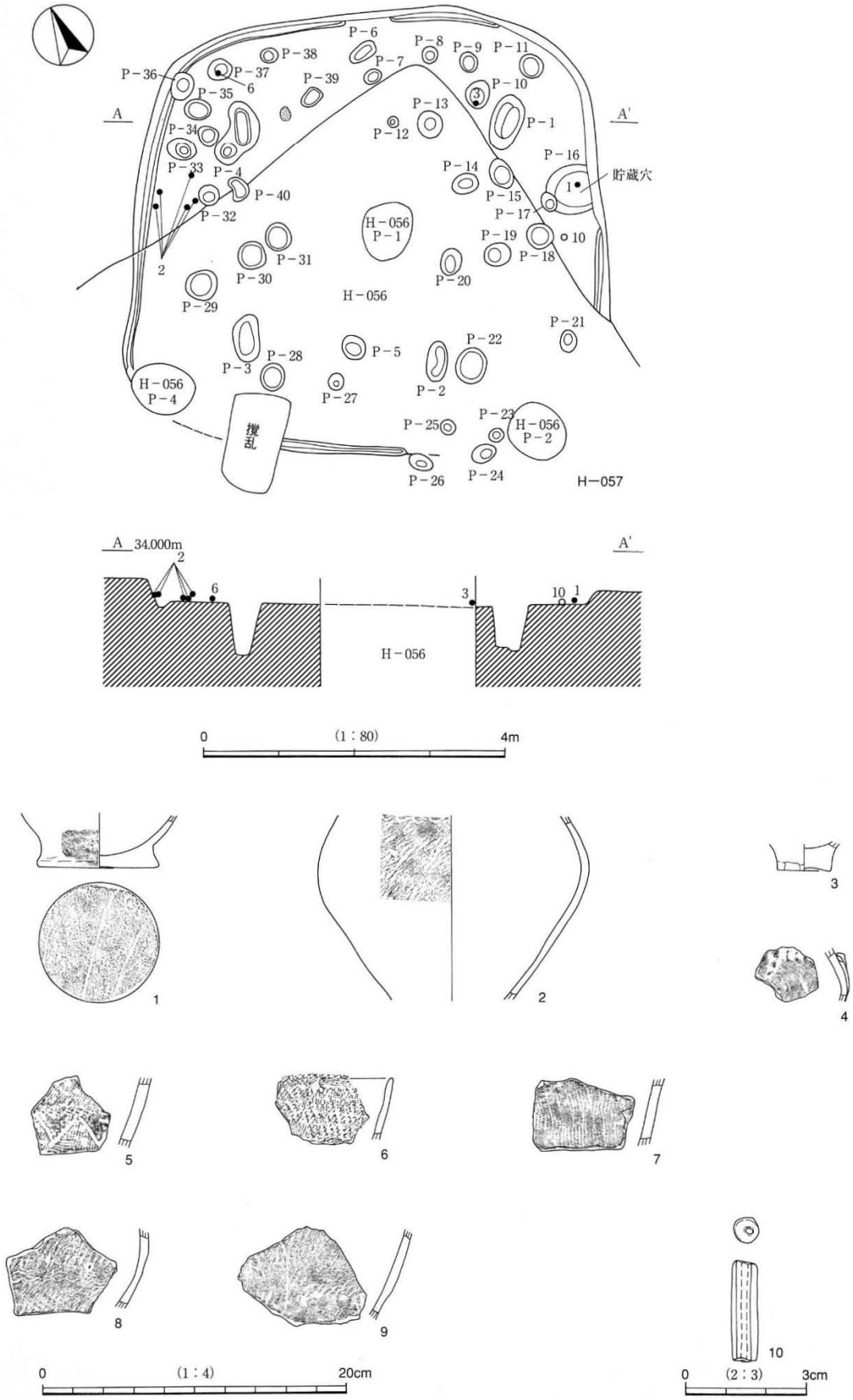

第32図　Ｈ－039・Ｈ－052実測図・出土遺物



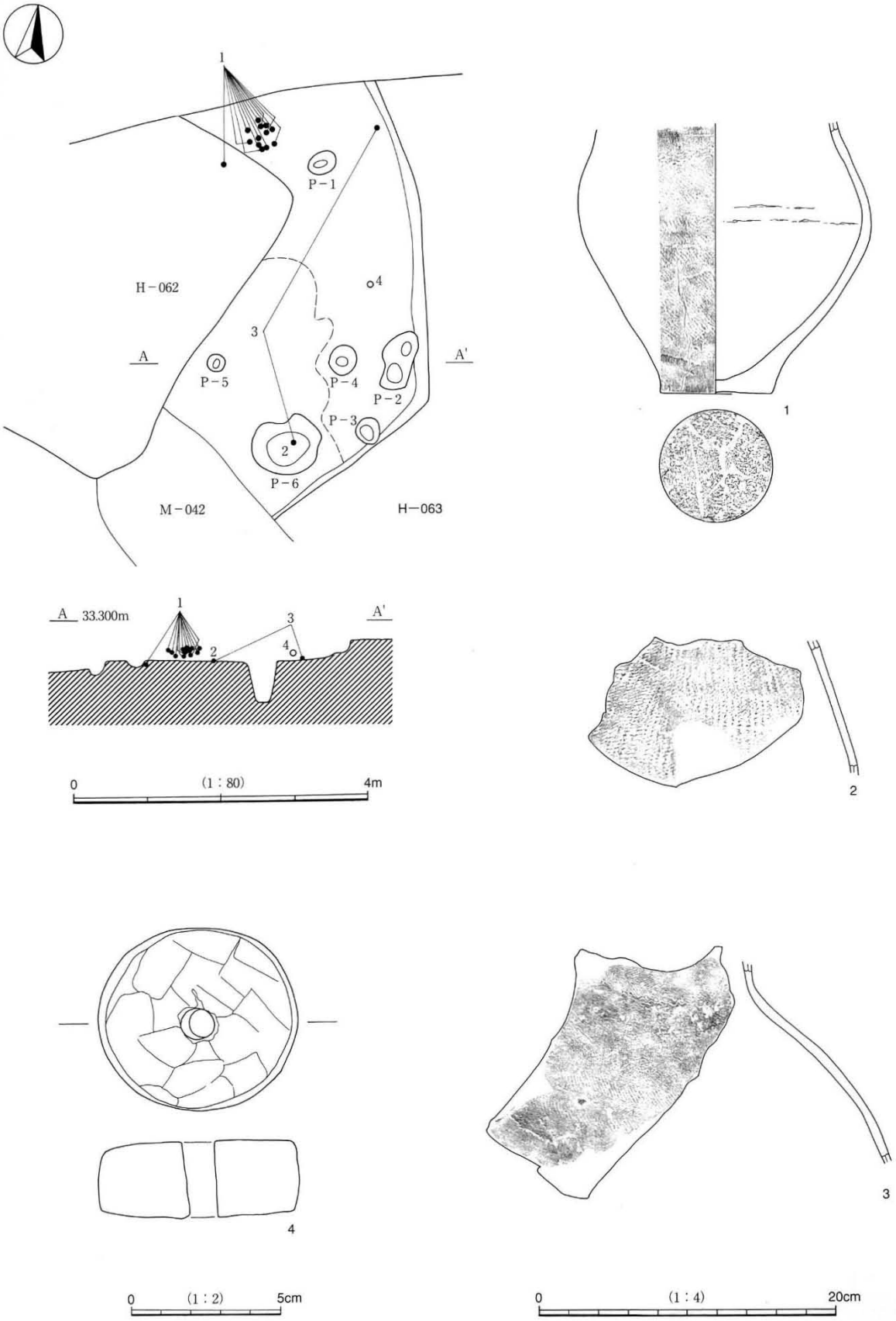

第33図　Ｈ－054実測図・出土遺物



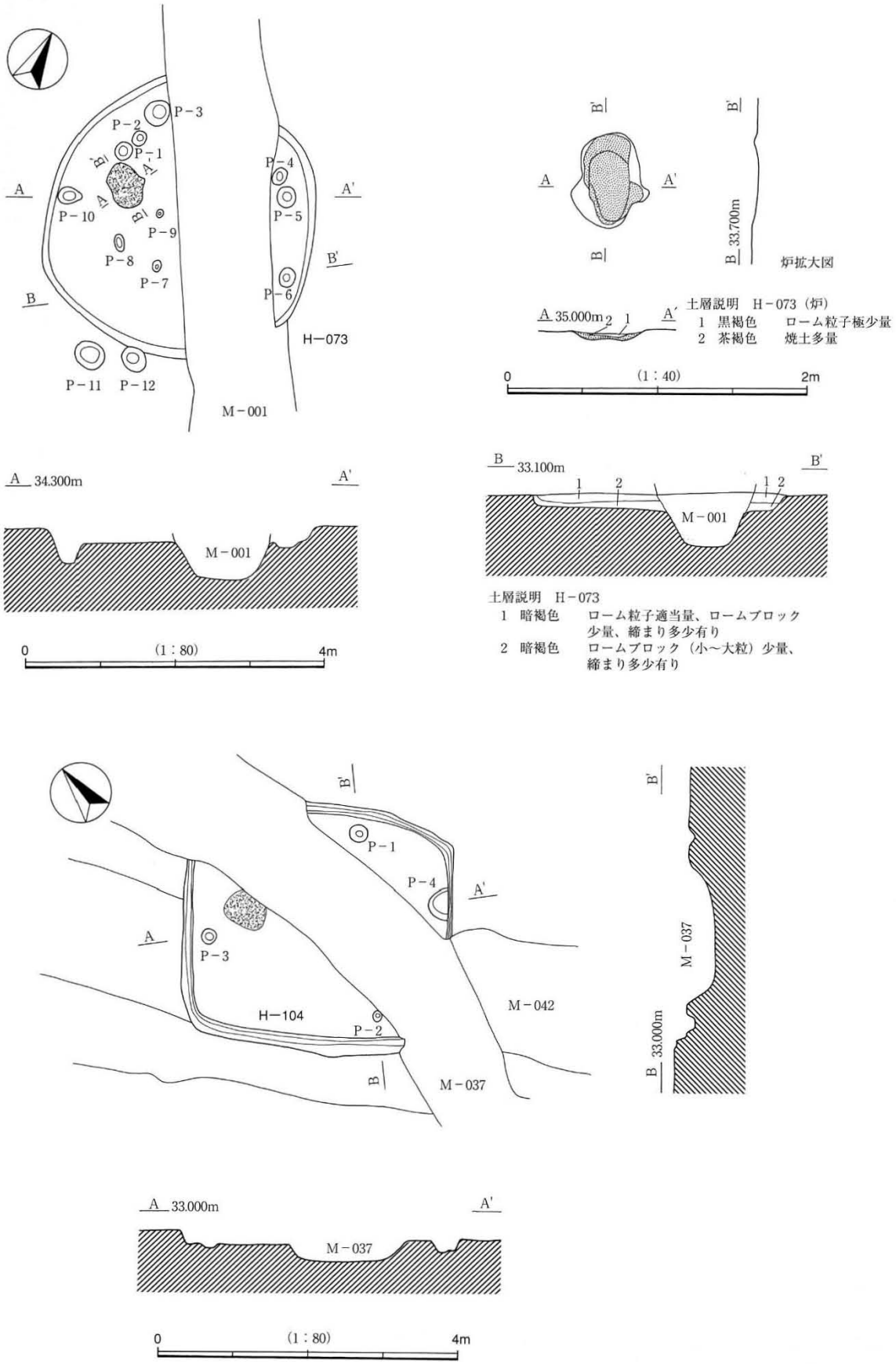

第34図　Ｈ－055実測図・出土遺物



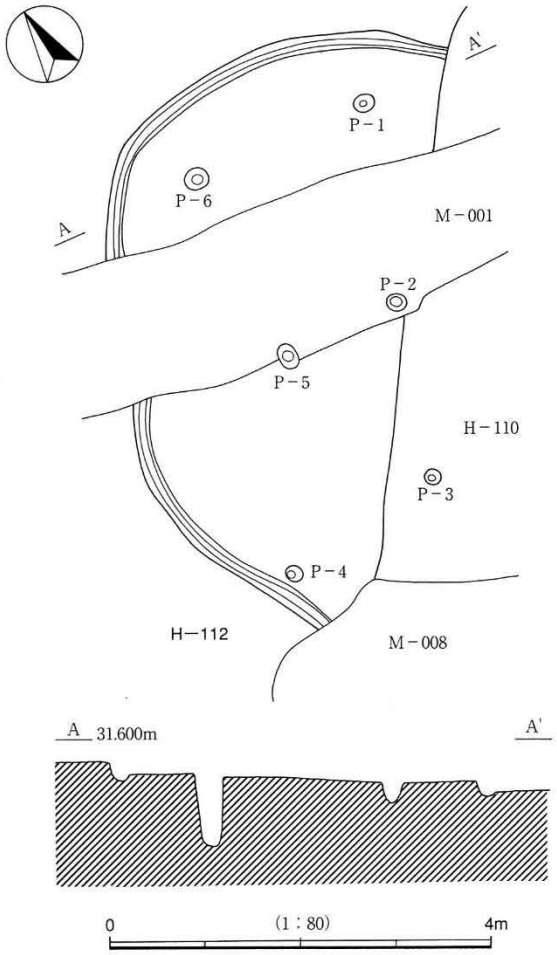

第35図　Ｈ－057実測図・出土遺物




第36図　H－063実測図・出土遺物

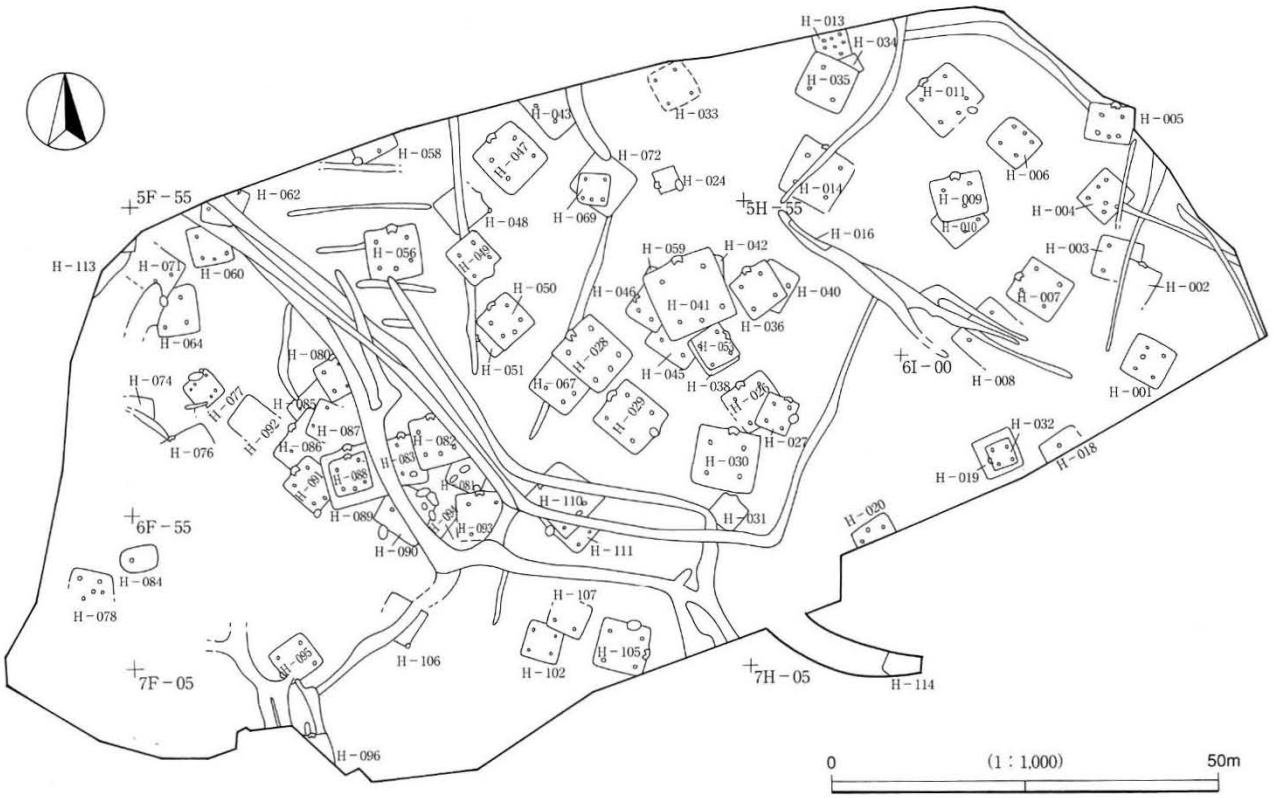



第37図　H－073・H－104実測図




第38図　Ｈ－112実測図

# 第４章　古墳時代




第39図　古墳時代遺構配置図

# 第４章　古墳時代

## 第１節　概　要

住居跡81軒，土坑基６基，溝４条を検出した。

集落が拡大するとともに住居跡も調査区一帯に拡散する。

## 第２節　竪穴住居跡

Ｈ－001（第40・41図）

調査区東部に位置する。規模は5.37m×5.45m を測り，形状は方形を呈する。

覆土は人為的に埋め戻され，６層に分層される。

床面は中央一帯に硬化範囲が認められる。壁高は約50cm（西壁）を測る。周溝はほぼ全周し，幅30cm，深さ2.5cmを測る。

ピットは床面に５本検出された。主柱穴はＰ－１（径28cm×26cm，深さ59cm）・Ｐ－２（径34cm×33cm，深さ59cm）・Ｐ－３（径40cm×35cm，深さ61cm）・Ｐ－４（径36cm×37cm，深さ54cm）の４本が対角線上に配され，炉と正対して位置するＰ－５は（径19cm×17cm，深さ9.2cm）を測る。カマドは検出されず，炉が西壁側に検出された。遺存状態は良好で，火床部東側がよく焼けている。各主柱穴の外側から周溝に向かって３条の間仕切り溝が東西に走る。南壁側に貯蔵穴が検出され，径102cm×62cm，深さ22cmを測り，楕円形を呈する。廃屋後に廃材の焼却処理を行っており，炭や焼土が散乱している。

本住居跡から出土した遺物のうち，坏５点，鉢１点，甕２点，土製品２点，石製品１点，計11点を図示した。

１～５は土師器坏である。１はほぼ完形。外面ヘラケズリ後口縁部ヨコナデ，内面ナデ。内外面赤彩。法量は口径15.6cm，器高6.0cmを測る。底部は丸底。２は口縁部～底部が２／３遺存する。外面ヘラケズリ後口縁部外面ヨコナデ。内面ナデ。内外面赤彩。法量は口径15.1cm，器高6.1cmを測る。底部は丸底。３は口縁部～底部が４／５遺存する。外面ヘラケズリ，内面ナデ，内外面赤彩。法量は口径16.6cm，器高6.8cmを測る。底部は丸底。４はほぼ完形である。外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩。法量は，口径14.8cm，器高5.3cm，底径6.6cmを測る。５は口縁部～底部が１／３遺存する。外面ヘラケズリ後ヘラミガキ，内面ヘラミガキ，口縁部内外面ヨコナデ，内外面赤彩。法量は口径14.6cm，器高6.7cmを測る。底部は丸底。

６は土師器鉢で，口縁部～胴部３／４遺存する。外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径15.6cm，残存器高12.5cmを測る。

７は土師器坩で口縁部～胴部１／８が遺存する。外面ヘラケズリ，外面赤彩，内面口縁部のみ赤彩。法量は復元口径12.2cm，残存器高5.5cmを測る。８は土師器甕で口縁部～胴部１／２が遺存する。外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径17.6cm，残存高11.8cmを測る。

９は軽石で，長さ6.9cm，幅3.2cm，厚さ2.5cm，重量6.82g である。10は土製品で有孔土製品である。径20.0cm，厚さ0.9cm，両孔径約0.1cm，重量3.08g。11は有孔石製品で，長さ4.2cm，幅1.9cm，厚さ0.45cm，重量7.48g である。

Ｈ－002（第42図）

調査区東部に位置する。Ｈ－003と重複する。規模は5.07m×5.10m を測り，形状は方形を呈する。

覆土は人為的に埋め戻され，４層に分層される。

床面は全体に強く貼っている。壁高は約52cmを測る（西壁）。周溝は，南東の一部を除いて全周しており，幅28cm，深さ4.5cmを測る。

ピットは床面に５本検出された。主柱穴はＰ－１（径32cm×37cm，深さ57cm）・Ｐ－２（径33cm×34cm，深さ58cm）・Ｐ－３（径32cm×32cm，深さ18cm）・Ｐ－４（径32cm×35cm，深さ42cm）の４本が対角線上に配され，カマドと正対して位置するＰ－５は（径25cm×22cm，深さ63cm）を測る。カマドは北壁中央部に位置し，両袖部は残存し，山砂を主とする構築土を用いる。床面中央部に焼土の痕が残る。

本住居跡から出土した遺物のうち，坏３点，蓋２点，高坏３点，甕２点，玉１点，石製品１点，計12点を図示した。

１～３は土師器坏である。１は口縁部１／４～底部遺存する。外面ヘラケズリ後口縁部ヨコナデ，内面ナデ。法量は復元口径で12.4cm，器高3.8cmを測る。底部は丸底。２は口縁部１／４～体部遺存する。外面ヘラケズリ後口縁部ヨコナデ，内面ナデ。法量は復元口径14.0cm，残存器高2.5cmを測る。３は口縁部～底部１／３遺存する。外面ヘラケズリ後口縁部ヨコナデ，内面ナデ，内外面赤彩。法量は復元口径21.8cm，器高7.1cmを測る。

４・５は須恵器蓋である。４はほぼ完形である。外面ロクロ成形，天井部回転ヘラケズリ。法量は口径7.9cm，器高2.5cmを測る。５は口縁部～天井部３／４遺存する。外面ロクロ成形，天井部回転ヘラケズリ。法量は残存器高3.3cmを測る。

６～８は土師器高坏である。６は口縁部～体部１／４遺存する。口縁部ヨコナデ，坏部ヘラケズリ，内面ヘラミガキ。外面赤彩，内面黒色処理。法量は復元口径で18.0cm，残存器高4.9cmを測る。７は脚部のみである。外面ヘラケズリ，裾部横方向のヘラナデ，内面ヘラケズリ後ヘラナデ。法量は残存器高7.5cm，復元底径で12.6cmを測る。８は脚部１／４遺存する。外面横方向と縦方向にヘラケズリ，内面ヘラケズリ。法量は残存器高5.8cm。復元底径で12.0cmを測る。

９・10は土師器甕である。９は口縁部～胴部１／８遺存する。法量は復元口径16.0cm，残存器高13.0cm，胴上部横方向・中央縦方向のヘラケズリ，口縁部ヨコナデ。10は口縁部～胴部１／４遺存する。内外面ヘラケズリ後ヘラナデ，器面剥落が激しいため，胴部の調整は不明。法量は口径21.9cm，残存器高21.5cmを測る。

11は砥石である。長さ6.3cm，幅2.2cm，厚さ1.9cm，重量51.69gである。12は土玉である。径1.90cm，厚さ1.60cm，孔径0.5cm，重量6.40gである。

Ｈ－003（第43・44図）

調査区東部に位置する。Ｈ－002に切られる。規模は5.57m×5.70mを測り，形状は方形を呈する。

廃屋後焼却処分し，埋め戻され，３層に分層される。

床面は全体に硬化面がみられる。焼却の際の焼土が東側にみられる。壁高は約40cmを測る。周溝は，Ｈ－002によって切られた部分を除き，ほぼ全周し，幅27cm，深さ6.2cmを測る。

ピットは床面に４本検出された。主柱穴はＰ－１（径28cm×28cm，深さ74cm）・Ｐ－２（径28cm×23cm，深さ34cm）・Ｐ－３（径30cm×27cm，深さ66cm）・Ｐ－４（径21cm×28cm，深さ49cm）の４本が対角線上に配される。炉は北壁中央付近に位置し，火床部はよく焼けている。炉と正対して位置する貯蔵穴は，隅丸長方形と思われるが規模は不明。

本住居跡から出土した遺物のうち，坏６点，蓋１点，高坏１点，坩２点，甕５点，土製品１点，石製品２点，鉄製品２点，手捏１点，計21点を図示した。

１～６は土師器坏である。１はほぼ完形。口縁部ヨコナデ，外面体部ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩，

外面一部すす附着。法量は口径13.2cm，器高6.4cm，底部は丸底である。２は口縁部～底部３／４遺存する。外面ヘラケズリ後口縁部ヨコナデ，内面ナデ。内外面赤彩。法量は口径12.6cm，器高5.3cm，底径3.6cmを測る。３は口縁部～底部３／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面体部ヘラケズリ，内面ナデ。法量口径16.0cm，器高5.7cm，底径5.80cmを測る。４は口縁部～底部１／４遺存する。外面ヘラケズリ後口縁部ヨコナデ，内面ナデ，内外面赤彩。法量は復元口径で14.0cm，器高5.4cm，底部は丸底である。５は口縁部～底部３／４遺存する。外面ヘラケズリ後口縁部ヨコナデ，内面ナデ，内外面赤彩，底部に線刻あり。法量は復元口径16.6cm，器高4.9cm，底部は丸底である。６は口縁部～体部２／５遺存する。外面ヘラケズリ後口縁部ヨコナデ，内面ナデ，内外面赤彩。法量は復元口径で13.4cm，残存器高4.8cm，底部は丸底である。

７は須恵器蓋である。天井部～口縁部１／４遺存する。外面ロクロ成形。法量は復元口径で12.0cm，残存器高4.4cmを測る。

８は土師器高坏の脚部である。脚部１／４遺存する。外面ヘラケズリ。底部に孔が穿たれている。外面脚部赤彩。法量は残存器高3.5cm，復元底径で7.0cmを測る。

９・10は土師器坩である。９はほぼ完形。口縁から胴部上端ヘラナデ，外面胴部下端ヘラケズリ，口縁部ヨコナデ。内面指頭痕有り。外面と内面口縁部に赤彩。法量は口径10.0cm，器高10.9cm，底径6.3cmを測る。10は完形。口縁部～頸部縦方向のヘラミガキ，胴部横方向のヘラケズリ後ヘラナデ，内面ナデ，内外面赤彩。法量は口径10.0cm，器高16.5cm，底径5.4cmを測る。

11は土師器甕である。ほぼ完形。内外面口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後ヘラナデ，内面ナデ。法量は口径14.4cm，器高20.1cm，底径8.8cmを測る。

12は和泉式土師器甕である。口縁部～胴部１／４遺存する。法量は復元口径17.6cm，残存器高23.80cmを測る。口縁部外面に２段の輪積みがみられる。頸部外面無文。口縁部と胴部の外面に撚糸文が施されている。内面ナデ。

13～15は土師器甕である。13は口縁部～胴部１／２遺存する。外面ヘラケズリ，内面ナデ後口縁部ヘラミガキ。法量は口径17.0cm，残存器高27.5cmを測る。14はほぼ完形。外面ヘラケズリ後ヘラナデ，内面ナデ，口縁部ヨコナデ。法量は口径17.0cm，器高34.0cm，底径8.0cmを測る。15は口縁部４／５，胴部１／３遺存する。外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径14.6cm，残存器高24.4cmを測る。

16は手捏土器である。口縁部～底部１／２遺存する。指頭痕有り。法量は復元口径で9.2cm，器高4.5cm，底径5.0cmを測る。

17は刀子型模造品である。長さ9.70cm，幅2.5cm，厚さ0.45cm，重量は27.41gである。18は軽石である。長さ4.5cm，幅4.8cm，厚さ4.3cm，重量32.06gである。19は土製品の円盤である。１／２遺存する。現存径2.9cm，厚さ0.6cm，重量5.94gである。20・21は鉄器の刀子である。20は刀子の刃から茎の部分である。現存長4.7cm，幅0.7～1.1cm，厚さ0.2～0.25cm，重量2.93gである。21は刀子の茎の部分である。現存長5.70cm，幅0.5cm～0.55cm，厚さ0.2～0.3cm，重量2.91gである。

H－004（第45・46図）

調査区東部に位置する。M－003，M－005に切られる。規模は5.35m×5.36mを測り，形状は方形を呈する。

覆土は12層に分層され，廃屋を焼却処分し，埋め戻している。

床面は中央一帯に硬化範囲が認められる。壁高は約70cmを測る（北壁）。周溝は全周し，幅24cm，深さ5.5cmを測る。

ピットは床面に４本検出された。主柱穴はＰ－１（径31cm×34cm，深さ88cm）・Ｐ－２（径31cm×39cm，深さ86cm）・Ｐ－３（径45cm×43cm，深さ78cm）・Ｐ－４（径32cm×28cm，深さ86cm）の４本が対角線上に配される。炉は４基検出された。西側の壁付近の火床部はよく焼けていて使用痕もあるが，東側の壁付近及び床面中央部やや西よりの火床部の使用痕と比べると使用期間は短い。北西の壁付近の火床部は非常によく焼けていて，使用痕も著しい。主柱穴Ｐ－１～Ｐ－３の外側から周溝に向かって４条の間仕切り溝が北東と北西に走る。貯蔵穴は隅丸長方形を呈し，径68cm×98cm，深さ23cmを測る。

本住居跡から出土した遺物のうち，坏４点，坩１点，甕３点，小甕１点，石製品１点，計10点を図示した。

１～４は土師器坏である。１はほぼ完形。外面ヘラケズリ後ヘラナデ，内面ナデ，内外面赤彩。法量は口径15.8cm，器高5.9cmを測る。底部は丸底である。２は口縁部～底部２／３遺存する。外面ヘラケズリ，内面ナデ，内外面赤彩。法量は復元口径で14.2cm，器高7.6cm，底部は丸底である。３はほぼ完形。外面横方向のヘラケズリ，内面ナデ，口縁部ヨコナデ，内外面赤彩，底部内面に赤彩による「×」が施されている。法量は口径15.2cm，器高6.7cm，底部は丸底である。４は口縁部～体部１／４遺存する。内外面ヘラナデ，内外面赤彩。法量は復元口径で16.6cm，残存器高6.0cmを測る。

５は土師器坩である。口縁部１／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後ヘラナデ，内面ナデ，内外面赤彩。法量は復元口径で8.6cm，残存器高5.7cmを測る。

６～８は土師器甕である。６は口縁部のみ１／３遺存する。口縁部外面ヘラケズリ後ヘラナデ。内面口縁部ヘラナデ。法量は復元口径で15.0cm，残存器高4.9cmを測る。７は口縁部～底部３／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ヘラケズリがみられる。内面輪積痕あり。一部スス附着。法量は口径14.0cm，器高15.8cm，底径6.0cmを測る。８は口縁部～胴部４／５遺存する。外面ヘラケズリ，内面ヘラケズリがみられる。口縁部ヨコナデ。法量は口径15.0cm，残存器高27.5cmを測る。

９は土師器小甕である。胴部～底部２／３遺存する。外面ヘラケズリ，内面には輪積痕がみられる。法量は残存器高3.0cm，底径3.0cmを測る。

10は軽石。長さ4.9cm，幅4.5cm，厚さ1.7cm，重さ83.0gを測る。

Ｈ－005（第47・48図）

調査区東北部に位置する。Ｍ－006に切られる。規模は5.25m×5.27mを測り，形状は方形を呈する。

覆土は８層に分層され，埋め戻される際に貝も廃棄された。

床面は中央一帯に硬化面が認められる。壁高は約84cmを測る（西壁）。周溝は，東側の一部を除き，ほぼ全周し，幅21cm，深さ６cmを測る。

ピットは床面に５本検出された。主柱穴はＰ－１（径57cm×64cm，深さ55cm）・Ｐ－２（径71cm×54cm，深さ61cm）・Ｐ－３（径62cm×87cm，深さ36cm）・Ｐ－４（径71cm×72cm，深さ38cm）の４本が対角線上に配され，カマドと正対して位置するＰ－５は（径38cm×44cm，深さ36cm）を測る。カマドは北壁東よりに位置し，遺存状態は良好で，火床部はよく焼けている。

本住居跡から出土した遺物のうち，坏12点，高坏３点，坩１点，甕５点，甑１点，壺１点，石製品２点，鉄製品１点，計26点を図示した。

１～10は土師器坏である。１はほぼ完形。外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径11.0cm，器高4.3cm，底部は丸底である。２は口縁部～底部３／４遺存する。外面ヘラケズリ後口縁部ヨコナデ，内面ナデ，内外面赤彩。法量は口径14.6cm，器高4.5cm，底部は丸底である。３は口縁部～底部１／２遺存する。外面体部ヘラケズリ，外面口縁部ヨコナデ，内面ヨコナデ，外面口縁部と内面に赤彩。法量は復元口径で15.0cm，器高

3.0cmを測る。４は口縁部～底部１／２遺存する。口縁部ヨコナデ，外面体部ヘラケズリ後ヘラナデ，内面ナデ，口縁部から体部内外面赤彩。底部に「×」の線刻が施されている。法量は復元口径で16.8cm，器高6.0cm，底部は丸底である。５は口縁部～底部２／３遺存する。体部外面ヘラケズリ，口縁部外面ヨコナデ，内面ナデ，内外面赤彩。法量は復元口径で13.8cm，器高3.9cm，底部は丸底である。６は口縁部～底部１／３遺存する。外面ヘラケズリ後口縁部ヨコナデ，内面ナデ，法量は口径11.8cm，残存器高4.7cmを測る。７は口縁部～底部１／２遺存する。外面ヘラケズリ後口縁部ヨコナデ，内面ミガキ。法量は口径11.6cm，器高3.1cm，底部は丸底である。８は口縁部～底部１／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は復元口径で10.0cm，残存器高4.4cmを測る。９は口縁部～底部１／２遺存する。外面ヘラケズリ後口縁部ヨコナデ，内面ヘラミガキ。内外面黒色処理。法量は口径11.8cm，器高3.3cmを測る。底部は丸底である。10は口縁部～底部１／４遺存する。外面ヘラケズリ後ヘラミガキ，口縁部外面ヨコナデ後ヘラミガキ，内面ヘラミガキ，内外面黒色処理。法量は復元口径で13.4cm，残存器高4.0cmを測る。底部は丸底である。

11～13は土師器高坏である。11は脚部のみ３／４遺存する。外面ヘラケズリ，内面輪積痕がみられる。内面一部赤彩か。法量は残存器高9.60cm，推定底径13.0cmを測る。12は脚部のみ１／２遺存する。内外ヘラケズリ。法量は残存器高6.0cm，底径9.8cmを測る。13は脚部のみ１／２遺存する。内外面ヘラケズリ，法量は残存器高5.2cmを測る。

14は土師器坩である。頸部～底部１／２遺存する。外面ヘラケズリ後ヘラナデ，内面ナデ，外面赤彩，内面頸部赤彩。法量は残存器高10.8cm，底部6.0cmを測る。

15～19は土師器甕である。15は口縁部～底部１／２遺存する。外面口縁部ヨコナデ，頸部・胴部ヘラケズリ後ヘラミガキ，内面ナデ，内面輪積痕あり。法量は口径12.6cm，器高14.8cm，底径6.2cmを測る。16は口縁部～胴部３／４遺存する。外面頸部・胴部ヘラケズリ，内面ナデ，内外面口縁部ヨコナデ。法量は口径14.6cm，残存器高13.5cmを測る。17は口縁部～胴部１／４遺存する。内外面口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後ヘラミガキ。内面ヘラミガキ。法量は復元口径で15.0cm，残存器高15.8cmを測る。18は口縁部～胴部１／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面胴部ヘラケズリ。法量は復元口径で17.0cm，残存器高8.5cmを測る。19は口縁部～胴部１／３遺存する。外面ヘラケズリ，内面ナデ，口縁部ヨコナデ。法量は口径16.8cm，残存器高8.3cmを測る。

20は土師器甑である。口縁部～胴部１／３遺存する。外面ヘラケズリ後口縁部ヨコナデ，内面ナデ。法量は復元口径で29.7cm，残存器高16.2cmを測る。

21は須恵器壺である。胴部片１／４遺存する。法量は計測不能である。胴部にハケ状の工具での調整か。

22・23は須恵器坏である。ともに口径，器高測定不能である。同一個体の可能性がある。

24・25は砥石である。24は長さ5.9cm，幅3.5cm，厚さ1.7cm，重量42.5gである。25は長さ10.3cm，幅5.2cm，厚さ3.5cm，重量205.7gである。

26は火打ち金である。長さ4.0cm，幅3.1cm，厚さ0.4cm，重量7.71gである。

H－006（第49・50図）

調査区東北部に位置する。規模は5.04m×4.79mを測り，形状は方形を呈する。

覆土は３層に分層される。廃屋後，焼却し埋め戻した。

床面は中央一帯に硬化面が認められる。周溝は切れている南壁と東壁を除いて巡らされている。幅31cm，深さ3.1cmを測る。

ピットは床面に４本検出された。主柱穴はP－１（径33cm×37cm，深さ70cm）・P－２（径34cm×40cm，深

さ64cm）・Ｐ－３（径31cm×29cm，深さ50cm）・Ｐ－４（径32cm×27cm，深さ70cm）の４本が対角線上に配される。炉は北壁側やや中央部に位置し，火床部はよく焼けている。炉に正対して位置する貯蔵穴は径141cm×64cm，深さ18cmを測り，隅丸長方形を呈する。

本住居跡から出土した遺物のうち，坏８点，蓋１点，坩１点，甕７点，小甕１点，計18点を図示した。

１～７は土師器坏である。１は口縁部～底部が一部欠損の４／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ，内外面赤彩。法量は口径15.4cm，器高4.9cm，底部は丸底である。２は口縁部～底部３／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ一部ヘラミガキ，内面ヘラミガキ。内外面赤彩。法量は口径13.2cm，器高5.0cm，底径7.0cmを測る。３は口縁部～底部２／３遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ，内外面赤彩，内面は赤彩で「一」が施されている。法量は口径14.8cm，器高5.5cm，底部は丸底である。４は口縁部～底部１／２遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ，内外面赤彩。法量は復元口径13.0cm，器高6.3cm，底部5.7cmを測る。５は口縁部～体部３／８遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ，内外面赤彩。法量は復元口径15.6cm，残存器高6.1cmを測る。６は口縁部～体部３／８遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内外面赤彩。法量は復元口径16.6cm，残存器高6.1cmを測る。７は体部～底部３／４遺存する。外面ヘラケズリ，内面ナデ，内外面赤彩。法量は残存器高6.5cm，底部丸底である。

８は土師器椀型坏である。口縁部～体部１／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後ヘラナデ，内面ナデ。内外面赤彩。法量は復元口径13.0cm，残存器高7.0cmを測る。

９は須恵器蓋片である。ロクロ成形，法量は復元口径12.4cm，残存器高4.0cmを測る。

10は土師器坩である。胴部～底部２／３遺存する。外面底部ヘラケズリ。内外面に指頭痕あり。内面胴部下端赤彩，輪積痕がみられる。法量は残存器高5.7cm，底径6.0cmを測る。

11は土師器小甕である。口縁部～胴部１／２遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ，内面に輪積痕がみられる。法量は口径11.0cm，残存器高9.0cmを測る。

12～18は土師器甕である。12は口縁部～胴部１／２遺存する。器面剥落のため調整不明。法量は復元口径10.8cm，残存器高10.7cmを測る。13は口縁部～胴部４／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面頸部ハケ後ヘラナデ，胴部ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径13.3cm，残存器高11.7cmを測る。14は口縁部～底部１／２遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ，輪積痕がみられる。法量は口径16.6cm，器高11.2cmを測る。15は口縁部～胴部１／２遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ，内面に輪積痕がみられる。法量は口径14.0cm，残存器高14.9cmを測る。16は頸部～底部３／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は残存器高19.0cm，底径7.0cmを測る。17は口縁部～胴部１／２遺存する。口縁部ヨコナデ後外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径16.4cm，残存器高22.7cmを測る。18は口縁部～胴部１／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は復元口径27.0cm，残存器高10.4cmを測る。

Ｈ－007（第51・52・53図）

調査区東部に位置する。規模は6.37m×6.25mを測り，形状は方形を呈する。

覆土は廃屋後焼却処分し，埋め戻された。炭化材を含む焼土が住居跡内に点在する。

床にはカマド前面から中央一帯に硬化面が認められる。壁高は約65cmを測る（北壁）。周溝は，幅30cm，深さ6.5cmを測り，全周する。

ピットは床面に５本検出された。主柱穴はＰ－１（径50cm×48cm，深さ71cm）・Ｐ－２（径41cm×45cm，深

さ61cm）・Ｐ－３（径39cm×44cm，深さ77cm）・Ｐ－４（径46cm×48cm，深さ76cm）の４本が対角線上に配され，カマドと正対して位置するＰ－５は（径43cm×36cm，深さ50cm）を測る。カマドは北壁中央部に位置し火床部はよく焼けている。各主柱穴から周溝に向かって４条の間仕切り溝が東西に走る。

炉の北側に位置する貯蔵穴は径71cm×60cm，深さ34cmを測り，楕円形を呈する。

本住居跡から出土した遺物のうち，坏15点，蓋２点，高坏５点，坩１点，甕５点，小甕１点，手捏１点，支脚１点，石製品１点，玉１点，計33点を図示した。

１～12は土師器坏である。１は口縁部～底部３／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面口縁部赤彩。法量は口径12.0cm，器高4.4cm，底部は丸底である。２は口縁部～底部３／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面体部上端赤彩。法量は口径は13.4cm，器高4.4cm，底部は丸底である。３は完形。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。外面口縁部および内面赤彩。法量は口径12.8cm，器高4.4cm，底面は丸底である。４は口縁部～体部４／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩。法量は口径12.3cm，残存器高4.6cmを測る。５は口縁部～底部３／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後丁寧なヘラミガキ，内面ナデ後ヘラミガキ。内外面黒色処理。法量は口径14.0cm，器高5.2cm，底部は丸底である。６は口縁部～体部１／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ，内外面赤彩。法量は復元口径12.8cm，残存器高4.2cm，底部は丸底である。７は口縁部～底部３／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。外面口縁部・内面赤彩。法量は口径14.4cm，器高4.6cm，底部は丸底である。８は口縁部～底部３／８遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩。法量は復元口径14.0cm，器高3.5cm，底径14.0cmを測る。９は口縁部～底部２／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。外面・内面体部上端赤彩。法量は復元口径13.8cm，残存器高4.2cm，底部は丸底である。10は口縁部～底部４／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ。内外面体部上端赤彩。法量は復元口径15.4cm，器高は4.4cm，底部は丸底である。

11はほぼ完形。口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ，外面ヘラケズリ，内面ナデ後ヘラミガキ。法量は口径12.2cm，器高4.2cm，底部は丸底である。12は口縁部～底部１／２遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ後ヘラミガキ。内面黒色処理。法量は復元口径12.8cm，残存器高4.3cm，底部は丸底である。

13・14は須恵器蓋である。13は天井部～口縁部１／４遺存する。ロクロ成形。法量は復元口径11.6cm，残存器高4.1cmを測る。14は天井部～口縁部１／８遺存する。ロクロ成形。法量は復元口径13.0cm，残存器高4.0cmを測る。

15～17は土師器坏である。15は口縁部～体部１／２遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後ヘラミガキ，内面ナデ。法量は口径14.0cm，残存器高4.5cm，底部は丸底である。16はほぼ完形である。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面体部上端赤彩。法量は口径10.4cm，器高は7.5cm，底部は丸底である。17は口縁部～底部４／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。外面体部上端・内面赤彩。法量は口径11.8cm，器高は8.1cm，底部は丸底である。

18～20は土師器高坏である。18は口縁部～脚部３／４遺存する。口縁部ヨコナデ，坏部・脚部ヘラケズリ，脚部ヘラミガキ。外面・内面坏部赤彩。法量は復元口径15.4cm，器高14.7cm，底径10.7cmを測る。19は完形。坏部・脚部ヘラケズリ。外面・内面坏部赤彩。法量は口径16.9cm，器高9.9cm，底径12.5cmを測る。20は坏部４／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩。法量は口径17.0cm，残存器高5.4cmを測る。

21・22は土師器高坏の脚部のみである。21は外面ヘラケズリ。外面赤彩。法量は残存器高6.1cmを測る。22は外面ヘラケズリ後ヘラミガキ，内面ナデ。内外面赤彩。法量は残存器高7.4cmを測る。

23は土師器坩である。口縁部～底部３／４遺存する。口縁部ヨコナデ，指頭痕あり。外面ヘラケズリ後ヘラナデ，内面ナデ。法量は口径15.0cm，残存器高16.1cmを測る。

24はほぼ完形の土師器小甕である。口縁部ヨコナデ，胴部ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径14.8cm，器高15.9cm，底径8.0cmを測る。

25～29は土師器甕である。25は口縁部～底部４／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径16.4cm，器高30.6cm，底径9.0cmを測る。26は口縁部～胴部１／３遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ，内面に輪積痕がみられる。法量は口径14.4cm，残存器高は10.7cmを測る。27は口縁部～胴部１／３遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径14.6cm，残存器高22.2cmを測る。28は口縁部～胴部４／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径16.7cm，残存器高23.6cmを測る。29は胴部～底部１／６遺存する。外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は残存器高11.7cm，復元底径9.6cmを測る。

30は手捏土器。口縁部～底部１／２遺存する。指頭痕あり。法量は器高2.7cmを測る。

31は支脚である。現存長9.1cm，幅5.8cm，重量165.1gである。

32は石製品で，敲石と思われる。現存長11.5cm，幅9.8cm，厚さ4.4cm，重量802.7gである。

33は土製品の勾玉である。長さ3.3cm，幅1.0cm，厚さ1.0cm，孔径0.2cm，重量4.88gである。

H－008（第54図）

調査区東部に位置する。M－007に切られる。ほとんどが立ち消えてるため全体の規模は不明。形状は方形であろうと思われる。

壁高は約50cmを測る（西壁）。周溝は東部から西部のみ残存し，幅16cm，深さ3.5cmを測る。

ピットは床面に６本検出された。主柱穴はP－１（径36cm×29cm，深さ78cm）・P－２（径34cm×44cm，深さ56cm）・P－３（径40cm×40cm，深さ54cm）・P－４（径36cm×38cm，深さ64cm）の４本が対角線上に配され，炉と正対して位置するP－５は（径18cm×23cm，深さ14cm）を測り，P－３西側に位置するP－６は補助柱と思われ（径43cm×41cm，深さ48cm）を測る。カマドは検出されず，炉が東西壁中央付近に検出された。火床部はよく焼けている。

本住居跡から出土した遺物のうち坏２点，鉄製品１点，計３点を図示した。

１，２は土師器坏である。１は口縁部～底部３／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩。法量は口径12.6cm，器高は3.9cm，底部は丸底である。２は完形である。外面ヘラケズリ，内面ナデ。外面体部下端を除いて内外面赤彩。法量は口径13.6cm，器高は8.0cm，底径4.6cmを測る。

３は鉄器である。飾り金具か。長さ2.1cm，幅1.9cm，厚さ0.2cm，重量2.3gである。

H－009（第55・56図）

調査区東部に位置する。H－010と重複する。規模は6.54m×6.33mを測り，形状は方形をであろう。

覆土は廃屋後焼却処分し埋め戻される。

床は中央部を中心に硬化範囲が認められる。壁高は約90cmを測る（北壁）。周溝は，南東と南西のH－010に切られる部分を，ほぼ全周し，幅28cm，深さ5.4cmを測る。

ピットは床面に５本検出された。主柱穴はP－１（径36cm×40cm，深さ48cm）・P－２（径46cm×50cm，深さ47cm）・P－３（径45cm×41cm，深さ49cm）・P－４（径42cm×47cm，深さ54cm）の４本が対角線上に配され，カマドと正対して位置するP－５は（径35cm×30cm，深さ23cm）を測り，カマドは北壁中央に検出され，

火床部はよく焼けている。カマドの東側に貯蔵穴が検出され，径106cm×85cm，深さ29cmを測り，楕円形を呈する。

本住居跡から出土した遺物のうち坏６点，蓋１点，高坏１点，甑１点，鉄製品１点，計10点を図示した。

１～６は土師器坏である。１はほぼ完形。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後丁寧なヘラミガキ，内面ナデ後ヘラミガキ。外面体部赤彩。法量は口径12.0cm，器高6.5cm，底部は丸底である。２は口縁部～体部２／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は復元口径12.4cm，残存器高4.2cm，底部は丸底である。３は口縁片１／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。外面赤彩。法量は復元口径15.0cm，残存器高3.1cmを測る。４は口縁片１／５遺存する。口縁部ヨコナデ，口縁片のため外面調整判別できず。内面ナデ。内外面赤彩。法量は復元口径13.0cm，器高3.0cmを測る。５は口縁部～体部１／８遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。外面赤彩。法量は復元口径13.0cm，残存器高4.5cmを測る。６は体部～底部１／４遺存する。外面ヘラケズリ後ヘラナデ，内面ナデ。内外面赤彩。底部線刻。法量は残存器高3.7cm，底部は丸底である。

７は須恵器蓋である。天井部～口縁部１／４遺存する。ロクロ成形。法量は復元口径11.4cm，残存器高4.1cmを測る。

８は土師器高坏の脚部である。外面ヘラケズリ，内面ナデ。外面赤彩。法量は残存器高5.4cm，底径12.6cmを測る。

９は土師器甑である。４／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後ヘラナデ，内面胴部ハケメ。法量は口径26.5cm，器高27.5cm，底径9.7cmを測る。

10は鉄器で鉄族茎部である。長さ2.6cm，幅0.4cm，厚さ0.4cm，重量1.24gである。

Ｈ－010（第57図）

調査区東部に位置する。Ｈ－009に切られる。規模は5.45m×5.03mを測り，形状は方形を呈する。

廃屋後焼却処理をし人為的に埋め戻している。

床は炉を囲むようにやや全体に硬化面が広がっている。壁高は約46cmを測る（西壁）。周溝は，南東側を除いてほぼ全周し，幅20cm，深さ2.0cmを測る。

ピットは床面に４本検出された。主柱穴はＰ－１（径32cm×35cm，深さ16cm）・Ｐ－２（径32cm×30cm，深さ26cm）・Ｐ－３（径28cm×29cm，深さ41cm）・Ｐ－４（径30cm×27cm，深さ47cm）の４本が対角線上に配される。炉が北壁寄りに検出された。火床部はよく焼けている。主柱穴Ｐ－３とＰ－４の外側から周溝に向かって３条の間仕切り溝が西に走る。

本住居跡から出土した遺物のうち坏２点，甕２点，鉄製品１点，石製品１点，計６点を図示した。

１・２は土師器坏である。１はほぼ完形である。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩。法量は口径15.8cm，器高4.9cm，底部は丸底である。２は口縁部～体部２／５遺存する。外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩。法量は口径16.3cm，残存器高5.7cm，底部は丸底である。

３は土師器甕である。底部１／４遺存する。外面ヘラケズリ，内面は器面が荒れているので判別不能。底部木葉痕あり。法量は残存器高2.6cm，復元底径で8.0cmを測る。４は底部１／４遺存する。外面ヘラケズリ，内面ナデ。底部木葉痕あり。法量は残存器高1.5cm，復元底径で9.4cmを測る。

５は軽石である。長さ15.6cm，幅8.8cm，厚さ5.3cm，重量283.2gである。

６は鉄器で釘か。現存長5.6cm，幅0.9cm，厚さ0.8cm，重量6.5gである。

Ｈ－011（第58・59図）

調査区北東部に位置する。撹乱が激しい。規模は7.39m×7.07mを測り，形状は方形を呈する。

覆土は人為的に埋め戻されている。

撹乱されてるも，床面の遺りは良好である。壁高は約40cmを測る。周溝は，切れている東の部分を除いてほぼ全周する。幅26cm，深さ8.5cmを測る。

ピットは床面に５本検出された。主柱穴はＰ－１（径25cm×33cm，深さ65cm）・Ｐ－２（径40cm×33cm，深さ63cm）・Ｐ－３（径27cm×32cm，深さ68cm）・Ｐ－４（径35cm×30cm，深さ74cm）の４本が対角線上に配され，南壁よりに位置するＰ－５は（径24cm×29cm，深さ29cm）を測り，カマドは北壁西よりに検出された。火床部はよく焼けている。

本住居跡から出土した遺物のうち坏11点，甕４点，甑１点，計16点を図示した。

１～11は土師器坏である。１は口縁部～底部３／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面底部を除いて赤彩。法量は口径15.6cm，器高5.4cm，底径4.0cmを測る。２は口縁部～底部３／４遺存する。外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面底部を除いて赤彩。法量は口径12.4cm，器高4.7cm，底部は丸底である。３は口縁部～体部２／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ，内外面赤彩。底部は砥石に転用していた形跡あり。法量は口径17.8cm，残存器高5.1cm，底部は丸底である。４は口縁部～底部３／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩。法量は口径14.8cm，器高6.4cm，底部は丸底である。５は口縁部～底部１／12遺存する。外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩。法量は復元口径13.4cm，器高5.4cm，底部は丸底である。６は口縁部～底部１／８遺存する。外面ヘラケズリ。内外面赤彩。法量は復元口径14.8cm，残存器高4.0cmを測る。７は口縁部～底部２／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ，内外面口縁から体部上端に赤彩。底部は砥石に転用されていた形跡あり。法量は復元口径13.8cm，器高5.6cm，底部は丸底である。８は口縁部～体部１／６遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩。法量は復元口径16.8cm，残存器高4.3cmを測る。９は口縁部～体部１／８遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩。法量は復元口径18.0cm，残存器高4.0cmを測る。10は体部２／５遺存する。外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は残存器高4.5cmを測る。11は体部～底部１／４遺存する。外面ヘラケズリ，内面ナデ後ヘラミガキ。内外面赤彩，内面線刻。

12～15は土師器甕である。12は口縁部～胴部１／２遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ハケメ。内外面口縁部から頸部に赤彩。法量は復元口径15.2cm，残存器高8.8cmを測る。13は口縁部～胴部１／３遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ，輪積痕あり。法量は復元口径17.0cm，残存器高8.0cmを測る。14は頸部～胴部１／２遺存する。外面器面剥離のため判別不能，内面口縁部ヨコナデ後胴部ヘラナデ。法量は残存器高9.5cmを測る。15は胴部～底部１／５遺存する。外面ヘラケズリ，内面摩耗のため判別不能。法量は残存器高8.8cm，復元底径8.0cmを測る。

16は土師器甑で胴部～底部１／４遺存する。外面ヘラケズリ，内面ヘラミガキ。法量は器高4.3cm，底径7.6cmを測る。

軽石１点は写真のみの掲載である。

Ｈ－013（第59図）

調査区東北部に位置する。Ｈ－012，Ｈ－034，Ｈ－035に切られる。規模は4.70m×不明を測り，形状は方形と思われる。

覆土は撹乱が激しくプランもはっきりしないが，人為的に埋められている。

壁高は約30cmを測る（西壁）。周溝は，西側の一部を検出し，幅18cm，深さ4.5cmを測る。

ピットは床面に５本検出された。主柱穴はＰ－１（径30cm×28cm，深さ79cm）・Ｐ－２（径33cm×38cm，深さ63cm）と考えられ，Ｐ－３（径32cm×40cm，深さ22cm）は梯子穴か。Ｐ－４（径35cm×40cm，深さ3.5cm）・Ｐ－５（径38cm×62cm，深さ12cm）は用途不明。

本住居跡から出土した遺物のうち，坏１点，甕２点の計３点を図示した。

１は土師器坏で口縁部～体部１／６遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩。法量は復元口径12.0cm，残存器高3.9cmを測る。

２・３は土師器甕である。２は口縁部～胴部１／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は復元口径15.6cm。残存器高8.0cmを測る。３は口縁部～胴部２／３遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後ヘラミガキ，内面ナデ。法量は復元口径13.8cm，残存器高23.3cmを測る。

Ｈ－014（第60図）

調査区中央部に位置する。Ｍ－045と攪乱により規模は不明である。形状は方形であると思われる。

覆土は２層に分層され，人為的に埋め戻されている。

床面はＭ－045で切られている部分以外，硬化面がみられる。壁高は約30cmを測る（西壁）。周溝は，北壁から南壁にかけて検出され，幅30cm，深さ9.5cmを測る。

ピットは床面に５本検出された。主柱穴はＰ－１（径103cm×110cm，深さ62cm）・Ｐ－２（径100cm×100cm，深さ55cm）・Ｐ－３（径不明×110cm，深さ60cm）・Ｐ－４（径91cm×96cm，深さ58cm）の４本が対角線上に配され，炉と正対して位置するＰ－５は（径30cm×30cm，深さ14cm）を測る。カマドは北壁中央に検出された。火床部はよく焼けている。

本住居跡から出土した遺物は小片のため，図示できなかった。

Ｈ－016（第60・61図）

調査区中央部に位置する。規模は5.20（推定）ｍ×6.50（推定）ｍを測り，形状は方形と思われる。

周溝は，西側部分のみ検出され，幅17cm，深さ3.0cmを測る。

ピットは床面に不整列であるが４本検出された。主柱穴はＰ－１（径57cm×57cm，深さ31cm）・Ｐ－２（径60cm×82cm，深さ15cm）・Ｐ－３（径60cm×64cm，深さ32cm）・Ｐ－４（径52cm×55cm，深さ30cm）を測る。カマド，炉とも検出されず，間仕切り溝が３本検出された。主柱穴以外のピットはこの住居に伴わないと考える。

本住居跡から出土した遺物のうち坏４点，高坏１点，鉄製品３点，計８点を図示した。

１は須恵器高坏である。口縁部～脚部１／２遺存する。坏部ロクロ成形，下端部回転ヘラケズリ，脚部掻目。台形状の空かし三方あり。法量は復元口径9.6cm，残存器高6.7cmを測る。

２は土師器椀型坏である。口縁１／８遺存する。外面口縁ヨコナデ後ヘラミガキ，外面体部ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩。法量は復元口径14.0cm，残存器高4.0cmを測る。

３～５は土師器坏口縁片である。３は口縁片，赤彩。小片により法量計測不能。４は口縁片，赤彩。法量計測不能。５は口縁片。小片により法量計測不能。

６～８は釘である。６は長さ6.7cm，幅0.5cm，厚さ0.5cm，重量6.16gである。７は長さ4.4cm，幅0.4cm，厚さ0.5cm，重量2.9gである。８は長さ2.9cm，幅0.4cm，厚さ0.5cm，重量1.3gである。

Ｈ－018（第61図）

調査区東部に位置する。Ｈ－017に切られる。規模は調査区外により全体を把握できない。形状は方形と思われる。

覆土は４層に分層される。第１層と第２層は自然堆積である。第３層～第６層は人為的な埋め戻しであり，廃屋後，廃材を焼却処分した。

床面は炉を中心に硬化範囲が認められる。壁高は約70cmを測る。周溝は，北壁と西壁側のみ検出され，幅20cm，深さ3.5cmを測る。

ピットは床面に２本検出された。主柱穴はＰ－１（径33cm×32cm，深さ69cm）・Ｐ－２（径33cm×35cm，深さ73cm）を測る。カマドは検出されず，炉が北壁寄りに１基検出された。主柱穴Ｐ－１の付近から周溝に向かって１条の間仕切り溝が東西に走る。

臼玉が22点が焼土より出土した。これは祭司として天井に吊して奉っていたものが廃屋後焼却処分の際，ともに処分されたと考えられる。

本住居跡から出土した遺物のうち蓋１点，甕１点，玉22点，計24点を図示した。

１は須恵器蓋である。天井部～口縁部１／５遺存する。ロクロ成形。法量は復元口径12.0cm，残存器高4.2cmを測る。

２は土師器甕である。口縁部～胴部２／３遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は復元口径15.0cm，残存器高21.8cmを測る。

３～24は石製品臼玉である。３は径0.5cm，厚さ0.3cm，孔径0.15cm，重量0.09gである。４は径0.5cm，厚さ0.25cm，孔径0.2～0.25cm，重量0.05gである。５は径0.5cm，厚さ0.35cm，孔径0.2cm，重量0.12gである。６は径0.5cm，厚さ0.3cm，孔径0.25～0.3cm，重量0.1gである。７は径0.5cm，厚さ0.25cm，孔径0.2cm，重量0.09gである。８は径0.5cm，厚さ0.2cm，孔径0.15cm，重量0.1gである。９は径0.5cm，厚さ0.4cm，孔径0.2cm，重量0.15gである。10は径0.5cm，厚さ0.3cm，孔径0.2cm，重量0.13gである。11は径0.5cm，厚さ0.4cm，孔径0.2cm，重量0.16gである。12は径0.4cm，厚さ0.2～0.4cm，孔径0.2cm，重量0.12gである。13は径0.45cm，厚さ0.1～0.3cm，孔径0.15cm，重量0.07gである。14は径0.45cm，厚さ0.2～0.25cm，孔径0.2cm，重量0.07gである。15は径0.5cm，厚さ0.35～0.45cm，孔径0.2cm，重量0.12gである。16は径0.5cm，厚さ0.4cm，孔径0.2cm，重量0.15gである。17は径0.5cm，厚さ0.4cm，孔径0.2cm，重量0.4gである。18は径0.5cm，厚さ0.3cm，孔径0.2cm，重量0.12gである。19は径0.5cm，厚さ0.4cm，孔径0.2cm，重量0.16gである。20は径0.5cm，厚さ0.3cm，孔径0.2cm，重量0.1gである。21は径0.5cm，厚さ0.3cm，孔径0.2cm，重量0.09gである。22は径0.45cm，厚さ0.4cm，孔径0.2～0.25cm，重量0.14gである。23は径0.5cm，厚さ0.3cm，孔径0.2cm，重量0.1gである。24は径0.5cm，厚さ0.2～0.3cm，孔径0.2cm，重量0.09gである。

Ｈ－019（第62・63図）

調査区東部に位置する。Ｈ－032に切られる。規模は5.18m×5.06mを測り，形状は方形を呈する。

覆土は５層に分層される。人為的に埋め戻されている。

床面は炉を中心に硬化範囲が認められる。壁高は約80cmを測る（西壁）。周溝は全周し，幅21cm，深さ4.1cmを測る。

ピットは床面に５本検出された。主柱穴はＰ－１（径23cm×21cm，深さ62cm）・Ｐ－２（径28cm×28cm，深さ81cm）・Ｐ－３（径33cm×25cm，深さ77cm）・Ｐ－４（径31cm×37cm，深さ64cm）の４本が対角線上に配され，炉と正対して位置するＰ－５は（径30cm×28cm，深さ16cm）を測る。炉は東北壁中央に検出され，甕の

半分が伏せられていた。間仕切り溝は東壁に1本，西壁に2本，南側壁に2本，北壁に1本住居跡の中心に向けて計6本走る。

本住居跡から出土した遺物のうち坏3点，甕6点，石製品2点，計11点を図示した。

1～3は土師器坏である。1は口縁部～体部3／4遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後ヘラミガキ。内面ナデ。外面体部上端・内面赤彩。法量は口径13.8cm，残存器高4.6cmを測る。2は口縁部～体部1／3遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩。法量は復元口径11.4cm，残存器高5.0cmを測る。3は口縁部～底部1／2遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後ヘラナデ，内面ナデ。内外面赤彩。法量は復元口径18.8cm，残存器高3.9cmを測る。

4～9は土師器甕である。4は口縁部～底部3／4遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後ヘラミガキ。法量は口径13.0cm，残存器高15.8cmを測る。5は口縁部～胴部3／4遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。胴部孔有り。法量は復元口径18.0cm，残存器高14.9cmを測る。6は口縁部～胴部4／5遺存する。口縁部，頸部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，ハケ，内面ナデ。法量は復元口径15.0cm，残存器高18.5cmを測る。7は口縁部～胴部1／2遺存する。外面ヘラケズリ，内面に輪積痕がみられる。法量は口径14.0cm，器高17.7cmを測る。8は口縁部～胴部1／3遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ。内面に輪積痕がみられる。法量は復元口径14.4cm，残存器高は21.5cmを測る。9は口縁部～底部3／4遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径15.2cm，器高28.2cm，底径8.0cmを測る。

10は砥石である。長さ12.80cm，幅6.6cm，厚さ2.2cm，重量348.9g。

11は石製の紡錘車である。現存径3.4cm，厚さ2.3cm，重量24.1gである。

H－020（第64図）

調査区東部に位置する。M－009と重複する。調査区外に切られ，全体の規模は不明である。形状は方形と思われる。

覆土は2層に分層される。人為的に埋め戻されている。

床面は炉を囲むように硬化範囲が認められる。壁高は約36cmを測る（東壁）。周溝は，北壁と東壁の一部に検出し，幅27cm，深さ3.0cmを測る。

ピットは床面に2本検出された。主柱穴はP－1（径27cm×22cm，深さ34cm）・P－2（径30cm×25cm，深さ39cm）を測る。西壁付近に検出されたピットはグリットピットである。炉は北壁付近中央に検出された。

本住居跡から出土した遺物のうち坏1点，甕1点，計2点を図示した。

1は土師器坏である。体部～底部1／4遺存する。外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩。法量は残存器高3.4cmを測る。

2は土師器甕，口縁部～胴部1／4遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は復元口径15.0cm，残存器高4.8cmを測る。

H－024（第64図）

調査区中央北部に位置する。D－024に切られる。規模は3.45m×3.25mと推測できる。形状は方形を呈する。

覆土は1層で，人為的に埋め戻されている。

床面はカマドの前面に硬化範囲が認められるが撹乱が激しく全容は不明。壁高は約24cmを測る。周溝は，

西壁部分が良好に遺っており，北壁，南壁の周溝は攪乱により破壊されていた。幅12cm，深さ3.0cmを測る。

ピットは検出されなかった。カマドは西壁中央に検出され，攪乱で両袖が切られているものの残存している。火床部はよく焼けている。

本住居跡の出土遺物は，流れ込みであったため，図示しなかった。

Ｈ－026（第65・66図）

調査区中央部に位置する。Ｈ－027と重複する。規模は6.48m×6.23m を測り，形状は方形を呈する。

覆土は３層に分層できる。廃屋後廃材を焼却処分し，人為的に埋め戻されている。

床面は遺存は良くないが，住居跡全体に硬化範囲が認められる。壁高は約30cmを測る。周溝は，ほぼ全周し，幅15cm，深さ10.5cmを測る。

ピットは床面に４本検出された。主柱穴はＰ－１（径27cm×30cm，深さ60cm）・Ｐ－２（径30cm×33cm，深さ78cm）・Ｐ－３（径47cm×36cm，深さ72cm）・Ｐ－４（径27cm×29cm，深さ82cm）の４本が対角線上に配される。カマドは北壁中央に検出され，攪乱で切られているが両袖は残存している。

本住居跡から出土した遺物のうち坏５点，高坏１点，鉢１点，坩１点，甕６点，手捏１点，計15点を図示した。

１～５は土師器坏である。１はほぼ完形。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩。法量は口径13.2cm，器高5.2cm，底部は丸底である。２はほぼ完形。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩。法量は口径14.8cm，器高5.2cm，底部は丸底である。３は口縁部～底部３／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後ヘラナデ，内面ナデ。底部木葉痕。法量は口径13.0cm，器高6.8cm，底部丸底である。４は口縁部～底部２／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ，内外面赤彩，底部木葉痕。法量は口径11.8cm，器高5.3cm，底径3.8cmを測る。

５は土師器坏である。口縁部～胴部１／３遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後ヘラミガキ，内面ナデ，内外面赤彩。法量は復元口径11.0cm，残存器高9.6cmを測る。

６はほぼ完形の土師器高坏である。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後ヘラナデ，内面ナデ。内外面赤彩。法量は口径21.4cm，器高13.8cm，底径13.2cmを測る。

７は土師器鉢である。口縁部～胴部１／６遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。外面赤彩，内面黒色処理。法量は復元口径18.0cm，残存器高8.2cmを測る。

８は坩である。頸部～胴部１／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩。法量は残存器高9.4cmを測る。

９～13は土師器甕である。９は口縁部～胴部１／２遺存する。外面ヘラケズリ，内面ナデ。内面に輪積痕がみられる。法量は復元口径18.0cm，残存器高19.5cmを測る。10は口縁部～底部１／２遺存する。外面ヘラケズリ後ヘラミガキ，内面黒色処理。法量は口径12.8cm，器高23.8cm，底径6.4cmを測る。11は頸部～底部３／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は残存器高21.5cm，底径8.1cmを測る。12はほぼ完形である。口縁部ヨコナデ，外面ヘラミガキ，内面ナデ。法量は口径14.6cm，器高29.0cm，底径6.9cmを測る。13はほぼ完形。外面ヘラケズリ後ヘラナデ，内面ナデ。内面に輪積痕がみられる。法量は口径14.7cm，器高31.2cm，底径8.0cmを測る。

14はほぼ完形の手捏土器である。指頭痕あり。法量は口径4.8cm，器高3.2cm，底面は丸底である。

15は須恵器甕の口縁片である。

Ｈ－027（第67図）

調査区中央部に位置する。Ｄ－032と重複し，Ｈ－026，Ｄ－031に切られる。規模は4.69m×4.85m を測り，形状は方形を呈する。

覆土は３層に分層され，人為的に埋め戻される。焼土は埋め戻しの際，混入したものであろう。

床面は中央一帯に硬化範囲が認められる。壁高は約30cmを測る。周溝はＤ－031部分を除き，ほぼ全周し，幅20cm，深さ4.5cmを測る。

ピットは床面に２本検出され，Ｐ－１（径21cm×18cm，深さ7.5cm）・Ｐ－２（径36cm×40cm，深さ64cm）を測る。カマドは北壁中央やや東寄りに検出され，撹乱によって両袖が切られている。間仕切り溝が北壁から１本，南壁から２本中央に向かって走っている。

本住居跡から出土した遺物のうち坏４点，鉢１点，甑１点，鉄製品１点，計７点を図示した。

１～４は土師器坏である。１は口縁部～底部４／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後ヘラナデ，内外面赤彩（底部除く）。法量は口径14.0cm，器高6.1cm，底部丸底である。２は口縁部～底部３／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩（底部除く）。法量は口径16.2cm，器高5.3cm，底部丸底である。３は体部～底部３／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後ヘラナデ，内面ナデ，内外面赤彩。法量は残存器高7.2cm，底部は丸底である。４は口縁部～底部１／３遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は復元口径13.6cm，器高7.5cm，復元底径6.6cmを測る。

５は土師器鉢である。口縁部～底部４／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後ヘラナデ，内面ナデ。法量は口径12.8cm，器高11.2cm，底径4.8cmを測る。

６はほぼ完形の土師器甑である。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径24.0cm，器高17.4cm，底径8.5cmを測る。

７は鉄器である。長さ3.4cm，幅0.5cm，厚さ0.5cm，重量1.94g である。

Ｈ－028（第68・69図）

調査区中央部に位置する。南壁でＨ－067と重複する。規模は7.63m×7.52m を測り，形状は方形を呈する。

覆土は７層に分層され，人為的に埋め戻されている。

床面はカマド前面から主柱穴をつなぐように硬化範囲が認められる。壁高は約36cmを測る。周溝は，全周し，幅20cm，深さ８cmを測る。

ピットは床面に５本検出された。主柱穴はＰ－１（径40cm×40cm，深さ38cm）・Ｐ－２（径50cm×65cm，深さ54cm）・Ｐ－３（径41cm×47cm，深さ53cm）・Ｐ－４（径55cm×55cm，深さ66cm）の４本が対角線上に配され，カマドと正対して位置するＰ－５は（径28cm×26cm，深さ31cm）を測る。カマドは北西壁中央に検出された。火床部はよく焼けている。カマド西側に貯蔵穴が検出され，径130cm×180cm，深さ70cmを測り，楕円形を呈する。

本住居跡から出土した遺物のうち坏16点，高坏１点，甕２点，甑１点，計20点を図示した。

１～16は土師器坏である。１は口縁部が一部欠損するがほぼ完形である。外面ヘラケズリ，内面ナデ。内面赤彩。法量は口径12.0cm，器高4.6cm，底部は丸底である。２は口縁部～底部４／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後ヘラナデ，内面ナデ。内外面赤彩（体部下端除く）。法量は口径12.8cm，器高4.7cm，底径6.6cmを測る。３は口縁部～底部４／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後ヘラナデ，内面ナデ。内外面赤彩（体部下端除く）。法量は口径13.4cm，器高5.1cm，底部は丸底である。４はほぼ完形で，外

面口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ，体部～底部ヘラケズリ，内面ナデ。外面体部上端・内面赤彩。法量は口径12.6cm，器高4.7cm，底部は丸底である。５は口縁部～底部１／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後ヘラナデ，内面ナデ。内外面赤彩（体部下端除く）。法量は復元口径14.0cm，器高5.0cmを測る。６は口縁部～底部１／２遺存する。口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ，外面ヘラケズリ後ヘラミガキ，内面ナデ後ヘラミガキ。内外面黒色処理。法量は復元口径12.0cm，器高3.9cm，底部は丸底である。７は口縁部～底部３／４遺存する。口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ，外面ヘラケズリ後ヘラミガキ，内面ナデ後ヘラミガキ，内外面黒色処理。法量は口径13.0cm，器高4.6cm，底部丸底である。８は口縁部～底部１／６遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後ヘラナデ，内面ナデ。内外面赤彩（底部下端除く）。法量は復元口径16.0cm，器高4.0cm，底部は丸底である。９は口縁部～底部１／２遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後ヘラナデ，内面ナデ。内外面赤彩。法量は復元口径13.2cm，残存器高3.0cmを測る。10は口縁部～体部１／２遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後ヘラナデ，内面ナデ。内外面赤彩。法量は復元口径13.0cm，器高3.1cmを測る。11は口縁部～体部１／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後ヘラナデ，内面ナデ。内外面赤彩。法量は復元口径14.0cm，残存器高3.4cmを測る。12は口縁部～底部１／４遺存する。口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ，内外面体部丁寧なヘラミガキ。内外面黒色処理。法量は復元口径16.8cm，残存器高4.7cmを測る。13は口縁部～底部１／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後ヘラナデ，内面ナデ。法量は復元口径12.4cm，残存器高3.7cmを測る。14は口縁部～底部１／８遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後ヘラナデ，内面ナデ後丁寧なヘラミガキ，内外面黒色処理。法量は復元口径12.6cm，残存器高3.6cmを測る。15は口縁部～底部３／４遺存する。口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ，外面ヘラケズリ後丁寧なヘラミガキ，内面ナデ後ヘラミガキ，内外面黒色処理。法量は口径14.0cm，残存器高6.8cm，底部は丸底である。16は口縁部～底部２／３遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後ヘラナデ，内面ナデ。内外面赤彩。法量は残存器高2.9cm，底部は丸底である。

17は土師器高坏である。坏部１／２遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後ヘラナデ，内面ナデ。外面赤彩，内面黒色処理。法量は復元口径12.0cm，残存器高3.4cmを測る。

18・19は土師器甕である。18は口縁部～胴部１／３遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ，輪積痕あり。法量は口径14.6cm，残存器高12.0cmを測る。19は口縁部～胴部３／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径15.2cm，残存器高14.4cmを測る。

20は土師器甑である。ほぼ完形である。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径27.2cm，残存器高23.7cmを測る。

H－029（第70・71図）

調査区中央部に位置する。規模は6.90m×7.05mを測り，形状は凸形を呈する。

覆土は８層に分層され，人為的に埋め戻されている。廃屋後廃材を焼却処分したと思われる。

床面はカマド前面と主柱穴を結ぶように硬化範囲が認められる。壁高は約36cmを測る（北壁）。周溝は，全周し，幅33cm，深さ7.7cmを測る。

ピットは床面に５本検出された。主柱穴はP－１（径68cm×69cm，深さ72cm）・P－２（径57cm×59cm，深さ79cm）・P－３（径50cm×60cm，深さ81cm）・P－４（径53cm×58cm，深さ90cm）の４本が対角線上に配され，カマドと正対して位置するP－５は（径37cm×35cm，深さ36cm）を測る。カマドは北西壁中央より北寄りに検出され，両袖残存で状態は比較的良好，火床部もよく焼けている。各主柱穴に向かって間仕切り溝が１本ずつ，計４本が東西に走る。東南壁中央に貯蔵穴が検出され，径96cm×103cm，深さ68cmを測り，楕円

形を呈する。

本住居跡から出土した遺物のうち坏９点，高坏１点，甕４点，甑１点，手捏土器５点，支脚４点，石製品２点，玉１点，板碑片１点，鉄製品２点，計30点を図示した。

１～９は土師器坏である。１はほぼ完形である。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。外面口縁・内面体部上端赤彩。法量は口径11.2cm，器高5.3cm，底部は丸底である。２は口縁部～底部３／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ，内外面赤彩。法量は口径14.0cm，残存器高4.0cmを測る。３はほぼ完形。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ後ヘラミガキ。法量は口径14.4cm，器高4.2cm，底部は丸底である。４はほぼ完形。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ後ヘラミガキ，内外面赤彩（体部下端除く）。法量は口径15.0cm，器高5.0cm，底部は丸底である。５はほぼ完形である。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後ヘラナデ，内面ナデ。内外面赤彩（底面除く）。法量は口径12.2cm，器高4.7cm，底部は丸底である。６はほぼ完形である。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後ヘラナデ，内面ナデ。法量は口径14.8cm，器高4.9cm，底部は丸底である。７は口縁部～底部３／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。外面体部下端・内面体部上端赤彩。法量は口径14.6cm，器高5.3cm，底部は丸底である。８は口縁部～体部下端２／５遺存する。外面ハケ後ヘラナデ，内面ナデ。内外面赤彩。法量は口径15.4cm，残存器高5.2cm，底部は丸底である。９は椀型坏で口縁部～底部１／２遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ。内外面体部上端赤彩。法量は復元口径12.9cm，残存器高8.2cm，底部は丸底である。

10～13は土師器甕である。10は口縁部～底部１／２遺存する。口縁部ヨコナデ，外面口縁部輪積痕あり，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量復元口径12.8cm，器高15.3cm，底径6.0cmを測る。11は口縁部～胴部３／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ，輪積痕がのこる。法量は口径15.4cm，残存器高13.2cmを測る。12は口縁部～胴部１／２遺存する。外面口縁部荒いヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面口縁部ヨコナデ，内面輪積痕。法量は復元口径17.0cm，残存器高18.2cmを測る。13は口縁部～胴部下端２／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラミガキ，内面ナデ。法量は口径22.5cm，残存器高22.3cmを測る。

14は土師器甑，口縁部～底部１／２遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は復元口径27.2cm，器高24.0cm，復元底径7.1cmを測る。

15～19は土師器手捏である。15は口縁部～底部１／２遺存する。指頭痕あり。法量は復元口径4.0cm，器高4.0cm，底径3.0cmを測る。16はほぼ完形。指頭痕あり。法量は口径7.0cm，器高3.1cmである。17はほぼ完形。指頭痕あり。法量は口径6.4cm，器高3.4cm，復元底径6.0cmを測る。18は口縁部～底部４／５遺存する。外面ヘラケズリ，内面指頭痕あり。法量は口径7.5cm，器高4.2cm，底径6.8cmを測る。19は口縁部～底部１／２遺存する。指頭痕あり。法量は復元口径7.4cm，器高4.4cm，復元底径6.0cmを測る。

20は土師器高坏の脚部のみである。外面ヘラケズリ，内面黒色処理。法量は残存器高2.4cmを測る。

21～24は土製品の支脚である。21は現存長3.6cm，幅4.8cm，重量38.2gである。22は長さ8.8cm，幅4.1cm，厚さ4.0cm，重量206gである。身も固く，つるんとした支脚である。23は現存長10.2cm，幅5.7cm，厚さ6.0cm，重量305.1gである。24は現存長14.7cm，幅8.2cm，厚さ9.2cm，重量1097.9gである。

25は砥石である。長さ2.7cm，幅2.3cm，厚さ1.7cm，重量21.7gである。

26は板碑片である。長さ7.7cm，幅5.8cm，厚さ0.9cm，重量51.9gである。

27は土玉である。径1.3cm，厚さ1.1cm，孔径0.4cm，重量1.4gである。

28は土製品の紡錘車である。径3.6cm，厚さ2.5cm，孔径0.8cm，重量31.3gである。

29は鉄鏃の茎である。現存長5.4cm，幅0.5cm，厚さ0.5cm，重量3.09gである。

30は刀子の茎の部分である。現存長4.7cm，幅0.65cm～1.1cm，厚さ0.3cm，重量5.03gである。

Ｈ－030（第72図）

調査区中央部に位置する。規模は7.70m×7.80m を測り，形状は方形を呈する。

床面は中央一帯に硬化範囲が認められる。壁高は約50cmを測る（西壁）。周溝は全周し，幅27cm，深さ10cmを測る。

ピットは床面に５本検出された。主柱穴はＰ－１（径74cm×70cm，深さ59cm）・Ｐ－２（径72cm×74cm，深さ53cm）・Ｐ－３（径70cm×60cm，深さ57cm）・Ｐ－４（径83cm×89cm，深さ67cm）の４本が対角線上に配され，カマドと正対して位置するＰ－５は（径43cm×39cm，深さ4.0cm）を測る。カマドは北壁中央に検出され，両袖残存で火床部はよく焼けている。各主柱穴から周溝に向かって４条の間仕切り溝が東西に，南壁から２本の間仕切り溝が北南に走る。カマドの東側に検出された貯蔵穴は，径103cm×80cm，深さ33cmを測り，楕円形を呈する。

本住居跡から出土した遺物のうち坏５点，高坏１点，支脚１点，石製品１点，鉄製品６点，計14点を図示した。

１～５は土師器坏である。１は口縁部～底部４／５遺存する。口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ，外面体部ヘラケズリ後ヘラナデ，内面ナデ後ヘラミガキ。内外面黒色処理。法量は口径13.8cm，器高4.0cm，底部は丸底である。２は口縁部～底部１／２遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩。法量は復元口径13.0cm，器高4.0cm，底面は丸底である。３は口縁部～底部２／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後ヘラナデ，内面ナデ。外面口縁部・内面体部上端赤彩。法量は復元口径9.9cm，器高5.8cm，底部は丸底である。４は口縁部～底部２／５遺存する。口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ，外面ヘラケズリ後ヘラナデ，内面ナデ後ヘラミガキ。内外面黒色処理。法量は残存器高3.8cm，底部は丸底である。５は口縁部～底部２／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後ヘラナデ。外面赤彩，内面体部上端赤彩。法量は復元口径14.0cm，残存器高7.3cm，底部は丸底である。６は土師器高坏片である。７は土製支脚である。現存長5.6cm，幅5.0cm，厚さ5.0cm，重量103.3g である。８は砥石である。長さ8.0cm，幅8.0cm，厚さ6.1cm，重量497.5g である。

９～14は鉄器である。９は釘である。現存長3.8cm，幅0.7cm，厚さ0.7cm，重量5.7g である。10は釘である。現存長5.1cm，幅0.6cm，厚さ0.6cm，重量4.39g である。11は釘である。現存長7.5cm，幅0.5cm，厚さ0.5cm，重量5.76g である。12は鉄鏃の茎である。現存長4.1cm，幅0.6cm，厚さ0.6cm，重量3.42g である。13は鎌の先である。現存長4.3cm，幅1.8cm，厚さ0.8cm，重量14.56g である。14は刀子片である。現存長2.5cm，幅1.0cm，厚さ0.6cm，重量3.70g である。

Ｈ－031（第73図）

調査区中央部に位置する。Ｍ－001に切られる。規模は4.18m×3.98m を測り，形状は方形と思われる。

覆土は２層に分層され，人為的に埋め戻されている。

床面に硬化面は認められなかった。壁高は約32cmを測る（西壁）。カマドは北壁中央やや西よりに検出され，袖部はなく，火床部の一部が検出された。

本住居跡から出土した遺物のうち，坏１点と甕１点，計２点を図示した。１は土師器坏である。口縁部～底部１／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は復元口径12.0cm，残存器高5.5cm，底部は丸底である。

２は土師器甕である。口縁部～底部１／３遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ，輪積痕がみられる。法量は口径17.4cm，残存器高23.2cmを測る。

Ｈ－032（第74図）

調査区東部に位置する。Ｈ－019と重複する。規模は3.41m×3.47m を測り，形状は方形を呈する。

覆土は４層に分層され，廃屋後廃材等を焼却処分した後，埋め戻されている。

床面はカマド周辺からＰ－１付近まで硬化範囲が認められる。壁高は約66cmを測る（北壁）。周溝は全周し，幅14cm，深さ4.0cmを測る。

ピットは床面に１本検出された。Ｐ－１（径24cm×21cm，深さ５cm）を測る。カマドは東壁中央に検出され，Ｈ－019の壁を利用して煙道部の立ち上がりを作っている。カマド南寄りの貯蔵穴は，径60cm×60cm，深さ27cmを測り，不整円形を呈する。

本住居跡から出土した遺物のうち，坏１点，甕５点，鉢１点，坩１点，計８点を図示した。

１は土師器坏である。口縁部～底部３／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩。法量は口径14.0cm，器高4.5cm，底部は丸底である。

２は土師器鉢である。口縁部～胴部１／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ，内面に輪積痕がみられる。法量は口径17.0cm，残存器高11.2cmを測る。

３は土師器坩である。口縁部一部欠損のほぼ完形である。口縁部ヨコナデ，外面胴部～底部ヘラケズリ，内面ナデ，輪積痕がみられる。内外面赤彩。法量は口径9.2cm，器高14.0cm，底部は丸底である。

４～８は土師器甕である。４はほぼ完形である。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後ヘラナデ，内面ナデ。法量は口径14.4cm，器高23.9cm，底径6.8cmを測る。５は口縁部～底部１／２遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径13.2cm，器高20.1cm，底径8.0cmを測る。６は口縁部～胴部，底部欠損の４／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ，輪積痕がみられる。法量は口径14.2cm，残存器高21.6cmを測る。７は口縁部～底部１／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ，輪積痕がみられる。法量は復元口径16.0cm，残存器高15.9cmを測る。８は口縁部～胴部１／６遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ，輪積痕がみられる。法量は復元口径16.2cm，残存器高17.1cmを測る。

Ｈ－033（第75図）

調査区中央北部に位置する。撹乱に激しく破壊されている。規模・形状・壁高ともに不明である。

ピットと炉の一部のみを検出した。

ピットは床面に４本検出された。主柱穴はＰ－１（径25cm×28cm，深さ32cm）・Ｐ－２（径28cm×30cm，深さ57cm）・Ｐ－３（径38cm×40cm，深さ40cm）・Ｐ－４（径34cm×40cm，深さ23cm）の４本が対角線上に配される。炉は東側で検出した。

本住居跡から出土した遺物のうち，坏１点，支脚１点，石製品１点，計３点を図示した。

１は坏の口縁片である。

２は支脚である。内外面ヘラケズリ。現存長9.5cm，最大幅9.6cm，重量206.6g である。コップを逆さまにしたような支脚で，中の空洞に砂を入れて使用していたと考えられる。

３は砥石である。長さ3.5cm，幅3.0cm，厚さ1.5cm，重量27.7g である。人為的に穿った穴がある。

Ｈ－034（第75図）

調査区北東部に位置する。Ｈ－012，Ｈ－013，Ｈ－035と重複する。規模・形状ともに不明である。

覆土はＨ－013の覆土を埋め戻しに使用している。

床面は攪乱が激しい。壁高は約10cmを測る（東壁）。周溝は東壁の一部のみ検出され，幅22cm，深さ4.5cmを測る。

カマドは右側袖部と火床部の一部が残存している。東壁がカマド部分で終わっており，南側に壁が延びるのかもしれないが，攪乱によるためか検出できなかった。ゆえに本住居跡のカマドは東壁コーナーより検出されたような印象になった。

本住居跡から出土した遺物のうち坏１点，石製品１点，計２点を図示した。

１は土師器坏である。口縁部～体部１／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は復元口径13.8cm，残存器高3.5cmを測る。

２は砥石である。長さ5.2cm，幅4.1cm，厚さ1.7cm，重量45.5gである。

H－035（第76・77図）

調査区北東部に位置する。H－012に切られ，H－013，H－034と重複する。規模は6.50m×6.65mを測り，形状は方形を呈する。

床面はほぼ全体に硬化範囲が認められる。壁高は約50cmを測る（西壁）。周溝は，H－012に切られている部分を除きほぼ全周し，幅30cm，深さ9.5cmを測る。

ピットは床面に５本検出された。主柱穴はP－１（径70cm×80cm，深さ75cm）・P－２（径63cm×72cm，深さ64cm）・P－３（径74cm×87cm，深さ66cm）・P－４（径70cm×77cm，深さ64cm）の４本が対角線上に配され，カマドと正対して位置するP－５は（径53cm×55cm，深さ38cm）を測る。カマドは北壁中央に検出され，H－012に切られている。各主柱穴に向かって間仕切り溝が東西に３本走っている。南壁中央に検出された貯蔵穴は，径85cm×78cm，深さ28cmを測り，円形を呈する。

本住居跡から出土した遺物のうち，坏４点，高坏１点，甕５点，甑２点，鉢１点，坩１点，支脚１点，石製品２点，計17点を図示した。

１～４は土師器坏である。１は口縁部～底部１／８遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は復元口径12.0cm，残存器高3.1cm底部は丸底である。２は口縁部～底部１／２遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は復元口径13.0cm，器高3.5cm，底部丸底である。３は口縁部～底部１／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ後ヘラミガキ。内外面黒色処理。法量は復元口径13.0cm，残存器高4.0cm，復元底径4.0cmを測る。４は口縁部～底部１／８遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は復元口径13.0cm，残存器高2.5cmを測る。

５は土師器高坏の脚部で上部のみ遺存する。外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は残存器高4.1cmを測る。

６は土師器鉢である。口縁部～底部１／２遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径19.0cm，器高9.1cm，底径7.0cmを測る。

７は土師器坩（台付）である。胴部～底部１／５遺存する。内面ナデ。法量は残存器高1.7cm，底径3.6cmを測る。

８～12は土師器甕である。８は口縁部～底部１／２遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は復元口径11.0cm，器高11.5cm，底径6.4cmを測る。９は口縁部～胴部１／８遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は復元口径16.0cm，残存器高10.7cmを測る。10は口縁片である。口縁部ヨコナデ。法量は復元口径16.0cm，残存器高3.9cmを測る。11は胴部～底部１／３遺存する。外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は残存器高5.8cm，底径7.0cmを測る。12は口縁部～胴部片である。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ後ヘラミガキ。法量は復元口径30.0cm，残存器高11.8cmを測る。

13・14は土師器甑である。13は口縁部～胴部３／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ヘラミガキ。法量は復元口径25.4cm，残存器高18.0cmを測る。14は胴部～底部１／２遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は残存器高15.1cm，底径8.0cmを測る。

15は支脚である。現存長19.4cm，幅8.6cm，厚さ7.7cm，重量1127.3gである。

16は砥石である。長さ9.0cm，幅6.9cm，厚さ2.9cm，重量222.7gである。

17は敲石である。長さ5.8cm，幅6.1cm，厚さ4.6cm，重量233.3gである。

H－036（第78図）

調査区中央部に位置する。H－040，D－028，D－029と重複する。規模は6.15m×5.90mを測り，形状は方形を呈する。

覆土は３層に分層され，人為的に埋め戻されている。廃屋後焼却処理されていると思われる。

床面は住居跡全体に硬化範囲が認められる。壁高は約60cmを測る（西壁）。周溝はカマド部分を除き全周し，幅20cm，深さ4.5cmを測る。

ピットは床面に５本検出された。主柱穴はP－１（径34cm×36cm，深さ61cm）・P－２（径31cm×28cm，深さ70cm）・P－３（径25cm×30cm，深さ120cm）・P－４（径42cm×35cm，深さ84cm）の４本が対角線上に配され，カマドと正対して位置するP－５は（径28cm×28cm，深さ8.7cm）を測る。カマドは北壁中央に検出された。各主柱穴の外側から周溝に向かって４条の間仕切り溝が東西に走り，P－５の両脇に２条走る。南東の角に検出された貯蔵穴は，径113cm×80cm，深さ28cmを測り，楕円形を呈する。

本住居跡から出土した遺物のうち，坏５点，高坏１点，甕１点，鉢１点，手捏１点，計９点を図示した。

１～５は土師器坏である。１は口縁部～底部１／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩。法量は復元口径12.0cm，残存器高4.9cmを測る。２は口縁部～底部４／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後ヘラナデ，内面ナデ。外面体部上端・内面体部赤彩。法量は口径13.2cm，器高5.7cm，底部は丸底である。３は口縁部～底部１／３遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ後ヘラミガキ。内外面赤彩。法量は口径14.0cm，残存器高6.2cmを測る。４は口縁部～底部３／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後ヘラナデ，内面ナデ。内外面体部上端赤彩。法量は口径14.4cm，器高9.7cm，底径6.3cmを測る。５は口縁部～底部１／２遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩。法量は復元口径16.0cm，残存器高4.5cmを測る。

６は土師器高坏である。口縁部～底部３／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ後ヘラミガキ。内外面赤彩。法量は口径16.0cm，残存器高5.2cmを測る。

７は土師器鉢である。口縁部～底部１／３遺存する。外面口縁部ヘラナデ後ヘラミガキ。外面ヘラケズリ，内面口縁部ヨコナデ，内面ナデ。内外面赤彩。法量は復元口径20.0cm，残存器高7.8cmを測る。

８は土師器甕である。口縁部～底部４／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径15.2cm，器高24.8cm，復元底径6.5cmを測る。

９は手捏土器である。口縁部～底部１／２遺存する。外面ヘラケズリ，内面ナデ後指頭痕。法量は復元口径10.0cm，残存器高4.6cmを測る。

H－038（第79図）

調査区中央部に位置する。H－025，H－041に切られ，H－037と重複する。規模は5.08m×5.05mを測り，形状は方形を呈する。

覆土は10層に分層され，人為的に埋め戻されている。

ピットは床面に５本検出された。主柱穴はＰ－１（径42cm×39cm，深さ8.5cm）・Ｐ－２（径49cm×37cm，深さ37cm）・Ｐ－３（径32cm×29cm，深さ25cm）・Ｐ－４（径29cm×29cm，深さ24cm）の４本が対角線上に配され，カマドと正対して位置するＰ－５は（径31cm×35cm，深さ16cm）を測る。カマドは東壁中央から検出され，撹乱に切られている。

本住居跡から出土した遺物のうち，坏３点，甕１点，石製品１点，計５点を図示した。

１～３は土師器坏である。１は口縁部～底部３／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ。内外面赤彩（外面底部除く）。法量は口径11.8cm，器高4.5cm，底部は丸底である。２は口縁部～底部３／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩（体部下端除く）。法量は復元口径13.8cm，器高6.3cm，底部は丸底である。３は口縁部～底部２／３遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。外面体部上端・内面赤彩。法量は復元口径19.0cm，器高7.6cm，底部は丸底である。

４は土師器甕である。口縁部～底部３／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面器面剥落。法量は口径12.4cm，器高16.7cm，底径6.0cmを測る。

５は勾玉の石製模造品である。長さ2.9cm，幅2.0cm，厚さ0.65cm，重量5.54gである。

Ｈ－040（第80図）

調査区中央部に位置する。Ｈ－036，Ｄ－029に切られる。規模は（5.10）m×4.86mを測り，形状は方形を呈する。

覆土は３層に分層され，人為的に埋め戻されている。

周溝は，北壁，北東，南壁のみ検出し，幅16cm，深さ5.2cmを測る。

ピットは床面に５本検出された。主柱穴はＰ－１（径33cm×40cm，深さ72cm）・Ｐ－２（径36cm×40cm，深さ75cm）・Ｐ－３（径40cm×51cm，深さ62cm）・Ｐ－４（径41cm×45cm，深さ68cm）の４本が対角線上に配され，南壁よりに位置するＰ－５は（径24cm×31cm，深さ37cm）を測る。主柱穴Ｐ－１，Ｐ－２の外側から周溝に向かって２条の間仕切り溝が東西に走る。Ｈ－036と本遺構の床面の高さは同じ。Ｄ－029は本遺構より新しい覆土であった。。

本住居跡から出土した遺物のうち，坏２点，甑１点，計３点を図示した。

１．２は土師器坏である。１は土師器坏である。口縁部～底部３／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径11.8cm，器高6.2cm，底径6.5cmを測る。２は口縁部～体部１／２遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後ヘラミガキ，内面ナデ。法量は口径12.0cm，残存器高8.1cmを測る。

３は土師器甑である。口縁部～胴部２／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，外面口縁部に輪積み痕がみられる。頸部に穿孔あり。法量は復元口径17.0cm，残存器高12.7cmを測る。

Ｈ－041（第81・82・83図）

調査区中央部に位置するＨ－038，Ｈ－042，Ｈ－045，Ｈ－046，Ｈ－053，Ｈ－059と重複する。規模は9.80m×9.85mを測り，形状は方形を呈する。

覆土は９層に分層される。廃屋後焼却処分をし，人為的に埋め戻されている。

床面は住居跡全域に硬化範囲が認められる。壁高は約70cmを測る（西壁）。周溝はカマド部分を除き全周し，幅26cm，深さ6.4cmを測る。

ピットは床面に７本検出された。主柱穴Ｐ－２～Ｐ－４に付属する小さなピットは主柱穴に伴うピットと

みなしピット番号はふらなかった。主柱穴はＰ－１（径92cm×87cm，深さ86cm）・Ｐ－２（径100cm×108cm，深さ80cm）・Ｐ－３（径77cm×92cm，深さ77cm）・Ｐ－４（径100cm×104cm，深さ82cm）の４本が対角線上に配され，カマドと正対して位置するＰ－５は（径70cm×62cm，深さ40cm）を測る。

カマドは北壁中央から検出された。火床部はよく焼けている。各主柱穴の外側から周溝に向かって４条の間仕切り溝が東西に走る。カマド西側に貯蔵穴が検出されている。途中拡張したと思われる。一番カマドよりが元来の貯蔵穴である。径157cm×100cm，深さ42cmを測り，不整楕円形を呈する。Ｐ－５付近の焼土下からＰ－６・７を検出した。位置的にＰ－５と同じ意味合いをもちそうだが，用途不明である。

本住居跡から出土した遺物のうち，坏９点，高坏１点，甕９点，壺１点，土製品１点，鉄製品５点，石製品３点，計29点を図示した。

１～８は土師器坏である。１は口縁部～体部４／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後ヘラナデ内面ナデ。法量は口径13.1cm，器高4.6cm，底部は丸底である。２は口縁部～底部３／４遺存する。外面ヘラケズリ後口縁部ヨコナデ，内面口縁部ヨコナデ・ヘラナデ後ヘラミガキ。法量は口径12.9cm，残存器高4.8cm，底部は丸底である。３は口縁部～体部１／６遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は復元口径13.6cm，残存器高3.9cmを測る。４は口縁部～底部２／３遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後ヘラナデ，内面ナデ後ヘラミガキ。内外面黒色処理。外面底部に線刻あり。法量は口径13.2cm，器高3.7cm，底部は丸底である。５は口縁部～底部３／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面口縁部赤彩。法量は口径11.8cm，器高3.8cmを測る。６は口縁部～底部２／３遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後ヘラナデ。法量は口径15.0cm，器高2.8cm，底部は丸底である。７は口縁部～底部１／３遺存する。外面口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ，体部ヘラケズリ後ヘラナデ，内面口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ，体部ヘラナデ後ヘラミガキ。法量は復元口径14.0cm，残存器高6.4cm，底部は丸底である。

８は口縁部～底部３／４遺存する。外面口縁部ヨコナデ，体部ヘラケズリ後ヘラナデ，内面口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ，体部ヘラナデ後ヘラミガキ。内外面黒色処理。法量は口径14.2cm，器高4.2cm，底部は丸底である。

９は須恵器坏である。口縁～底部１／６遺存する。ロクロ成形である。法量は復元口径11.2cm，残存器高2.9cmを測る。

10は土師器高坏である。坏部１／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ後丁寧なヘラミガキ。外面赤彩。内面黒色処理。法量は復元口径12.8cm，残存器高4.4cmを測る。

11～19は土師器甕である。11は口縁部～胴部１／３遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は復元口径13.6cm，残存器高6.5cmを測る。12は口縁部～胴部１／３遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は復元口径13.2cm，残存器高9.5cmを測る。13はほぼ完形４／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面器面剥落。法量は口径13.3cm，器高10.6cm，底径6.6cmを測る。14は口縁部～胴部１／２遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径14.4cm，残存器高10.9cmを測る。15は口縁部～胴部上半１／３遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後ヘラナデ，内面ナデ。法量は復元口径14.0cm，残存器高8.6cmを測る。16は口縁部～底部２／３遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径13.8cm，器高13.2cm，底径6.6cmを測る。17は口縁部～胴部下端１／２遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後粗いヘラミガキ，内面ナデ。法量は復元口径17.0cm，残存器高30.5cmを測る。18は底部のみ３／４遺存する。法量は残存器高1.8cm，底径6.3cmを測る。19は底部のみ１／４遺存する。法量は残存器高3.1cm，復元底径7.4cmを測る。

20は土師器壺である。口縁部～胴部上半１／３遺存する。外面ヘラケズリ後ヘラナデ，内面粗いヘラナデ。

法量は口径13.9cm，残存器高10.5cmを測る。

21～23は砥石である。長さ3.0cm，幅3.9cm，厚さ0.8cm，重量20.5gである。22は長さ2.6cm，幅4.7cm，厚さ2.5cm，重量41.1gである。23は長さ5.8cm，幅4.4cm，厚さ1.6cm，重量69.9gである。

24は勾玉である。現存長1.6cm，幅1.0cm，厚さ0.9cm，重量1.1gである。

25・26は鉄鏃茎部である。25は現存長2.5cm，幅0.6cm，厚さ0.4cm，重量1.7gである。26は現存長2.9cm，幅0.9cm，厚さ0.4cm，重量2.8gである。

27・28は釘である。27は現存長3.2cm，幅0.4cm，厚さ0.4cm，重量1.9gである。28は現存長7.7cm，幅0.7cm，厚さ0.8cm，重量32.8gである。

29は鉄鏃と思われる。現存長6.9cm，幅2.9cm，厚さ0.4cm，32.3gである。

H－042（第81図）

調査区中央部に位置する。H－041に切られる。規模，形状は不明である。

周溝と床面のみ検出された。周溝は幅16cm，深さ8.0cmを測る。

遺物は出土しなかった。

H－043（第83図）

調査区中央北部に位置する。M－012に切られ，規模は不明であるが，形状は方形と考えられる。

覆土は自然堆積で３層に分層される。

床面は主柱穴を結ぶように硬化範囲が認められる。壁高は約10cmを測る。周溝は，幅8.0cm，深さ4.0cmを測る。

ピットは床面に４本検出された。主柱穴はP－１（径34cm×34cm，深さ36cm）・P－２（径40cm×40cm，深さ99cm）・P－３（径62cm×40cm，深さ59cm）・P－４（径38cm×40cm，深さ86cm）を測る。炉が東側に検出された。

本住居跡から出土した遺物のうち，坏１点，土製品１点，鉄製品１点，計３点を図示した。

１は土師器坏である。口縁部～底部３／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩。法量は口径14.4cm，器高6.8cm，底部は丸底である。

２は管玉形土製品である。長さ1.7cm，径0.7cm，孔径0.2cm，重量0.8gである。中空になっている。

３は鉄鏃茎部と思われる。長さ4.1cm，幅1.1cm，厚さ0.4cm，重量3.3gである。

H－045（第84図）

調査区中央部に位置する。H－041，H－053に切られ，H－038，H－046と重複する。規模は6.35m×6.30mを測り，形状は方形を呈する。

覆土は２層に分層される。廃屋後廃材を焼却処分され，人為的に埋め戻されている。

床面は住居跡全域に硬化範囲が認められる。壁高は約40cmを測る。周溝は幅26cm，深さ4.5cmを測る。

ピットは床面に４本検出された。主柱穴はP－１（径27cm×30cm，深さ37cm）・P－２（径38cm×35cm，深さ59cm）・P－３（径28cm×31cm，深さ60cm）・P－４（径25cm×33cm，深さ53cm）の４本が対角線上に配される。炉は西壁付近に検出された。周溝から東向かって３条の間仕切り溝が東西に走る。

本住居跡から出土した遺物のうち，坏１点を図示した。

１は土師器坏である。口縁部～体部１／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面口縁部ヨコ

ナデ後ヘラミガキ，体部ヘラナデ後ヘラミガキ。法量は復元口径11.6cm，残存器高3.1cmを測る。

H－046（第85図）

調査区中央部に位置する。H－041に切られ，H－045と重複する。規模は4.68m×4.65m を測り，形状は方形を呈する。

覆土は廃屋後焼却処分し，人為的に埋め戻されている。

床面は中央一帯に硬化範囲が認められる。壁高は約36cmを測る。周溝はカマド部分とH－041に切られる部分を除き，ほぼ全周し，幅25cm，深さ6.5cmを測る。

ピットは床面に４本検出された。主柱穴はP－１（径23cm×28cm，深さ69cm）・P－２（径30cm×32cm，深さ51cm）・P－３（径31cm×35cm，深さ82cm）・P－４（径34cm×34cm，深さ81cm）を測る。カマドは西壁中央に検出された。火床部はよく焼けている。南壁角に貯蔵穴が検出され，径80cm×62cm，深さ34cmを測り，楕円形を呈する。

本住居跡から出土した遺物のうち，坏１点，鉢１点，甕１点，計３点を図示した。

１は土師器坏である。口縁部～体部１／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は復元口径12.4cm，残存器高3.5cmを測る。

２は土師器鉢である。口縁部～胴部２／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は復元口径15.0cm，残存器高8.7cmを測る。

３は土師器甕である。口縁部～胴部３／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ，輪積痕がみられる。法量は口径14.0cm，残存器高13.5cmを測る。

土製品１点は写真のみの掲載である。

H－047（第86・87図）

調査区中央北部に位置する。規模は7.38m×7.20m を測り，形状は方形を呈する。

覆土は３層に分層される。人為的に埋め戻されている。

床面は中央一帯に硬化範囲が認められる。壁高は約20cmを測る。周溝はカマド部分を除き全周し，幅18cm，深さ5.7cmを測る。

ピットは床面に５本検出された。主柱穴はP－１（径75cm×84cm，深さ90cm）・P－２（径73cm×72cm，深さ87cm）・P－３（径76cm×82cm，深さ79cm）・P－４（径75cm×73cm，深さ90cm）の４本が対角線上に配され，カマドと正対して位置するP－５は（径38cm×33cm，深さ45cm）を測る。カマドは北壁中央に検出された。間仕切り溝が西壁から２本，東壁から３本，中央に向かって走る。

本住居跡から出土した遺物のうち，坏５点，甕４点，甑１点，手捏１点，支脚１点，石製品３点，玉32点，鉄製品１点，計48点を図示した。

１～５は土師器坏である。１はほぼ完形である。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面口縁部ヨコナデ後ヘラナデ，ヘラミガキ。内面黒色処理。法量は口径12.8cm，器高4.2cm，底部は丸底である。２は口縁部～底部２／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後ヘラナデ，内面ナデ。法量は復元口径13.0cm，器高3.7cm，底部は丸底である。３は口縁部～底部２／３遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後ヘラナデ，内面ナデ後ヘラミガキ。法量は復元口径13.4cm，器高4.6cm，底部は丸底である。４は口縁部～底部２／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は復元口径14.0cm，器高4.7cm，底部は丸底である。５は口縁部～底部３／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径

17.8cm，器高9.1cm，底径7.8cmを測る。

6～9は土師器甕である。6は口縁部～底部2／3遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径14.4cm，器高14.2cm，底径7.8cmを測る。7は口縁部～底部3／4遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデか。器面剥落のため判別困難である。二次焼成の可能性あり。法量は口径13.0cm，器高15.3cm，底径7.2cmを測る。8は口縁部～底部3／4遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ，法量は口径10.9cm，器高10.2cm，底径5.8cmを測る。9は口縁部～底部3／4遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径14.6cm，器高14.8cm，底径7.4cmを測る。

10は土師器甑である。口縁部～胴部下端4／5遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径29.8cm，残存器高24.0cmを測る。

11はほぼ完形の手捏土器である。外面ヘラケズリ，内面指頭痕あり。法量は口径5.5cm，器高2.2cm，底径5.0cmを測る。

12は支脚である。現存長14.5cm，幅4.7cm，厚さ4.0cm，重量292.9gである。

13は砥石である。現存長3.7cm，幅4.3cm，厚さ1.3cm，重量30.3gである。

14は軽石である。現存長4.4cm，幅4.1cm，厚さ2.8cm，重量12.8gである。

15は打製石器である。長さ7.3cm，幅3.2cm，厚さ2.0cm，重量74.3gである。

16・17は石製品の管玉である。16は径0.6cm，厚さ0.4cm，孔径0.2cm，重量0.23gである。17は径0.6cm，厚さ0.4cm，孔径0.2～0.3cm，重量0.2gである。

18～46は土製品の土玉である。18は径0.8cm，厚さ0.7cm，孔径0.1cm，重量0.31gである。19は径0.7cm，厚さ0.7cm，孔径0.1～0.15cm，重量0.5gである。20は径0.75cm，厚さ0.6cm，孔径0.21cm，重量0.31gである。21は径0.65cm，厚さ0.8cm，孔径0.15cm～0.2cm，重量0.41gである。22は径0.7cm，厚さ0.6cm，孔径0.2cm～0.35cm，重量0.41gである。23は径0.8cm，厚さ0.7cm，孔径0.1cm，重量0.38gである。24は径0.8cm，厚さ0.7cm，孔径0.2cm，重量0.72gである。25は径0.9cm，厚さ0.7cm，孔径0.2cm～0.3cm，重量0.62gである。26は径0.8cm，厚さ0.9cm，孔径0.25cm～0.3cm，重量0.77gである。27は径0.8cm，厚さ0.7cm，孔径0.15cm，重量0.42gである。28は径0.85cm，厚さ0.8cm，孔径0.2cm～0.3cm，重量0.69gである。29は径1.0cm，厚さ0.7cm，孔径0.2cm～0.3cm，重量0.76gである。30は径0.9cm，厚さ0.8cm，孔径0.2～0.25cm，重量1.11gである。31は径0.9cm，厚さ0.7cm，孔径0.2cm，重量0.65gである。32は径0.9cm，厚さ0.7cm，孔径0.2～0.25cm，重量0.68gである。33は径0.9cm，厚さ0.9cm，孔径0.1cm，重量0.85gである。34は径0.9cm，厚さ0.9cm，孔径0.35cm～0.5cm，重量0.85gである。35は径1.0cm，厚さ0.8cm，孔径0.2cm～0.3cm，重量0.66gである。36は径1.0cm，厚さ0.7cm，孔径0.2cm～0.3cm，重量0.77gである。37は径0.9cm，厚さ0.7cm，孔径0.25cm～0.3cm，重量0.84gである。38は径1.0cm，厚さ0.8cm，孔径0.1cm～0.2cm，重量0.8gである。39は径1.0cm，厚さ0.8cm，孔径0.2cm，重量0.73gである。40は径1.0cm，厚さ0.9cm，孔径0.2cm～0.3cm，重量1.13gである。41は長さ1.8cm，径0.9cm，孔径0.25cm～0.3cm，重量2.1gである。42は長さ1.4cm，径1.0cm，孔径0.2cm，重量1.2gである。43は長さ1.4cm，径0.9cm，孔径0.1cm，重量1.2gである。44は径1.2cm，厚さ1.0cm，孔径0.2cm～0.4cm，重量1.43gである。45は径1.3cm，厚さ1.2cm，孔径0.2cm，重量2.28gである。46は長さ2.2cm，径0.8cm，孔径0.2cm，重量1.9gである。

47は土製品の勾玉である。長さ2.8cm，幅1.1cm，厚さ1.1cm，孔径0.1cm，重量3.77gである。

48は鋤の刃先か。現存長5.0cm，幅1.4cm，厚さ0.2cm，重量8.1gである。

種子2点は写真のみの掲載である。

Ｈ－048（第88図）

調査区北西部に位置する。Ｍ－014，Ｈ－055と重複する。規模は5.38m×5.65m を測り，形状は方形を呈する。

廃屋後焼却処分された。

床面は全体に硬化範囲が認められる。壁高は約20cmを測る。周溝はカマド部分を除き全周し，幅21cm，深さ4.8cmを測る。

ピットは床面に６本検出された。主柱穴はＰ－１（径28cm×36cm，深さ88cm）・Ｐ－２（径48cm×38cm，深さ64cm）・Ｐ－３（径30cm×28cm，深さ83cm）・Ｐ－４（径43cm×47cm，深さ96cm）の４本が対角線上に配され，カマドと正対して位置するＰ－５は（径26cm×36cm，深さ15cm）を測る。補助柱穴のＰ－６は径40cm×36cm，深さ57cmを測る。カマドは東壁中央に検出された。東壁南寄りに貯蔵穴が検出され，径93cm×90cm，深さ44cmを測り，不整楕円形を呈する。

本住居跡から出土した遺物のうち，坏５点，甕３点，坩２点，手捏１点，計11点を図示した。

１～５は土師器坏である。１はほぼ完形である。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩（底部除く）。法量は口径13.8cm，器高5.8cm，底部は丸底である。２は口縁部～底部４／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後ヘラナデ，内面ナデ。内外面赤彩（底部除く）。法量は口径13.0cm，器高5.1cm，底部は丸底である。３は口縁部～底部２／３遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後ヘラナデ，内面ナデ。内外面赤彩（底部除く）。法量は口径13.2cm，器高5.2cm，底部は丸底である。４は口縁部～底部３／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩（底部除く）。法量は口径14.8cm，器高5.2cm，底部は丸底である。５は口縁部～底部３／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩（底部除く）。法量は口径15.2cm，器高5.9cm，底部は丸底である。

６・７は土師器坩である。６はほぼ完形である。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩（内外面胴部下端除く）。法量は口径11.0cm，器高8.4cmを測る。７は完形である。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後ヘラナデ，内面ナデ，内外面赤彩。法量は口径11.8cm，器高11.4cm，底径7.0cmを測る。

８～10は土師器甕である。８は口縁部～底部１／２遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ，輪積痕あり。法量は口径14.8cm，器高32.7cm，底径6.8cmを測る。９はほぼ完形である。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径16.4cm，器高24.8cm，底径7.0cmを測る。10は口縁部～胴部４／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径18.0cm，残存器高17.5cmを測る。

11は完形の土師器手捏である。外面指頭痕，内面指ナデ。法量は口径4.6cm，器高2.6cmを測る。

Ｈ－049（第89図）

調査区中央部に位置する。Ｂ－016に切られ，Ｍ－014と重複する。規模は4.95m×4.97m を測り，形状は方形を呈する。

覆土は５層に分層され，人為的に埋め戻されている。

床面はカマド前面と主柱穴を結ぶように硬化範囲が認められる。壁高は約36cmを測る。周溝は，カマド部分貯蔵穴，Ｂ－016に切られる部分を除いて全周し，幅18cm，深さ５cmを測る。

ピットは床面に４本検出された。主柱穴はＰ－１（径44cm×38cm，深さ39cm）・Ｐ－２（径41cm×39cm，深さ47cm）・Ｐ－３（径40cm×36cm，深さ62cm）・Ｐ－４（径35cm×30cm，深さ54cm）を測る。カマドは北東壁右側に検出された。貯蔵穴は南東壁より検出した。

本住居跡から出土した遺物のうち，蓋１点，鉢１点，石製品２点，計４点を図示した。

１は須恵器蓋である。天井部～口縁部１／４遺存する。ロクロ成形。法量は復元口径11.0cm，残存器高3.9cmを測る。

２は土師器鉢である。口縁部１／６遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は復元口径17.0cm，残存器高3.0cmを測る。

３・４は石製品の紡錘車である。３は径3.7cm，厚さ2.2cm，孔径0.6cm，重量27.9gである。４は径4.5cm，厚さ3.1cm，孔径0.7cm，重量32gである。

Ｈ－050（第90・91図）

調査区中央部に位置する。規模は5.72m×5.80mを測り，形状は方形を呈する。

覆土は４層に分層される。人為的に埋め戻されている。

床面は中央一帯に硬化範囲が認められる。壁高は約60cmを測る（西壁）。周溝は，カマド部分を除き全周し，幅30cm，深さ2.5cmを測る。

ピットは床面に５本検出された。主柱穴はＰ－１（径68cm×88cm，深さ67cm）・Ｐ－２（径44cm×46cm，深さ89cm）・Ｐ－３（径55cm×55cm，深さ89cm）・Ｐ－４（径58cm×50cm，深さ72cm）の４本が対角線上に配される。カマドと正対して位置するＰ－５は（径25cm×30cm，深さ18cm）を測る。カマドは北壁中央に検出された。遺存状態は良好で，火床部東側がよく焼けている。主柱穴Ｐ－１，Ｐ－２，Ｐ－３，Ｐ－４外側から周溝に向かって４条の間仕切り溝が東西に走る。東壁北寄りに貯蔵穴が検出され，径80cm×56cm，深さ29cmを測り，隅丸長方形を呈する。

本住居跡から出土した遺物のうち，坏５点，甕３点，甑１点，手捏３点，計12点を図示した。

１～５は土師器坏である。１は口縁部～底部１／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は復元口径7.0cm，器高2.4cm，復元底径4.0cmを測る。２は口縁部～底部３／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ，外面・内面底部除いて赤彩。法量は口径13.4cm，器高4.3cm，底部丸底である。３は口縁部～底部３／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径14.4cm，器高4.3cm，底部丸底である。４はほぼ完形である。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径15.1cm，器高5.3cm，底部は丸底である。５は口縁部～底部３／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後ヘラミガキ，内面ナデ。法量は残存器高7.4cm，底部は丸底である。

６～８は土師器甕である。６は口縁部～胴部４／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。器面剥落少々。法量は口径13.5cm，残存器高9.4cmを測る。７は口縁部～胴部４／５遺存する。口縁部ヨコナデ，内外面ヘラケズリ。法量は口径13.8cm，残存器高19.0cmを測る。８はほぼ完形である。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径18.1cm，器高32.8cm，底径8.0cmを測る。

９は完形の土師器甑である。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。輪積痕あり。法量は口径25.9cm，器高25.2cm，底径7.4cmを測る。

10～12は手捏土器である。10はほぼ完形。指頭痕あり。法量は口径1.8cm，器高1.7cm，底径1.8cmを測る。11は口縁部～底部３／４遺存する。外面ヘラケズリ，内面指頭痕あり。法量は口径4.0cm，器高3.3cmを測る。12は口縁部～底部３／４遺存する。内外指頭痕あり。法量は復元口径10.5cm，器高3.0cm，底径7.4cmを測る。

Ｈ－051（第91・92図）

調査区中央部に位置する。Ｍ－014，Ｈ－050に切られる。規模は5.51m×5.74mを測り，形状は方形を呈する。

覆土は10層に分層され，自然堆積である。

床面はカマド前面から硬化範囲が認められる。壁高は約23cmを測る（北壁）。周溝は，北側を除いて検出され，幅16cm，深さ４cmを測る。

ピットは床面に４本検出された。主柱穴はＰ－１（径70cm×65cm，深さ78cm）・Ｐ－２（径29cm×27cm，深さ28cm）・Ｐ－３（径21cm×31cm，深さ22cm）・Ｐ－４（径33cm×29cm，深さ95cm）の４本が対角線上に配される。カマドは南西壁中央に検出された。南西壁隅付近の貯蔵穴は，径69cm×65cm，深さ49cmを測り，不整長方形を呈する。

本住居跡から出土した遺物のうち，坏３点，高坏１点，坩１点，甕３点，計８点を図示した。

１～３は土師器坏である。１はほぼ完形。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ，内外面赤彩。法量は口径13.4cm，器高6.7cm，底部丸底である。２はほぼ完形。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ，内外面赤彩。法量は口径14.4cm，器高5.9cm，底部は丸底である。３は口縁部～底部３／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ，内外面赤彩（外面体部下端・内面底部除く）。法量は口径14.2cm，器高6.2cm，底部は丸底である。

４は土師器高坏である。口縁部～脚部４／５遺存する。口縁部ヨコナデ，坏部ヘラケズリ，内面ナデ，脚部ヘラケズリ，内外面赤彩（坏部下端除く）。法量は口径15.4cm，残存器高10.8cmを測る。５はほぼ完形の土師器坩である。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ，内外面赤彩（外面胴部下端・内面底部除く）。法量は口径11.2cm，器高9.8cm，底部は丸底である。

６～８は土師器甕である。６は口縁部～胴部２／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径12.8cm，残存器高11.1cmを測る。７は口縁部～胴部下端４／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径22.6cm，残存器高20.2cmを測る。８は口縁部～底部１／２遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径15.9cm。器高27.4cm，底径7.0cmを測る。

Ｈ－053（第92図）

調査区中央部に位置する。Ｈ－025，Ｈ－037，Ｈ－038，Ｈ－041，Ｈ－045と重複する。規模は4.85m×4.88mを測り，形状は方形と思われる。

覆土は１層であり，Ｈ－038にほとんど破壊されている。壁高は約30cmを測る（南壁）。周溝は重複部分を除き全周し，幅24cm，深さ５cmを測る。

ピットは床面に４本検出された。主柱穴はＰ－１（径32cm×37cm，深さ51cm）・Ｐ－２（径28cm×38cm，深さ57cm）・Ｐ－３（径31cm×36cm，深さ52cm）・Ｐ－４（径28cm×31cm，深さ53cm）の４本が対角線上に配される。カマドは西壁中央に検出された。

遺物は小片のため，図示できなかった。

Ｈ－056（第93・94図）

調査区西北部に位置する。Ｈ－057とＭ－017を切り，Ｍ－001と重複する。規模は6.80m×6.95mを測り，形状は方形を呈する。

覆土は５層に分層される。人為的に埋め戻されている。

床面は中央一帯に硬化範囲が認められる。壁高は約50cmを測る。周溝はカマド部分と重複部分を除き全周し，幅23cm，深さ６cmを測る。

ピットは床面に５本検出された。主柱穴はＰ－１（径68cm×44cm，深さ61cm）・Ｐ－２（径65cm×63cm，深

さ64cm）・Ｐ－３（径67cm×60cm，深さ55cm）・Ｐ－４（径68cm×67cm，深さ74cm）の４本が対角線上に配され，カマドと正対して位置するＰ－５は（径50cm×38cm，深さ50cm）を測る。カマドは北壁中央に検出された。主柱穴から周溝に向かって間仕切り溝が東に２本，西に２本走る。カマドの東寄りの貯蔵穴は，径89cm×80cm，深さ23cmを測り，隅丸長方形を呈する。

本住居跡から出土した遺物のうち，坏６点，高坏３点，甑１点，支脚１点，玉２点，鉄製品３点，計16点を図示した。

１～６は土師器坏である。１は口縁部～底部４／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ後ヘラミガキ。内面黒色処理。法量は復元口径11.3cm，器高3.4cm，底部は丸底である。２はほぼ完形。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ後ヘラミガキ。法量は口径10.9cm，器高4.5cm，底部は丸底である。３は口縁部～底部３／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，ヘラナデ後ヘラミガキ。内外面黒色処理。法量は復元口径11.2cm，器高3.7cm，底部は丸底である。４は口縁部～底部１／２遺存する。体部外面ヘラケズリ，口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ，内面ナデ。法量は復元口径12.2cm，器高3.4cm，底部は丸底である。５は口縁部～体部１／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は復元口径11.6cm，残存器高2.8cmを測る。６は口縁部～底部１／２遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後ヘラミガキ，内面ナデ後ヘラミガキ。内面赤彩。法量は復元口径12.0cm，残存器高4.3cmを測る。

７～９は土師器高坏である。７は坏部１／２遺存する。内外面口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ，外面坏部ヘラケズリ，内面ナデ後ヘラミガキ，内面黒色処理。法量は復元口径17.6cm，残存器高4.1cmを測る。８はほぼ完形。内外面口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ，外面坏部，脚部ヘラケズリ後一部ヘラミガキ，内面ナデ後ヘラミガキ。内面坏部黒色処理，外面赤彩。法量は口径13.2cm，器高7.5～8.0cm，底径9.4cmを測る。９は脚部４／５遺存する。外面ヘラケズリ後ヘラミガキ，内面ナデ。法量は残存器高10.5cm，底径14.0cmを測る。

10は土師器甑である。胴部～底部１／４遺存する。外面ヘラケズリ，内面粗いヘラナデ。法量は残存器高17.2cm，底径8.8cmを測る。

11は支脚である。現存長13.8cm，幅7.0cm，厚さ7.0cm，重量600.0gである。

12～14は鉄鏃である。12は現存長2.6cm，幅0.6cm，厚さ0.2cm，重量1.29gである。13は茎部である。長さ4.3cm，幅1.1cm，厚さ0.3cm，重量3.37gである。14は茎部である。長さ6.7cm，幅0.6cm，厚さ0.3cm，重量5.22gである。

15は石製品勾玉である。長さ0.9cm，幅0.7cm，厚さ0.6cm，孔径0.1cm，重量0.9gである。

16は土製品勾玉である。孔径跡がある。現存長3.1cm，幅1.0cm，厚さ1.0cm。重量3.7gである。

Ｈ－058（第94図）

調査区西北部に位置する。Ｍ－015，Ｄ－036と重複する。規模，形状は不明である。

主柱穴はＰ－２（径70cm×不明，深さ99.8cm）・Ｐ－３（径76cm×径72cm，深さ108.1cm）を測る。Ｐ－５は（径約44cm×径48cm，深さ18.9cm），Ｐ－６（33cm×10cm，32cm）は補助柱穴と思われる。

壁高は約40cmを測る。周溝は，東・西側のみ検出し，幅15cm，深さ３cmを測る。壁と周溝はやや離れており，南側の周溝は検出できなかった。南壁中央の土坑は径110cm×55cm，深さ27cmを測り，隅丸方形を呈し，入口に伴うものである。

本住居跡から出土した遺物のうち，坏７点，鉢１点，手捏１点，石製品１点，計10点を図示した。

１～７は土師器坏である。１は口縁部～体部１／10遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩。法量は復元口径12.2cm，残存器高4.5cmを測る。２は口縁部～体部１／10遺存する。口縁部

ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内面赤彩。外面も赤彩の痕跡はあるが剥離している。法量は復元口径14.8cm，残存器高3.7cmを測る。３は口縁部～体部１/10遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩。法量は復元口径15.8cm，残存器高5.0cmを測る。４は口縁部～体部１/10遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩。法量は復元口径15.4cm，残存器高5.0cmを測る。５は口縁部～体部１/８遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ，内外面赤彩。法量は復元口径15.5cm，残存器高4.5cmを測る。６は口縁部～体部１/３遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩。法量は復元口径15.5cm，残存器高5.5cmを測る。７はほぼ完形。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩。法量は口径15.8cm，器高5.9cm，底部は丸底である。８はほぼ完形の土師器坩である。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩（内面胴部下端除く）。法量は口径11.4cm，器高9.3cm，底部は丸底である。

９は手捏土器である。口縁部～底部１/５遺存する。口径3.5cm，器高1.6cmを測る。

10は砥石である。長さ9.8cm，幅7.2cm，厚さ3.4cm，重量335.1gである。

H－059（第81・83図）

調査区中央部に位置する。H－041に切られるため，規模，形状は不明である。

周溝・床面の一部のみ検出した。床はよく貼っていた。壁高は約31cmを測る（北壁）。周溝は北側のみ検出し，幅18cm，深さ5.0cmを測る。

本住居跡から出土した遺物のうち，甕１点を図示した。

１は土師器甕の口縁部～胴部１/10遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は復元口径15.0cm，残存器高7.1cmを測る。

H－060（第95図）

調査区西北部に位置する。M－043に切られる。規模は4.93m×4.85mを測り，形状は方形を呈する。

覆土は廃屋後廃材を消却処分し，人為的に埋め戻されている。

床面は中央一帯に硬化範囲が認められる。壁高は約16cmを測る。周溝は西側のみ検出し，幅22cm，深さ５cmを測る。

ピットは床面に６本検出された。主柱穴はP－１（径28cm×25cm，深さ14cm）・P－２（径26cm×32cm，深さ61cm）・P－３（径24cm×26cm，深さ39cm）・P－４（径28cm×26cm，深さ32cm）の４本が対角線上に配され，南壁中央付近に位置するP－５は（径25cm×25cm，深さ13cm）を測り，南西の角付近に位置するP－６は（径15cm×16cm，深さ６cm）を測る。カマドはM－043に切られ残存せず。南壁東寄りの貯蔵穴は，径83cm×55cm，深さ50cmを測り，長方形を呈する。

本住居跡から出土した遺物のうち，坏４点，高坏１点，小甕１点，甕２点，甑１点，手捏土器１点，計10点を図示した。

１～４は土師器坏である。１はほぼ完形である。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後ヘラミガキ，内面ナデ。内面は被熱による剥離がみられる。薄くではあるが内外面口縁部赤彩。法量は口径13.5cm，器高5.6cm，底部は丸底である。２はほぼ完形である。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩（体部下端除く）。法量は口径16.0cm，器高6.1cm，底部が丸底である。３は口縁部～底部１/５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は復元口径12.7cm，残存器高5.6cmを測る。４はほぼ完形である。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径15.0cm，器高5.5cm，底部は丸底である。

５は土師器高坏である。坏部～基部１／５遺存する。外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は残存器高4.5cmを測る。

６は土師器小型甕である。口縁部～底部４／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。剥離面多数あり。法量は口径10.5cm，器高10.6cm，底部は丸底である。

７・８は土師器甕である。７は胴部～底部１／３遺存する。外面ヘラケズリ，内面荒いヘラナデ。法量は残存器高12.0cm，底径6.2cmを測る。８は胴部～底部１／８遺存する。器面剥落および摩耗著しいため調整不明。法量は残存器高5.5cm，底径7.0cmを測る。

９は土師器甑である。口縁部～底部。外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は復元口径23.6cm，器高21.2cm，底径8.0cmを測る。

10はほぼ完形の手捏土器である。法量は口径5.3cm，器高4.0cm，底部は丸底である。

Ｈ－062（第96図）

調査区西北部に位置する。Ｍ－042，Ｍ－043，Ｈ－063と重複する。規模は4.91m×4.92mを測り，形状は方形と思われる。

覆土は５層に分層され，人為的に埋め戻されている。

床面全体に硬化範囲が認められる。壁高は約50cmを測る（南壁）。周溝は，調査区外部分を除き全周し，幅21cm，深さ７cmを測る。

ピットは床面に４本検出された。主柱穴はＰ－１（径81cm×75cm，深さ49cm）・Ｐ－２（径68cm×77cm，深さ45cm）・Ｐ－３（径77cm×84cm，深さ62cm）に配され，カマドと正対して位置するＰ－４は（径32cm×27cm，深さ17cm）を測る。カマドは片袖のみ検出された。

本住居跡から出土した遺物のうち坏３点，甕１点，土製品１点，石製品２点，計７点を図示した。

１・２は土師器坏である。１は口縁部～底部１／３遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ後ヘラミガキ。法量は復元口径12.3cm，器高3.6cm，底部は丸底である。２は口縁部～底部１／３遺存する。ロクロ成形。体部下端回転ヘラケズリ，底部静止糸切り後ヘラケズリ，内外面赤彩。法量は復元口径12.5cm，器高4.0cm，復元底径9.0cmを測る。

３は須恵器坏である。口縁部～底部１／４遺存する。ロクロ成形。体部下端回転ヘラケズリ，底部ヘラ切り。法量は復元口径12.6cm，器高4.6cm，底径7.4cmを測る。

４は土師器甕である。口縁部～胴部２／３遺存する。外面ヘラケズリ，口縁部ヨコナデ，内面ナデ，口縁部ヨコナデ。法量は口径14.5cm，残存器高13.5cmを測る。

５・６は石製品である。５は砥石である。長さ7.7cm，幅1.8cm，厚さ0.6cm，重量14.1gを測る。６は石皿である。長さ9.3cm，幅8.8cm，厚さ3.9cm，重量438.4gを測る。

７は完形の土製紡錘車である。径5.2cm，厚さ2.6cm，孔径0.7cm，重量83.1gを測る。

Ｈ－064（第97図）

調査区西部に位置する。Ｈ－071，Ｄ－037，Ｄ－042に切られる。規模は5.95m×5.90mを測り，形状は方形と思われる。

覆土は廃屋後焼却処分され，人為的に埋め戻されている。

床面は中央一帯に硬化範囲が認められる。壁高は約40cmを測る（東壁）。周溝は西壁一部を除いて検出され，幅23cm，深さ３cmを測る。

ピットは床面に５本検出された。主柱穴はＰ－１（径40cm×33cm，深さ71cm）・Ｐ－２（径38cm×35cm，深さ67cm）・Ｐ－３（径38cm×33cm，深さ65cm）・Ｐ－４（径40cm×65cm，深さ33cm）の４本が対角線上に配され，南壁付近に位置するＰ－５は（径26cm×26cm，深さ８cm）を測る。カマドの袖は検出されなかったが，火床部が北壁寄りに検出された。各主柱穴の外側から周溝に向かって３条の間仕切り溝が東西に走る。南壁西寄りの貯蔵穴は，径97cm×74cm，深さ36cmを測り，隅丸長方形を呈する。

本住居跡から出土した遺物のうち坏２点を図示した。

１は須恵器坏である。口縁部～体部１/10遺存する。ロクロ成形。外面下端回転ヘラケズリ。法量は復元口径11.8cm，残存器高3.8cmを測る。

２は土師器坏である。口縁部～底部１/２遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面摩耗のため調整不明。法量は復元口径13.8cm，器高5.6cm，底部は丸底である。

Ｈ－067（第98・99図）

調査区中央部に位置する。Ｈ－028に切られる。規模は不明×6.15m を測り，形状は方形と思われる。

覆土は３層に分層され，人為的に埋め戻されている。

壁高は約30cmを測る。周溝は切られる部分を除き全周し，幅20cm，深さ３cmを測る。

ピットは床面に４本検出された。主柱穴はＰ－１（径40cm×38cm，深さ81cm）・Ｐ－２（径35cm×38cm，深さ87cm）・Ｐ－３（径49cm×44cm，深さ89cm）・Ｐ－４（径40cm×41cm，深さ92cm）の４本が対角線上に配される。周溝からＰ－１，Ｐ－３，Ｐ－４に向かって３条の間仕切り溝が走る。南東壁寄りの貯蔵穴は，径90cm×68cm，深さ24cmを測り，楕円形を呈する。

本住居跡から出土した遺物のうち坏12点，坩３点，壺１点，甕４点，すり鉢１点，石製品２点，鉄製品１点，土製品１点，瑪瑙１点，計26点を図示した。

１～８は土師器坏である。１は口縁部～底部１/２遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，輪積痕あり，内面ナデ。法量は復元口径11.8cm，器高4.9cm，底部は丸底である。２はほぼ完形である。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ，内外面赤彩（外面体部下端除く）。法量は口径13.8cm，器高5.7cm，底径5.2cmを測る。３は口縁部～底部２/３遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内面赤彩。法量は口径13.7cm，器高5.2cm，底部は丸底である。４は口縁部～底部１/２遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ後ヘラミガキ。法量は復元口径13.4cm，器高4.9cm，底部は丸底である。５は口縁部～底部２/３遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩（外面体部下端除く）。法量は復元口径14.1cm，器高5.3cm，底部は丸底である。６は完形である。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩（外面体部下端除く）。法量は口径14.3cm，器高6.2cm，底部は丸底である。７は口縁部～底部１/４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩（体部下端除く）。法量は復元口径13.8cm，器高3.3cm，底部は丸底である。８は口縁部～体部１/３遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩（外面体部下端除く）。法量は復元口径16.9cm，残存器高4.6cmを測る。

９～12は土師器椀型坏である。９は口縁部～底部２/３遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。輪積痕あり。内外面赤彩（外面体部下端・内面体部除く）法量は復元口径10.0cm，器高8.6cm，底径5.1cmを測る。10は口縁部～底部１/２遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は復元口径11.5cm，器高7.2cm，底径5.2cmを測る。11はほぼ完形である。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，口縁部ヨコナデ後内面ナデ。内外面赤彩，内面底部に赤彩で「×」印あり。法量は口径14.4cm，器高6.9cm，

底部は丸底である。12は口縁部～体部１／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩（内面体部下端除く）。法量は復元口径15.0cm，残存器高6.5cmを測る。

13～15は土師器坩である。13は口縁部～体部１／２遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ，輪積痕がみられる。内外面赤彩（外面胴部下端・内面胴部除く）。14はほぼ完形である。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後ヘラナデ，内外面赤彩（外面底部・内面胴部除く）。法量は口径8.2cm，器高13.0cm，底部は丸底である。15は口縁部～底部６／８遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩（外面胴部下端・内面胴部除く）。法量は口径10.3cm，器高12.6cm，底部は丸底である。

16～18は土師器甕である。16は口縁部～胴部１／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面に輪積痕がみられる。法量は口径14.8cm，残存器高5.7cmを測る。17は口縁部～胴部１／３遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ，輪積痕がみられる。法量は復元口径15.8cm，残存器高15.0cmを測る。18は口縁部～底部２／３遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は復元口径14.1cm，器高23.9cm，復元底径7.0cmを測る。

19は土師器壺である。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径11.8cm，器高15.0cm，底部は丸底である。

20は須恵器甕の胴部片である。外面にタタキ目とカキ目，残存器高8.8cmである。

21は土師器のすり鉢片である。

22は砥石である。残存長4.0cm，幅3.8cm，厚さ0.5cm，重量14.2gである。

23は瑪瑙である。長さ9.8cm，幅6.9cm，厚さ6.1cm，重量698.8gを測る。

24は軽石である。長さ8.2cm，幅9.8cm，厚さ6.1cm，重量78.4gである。

25は土製品で勾玉形模造品である。長さ3.6cm，幅1.0cm，厚さ0.9cm，重量3.2gである。

26の鉄製品は円形を呈すると思われる。長さ2.5cm，幅1.0cm，厚さ0.1cm，重量2.0gである。

H－069（第100図）

調査区中央北部に位置する。H－072と重複する。規模は4.35m×4.10mを測り，形状は方形を呈する。

覆土は３層に分層され，人為的に埋め戻されている。

床面は貼り床で黒色ロームで固めてある。壁高は約36cmを測る。薄い周溝がカマド部分を除いて幅５cm，深さ2.5cmを測り，全周する。

ピットは床面に５本検出された。主柱穴はP－１（径38cm×44cm，深さ78cm）・P－２（径26cm×27cm，深さ69cm）・P－３（径27cm×31cm，深さ56cm）・P－４（径30cm×22cm，深さ51cm）の４本が対角線上に配され，カマドと正対して位置するP－５は（径30cm×36cm，深さ15cm）を測る。カマドは北壁中央に検出された。

本住居跡から出土した遺物のうち坏１点，甕１点，壺１点，支脚１点，鉄製品１点，計５点を図示した。

１は土師器坏である。完形である。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ後ヘラミガキ。法量は口径12.4cm，器高3.7cm，底部は丸底である。

２は須恵器壺の頸部片である。

３は土師器甕である。口縁部～胴部１／６遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面口縁部ヨコナデ後ヘラナデ。法量は復元口径22.4cm，残存器高10.7cmを測る。

４は支脚である。残存長5.3cm，幅4.3cm，厚さ4.1cm，重量75.1gを測る。

５は刀子である。現存長10.4cm，幅1.5cm，厚さ0.3cm，重量8.9gを測る。茎部には木製柄が遺る。

Ｈ－071（第101図）

調査区西部に位置する。Ｈ－065，Ｈ－066，Ｄ－040と重複する。規模は不明，形状は長方形と思われる。壁高は約30cmを測る（南壁）。周溝は検出されなかった。。

ピットは床面に５本検出された。主柱穴はＰ－１（径26cm×27cm，深さ34cm）・Ｐ－２（径34cm×33cm，深さ61cm）・Ｐ－３（径40cm×35cm，深さ73cm）・Ｐ－４（径30cm×33cm，深さ60cm）の４本が対角線上に配される。東壁付近に検出されたＰ－５は（径35cm×43cm，深さ16cm）を測る。カマドは検出されなかった。

本住居跡から出土した遺物のうち坏２点を図示した。

１・２は土師器坏である。１は口縁部～体部１／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ヘラミガキ。内面赤彩。法量は復元口径14.6cm，残存器高4.3cmを測る。２は体部～底部１／２遺存する。外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩（体部下端）。法量は残存器高5.8cm，底部は丸底である。

Ｈ－072（第102図）

調査区中央北部に位置する。Ｈ－069と重複する。規模は5.37m×5.45mを測り，形状は方形を呈する。

床面は中央一帯に硬化範囲が認められる。壁高は約20cmを測る。周溝は，貯蔵穴部分を除き，幅30cm，深さ2.5cmを測り，全周する。

ピットは床面に７本検出された。主柱穴はＰ－１（径28cm×26cm，深さ59cm）・Ｐ－２（径34cm×33cm，深さ59cm）・Ｐ－３（径40cm×35cm，深さ61cm）・Ｐ－４（径36cm×37cm，深さ54cm）の４本が対角線上に配される。Ｐ－５（径19cm×17cm，深さ9.2cm）・Ｐ－６（径44cm×42cm，深さ10.9cm）・Ｐ－７（径60cm×48cm，深さ10.9cm）を測る。カマドも炉も検出されなかった。遺存状態は良好で，火床部東側がよく焼けている。南壁東寄りの貯蔵穴は，径150cm×118cm，深さ22cmを測り，楕円形を呈する。

本住居跡から出土した遺物のうち坏２点，高坏１点，甕１点，玉２点，石製品２点，計８点を図示した。

１・２は土師器坏である。１は口縁部～体部１／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面丁寧なミガキ，内面ナデ。内外面赤彩。復元口径13.6cm，残存器高4.4cmを測る。２は口縁部～体部１／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩。法量は復元口径16.0cm，残存器高5.6cmを測る。

３は土師器高坏のミニチュアである。脚部のみ遺存する。外面ヘラケズリ，内面ヘラミガキ。内面黒色処理。法量は残存器高2.7cm，底径4.4cmを測る。

４は土師器甕である。口縁部～胴部１／３遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径14.8cm，残存器高14.8cmを測る。

５・６は打石である。５は長さ5.2cm，幅10.3cm，厚さ4.2cm，重量294.3gである。６は長さ8.2cm，幅10.5cm，厚さ4.1cm，重量530.6gを測る。

７・８は石製臼玉である。緑岩石と思われる。７は径0.3cm，厚さ0.35cm，孔径0.1cm，重量0.11gを測る。８は径0.6cm，厚さ0.4cm，孔径0.1cm，重量0.21gを測る。

Ｈ－074（第103図）

調査区西部に位置する。Ｍ－024に切られる。規模・形状ともに不明。壁高は約10cmを測る（東壁）。周溝は検出されなかった。

ピットは床面に２本検出された。主柱穴はＰ－１（径38cm×45cm，深さ51cm）・Ｐ－２（径38cm×45cm，深さ42cm）・Ｐ－３（径37cm×42cm，深さ22cm）を測る。カマドは検出されず，火床部が北壁に検出された。

Ｈ－076（第104図）

調査区西部に位置する。Ｈ－075，Ｄ－048，Ｄ－052と重複する。規模，形状はともに不明である。

覆土は撹乱が激しい。

周溝は，北東の隅のみ検出され，幅12cm，深さ３cmを測る。

ピットは床面に７本検出された。主柱穴はＰ－１（径57cm×60cm，深さ74cm）・Ｐ－２（径58cm×48cm，深さ50cm）・Ｐ－３（径83cm×60cm，深さ47cm）・Ｐ－４（径67cm×55cm，深さ48cm）の４本が対角線上に配される。また，Ｐ－５（径40cm×52cm，深さ10cm）・Ｐ－６（径57cm×59cm，深さ11cm）・Ｐ－７（径66cm×42cm）は補助柱穴と考えられる。カマドは検出されず，火床部が北壁寄りに検出された。

本住居跡から出土した遺物のうち坏２点を図示した。

１・２は土師器坏である。１は口縁部～底部１／２遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。体部上端内外面赤彩。法量は復元口径13.4cm，器高4.3cm，底部は丸底である。２は口縁部～底部４／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面体部上端赤彩。法量は口径12.9cm，器高5.6cm，底部は丸底である。

Ｈ－077（第103図）

調査区西部に位置する。Ｄ－047，Ｄ－049，Ｄ－050，Ｄ－053に切られる。規模は4.35m×4.35mを測り，形状は方形と思われる。

壁高は約16cmを測る（東壁）。周溝検出されなかった。

ピットは床面に11本検出された。主柱穴はＰ－１（径45cm×14.2cm，深さ14cm）・Ｐ－２（径45cm×16.8cm，深さ16cm）・Ｐ－３（径40cm×12.3cm，深さ13cm）・Ｐ－４（径50cm×17.0cm，深さ27cm）を測り，補助柱穴はＰ－５（径35cm×17cm，深さ18cm），Ｐ－６（径32cm×15cm，深さ15cm），Ｐ－７（径30cm×16cm，深さ16cm），Ｐ－８（径20cm×24cm，深さ24cm），Ｐ－９（径28cm×12.6cm，深さ13cm），Ｐ－10（径22cm×13.6cm，深さ14cm），Ｐ－11（径30cm×61cm，深さ21cm）を測る。カマドは検出されず，南の隅に貯蔵穴が検出され，径52cm×83cm，深さ27cmを測り，不整楕円形を呈する。

本住居跡から出土した遺物のうち坏３点，手捏２点，計５点を図示した。

１～３は土師器坏である。１は口縁部～底部１／２遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は復元口径8.8cm，器高4.1cm，復元底径3.2cmを測る。２は口縁部～底部２／３遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩（内面底部除く）。法量は口径14.9cm，器高5.1cm，底部は丸底である。３は口縁部～底部１／２遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は復元口径12.6cm，器高5.5cm，底部は丸底である。

４・５は手捏土器である。４はほぼ完形である。外面指頭痕，内面輪積痕あり。法量は口径5.5cm，器高6.1cm，底径4.0cmを測る。５はほぼ完形である。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面荒いヘラナデ。法量は口径8.8cm，器高6.1cm，底径3.0cmを測る。

Ｈ－078（第105・106図）

調査区西南部に位置する。Ｈ－079と重複する。規模は5.45m×5.55mを測り，形状は不整楕円形を呈する。

壁高は約40cmを測る（東壁）。周溝は北壁と東壁のみ検出し，幅30cm，深さ６cmを測る。

ピットは床面に５本検出された。主柱穴はＰ－１（径39cm×45cm，深さ28cm）・Ｐ－２（径44cm×38cm，深

さ21cm）・Ｐ－３（径39cm×43cm，深さ24cm）・Ｐ－４（径37cm×36cm，深さ36cm）の４本が対角線上に配され，Ｐ－５は（径44cm×51cm，深さ27cm）を測る。カマドは検出されず，炉が中央やや南よりに検出された。

本住居跡から出土した遺物のうち坏７点，甕３点，甑２点，手捏土器１点，支脚１点，玉１点，鉄製品１点，計16点を図示した。

１～７は土師器坏である。１は完形である。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩（内面体部下端除く），外面の赤彩は一部はげている。法量は口径14.1cm，器高4.8cm，底部は丸底である。２は完形である。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径13.5cm，器高5.1cm，底部は丸底である。３は口縁部～底部４／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径12.8cm，残存器高5.3cm，底部は丸底である。４は口縁部から底部３／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩（外面底部，内面体部下端除く）。法量は口径12.8cm，器高５cm，底部は丸底である。５は口縁部～底部１／２遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩（外面底部・内面体部下端除く）。法量は口径13.5cm，器高5.2cm，底部は丸底である。６は口縁部～底部１／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩（底部除く）。法量は復元口径14.0cm，残存器高4.3cm，底部は丸底である。７はほぼ完形である。ロクロ成形。底部回転糸切り。外面に「大」の墨書がある。法量は口径12.9cm，器高4.6cm，底径6.5cmを測る。

８は手捏土器である。ほぼ完形である。外面ヘラケズリ，内面ナデ，外面底部に木葉痕か。法量は口径6.4cm，器高2.5cm，底部は2.5cmを測る。

９～11は土師器甕である。９は底部１／５遺存する。外面ヘラケズリ，内面ナデ。残存器高2.2cm，底径8.0cmを測る。10は胴部～底部１／５である。外面ヘラケズリ，内面ナデ。残存器高5.3cm，底径6.0cmである。11は口縁部～胴部１／10遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は復元口径17.5cm，残存器高6.0cmである。

12・13は土師器甑である。12は口縁部～底部４／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径24.4cm，器高19.8cm，底径7.5cmを測る。13は口縁部～胴部１／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内面口縁部から頸部には輪積痕がみられる。法量は口径24.2cm，残存器高17.0cmを測る。

14は支脚である。長さ10.5cm，幅3.8cm，厚さ4.5cm，重量306.6gである。

15は釘である。長さ5.9cm，幅0.5cm，厚さ0.4cm，重量4.5gである。

16は土製管玉である。長さ2.7cm，径1.2cm，孔径0.1cm，重量4.9gである。

Ｈ－080（第106・107図）

調査区西部に位置する。Ｍ－037に切られる。規模は5.40m×5.09mを測り，形状は方形を呈する。

床面は中央一帯に硬化範囲が認められる。壁高は約40cmを測る（西壁）。周溝は，カマド部分，Ｍ－037に切られる部分を除き全周し，幅29cm，深さ５cmを測る。

ピットは床面に５本検出された。主柱穴はＰ－１（径27cm×23cm，深さ50cm）・Ｐ－２（径29cm×27cm，深さ45cm）・Ｐ－３（径32cm×31cm，深さ74cm）・Ｐ－４（径30cm×32cm，深さ74cm）の４本が対角線上に配され，カマドと正対して位置するＰ－５は（径25cm×28cm，深さ４cm）を測る。カマドは北壁中央に，炉は住居跡中央から検出された。併用していたようだが，炉は使用されなくなってからの期間が長いと考えられる。

本住居跡から出土した遺物のうち坏８点，高坏１点，甕２点，玉９点，計20点を図示した。

１～８は土師器坏である。１は完形である。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面口縁部ヨコナデ。法

量は口径13.8cm，器高5.2cm，底部は丸底である。２はほぼ完形である。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後ヘラミガキか，内面ナデ。内外面赤彩。法量は口径11.2cm，器高5.2cm，底部は丸底である。３はほぼ完形である。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径14.7cm，器高5.1cm，底部は丸底である。４は口縁部～底部４／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径14.8cm，残存器高5.7cmを測る。５は口縁部～底部１／３遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後ヘラナデ，内面ナデ。内外面赤彩。法量は復元口径12.9cm，器高4.0cm，底部は丸底である。６は口縁部～底部３／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径13.0cm，器高5.8cm，底部は丸底である。７は口縁部～体部１／２遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩。法量は口径17.8cm，残存器高5.1cmを測る。８は椀型坏で口縁部～底部４／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後ヘラナデ，内面ナデ。法量は口径11.8cm，器高8.8cm，底部は丸底である。

９は土師器高坏である。脚部１／３遺存する。脚部外面ヘラケズリ，裾部外面ヨコナデ。脚部内面ナデ。脚部下端赤彩。法量は残存器高7.1cm，復元底径10.2cmを測る。

10・11は土師器甕である。10は口縁部～胴部１／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径15.6cm，残存器高10.0cmを測る。11は胴部～底部１／４遺存する。外面ヘラケズリ，内面ナデ，輪積痕がみられる。法量は残存器高16.2cm，底径7.5cmを測る。

12～20は土玉である。12は完形である。径0.9cm，厚さ0.7cm，孔径0.1cm～0.2cm，重量0.6gを測る。13は完形である。径0.8cm，厚さ0.85cm，孔径0.1cm～0.2cm，重量0.6gを測る。14は完形である。径0.9cm，厚さ0.7cm，孔径0.15cm～0.2cm，重量0.6gを測る。15は完形である。径0.85cm，厚さ0.8cm，孔径0.15cm，重量0.8gを測る。16は完形である。径1.0cm，厚さ0.7cm，孔径0.2cm～0.3cm，重量0.8gを測る。17は完形である。径0.9cm，厚さ0.8cm，孔径0.1cm～0.3cm，重量0.8gを測る。18は完形である。径0.9cm，厚さ0.7cm，孔径0.1cm～0.2cm，重量0.6gを測る。19は完形である。径0.8cm，厚さ0.7cm，孔径0.2～0.3cm，重量0.6gを測る。20は完形である。径0.9cm，厚さ0.7cm，孔径0.1cm～0.2cm，重量0.6gを測る。

H－081（第107・108図）

調査区中央部に位置する。H－082，M－042，M－043に切られ，D－059，D－063と重複する。規模は不明。形状は方形と思われる。

床面は中央一帯に硬化範囲が認められる。壁高は約16cmを測る。周溝は切られた部分を除き全周し，幅21cm，深さ５cmを測る。

ピットは床面に５本検出された。主柱穴はP－１（径32cm×30cm，深さ43cm）・P－２（径32cm×33cm，深さ62cm）・P－３（径33cm×31cm，深さ38cm）・P－４（径30cm×31cm，深さ61cm）の４本が対角線上に配され，カマドと正対して位置するP－５は（径25cm×22cm，深さ18cm）を測る。カマドは西壁中央に検出され，H－082に切られる。南壁の東隅に貯蔵穴が検出され，径88cm×78cm，深さ43cmを測り，円形を呈する。

本住居跡から出土した遺物のうち坏４点，鉢２点，小甕１点，甕１点，甑１点，手捏土器１点，計10点を図示した。

１～４は土師器坏である。１は口縁部～底部２／３遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩。法量は口径12.8cm，器高5.5cm，底部は丸底である。２は口縁部～体部１／３遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩。法量は復元口径15.0cm，残存器高3.7cmを測る。３は口縁部～底部１／３遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩（外面体部下端除く）。法量は復元口径16.0cm，残存器高4.4cmを測る。

４は土師器椀型坏である。口縁部～底部２／３遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後ヘラナデ，内面ナデ，内外面赤彩（体部下端除く）。法量は口径12.4cm，器高9.2cmを測る。

５，６は土師器鉢である。５はほぼ完形である。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面荒いヘラナデ。内外面赤彩（体部下端除く）。法量は口径17.6cm，器高7.4cmを測る。６は口縁部～底部３／４遺存する。縦方向のヘラケズリ，底部横方向のヘラケズリ，内外面赤彩（胴部下端除く）。法量は口径16.1cm，器高11.9cm，底径5.8cmを測る。

７は土師器小型甕である。口縁部～胴部２／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリか（摩滅により詳細不明）。法量は口径12.3cm，器高9.0cmを測る。

８は土師器甑である。３／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面荒いヘラナデ。法量は口径22.8cm，器高16.0cm，底径5.5cmを測る。

９はほぼ完形の手捏土器である。内外面指頭痕。法量は口径4.9cm，器高2.6cmを測る。

10は須恵器甕である。頸部のみ１/10遺存する。ロクロ成形。頸部隆帯直下に櫛描き波状紋あり。

H－082（第108・109図）

調査区中央部やや西よりに位置する。H－081，H－083と重複する。規模は6.20m×6.19mを測り，形状は方形を呈する。

床面は全体に硬化範囲が認められる。壁高は約36cmを測る。周溝は，カマド部分を除き全周し，幅21cm，深さ６cmを測る。

ピットは床面に５本検出された。主柱穴はP－１（径45cm×42cm，深さ68cm）・P－２（径68cm×82cm，深さ64cm）・P－３（径41cm×73cm，深さ63cm）・P－４（径62cm×103cm，深さ89cm）の４本が対角線上に配され，カマドと正対して位置するP－５は（径49cm×45cm，深さ37cm）を測る。カマドは北壁中央に検出された。

本住居跡から出土した遺物のうち坏５点，甕１点，石製品１点，支脚１点，計８点を図示した。

１～５は土師器坏である。１はほぼ完形である。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩（体部下端除く）。法量は口径11.6cm，器高4.9cm，底部は丸底である。２は口縁部～底部３／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面体部ヘラケズリ。内面ナデ。内外面赤彩（体部下端除く）。法量は復元口径13.3cm，器高5.2cm，底部は丸底である。３は口縁部～底部１／３遺存する。口縁部ヨコナデ，体部ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩（底部除く）。法量は復元口径13.3cm，器高6.0cm，底部は丸底である。４は口縁部～底部１／２遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ヘラケズリ後ヘラナデ。内外面赤彩（外面体部下端除く）。法量は復元口径11.6cm，器高4.0cm，底部は丸底である。５は口縁部～底部１/10遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ヘラミガキ。法量は復元口径13.1cm，残存器高2.9cmを測る。

６は土師器甕である。口縁部～底部２／３遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径18.2cm，器高27.2cm，底径6.7cmを測る。

７は土製支脚である。長さ10.1cm，幅5.5cm，重量122.2gを測る。

８は砥石か。長さ11.0cm，幅8.0cm，厚さ1.3cm，重量は167.4gを測る。

H－083（第109・110・111図）

調査区中央部やや西よりに位置する。H－082，M－037に切られる。規模は5.50（推定）m×5.50mと推測できる。形状は方形と思われる。

廃屋後廃材を焼却処分している。焼土や炭を床面より検出した。

床面は中央一帯に硬化範囲が認められる。壁高は約30cmを測る。周溝は他遺構に切られる部分と南壁中央を除き，検出した。幅22cm，深さ７cmを測る。南壁の周溝は途中で断ち切れている。

ピットは床面に６本検出された。主柱穴はＰ－１（径36cm×33cm，深さ54cm）・Ｐ－２（径24cm×27cm，深さ23cm）・Ｐ－３（径34cm×31cm，深さ51cm）・Ｐ－４（径30cm×27cm，深さ70cm）・Ｐ－５（径35cm×34cm，深さ25cm）・Ｐ－６（径40cm×35cm，深さ52cm）を測る。カマドは北壁中央に検出された。南壁中央付近に検出された貯蔵穴は，径129cm×85cm，深さ37cmを測り，隅丸長方形を呈する。

本住居跡から出土した遺物のうち坏３点，高坏１点，小鉢１点，甕５点，甑２点，石製品１点，計13点を図示した。

１・２は土師器坏である。１は口縁部～底部３／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩。法量は復元口径14.9cm，器高5.5cmを測る。２は口縁部～体部２／３遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩（体部下端除く）。法量は復元口径12.9cm，残存器高5.5cmを測る。

３は土師器高坏である。坏部１／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ，内外面赤彩。この時期の高坏坏部の特徴が顕著に現れている。法量は復元口径15.5cm，残存器高7.8cmを測る。

４はほぼ完形の土師器小鉢である。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径8.2cm，器高5.0cm，底径4.0cmを測る。

５はほぼ完形の土師器コップ型坏である。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ，内面体部下端に輪積痕あり。法量は口径9.2cm，器高8.9cm，底径4.0cmを測る。

６～10は土師器甕である。６は口縁部のみ１／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面荒いヘラナデ。法量は口径15.7cm，残存器高6.1cmを測る。７は口縁部～底部１／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内面下端，器面斑状に剥落。法量は復元口径13.0cm，器高21.2cm，復元底径6.8cmを測る。８は口縁部～胴部１／３遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は復元口径16.2cm，残存器高24.0cmを測る。９は口縁部～胴部１／２遺存する。口縁部ヨコナデ外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径17.1cm，残存器高23.4cmを測る。10は口縁部～胴部１／３遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径20.8cm，残存器高19.9cmを測る。

11・12は土師器甑である。11は口縁部～底部３／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径25.7cm，器高28.6cm，底径7.0cmを測る。12は口縁部～胴部２／３遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径22.2cm，器高22.0cm，復元底径9.5cmを測る。

13は砥石である。長さ8.1cm，幅8.1cm，厚さ4.3cm，重量270.5gを測る。

Ｈ－084（第111図）

調査区西南部に位置する。規模は4.40（推定）m×3.65mを測り，形状は楕円形を呈する。

周溝は，東側を除いて検出した。幅16cm，深さ３cmを測る。

ピットは床面に１本検出された。主柱穴はＰ－１（径60cm×13.1cm，深さ20cm）を測る。

炉が住居跡中央，西よりに検出された。

Ｈ－085（第112図）

調査区西部に位置する。Ｈ－080，Ｈ－086，Ｍ－026と重複する。規模は5.25m×5.40mを測り，形状は方

形を呈する。

床面全体に貼っている。壁高は約30cmを測る。周溝はカマドと撹乱部分を除き全周し，幅19cm，深さ７cmを測る。

ピットは床面に５本検出された。主柱穴はＰ－１（径34cm×68cm，深さ58cm）・Ｐ－２（径39cm×38cm，深さ54cm）・Ｐ－３（径50cm×61cm，深さ57cm）・Ｐ－４（径68cm×52cm，深さ52cm）の４本が対角線上に配され，カマドと正対して位置するＰ－５は（径不明×30cm，深さ10cm）を測る。カマドは北西壁中央に検出された。火床部はよく焼けている。

本住居跡から出土した遺物のうち，甕１点，支脚１点，計２点を図示した。

１は土師器甕である。１／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は復元口径17.0cm，残存器高5.6cmを測る。

２は土製支脚である。現存長10.7cm，幅8.0cm，厚さ7.5cm，重量715.6gを測る。

Ｈ－086（第113図）

調査区西部に位置する。Ｈ－087，Ｈ－088，Ｈ－089，Ｈ－091と重複する。規模は8.00m×7.90mを測り，形状は方形であろう。

廃屋後廃材を焼却処分している。床面は全体に硬化範囲が認められる。壁高はほとんどない。周溝は切られた部分を除いて検出され，幅19cm，深さ６cmを測る。

ピットは床面に４本検出された。主柱穴はＰ－１（径53cm×63cm，深さ75cm）・Ｐ－２（径58cm×54cm，深さ90cm）・Ｐ－３（径52cm×53cm，深さ60cm）・Ｐ－４（径57cm×64cm，深さ88cm）の４本が対角線上に配される。カマドは西壁中央北よりに検出された。

本住居跡から出土した遺物のうち，坏３点，鉢１点，甕２点，支脚１点，玉２点，計９点を図示した。

１～３は土師器坏である。１は口縁部～底部１／２遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩（体部下端除く）。法量は口径14.4cm，残存器高5.0cmを測る。２は口縁部～底部１／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後ヘラナデ，内面ナデ。内外面赤彩（外面体部・内面体部下端除く）。法量は復元口径14.0cm，器高4.6cm，底部は丸底である。３は口縁部～底部２／３遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩（体部下端除く）。法量は口径14.1cm，器高6.0cm，底径4.8cmを測る。

４は土師器鉢である。口縁部～体部１／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ヘラケズリ，内外巻上痕遺す。法量は復元口径19.1cm，残存器高8.8cmを測る。

５・６は土師器甕である。５は胴部～底部１／２遺存する。外面ヘラケズリ，内面ヘラケズリ後ヘラナデ。法量は残存器高12.0cmを測る。６は口縁部１／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は復元口径18.8cm，残存器高7.4cmを測る。

７は土製支脚である。長さ15.4cm，幅5.0cm，厚さ5.4cm，重量542.8gを測る。

８・９は土玉である。８は径0.8cm，厚さ0.6cm，孔径0.2cm，重量も0.2gである。９は径1.2cm，厚さ0.8cm，孔径0.1cm～0.3cm，重量1.22gである。

Ｈ－087（第112図）

調査区西部に位置する。Ｈ－080，Ｈ－085，Ｈ－086，Ｈ－088，Ｈ－089，Ｍ－037と重複する。規模は6.10m×6.30mを測り，形状は方形であろう。

床面は全体に貼っている。壁高はほとんどない。周溝は，重複部分を除いて検出され，幅17cm，深さ４cmを測る。

ピットは床面に５本検出された。主柱穴はＰ－１（径40cm×30cm，深さ53cm）・Ｐ－２（径33cm×35cm，深さ76cm）・Ｐ－３（径50cm×55cm，深さ57cm）・Ｐ－４（径37cm×43cm，深さ62cm）の４本が対角線上に配され，Ｐ－５は（径31cm×30cm，深さ36cm）を測る。カマドも炉もは検出されず，東壁中央に貯蔵穴が検出され，径92cm×70cm，深さ19cmを測り，楕円形を呈する。周辺の住居では一番古いと思われる。

本住居跡の遺物は，小片であったため図示できなかった。

Ｈ－088（第114図）

調査区西部に位置する。Ｈ－089，Ｄ－072と重複する。規模は5.15m×5.15mを測り，形状は方形を呈する。

床面は全体に硬化面がみられる。壁高は20cmを測る。周溝はカマド部分を除き全周し，幅22cm，深さ４cmを測る。

ピットは床面に７本検出された。主柱穴はＰ－１（径62cm×52cm，深さ77cm）・Ｐ－２（径43cm×65cm，深さ70cm）・Ｐ－３（径66cm×65cm，深さ78cm）・Ｐ－４（径47cm×69cm，深さ62cm）の４本が対角線上に配され，カマドと正対して位置するＰ－５は（径34cm×26cm，深さ９cm）を測る。Ｐ－６（径35cm×24cm，深さ17cm）・Ｐ－７（径27cm×35cm，深さ14cm）は用途不明。カマドは北壁中央に検出された。Ｐ－２から周溝に向かって１条の間仕切り溝が東西に走る。北壁東寄りの貯蔵穴は，径70cm×64cm，深さ46.7cmを測り，隅丸方形を呈する。

本住居跡から出土した遺物のうち坏６点，高坏２点，甕１点，玉２点，計11点を図示した。

１～４は土師器坏である。１は３／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩（外面底部・内面体部除く）。法量は口径14.1cm，器高5.3cm，底部は丸底である。２はほぼ完形である。口縁部ヨコナデ，外面ヘラ削り，内面ナデ。法量は口径14.9cm，器高3.8cm，底部は丸底である。３は口縁部～底部１／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は復元口径13.6cm，残存器高3.5cmを測る。４は体部～底部３／４遺存する。外面体部下端ヘラケズリ，法量は残存器高4.0cm，底部は丸底で小型である。

５は椀型坏である。口縁部～底部１／２遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。外面赤彩（下端除く）。法量は復元口径8.2cm，残存器高6.6cmを測る。

６は須恵器坏である。１／５遺存する。ロクロ成形。口縁部内面に返りがつく。法量は残存器高2.7cmを測る。

７・８は土師器高坏である。７は坏部の一部と脚部上端のみである。外面ヘラケズリ後ヘラナデ。内面ナデ。坏部黒色処理。法量は残存器高3.0cmを測る。８は坏部の一部と脚部のみである。坏部・脚部外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は残存器高6.9cmを測る。

９は土師器甕である。１／３遺存する。外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は残存器高10.2cmを測る。

10，11は土製勾玉である。10は長さ2.0cm，幅0.8cm，厚さ0.7cm，孔径0.2cm，重量1.79gを測る。11は長さ2.0cm，幅0.9cm，厚さ0.8cm，重量1.49gを測る。

Ｈ－089（第115図）

調査区西部に位置する。Ｈ－086，Ｈ－088，Ｈ－090，Ｍ－037と重複する。規模は7.50（推定）m×7.50mを推測し，形状は方形と思われる。

周溝は，重複部分とカマド部分を除いて全周し，幅25cm，深さ５cmを測る。

ピットは床面に４本検出された。主柱穴はＰ－１（径50cm×65cm，深さ63cm）・Ｐ－２（径67cm×75cm，深さ47cm）・Ｐ－３（径50cm×45cm，深さ52cm）・Ｐ－４（径60cm×不明，深さ55cm）の４本が対角線上に配される。周溝に沿って補助柱穴15本を検出した。Ｐ－５（径25cm×不明，深さ７cm）・Ｐ－６（径20cm×不明，深さcm）・Ｐ－７（径26cm×不明，深さ22cm）・Ｐ－８（径28cm×不明，深さ11cm）・Ｐ－９（径20cm×不明，深さ８cm）・Ｐ－10（径15cm×14cm，深さ９cm）・Ｐ－11（径27cm×20cm，深さ７cm）・Ｐ－12（径25cm×不明，深さ８cm）・Ｐ－13（径21cm×24cm，深さ12cm）・Ｐ－14（径15cm×不明，深さ９cm）・Ｐ－15（径30cm×不明，深さ８cm）・Ｐ－16（径32cm×不明，深さ４cm）・Ｐ－17（径35cm×不明，深さ７cm）・Ｐ－18（径36cm×不明，深さ３cm）・Ｐ－19（径20cm×不明，深さ５cm）を測る。カマドは北壁中央に検出された。

本住居跡から出土した遺物のうち坏３点，蓋１点，手捏１点，玉１点，計６点を図示した。

１～３は土師器坏である。１はほぼ完形。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ヘラミガキ。法量は口径12.3cm，器高4.7cm，底部は丸底である。２は口縁部欠損４／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリおよびヘラミガキ，口縁部内面ヨコナデ後ヘラミガキ，法量は口径14.4cm，器高5.0cm，底部は丸底である。３は口縁部１／４遺存する。口縁部外面ヨコナデ後ヘラミガキ，内面ヨコナデ後ヘラミガキ。法量は復元口径14.7cm，残存器高3.0cmを測る。

４は須恵器蓋である。天井部～口縁部１／10遺存する。ロクロ成形。法量は復元口径13.0cm，残存器高4.4cmを測る。

５は手捏土器である。１／４遺存する。全体に指頭痕が顕著である。法量は復元口径5.8cm，残存器高2.5cmを測る。

６は土玉である。径0.9cm，厚さ0.5cm，孔径0.2cm，重量0.4gである。

Ｈ－090（第116図）

調査区南西部に位置する。Ｍ－037，Ｄ－062，Ｄ－084，Ｄ－085，Ｄ－087，Ｄ－088と重複する。規模は6.60m×6.40（推定）ｍと推測し，形状は方形と思われる。

周溝は断続的に検出され，幅23cm，深さ４cmを測る。

ピットは床面に４本検出された。主柱穴はＰ－１（径56cm×44cm，深さ62cm）・Ｐ－２（径28cm×24cm，深さ30cm）・Ｐ－３（径45cm×51cm，深さ96cm）・Ｐ－４（径41cm×44cm，深さ63cm）の４本が対角線上に配される。炉が西壁寄りに２基検出された。

本住居跡から出土した遺物のうち坏１点と甕片１点，計２点を図示した。

１は土師器坏である。口縁部～底部２／３遺存する。外面ヘラケズリ後体部ヘラナデ，内面ナデ。内外面赤彩。法量は口径15.2cm，器高5.9cm，底部は丸底である。

２は土師器甕の底部片である。外面ヘラケズリ後ヘラナデ，内面ナデ。法量は残存器高2.1cm，底径4.9cmを測る。

Ｈ－091（第117図）

調査区西部に位置する。Ｈ－086，Ｈ－088，Ｈ－089，Ｄ－112と重複する。規模は5.50m×5.80mと推測し，形状は方形と思われる。

床面はカマド前面から中央部にかけて硬化範囲が認められる。周溝は断続的に検出され，幅18cm，深さ３cmを測る。

ピットは床面に５本検出された。主柱穴はＰ－１（径42cm×47cm，深さ69cm）・Ｐ－２（径65cm×53cm，深さ87cm）・Ｐ－３（径61cm×52cm，深さ85cm）・Ｐ－４（径55cm×60cm，深さ83cm）の４本が対角線上に配され，カマドと正対して位置するＰ－５は（径25cm×22cm，深さ15cm）を測る。カマドは北西壁中央に検出された。

本住居跡から出土した遺物のうち坏２点，甕２点，小甕１点，玉２点，計７点を図示した。

１，２は土師器坏である。１は口縁部～底部２／３遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩（体部下端除く）。法量は復元口径12.4cm，器高5.5cm，底部は丸底である。２は口縁部欠損４／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩（底部除く）。法量は口径14.4cm，器高5.1cm，底部は丸底である。

３は土師器小型甕である。胴部～底部１／５遺存する。外面ヘラケズリ，内面ナデ。外面器面剥離。法量は残存器高8.5cm，底径4.6cmを測る。

４，５は土師器甕である。４は口縁部～胴部１/10遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径14.0cm，残存器高8.0cmを測る。５は口縁部～胴部１／３遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は復元口径16.8cm，残存器高14.7cmを測る。

６，７は土玉である。６は径0.9cm，厚さ0.6cm，孔径0.1cm～0.3cm，重量0.56gを測る。７は径0.9cm，厚さ0.7cm，孔径0.15cm，重量0.5gを測る。

種子２点は写真のみの掲載である。

Ｈ－092（第118・119図）

調査区西部に位置する。Ｄ－068，Ｄ－113，Ｄ－119，Ｄ－120，Ｄ－121，Ｄ－122と重複する。規模は5.50m×5.10mを測り，形状は方形を呈する。

床面は中央一帯に硬化範囲が認められる。壁高は約26cmを測る（東壁）。周溝は重複部分とカマド部分を除き全周し，幅21cm，深さ５cmを測る。

ピットは床面に４本検出された。主柱穴はＰ－１（径42cm×38cm，深さ66cm）・Ｐ－２（径30cm×32cm，深さ56cm）・Ｐ－３（径22cm×25cm，深さ61cm）・Ｐ－４（径37cm×42cm，深さ60cm）の４本が対角線上に配される。カマドは北西壁中央に検出された。

本住居跡から出土した遺物のうち坏５点，鉢１点，高坏１点，小甕１点，甕１点，甑１点，玉１点，石製品１点，軽石１点，計13点を図示した。

１～５は土師器坏である。１は口縁部一部欠損しているがほぼ完形。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩（外面体部下端を除く）。法量は口径12.8cm，器高5.0cm，底部は丸底である。２は口縁部～底部１／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩。法量は復元口径13.6cm，残存器高4.4cmを測る。３は口縁部～底部１／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩（外面底部除く）。法量は復元口径13.8cm，残存器高5.6cm，底部は丸底である。４は１／２遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩。法量は復元口径13.9cm，器高5.4cm，底部は丸底である。５は口縁部～底部２／３遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩（外面体部下端除く）。法量は復元口径13.7cm，器高5.3cm，底部は丸底である。

６は土師器鉢である。口縁部～胴部１／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩。法量は復元口径13.8cm，残存器高4.3cmを測る。

７は土師器高坏である。脚部１／５遺存する。内外面ヘラケズリ。外面赤彩。法量は残存器高4.8cmを測る。

８は土師器小型甕である。口縁部～底部２／３遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径12.8cm，器高16.5cm，底径6.1cmを測る。

９は土師器甕である。口縁部～底部４／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径14.4cm，器高27.3cm，底径5.5cmを測る。

10はほぼ完形の土師器甑である。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径18.8cm，器高22.5cm，底径7.0cmを測る。

11は土製支脚である。長さ9.1cm，幅6.5cm，重量161.2gを測る。

12は軽石である。長さ9.7cm，幅8.5cm，厚さ6.0cm，重量116.0gを測る。

13は石製の臼玉である。径0.55cm，厚さ0.4cm，孔径0.2cm，重量0.1gを測る。

Ｈ－093（第120・121図）

調査区中央部に位置する。Ｈ－081，Ｈ－094，Ｍ－032，Ｍ－042と重複する。規模は6.63m×6.35mを測り，形状は不整方形を呈する。

覆土は４層に分層され，人為的に埋め戻されている。

床面は全体に硬化範囲が認められる。壁高は約40cmを測る（西壁）。周溝はほぼ全周し，幅24cm，深さ３cmを測る。

ピットは床面に７本検出された。主柱穴はＰ－１（径30cm×35cm，深さ70cm）・Ｐ－２（径38cm×25cm，深さ71cm）・Ｐ－３（径38cm×34cm，深さ82cm）・Ｐ－４（径30cm×38cm，深さ79cm）の４本が対角線上に配され，カマドと正対して位置するＰ－５（径30cm×28cm，深さ28cm）・Ｐ－６（径30cm×25cm，深さ９cm），Ｐ－３とＰ－４の間のＰ－７（径32cm×31cm，深さ40cm）を測る。カマドは北壁中央に検出された。本住居跡中央より土玉が多量に検出された。

本住居跡から出土した遺物のうち坏７点，鉢１点，甕１点，手捏土器２点，支脚１点，石製品３点，玉21点，計36点を図示した。

１～７は土師器坏である。１は完形。口縁部ヨコナデ，ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ。内外面赤彩。法量は口径10.6cm，器高4.8cm，底部は丸底である。２は完形。口縁部ヨコナデ，ヘラケズリ後ナデ，内面ナデか（中心部剥離で不明）。内外面赤彩（底部除く）。法量は口径10.9cm，器高5.2cm，底部は丸底である。３は口縁部～底部１／３遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩。法量は復元口径10.4cm，残存器高5.1cmを測る。４は口縁部～体部１／６遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩（内面下端除く）。法量は復元口径13.6cm，残存器高5.0cmを測る。５は１／２遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩（体部下端除く）。法量は復元口径14.0cm，器高5.2cm，底部は丸底である。６は１／２遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ。内外面赤彩（内面底部除く）。法量は復元口径14.2cm，器高4.2cm，底部は丸底である。７は口縁部～体部１／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は復元口径12.8cm，残存器高3.9cmを測る。

８は土師器鉢である。胴部～底部１／５遺存する。外面ヘラケズリ，内面荒れていて調整不明。法量は残存器高7.8cmを測る。

９は土師器甕である。口縁部～胴部１/10遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は復元口径14.8cm，残存器高8.5cmを測る。

10・11は手捏土器である。10は口縁部一部欠損しているがほぼ完形。指頭痕あり。法量は口径3.9cm，器高1.4cmを測る。11は口縁部～底部４／５遺存する。指頭痕あり。法量は口径5.5cm，器高3.1cmを測る。

12は土製支脚である。長さ7.3cm，幅6.2cm，厚さ3.2cm，重量135.2gを測る。

13・14は軽石である。13は長さ3.8cm，幅4.9cm，厚さ2.0cm，重量6.0gを測る。14は長さ4.7cm，幅4.6cm，厚さ4.3cm，重量26.0gである。

15は石製紡錘車の完形である。径3.4cm，厚さ1.5cm，孔径0.8cm，重量25.0gを測る。

16～35は土玉である。16は径0.7cm，厚さ0.4cm，孔径0.2cm，重量0.1gを測る。17は径0.8cm，厚さ0.4cm，孔径0.1cm～0.2cm，重量0.2gを測る。18は径0.7cm，厚さ0.5cm，孔径0.2cm，重量0.2gを測る。19は径0.8cm，厚さ0.5cm，孔径0.2cm，重量0.3gを測る。20は径0.8cm，厚さ0.5cm，孔径0.2cm，重量0.2gを測る。21は径0.8cm，厚さ0.7cm，孔径0.2cm，重量0.4gを測る。22は径0.8cm，厚さ0.6cm，孔径0.2cm，重量0.3gを測る。23は径0.8cm，厚さ0.7cm，孔径0.1cm～0.2cm，重量0.4gを測る。24は径0.9cm，厚さ0.7cm，孔径0.2cm～0.3cm，重量0.4gを測る。25は径0.9cm，厚さ0.6cm，孔径0.2cm，重量0.5gを測る。26は径0.8cm，厚さ0.7cm，孔径0.2cm，重量0.4gを測る。27は径0.9cm，厚さ0.5cm，孔径0.2cm，重量0.3gを測る。28は径0.9cm，厚さ0.7cm，孔径0.3cm，重量0.3gを測る。29は径0.9cm，厚さ0.6cm，孔径0.2cm～0.3cm，重量0.5gを測る。30は径1.0cm，厚さ0.7cm，孔径0.1cm～0.2cm，重量0.4gを測る。31は径1.0cm，厚さ0.7cm，孔径0.2cm，重量0.5gを測る。32は径0.9cm，厚さ0.7cm，孔径0.2cm，重量0.5gを測る。33は径1.0cm，厚さ0.7cm，孔径0.2cm，重量0.4gを測る。34は径1.2cm，厚さ0.8cm，孔径0.1cm～0.3cm，重量0.8gを測る。35は径1.3cm，厚さ1.0cm，孔径0.2cm～0.3cm，重量1.16gを測る。36は土製勾玉である。長さ2.8cm，厚さ0.9cm，孔径0.2cm～0.3cm，重量5.1gを測る。

H－094（第119図）

調査区南西部に位置する。H－093，M－032，M－037と重複する。規模は不明×5.50mを測り，形状は方形と思われる。

床面はD－225付近一部を除いて硬化範囲が認められる。壁高は約50cmを測る（北壁）。周溝は，西壁一部を検出し，幅24cm，深さ５cmを測る。

ピットは床面に２本検出された。主柱穴はP－１（径30cm×25cm，深さ34cm）・P－２（径30cm×34cm，深さ38cm）を測る。カマドも炉も検出されなかった。

本住居跡から出土した遺物のうち，手捏土器１点，甕１点，計２点を図示した。

１は手捏土器の高坏か。脚部１／２遺存する。指頭痕あり。法量は残存器高2.9cm，底径4.8cmを測る。

２は土師器甕である。口縁部～胴部片である。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は復元口径19.8cm，残存器高6.5cmを測る。

H－095（第122図）

調査区西南部に位置する。規模は5.00m×5.60mを測り，形状は方形を呈する。

覆土は５層に分層され，廃屋後廃材を焼却処分した後，人為的に埋め戻されている。

床面は中央一帯に硬化範囲が認められる。壁高は約40cmを測る。周溝は南東側を除き，ほぼ全周し，幅25cm，深さ５cmを測る。

ピットは床面に４本検出された。主柱穴はP－１（径19cm×21cm，深さ42cm）・P－２（径34cm×29cm，深さ25cm）・P－３（径30cm×32cm，深さ15cm）・P－４（径80cm×95cm，深さ24cm）の４本が対角線上に配される。カマドは破壊されてはいるが西壁中央より検出された。

本住居跡から出土した遺物のうち坏３点，甕２点，玉４点，支脚１点，計10点を図示した。

１～３は土師器坏である。１はほぼ完形である。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデか（赤彩のため単位方向不明）。内外面赤彩（外面体部下端除く）。法量は口径9.5cm，器高5.8cm，底部は丸底である。２は口縁部～底部３／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩（内面底部除く）。法量は口径13.0cm，器高8.3cm，底部は丸底である。３は口縁部～体部１／３遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ。内面ナデ。内外面赤彩。法量は口径15.2cm，残存器高5.0cmを測る。

４・５は土師器甕である。４は胴部～底部１／５遺存する。外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は残存器高6.5cm，底径7.2cmを測る。５は口縁部～胴部１／３遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径13.8cm，残存器高10.5cmを測る。

６は土製支脚である。法量は長さ13.5cm，幅7.3cm，重量634.3gを測る。

７・８は石製臼玉である。７は緑岩石製である。径0.5cm，厚さ0.5cm，孔径0.2cm，重量0.1gを測る。８は緑岩石製である。径0.8cm，厚さ0.8cm，孔径0.3cm，重量0.4gを測る。

９・10は土玉である。９は径0.8cm，厚さ1.0cm，孔径0.1cm，重量0.6gを測る。10は径1.0cm，厚さ0.4cm，孔径0.2cm，重量0.1gを測る。

Ｈ－096（第123図）

調査区南西部に位置する。規模は不明，形状は方形と思われる。

壁高は約40cmを測る。周溝は，調査区外にかかるため北壁，東壁部分のみ検出され，幅22cm，深さ２cmを測る。

ピットは床面に２本検出された。主柱穴はＰ－１（径45cm×55cm，深さ25cm）・Ｐ－２（径35cm×39cm，深さ41cm）を測る。補助柱穴はＰ－３（径50cm×50cm，深さ20cm）を測る。カマドは北壁に検出された。火床部はよく焼けている。

本住居跡から出土した遺物のうち坏２点，甕２点，鉄製品１点，計５点を図示した。

１は須恵器坏である。体部～底部１／３遺存する。ロクロ成形。体部下端から底部は手持ちヘラケズリ。法量は残存器高2.0cm，底径7.5cmを測る。

２は須恵器坏である。口縁部から体部１／５遺存する。ロクロ成形，法量は復元口径14.0cm，残存器高1.8cmを測る。

３・４は土師器甕である。３は口縁部～底部１／２遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ（器面はかなり荒れている），内面ナデ。法量は復元口径20.4cm，残存器高29.2cm，底径12cmを測る。

４は口縁部～胴部１／10遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面は荒れていて調整痕不明。法量は口径15.1cm，残存器高6.2cmを測る。

５は鉄製鎌の刃部である。推測長さ19.0cm，現存幅1.8cm～3.3cm，厚さ0.3cm，重量51.0gを測る。

Ｈ－102（第123・124図）

調査区中央南部に位置する。Ｍ－040と重複する。規模は5.00m×4.70mを測り，形状は方形を呈する。

覆土は７層に分層され，人為的に埋め戻されている。

床面は全体に硬化範囲が認められる。壁高は約76cmを測る。周溝は，カマド部分を除き全周し，幅28cm，深さ３cmを測る。

ピットは床面に５本検出された。主柱穴はＰ－１（径91cm×75cm，深さ45cm）・Ｐ－２（径53cm×65cm，深さ69cm）・Ｐ－３（径67cm×72cm，深さ42cm）・Ｐ－４（径41cm×39cm，深さ59cm）の４本が対角線上に配さ

れ，カマドと正対して位置するＰ－５は（径45cm×42cm，深さ59cm）を測る。カマドは北壁中央に検出された。

本住居跡から出土した遺物のうち坏２点，甕１点，玉１点，鉄製品１点，計５点を図示した。

１，２は土師器坏である。１は１／２遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径13.6cm，器高3.4cm，底部は丸底である。２は１／３遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ヘラミガキ。法量は口径15.1cm，器高6.0cm，底部は丸底である。

３は土師器甕である。底部１／10遺存する。外面ヘラケズリ，内面剥離で調整不明。法量は残存器高3.8cm，底径9.5cmを測る。

４は土玉である。径1.1cm，厚さ0.7cm，孔径0.2cm，重量0.4gを測る。

５は鉄鏃の茎の一部分である。現存長3.3cm，幅0.5cm，厚さ0.3cm，重量3.0gを測る

Ｈ－105（第124図）

調査区中央南部に位置する。Ｄ－215に切られる。規模は6.70m×6.40mを測り，形状は方形を呈する。

覆土は廃屋後，柱内などを除き焼却し，その後人為的に埋め戻されている。

床面は全体に硬化範囲が認められる。壁高は約40cmを測る。周溝は，南東，南西の隅とカマド部分を除き，ほぼ全周し，幅21cm，深さ５cmを測る。

ピットは床面に４本検出された。主柱穴はＰ－１（径38cm×43cm，深さ81cm）・Ｐ－２（径39cm×41cm，深さ81cm）・Ｐ－３（径30cm×31cm，深さ85cm）・Ｐ－４（径43cm×33cm，深さ95cm）の４本が対角線上に配される。カマドは東壁中央より南よりに検出された。

本住居跡から出土した遺物のうち坏３点，玉１点，計４点を図示した。

１～３は土師器坏。１は口縁部～体部１／２遺存。外面ヘラケズリ，内面ナデ後ミガキ。内外面赤彩（体部下端除く）法量は復元口径13.6cm，残存器高5.0cmを測る。２は完形，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径15cm，器高5.8cmを測る。３は口縁部～底部１／２遺存。外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩。法量は復元口径16.0cm，器高4.9cmを測る。

４は土玉である。径1.1cm，厚さ0.9cm，孔径0.2cm，重量1.04gを測る。

Ｈ－106（第125図）

調査区南西部に位置する。Ｈ－103，Ｈ－108，Ｈ－109，Ｍ－032と重複する。規模は5.54m×5.70mを測り，形状は方形を呈する。

覆土は２層に分層され，人為的に埋め戻されている。

周溝は，重複部分を除き全周し，幅18cm，深さ４cmを測る。

ピットは床面に４本検出された。主柱穴はＰ－１（径45cm×32cm，深さ58cm）・Ｐ－２（径30cm×29cm，深さ63cm）・Ｐ－３（径30cm×32cm，深さ66cm）・Ｐ－４（径33cm×40cm，深さ76cm）の４本が対角線上に配される。炉が西壁寄りに検出された。周溝から主柱穴に向かって３条の間仕切り溝が東西に走る。

本住居跡から出土した遺物のうち坏１点，鉢１点，鉄製品１点，計３点を図示した。

１は土師器椀型坏である。口縁部～底部１／４を遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩（内面体部除く）。法量は復元口径11.8cm，残存器高6.9cmを測る。

２は土師器鉢である。口縁部～胴部１／４を遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩（内面胴部除く）。法量は復元口径14.4cm，残存器高4.6cmを測る。

３は鉄鏃である。現存長3.1cm，幅2.4cm，厚さ0.4cm，重量2.80cmを測る。

H－107（第126図）

調査区中央南部に位置する。H－101，H－102，M－040と重複する。規模は4.75m×4.40（推定）mを測り，形状は方形と思われる。

覆土は４層に分層され，廃屋後廃材を焼却処分した後，人為的に埋め戻されている。

床面は中央一帯に硬化範囲が認められる。壁高は約30cmを測る（東壁）。周溝は，重複部分を除き全周し，幅25cm，深さ３cmを測る。

ピットは床面に５本検出された。主柱穴はP－１（径41cm×40cm，深さ47cm）・P－２（径42cm×44cm，深さ54cm）・P－３（径31cm×33cm，深さ55cm）・P－４（径44cm×35cm，深さ49cm）の４本が対角線上に配され，P－５は（径26cm×31cm，深さ55cm）を測る。

本住居跡から出土した遺物のうち土師器坏４点を図示した。

１は土師器坏で完形。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデか（内面剥離で調整不明）。法量は口径14.0cm，器高5.6cm，底部丸底である。２はほぼ完形。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面は剥離で調整不明。法量は口径14.3cm，器高6.2cm，底部は丸底である。３は口縁部～底部４／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径14.1cm，器高7.5cm，底部は丸底である。４はほぼ完形。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径16.5cm，器高7.4cm，底部は丸底である。

H－110（第127・128図）

調査区中央部に位置する。H－111，H－112，M－001，M－008，D－204と重複する。規模は7.50m×7.50mを測り，形状は方形を呈する。

床面の硬化範囲は認められない。周溝は，重複部分とカマド部分を除き全周し，幅14cm，深さ６cmを測る。

ピットは床面に４本検出された。主柱穴はP－１（径47cm×46cm，深さ60cm）・P－２（径43cm×39cm，深さ100cm）・P－３（径42cm×44cm，深さ86cm）・P－４（径45cm×55cm，深さ91cm）の４本が対角線上に配される。カマドは北壁中央に検出された。東南壁寄りに貯蔵穴が検出され，径118cm×84cmを測り，楕円形を呈する。

本住居跡から出土した遺物のうち坏２点，甕１点，甑２点，玉１点，石１点，支脚１点，計８点を図示した。

１，２は土師器坏である。１は口縁部～底部１／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩（体部下端除く）。法量は復元口径14.0cm，器高4.6cm，底部は丸底である。２は口縁部～体部１／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩法量は復元口径15.0cm，残存器高4.6cmを測る。

３は土師器甕である。口縁部～胴部１／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は復元口径12.6cm，残存器高7.5cmを測る。

４・５は土師器甑である。４は口縁部～底部１／２遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は復元口径25.0cm，器高21.7cm，底径6.8cmを測る。５は口縁部～胴部３／８遺存する。外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は復元口径26.0cm，残存器高20.9cmを測る。

６は土製支脚である。現存長12.9cm，幅7.6cm，厚さ7.2cm，重量415.4gを測る。

７は石器である。現存長3.8cm，幅4.4cm，厚さ3.5cm，重量79.3gを測る。

８は土玉である。径0.8cm，厚さ0.8cm，孔径0.2cm，重量0.5gを測る。

H－111（第128図）

調査区中央部に位置する。H－110，M－008と重複する。規模は4.70（推定）m×4.70（推定）mを測り，形状は方形と思われる。

廃屋後廃材を焼却処分している。周溝は，南壁と東壁のみ検出され，幅14cm，深さ２cmを測る。

ピットは床面に４本検出された。主柱穴はP－１（径21cm×22cm，深さ27cm）・P－２（径40cm×37cm，深さ78cm）・P－３（径28cm×29cm，深さ74cm）・P－４（径30cm×25cm，深さ78cm）の４本が対角線上に配される。東壁寄りに貯蔵穴が検出され，径75cm×63cm，深さ27cmを測り，円形を呈する。

本住居跡から出土した遺物のうち，高坏１点，手捏土器１点，計２点を図示した。

１は土師器高坏である。坏部１／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリおよびヘラミガキ，内面ナデ。法量は復元口径13.0cm，残存器高4.5cmを測る。

２は手捏土器である。１／４遺存する。指頭痕あり。法量は復元口径6.0cm，器高4.0cm，底径3.3cmを測る。

H－114（第129図）

調査区東南部に位置する。規模は1.50（推定）m×2.40（推定）mを測り，形状は方形と思われる。

周溝は，西壁と南壁の一部を検出し，幅10cm，深さ２cmを測る。

ピットは床面に３本検出された。主柱穴はP－２（径40cm×43cm，深さ47cm）・P－４（径40cm×15cm，深さ79cm）を検出し，カマドと正対する位置にあるP－５は（径50cm×49cm，深さ15cm）を測る。

本住居跡から出土した遺物のうち坏５点，甕１点，鉢１点，甑２点，玉１点，計10点を図示した。

１～４は土師器坏である。１は口縁部～底部４／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩（外面下端除く）。法量は口径14.0cm，器高4.5cm，底部は丸底である。２は口縁部～底部１／２遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は復元口径13.4cm，残存器高4.6cmを測る。３はほぼ完形。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩。法量は口径14.5cm，器高4.2cm，底部は丸底である。４は口縁部～体部１／４遺存する。外面体部ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩。法量は復元口径15.0cm，残存器高3.6cmを測る。

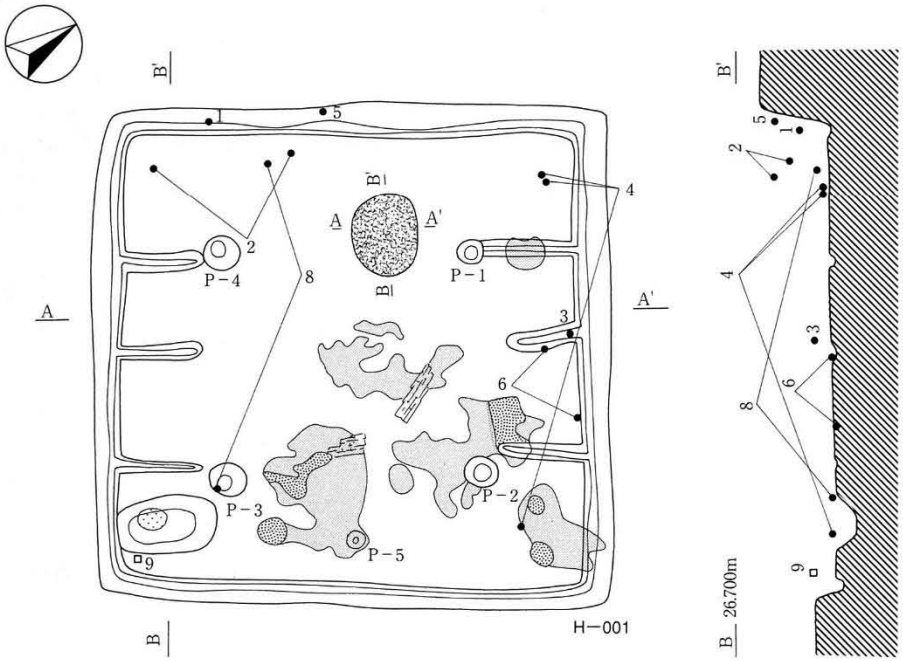
５は土師器椀型坏である。口縁部～体部１／４遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。内外面赤彩（外面体部下端・内面底部除く）。法量は復元口径13.0cm，器高8.0cm，底部は丸底である。

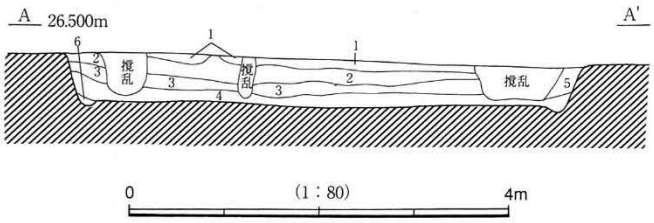
６は土師器鉢である。１／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は復元口径24.0cm，残存器高7.3cmを測る。

７は土師器甕である。底部欠損で４／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径15.6cm，残存器高25.5cmを測る。

８・９は土師器甑である。８はほぼ完形である。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径24.8cm，器高23.1cm，底径7.0cmを測る。９は口縁部～底部４／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径32.0cm，器高19.4cm，底径7.2cmを測る。

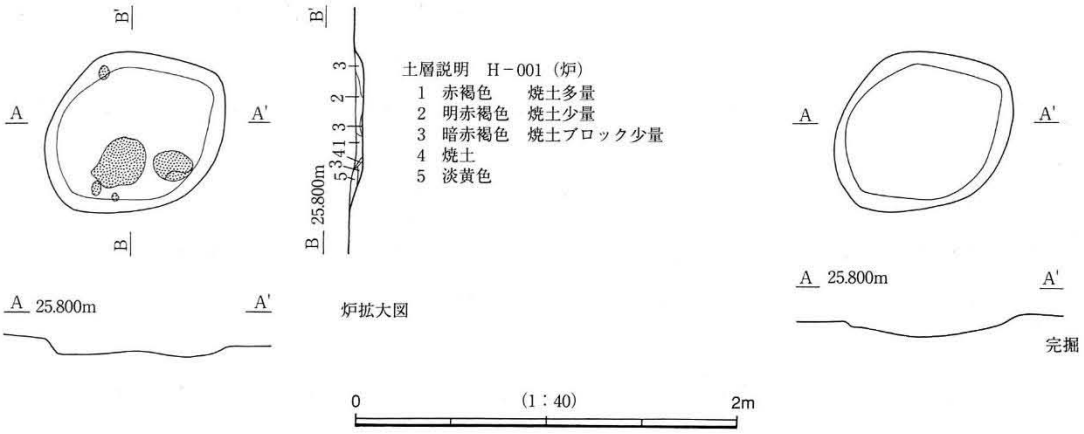
10は土玉である。径1.2cm，厚さ0.9cm，孔径0.3cm～0.4cm，重量1.3gを測る。



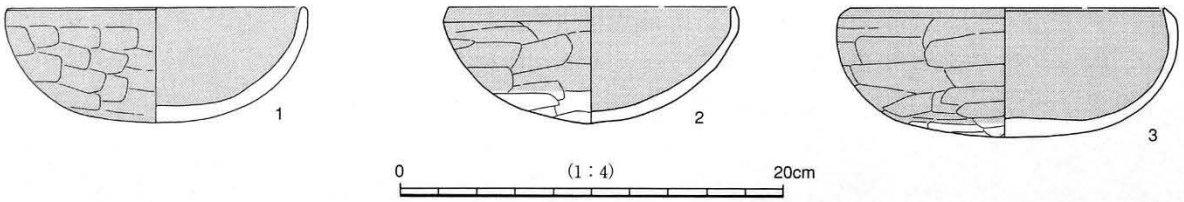

土層説明　H－001

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 暗色 | ローム粒少量 |
| 2 | 暗褐色 | ローム粒・ロームブロック少量 |
| 3 | 明茶褐色 | ローム粒子・ロームブロック少量、締まり有り |
| 4 | 褐色 | ロームブロック・炭化物少量、締まり有り |
| 5 | 褐色 | ロームブロック（中粒）少量 |
| 6 | 黄褐色 | ロームブロック（中粒）適当量、褐色土混入 |

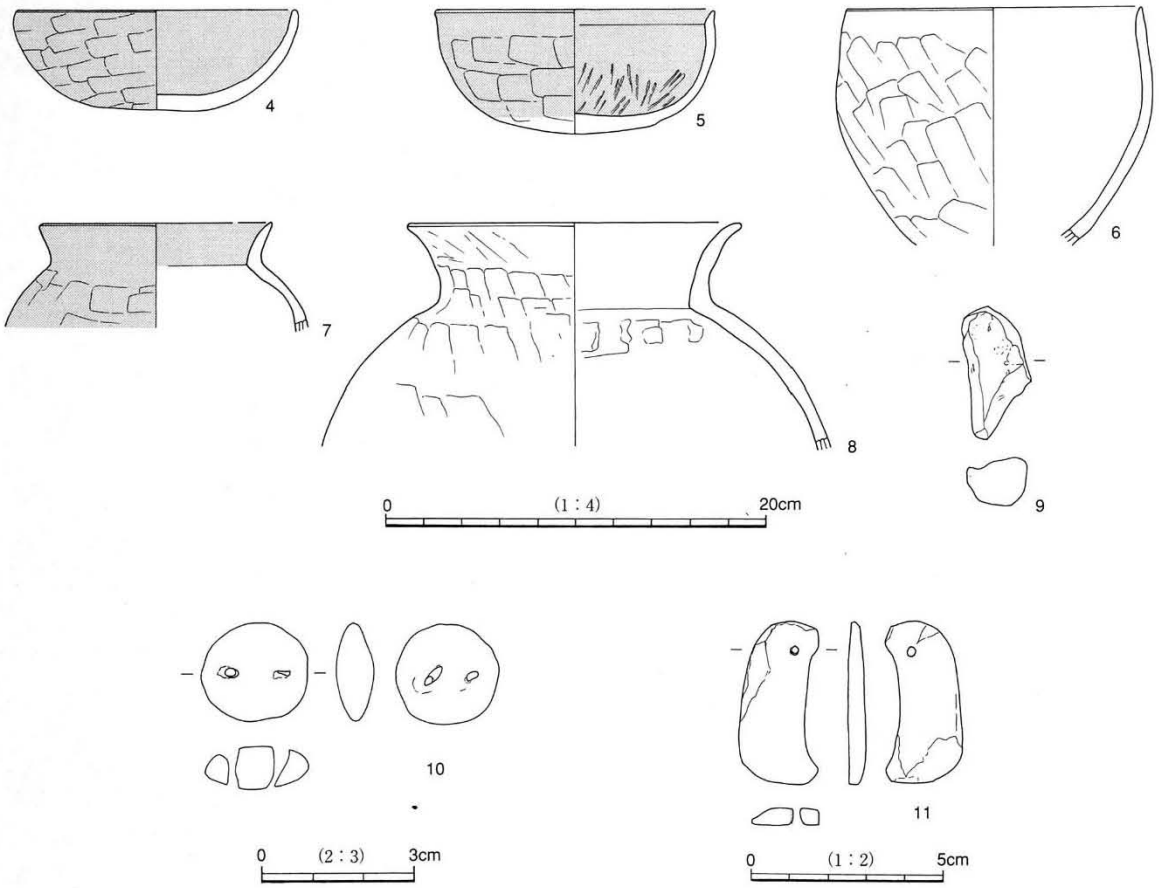



土層説明　H－001（炉）

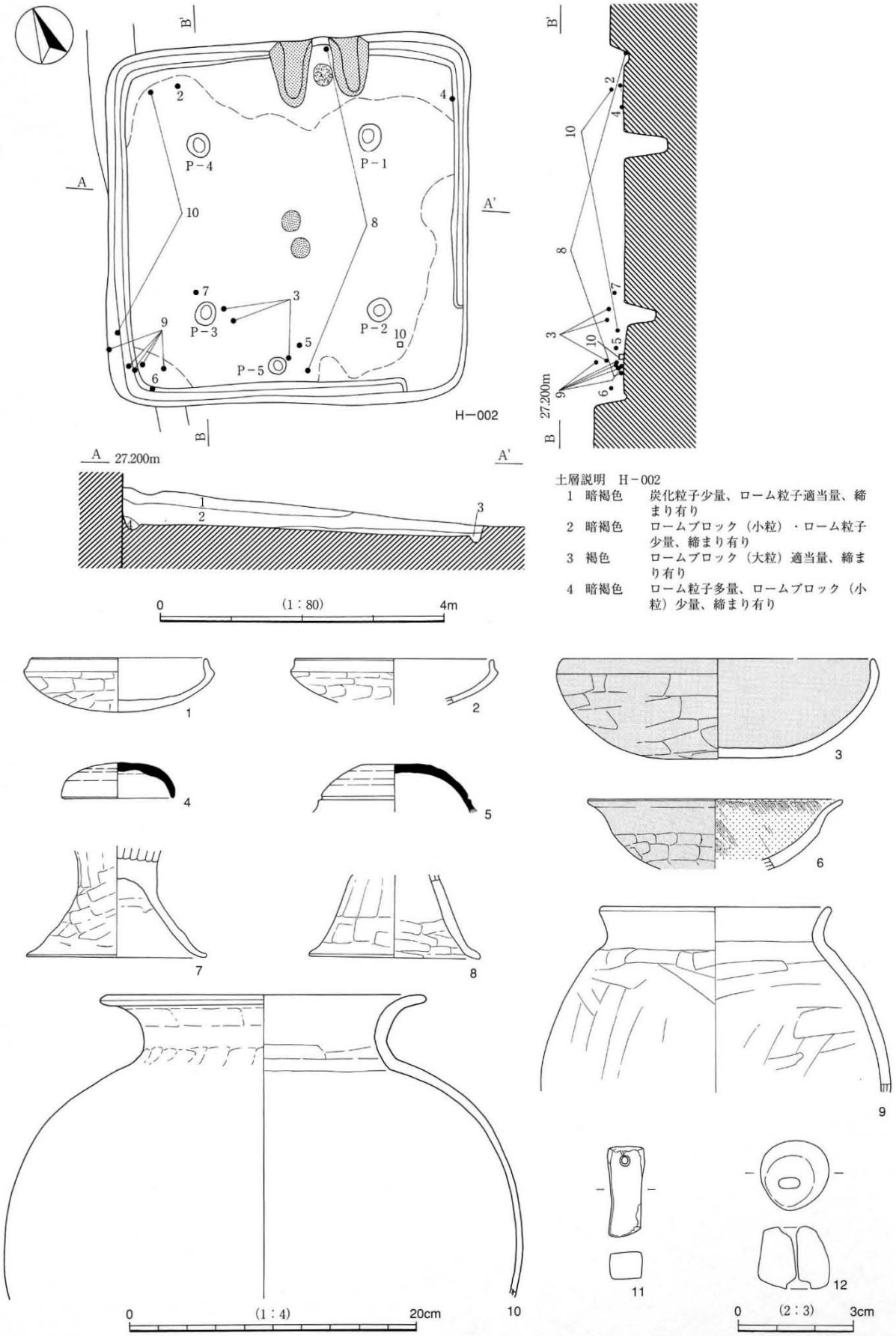
| | | |
|---|---|---|
| 1 | 赤褐色 | 焼土多量 |
| 2 | 明赤褐色 | 焼土少量 |
| 3 | 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量 |
| 4 | 焼土 | |
| 5 | 淡黄色 | |




第40図　H－001実測図・出土遺物（１）



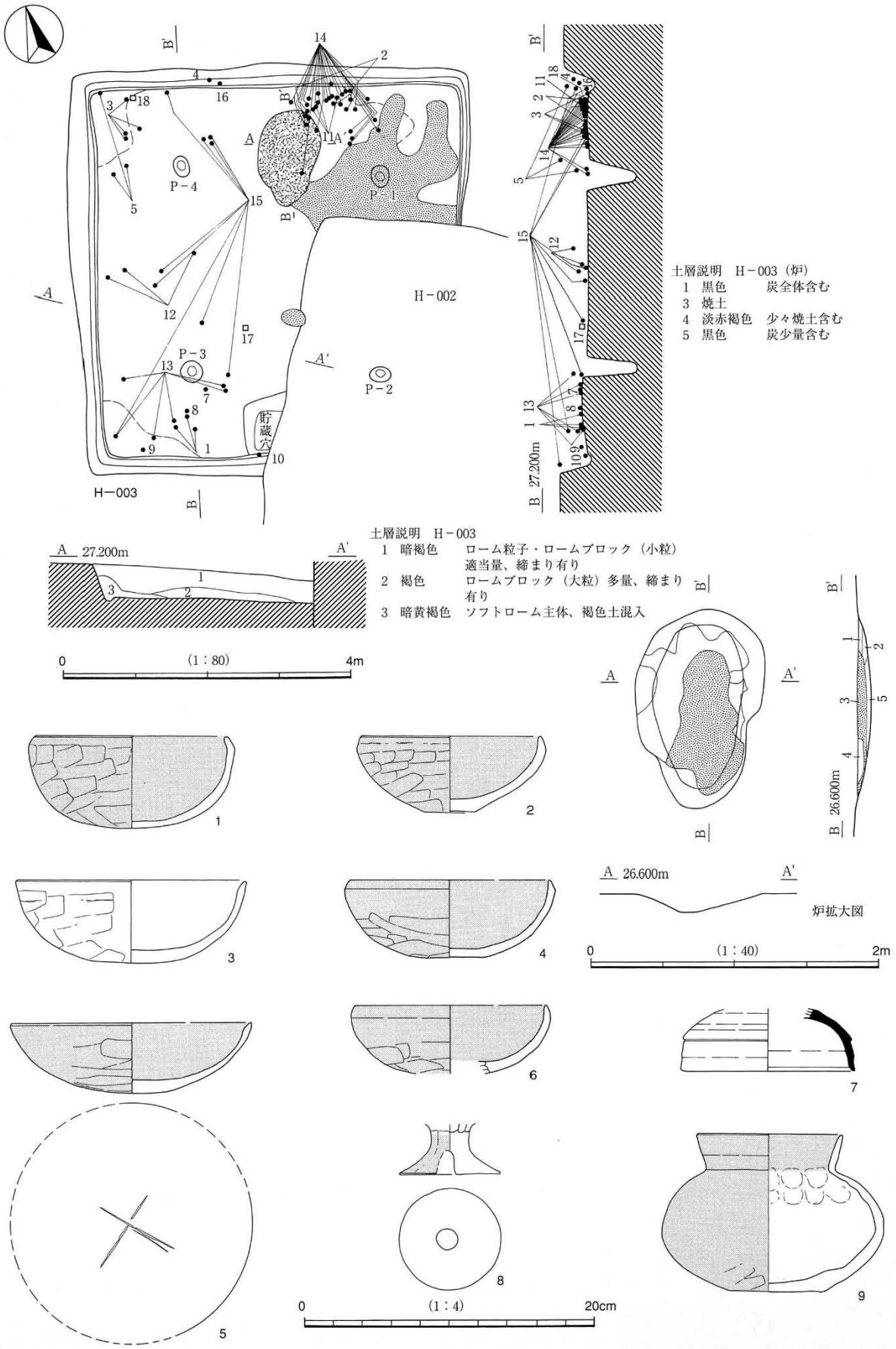

第41図　Ｈ－001出土遺物（２）



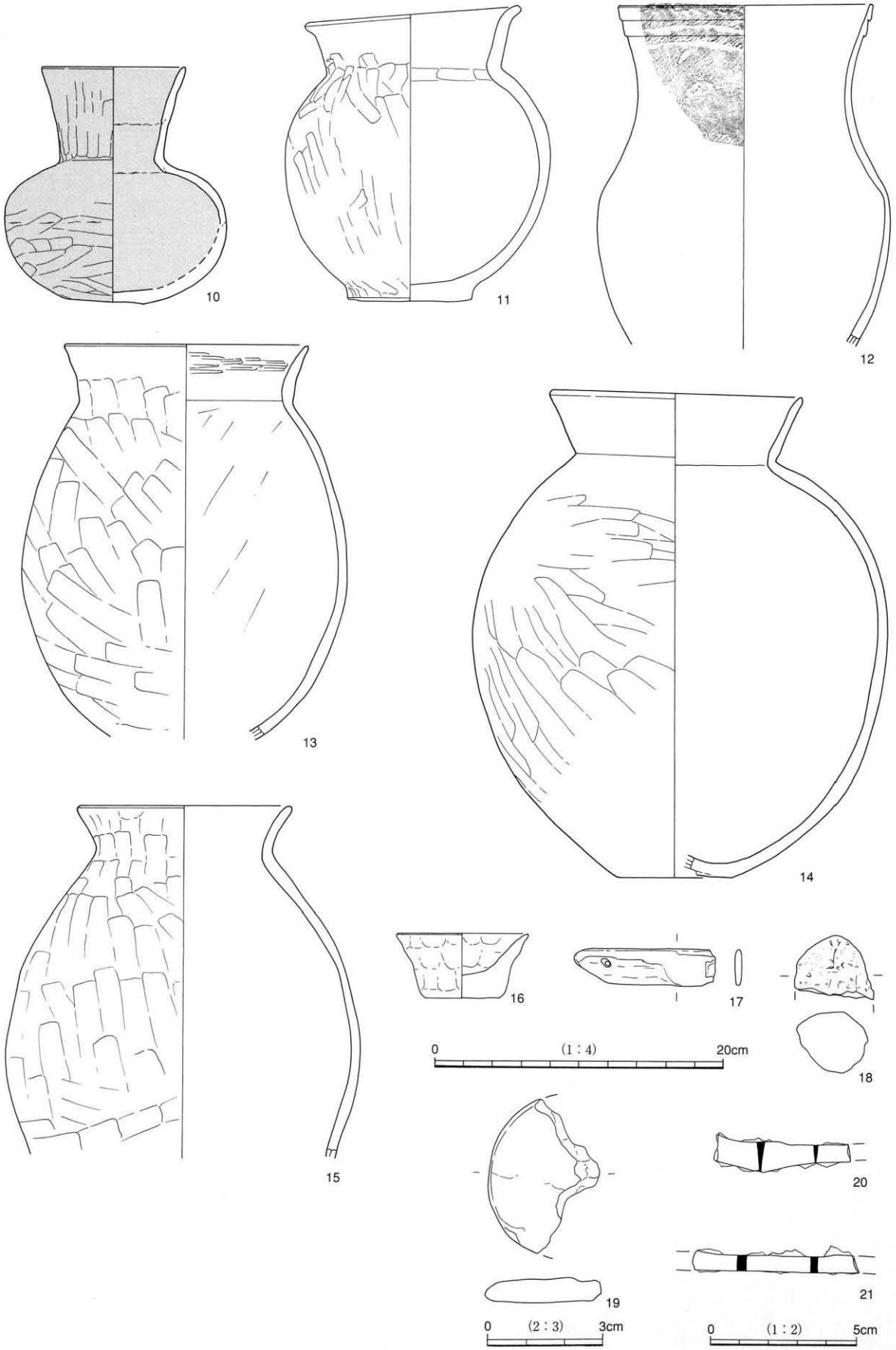

土層説明　H－002

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 暗褐色 | 炭化粒子少量、ローム粒子適当量、締まり有り |
| 2 | 暗褐色 | ロームブロック（小粒）・ローム粒子少量、締まり有り |
| 3 | 褐色 | ロームブロック（大粒）適当量、締まり有り |
| 4 | 暗褐色 | ローム粒子多量、ロームブロック（小粒）少量、締まり有り |

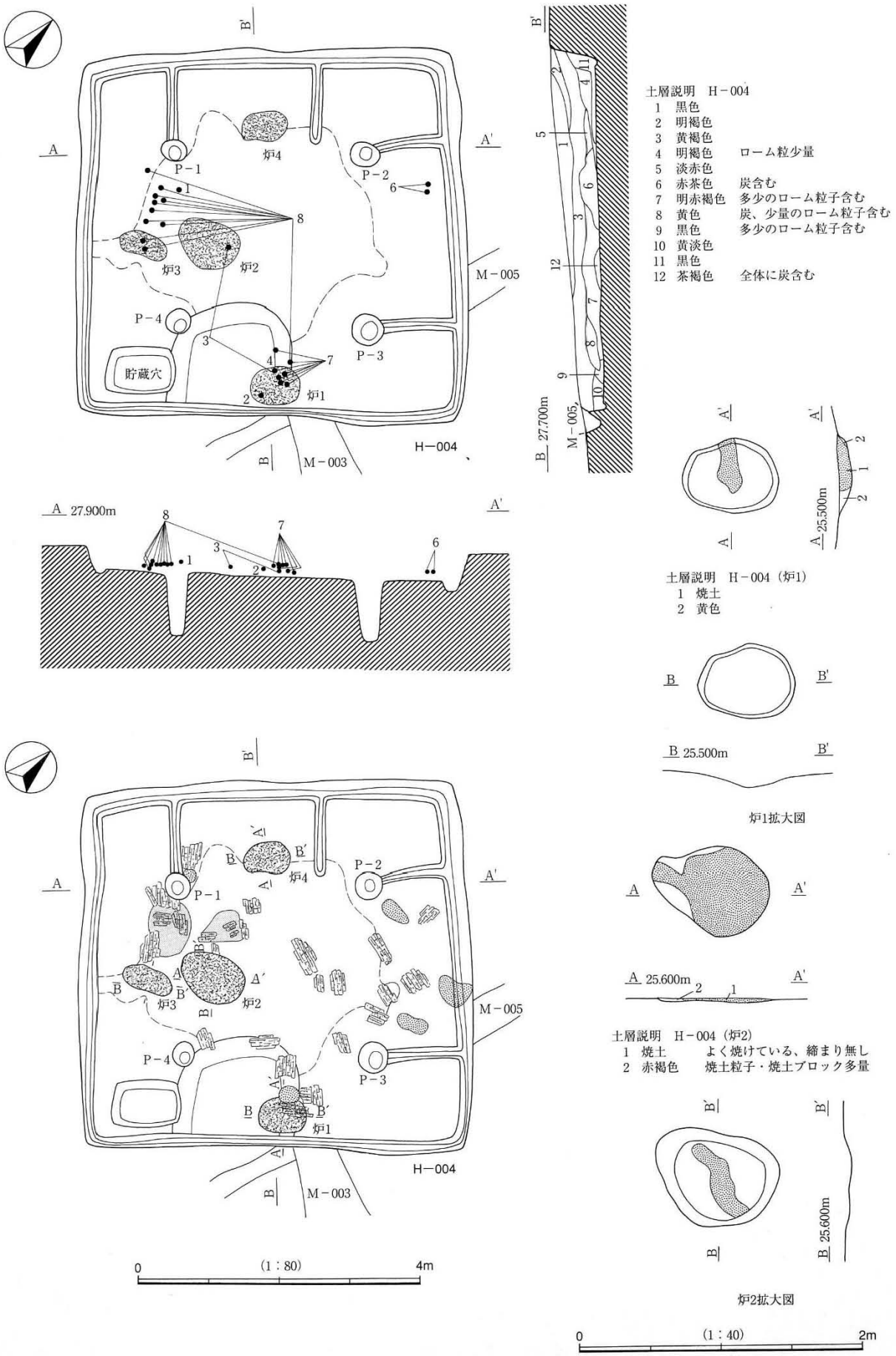
第42図　H－002実測図・出土遺物



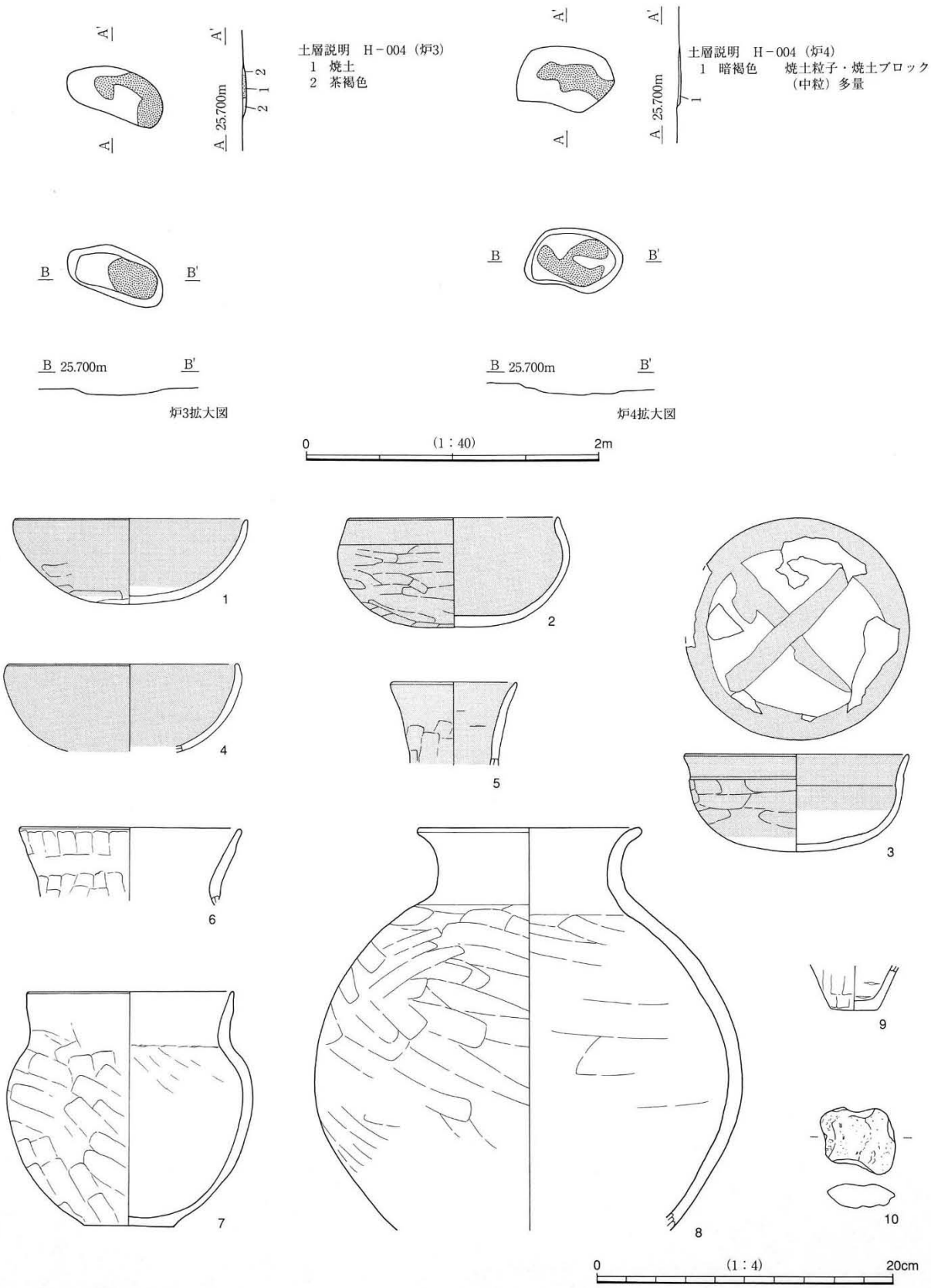

第43図　H－003実測図・出土遺物（1）



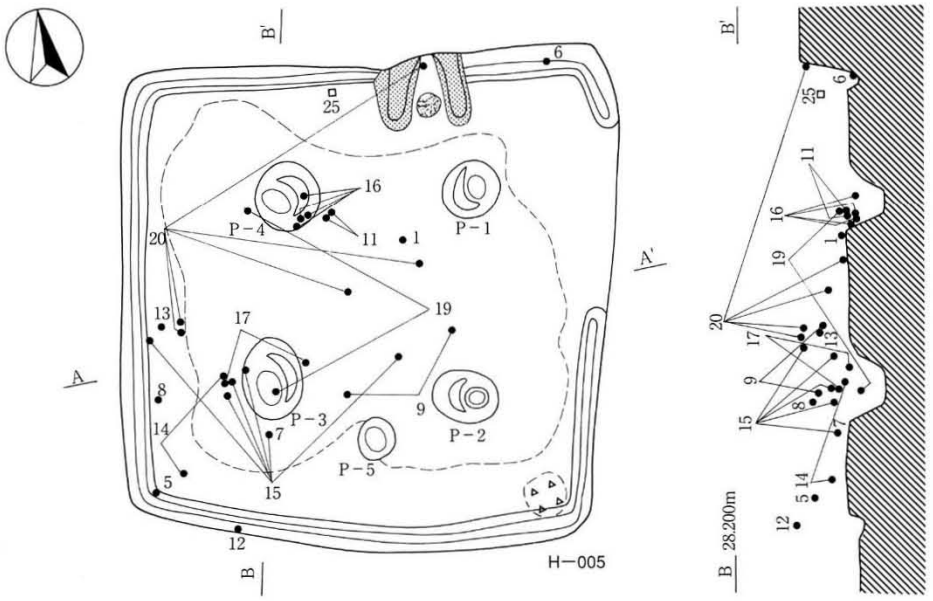

第44図　Ｈ－003出土遺物（２）

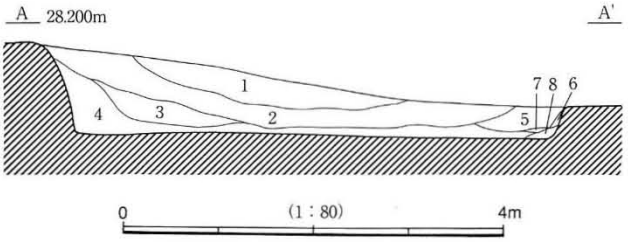



第45図　H－004実測図（1）



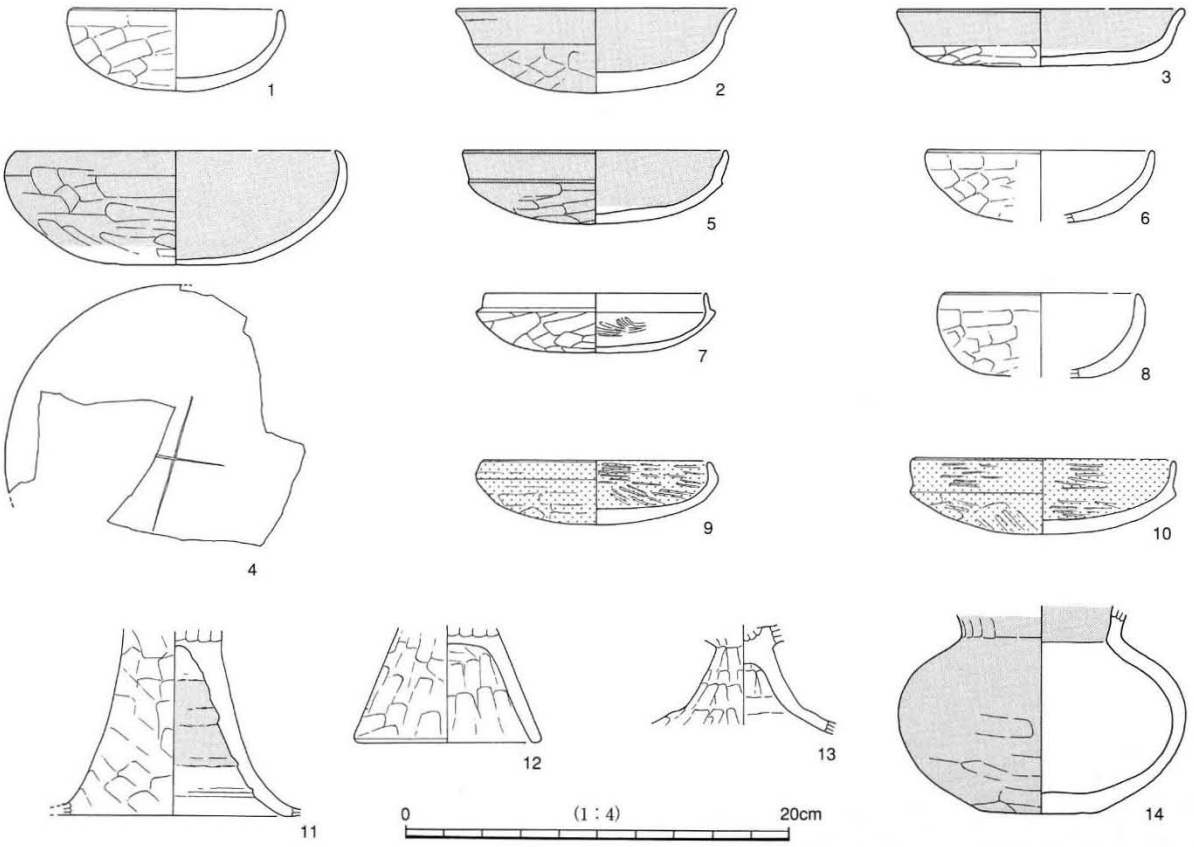

第46図　Ｈ－004実測図（２）・出土遺物



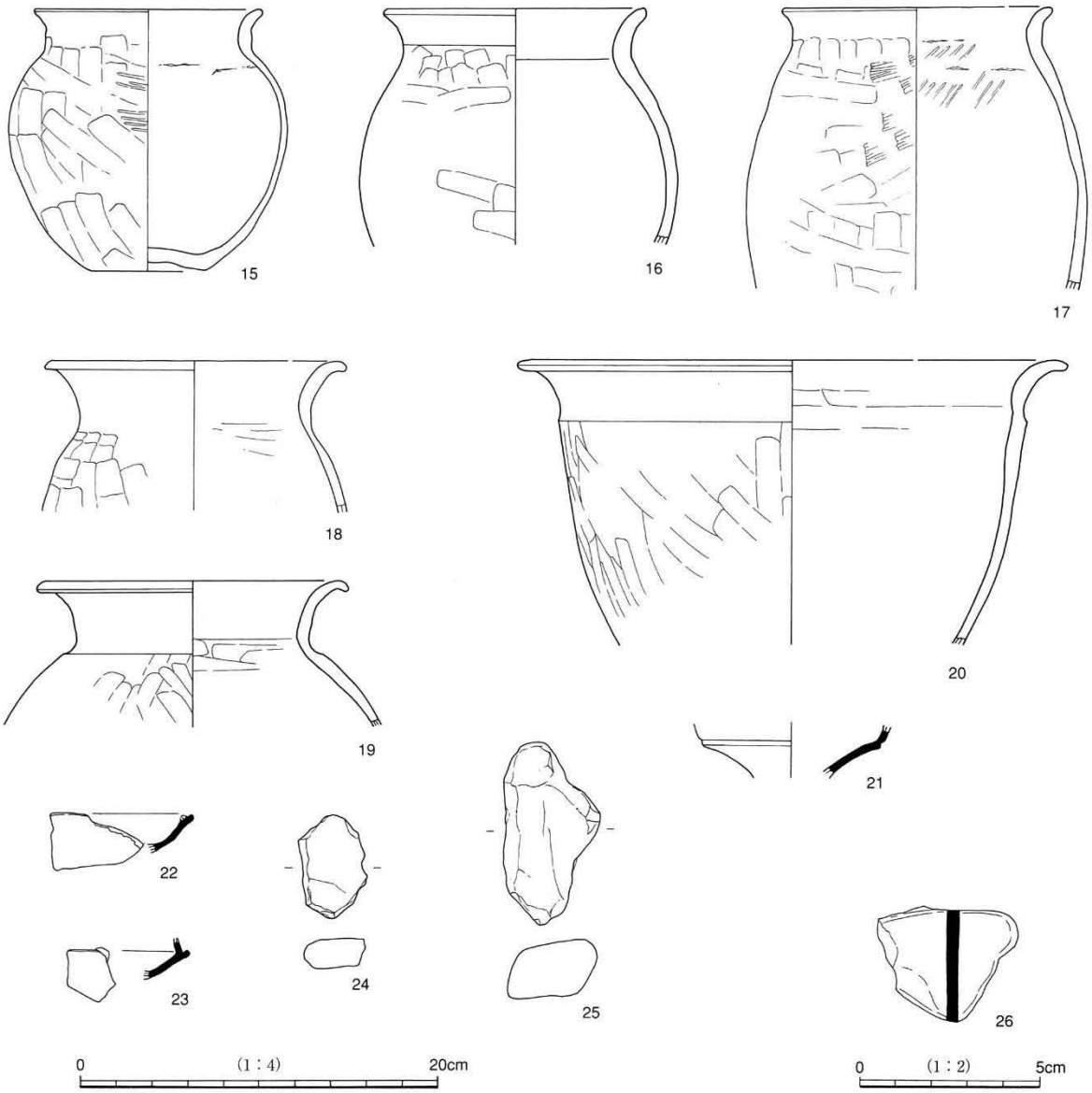




土層説明　H－005

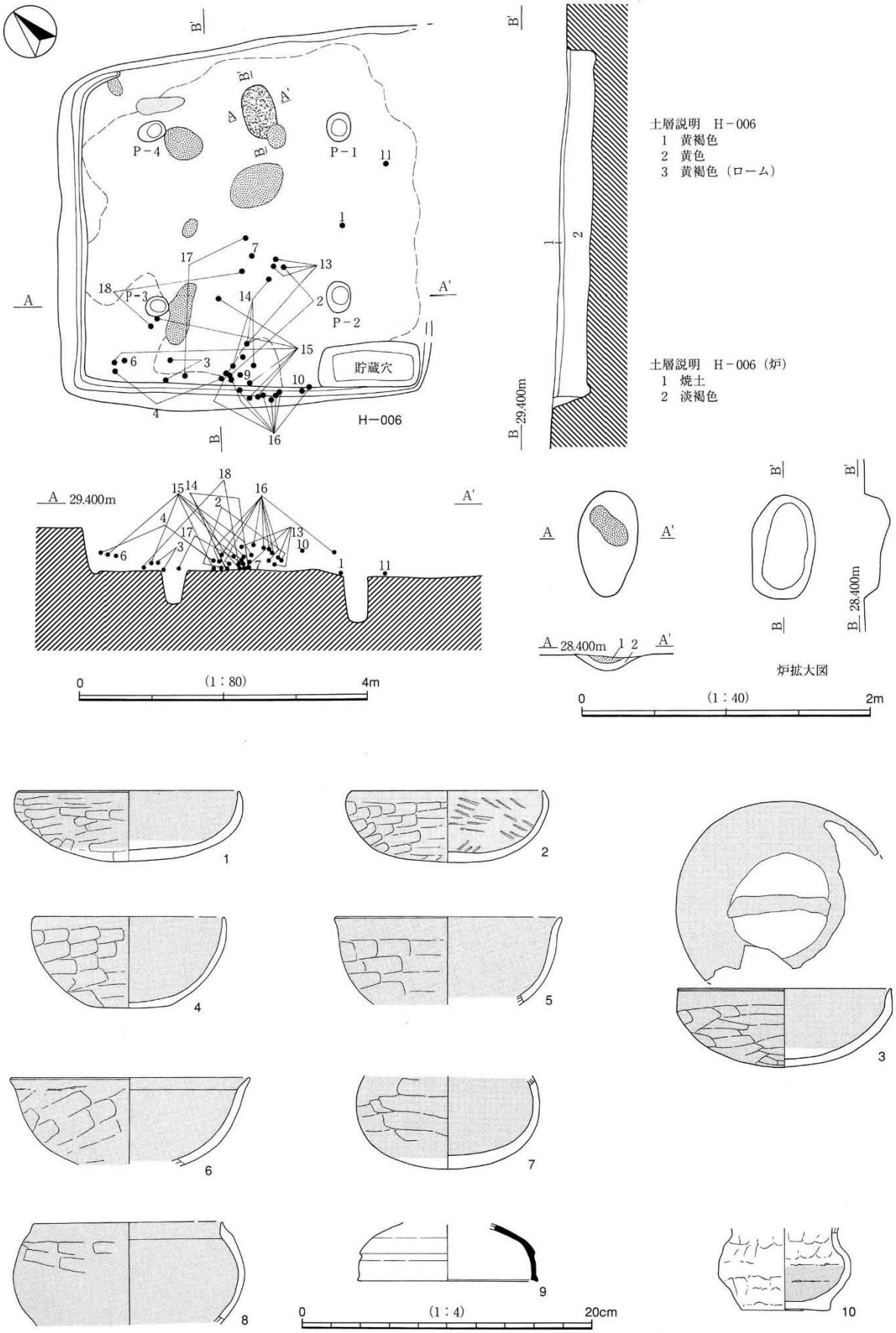
| | | |
|---|---|---|
| 1 | 暗色 | ローム粒子少量 |
| 2 | 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 | 褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 | 暗黄褐色 | ローム粒子少量 |
| 5 | 暗黄褐色 | ローム粒子多量 |
| 6 | 黄褐色 | 壁崩落土 |
| 7 | | ソフトローム |
| 8 | 黄褐色 | 褐色土を混入したローム層少量 |



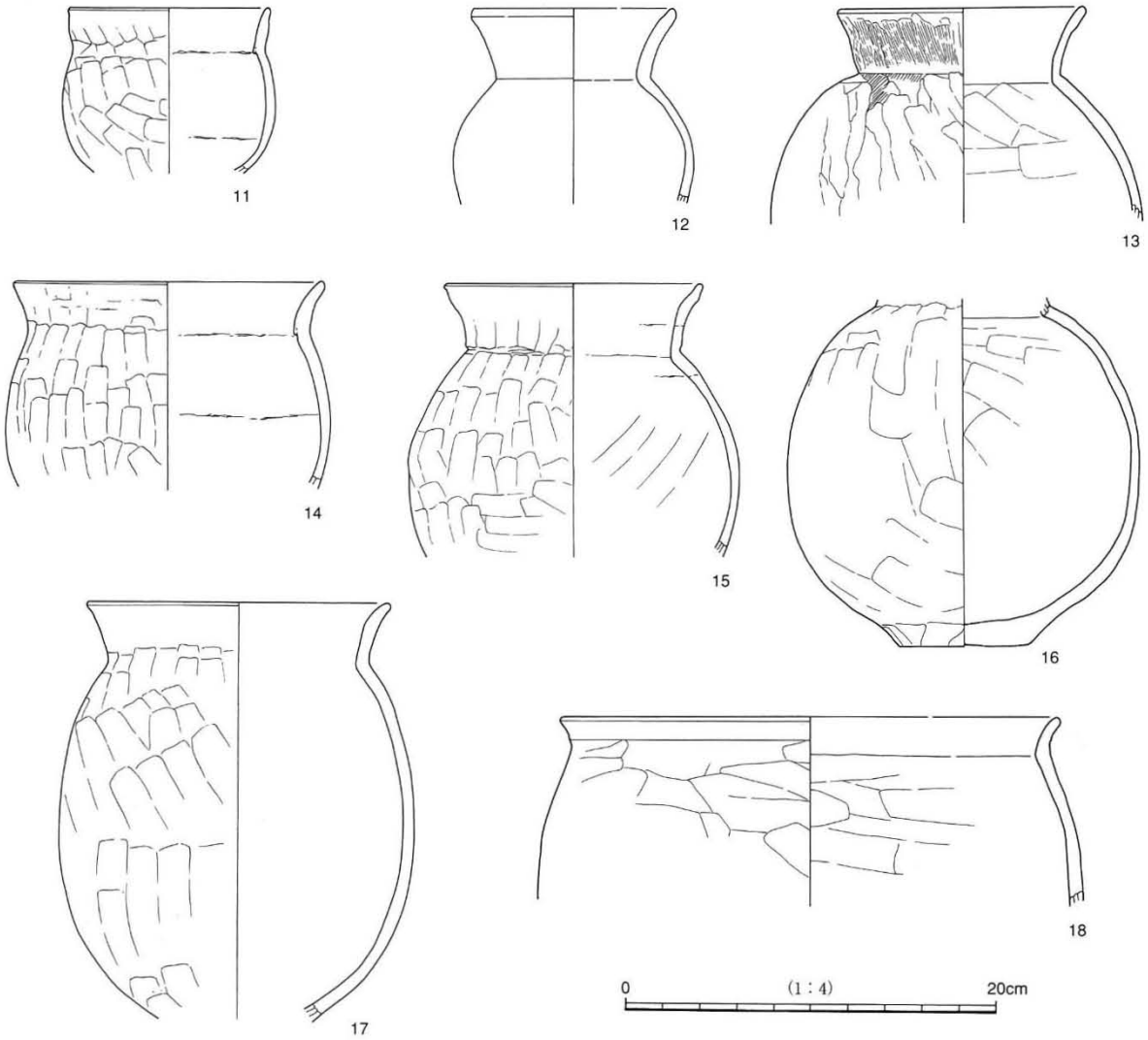

第47図　H－005実測図・出土遺物（１）



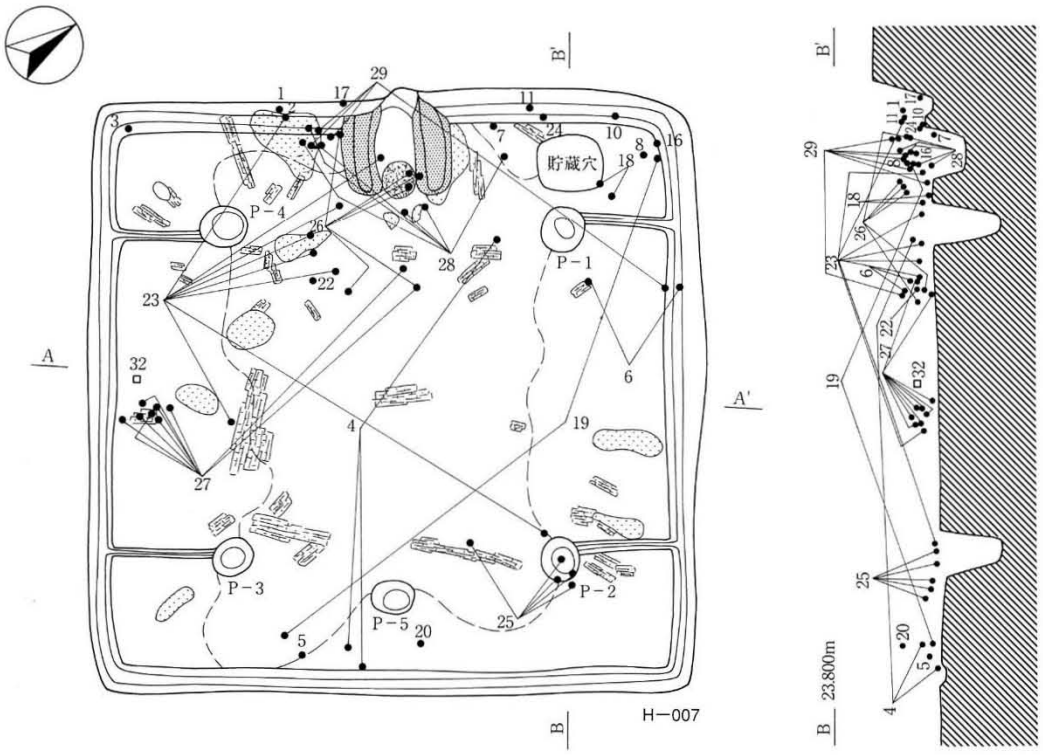

第48図　Ｈ－005出土遺物（２）

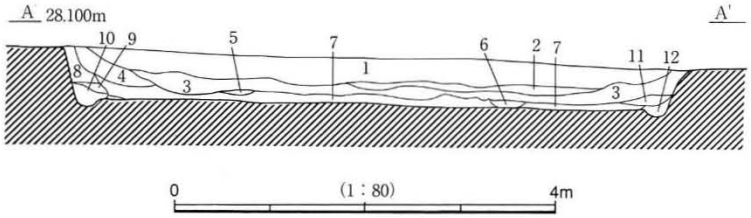



第49図　H－006実測図・出土遺物（１）



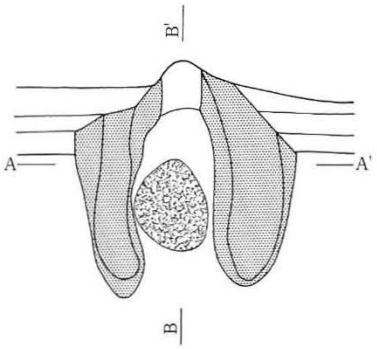

第50図　Ｈ－006出土遺物（２）

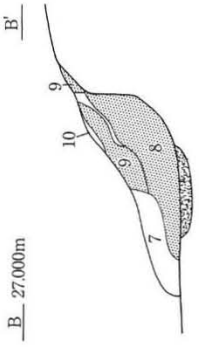


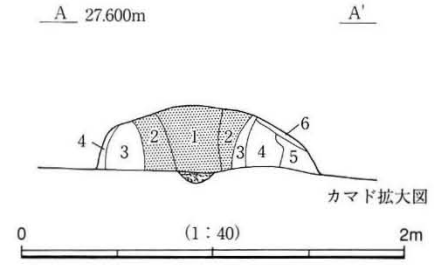




土層説明　H－007

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子適当量、ロームブロック（中粒）少量 |
| 2 | 暗褐色 | ローム粒子適当量、1層よりやや暗い |
| 3 | 暗褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子少量 |
| 4 | 褐色 | ローム粒子多量、ロームブロック（小粒）適当量 |
| 5 | 褐色 | 炭化粒子適当量 |
| 6 | 褐色 | 炭化粒子少量 |
| 7 | 明褐色 | ローム粒子・炭化粒子適当量、ロームブロック（小粒）多量 |
| 8 | 暗黄褐色 | ややくすんだソフトローム |
| 9 | 黄褐色 | ローム粒子・ロームブロック（小粒）多量 |
| 10 | 黄褐色 | 褐色土多量混入 |
| 11 | 褐色 | 黄褐色土多量混入 |
| 12 | 暗黄褐色 | ローム粒子適当量、ロームブロック（中粒）多量混入 |

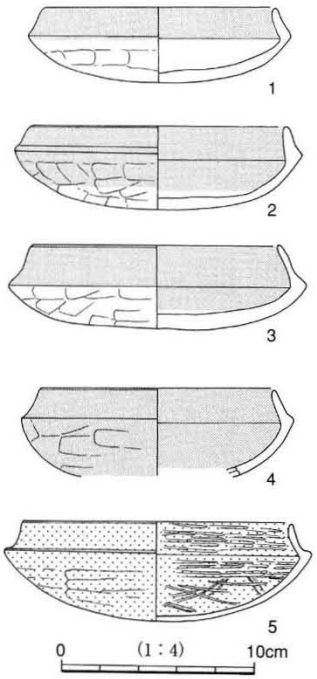


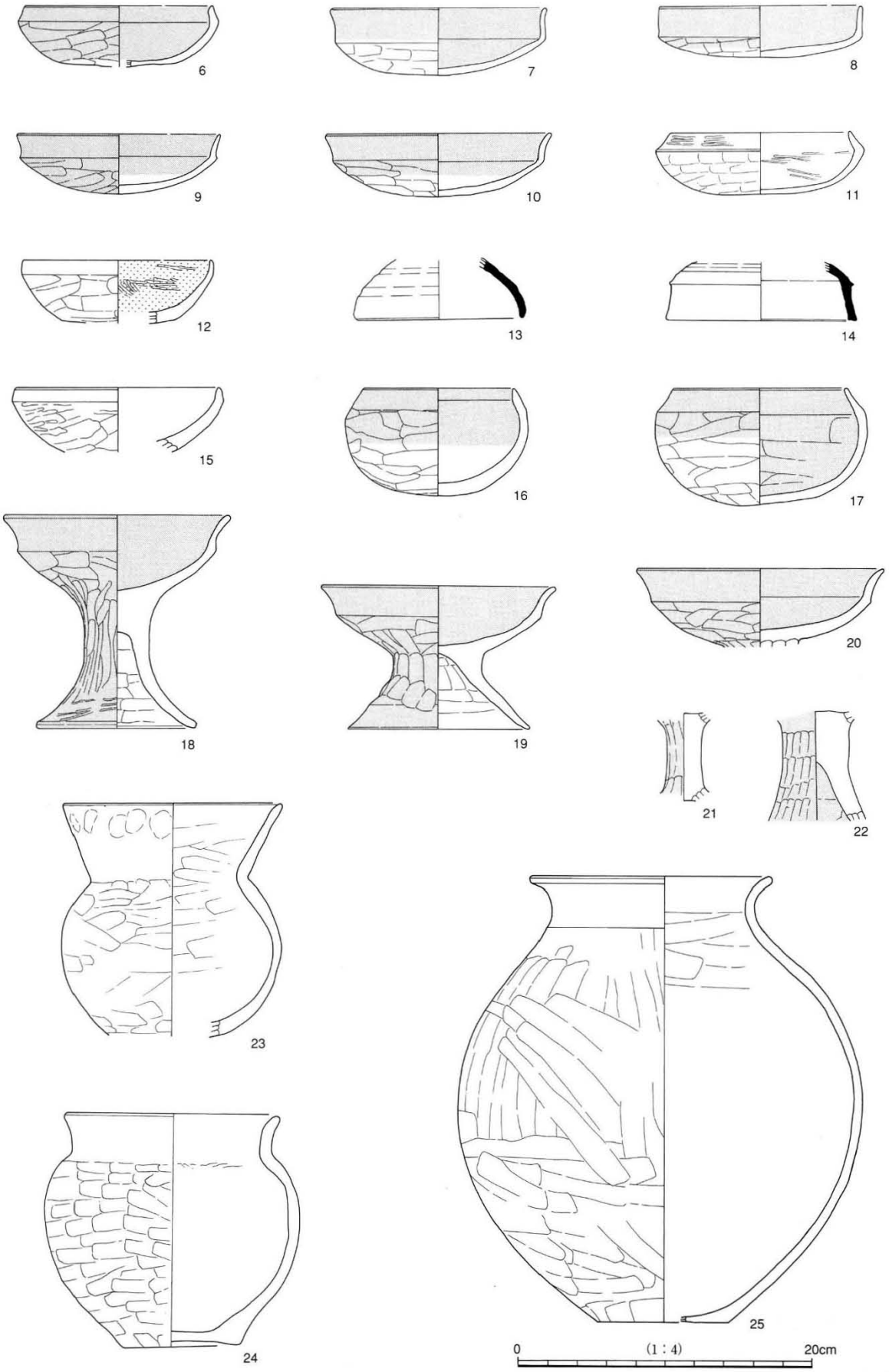




土層説明　H－007（炉）

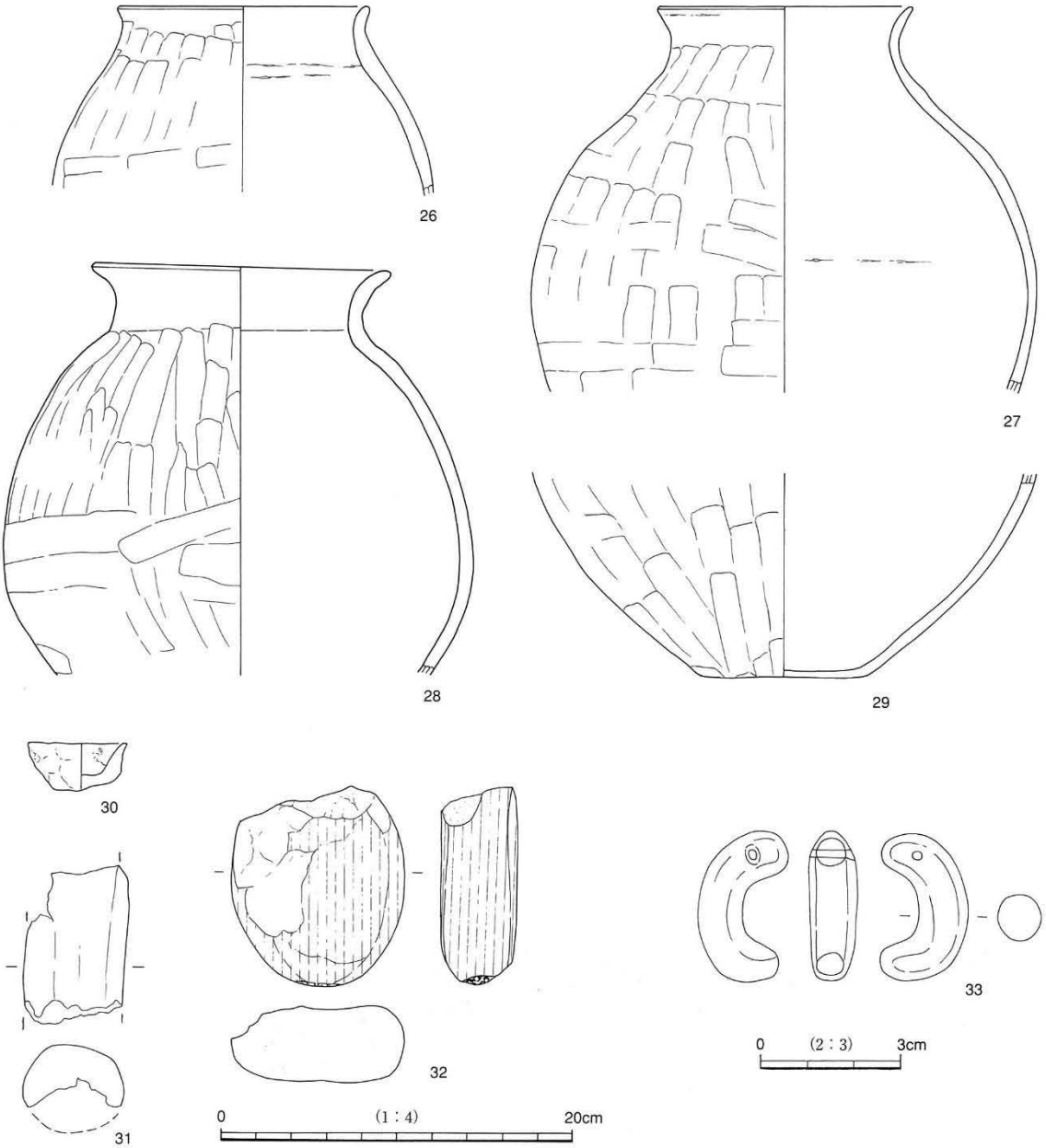
| | | |
|---|---|---|
| 1 | 淡黄色 | 山砂 |
| 2 | 淡茶黄色 | 山砂 |
| 3 | 淡茶黄色 | 焼土少量含む |
| 4 | 赤茶色 | 焼土粒と山砂交じり多量 |
| 5 | 茶灰色 | 焼土少量 |
| 6 | 黒褐色 | |
| 7 | 黒褐色 | |
| 8 | 茶灰褐色 | 山砂 |
| 9 | 山砂 | |
| 10 | 茶色 | |



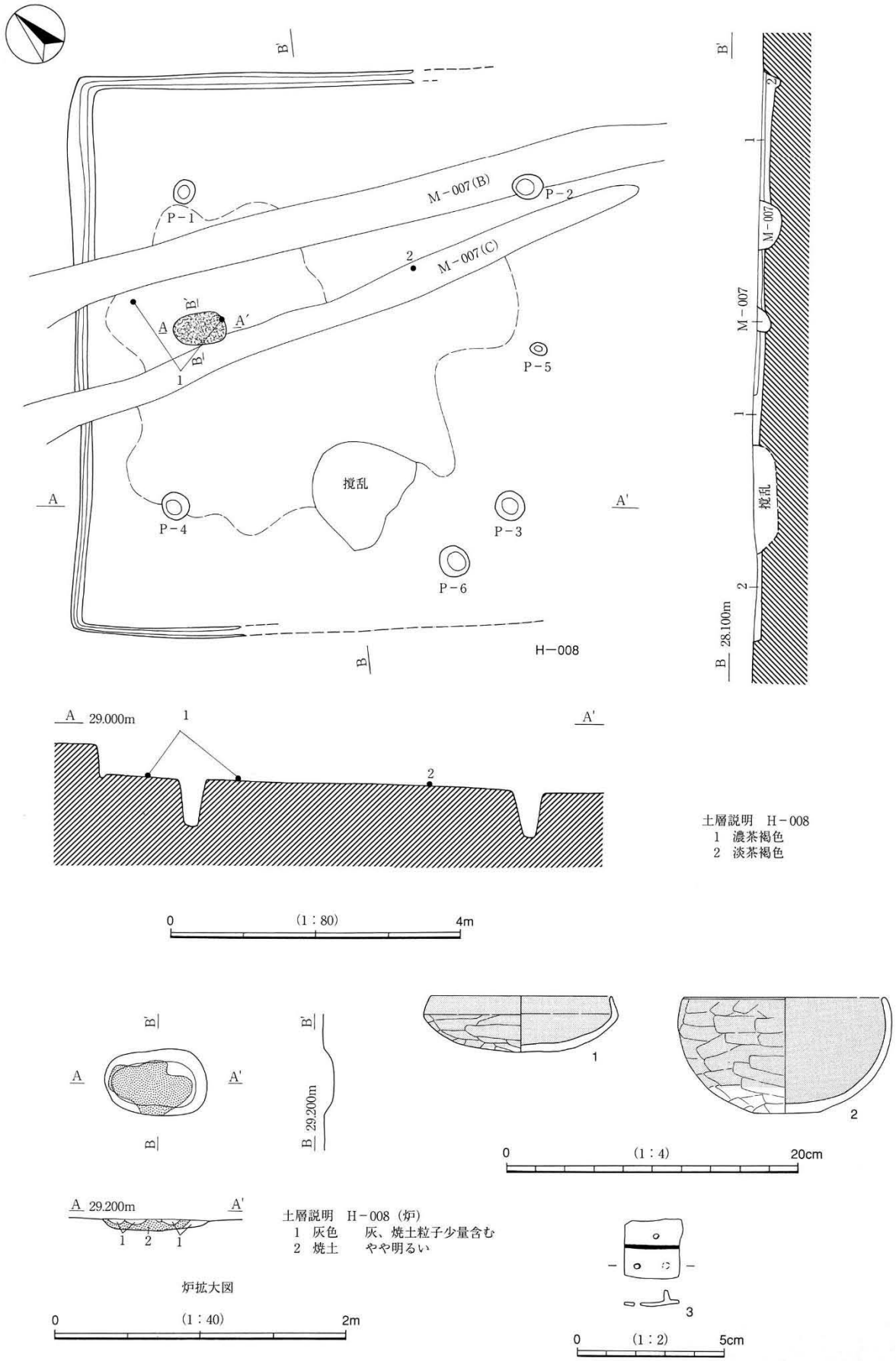

第51図　H－007実測図・出土遺物（1）



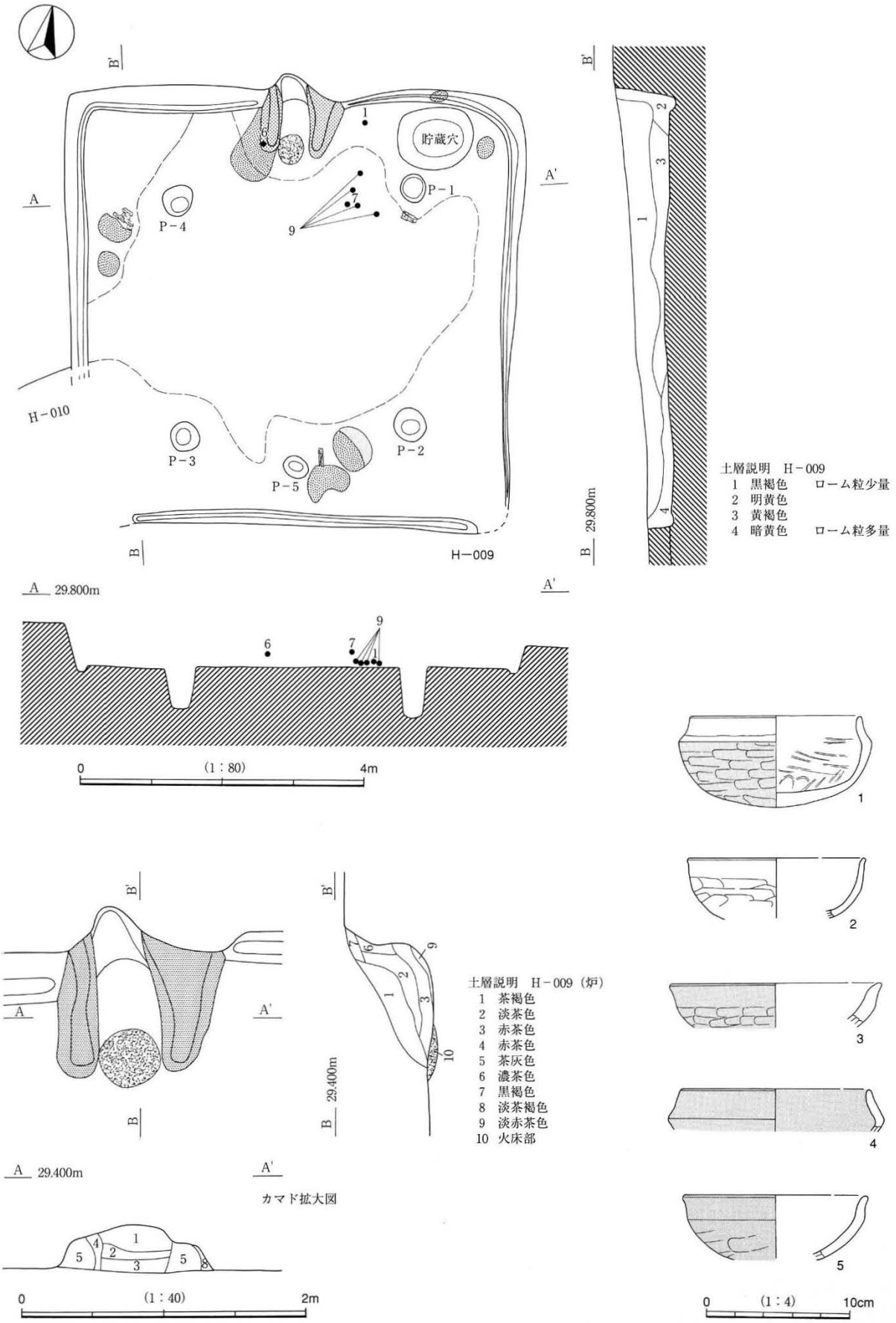

第52図　Ｈ－007出土遺物（２）



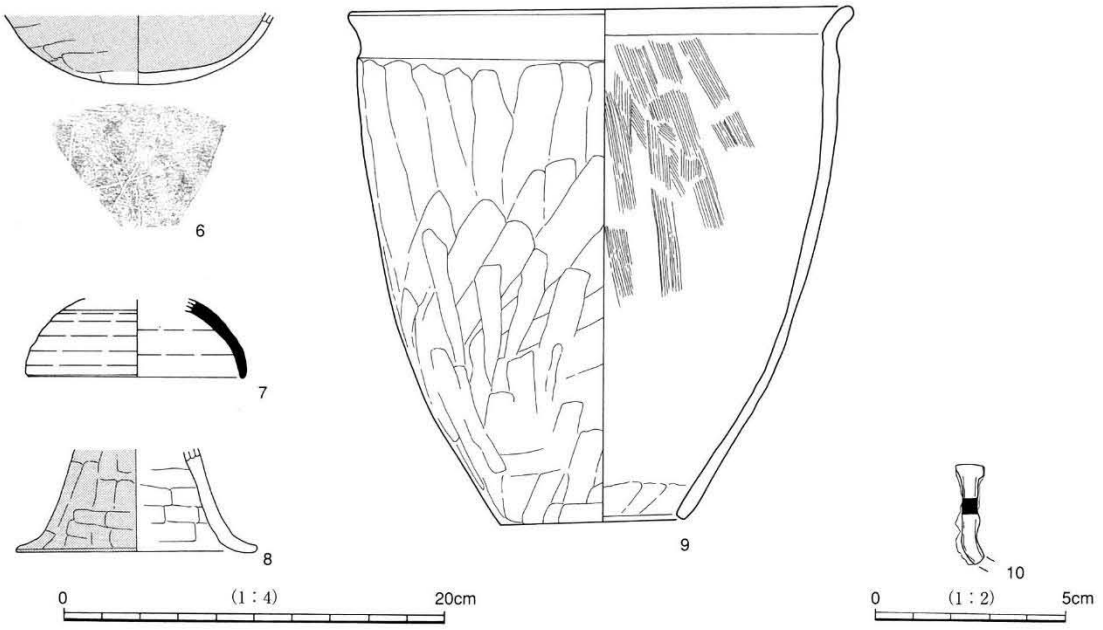

第53図　Ｈ－007出土遺物（３）



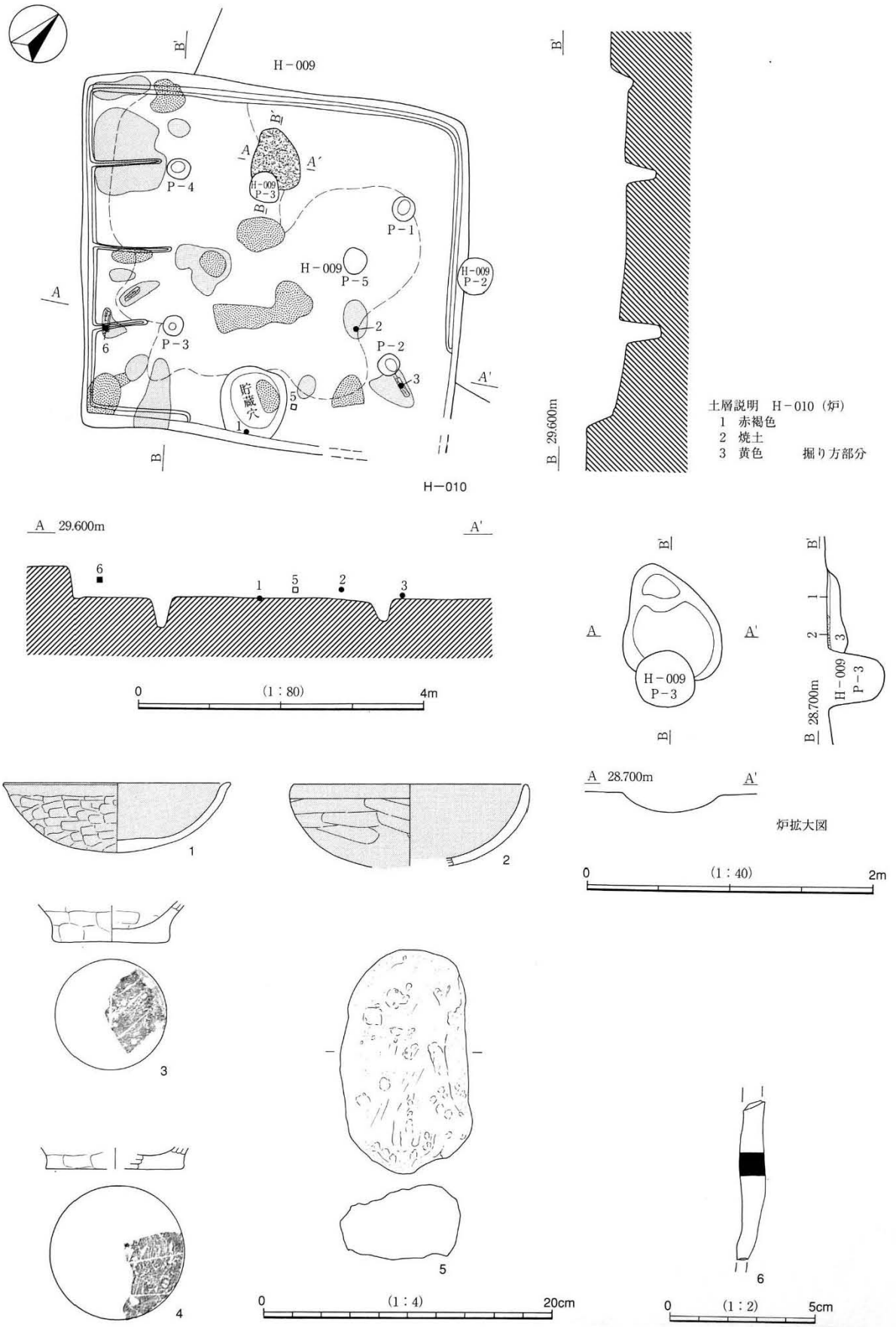

第54図　H－008実測図・出土遺物



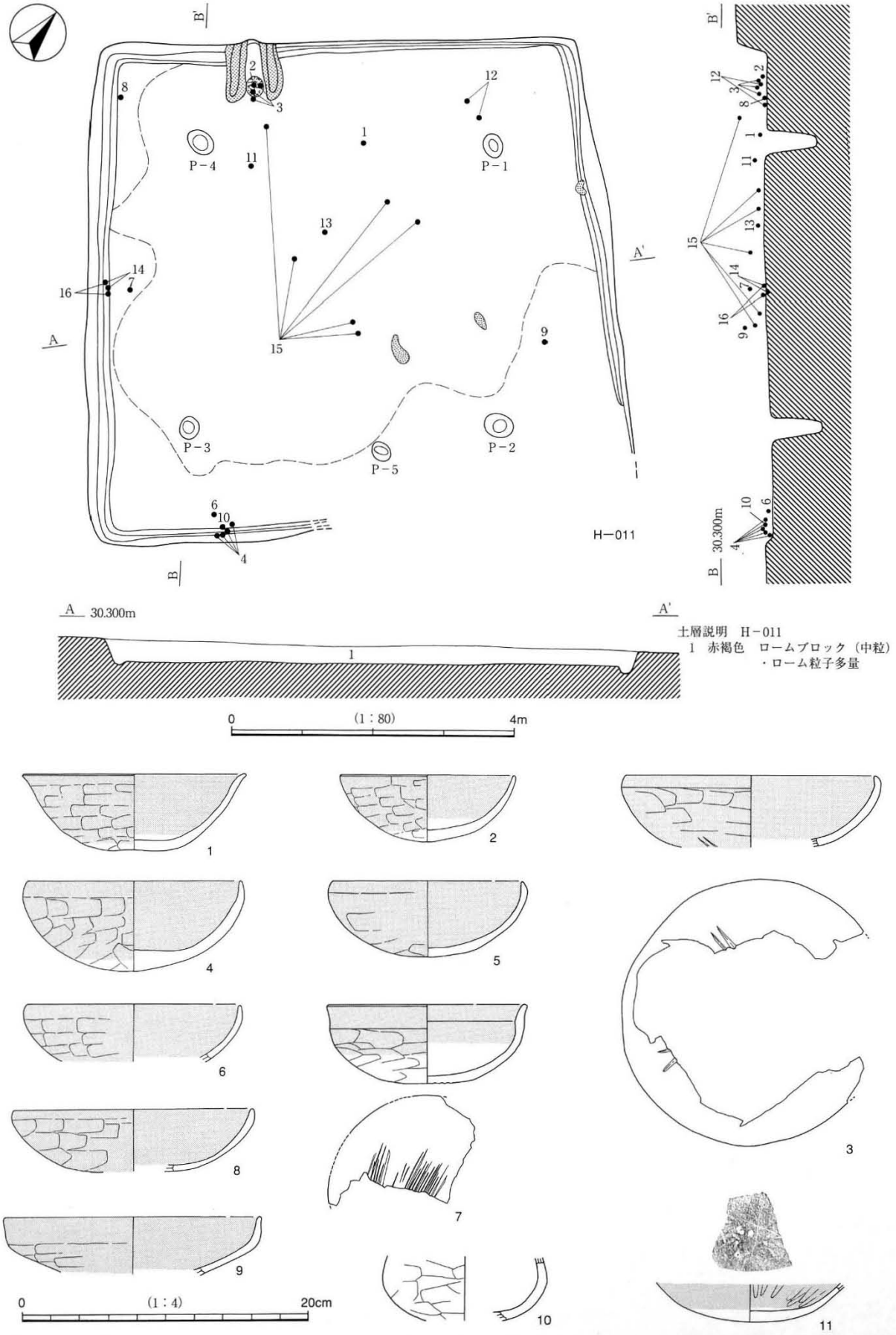

第55図　Ｈ－009実測図・出土遺物（１）



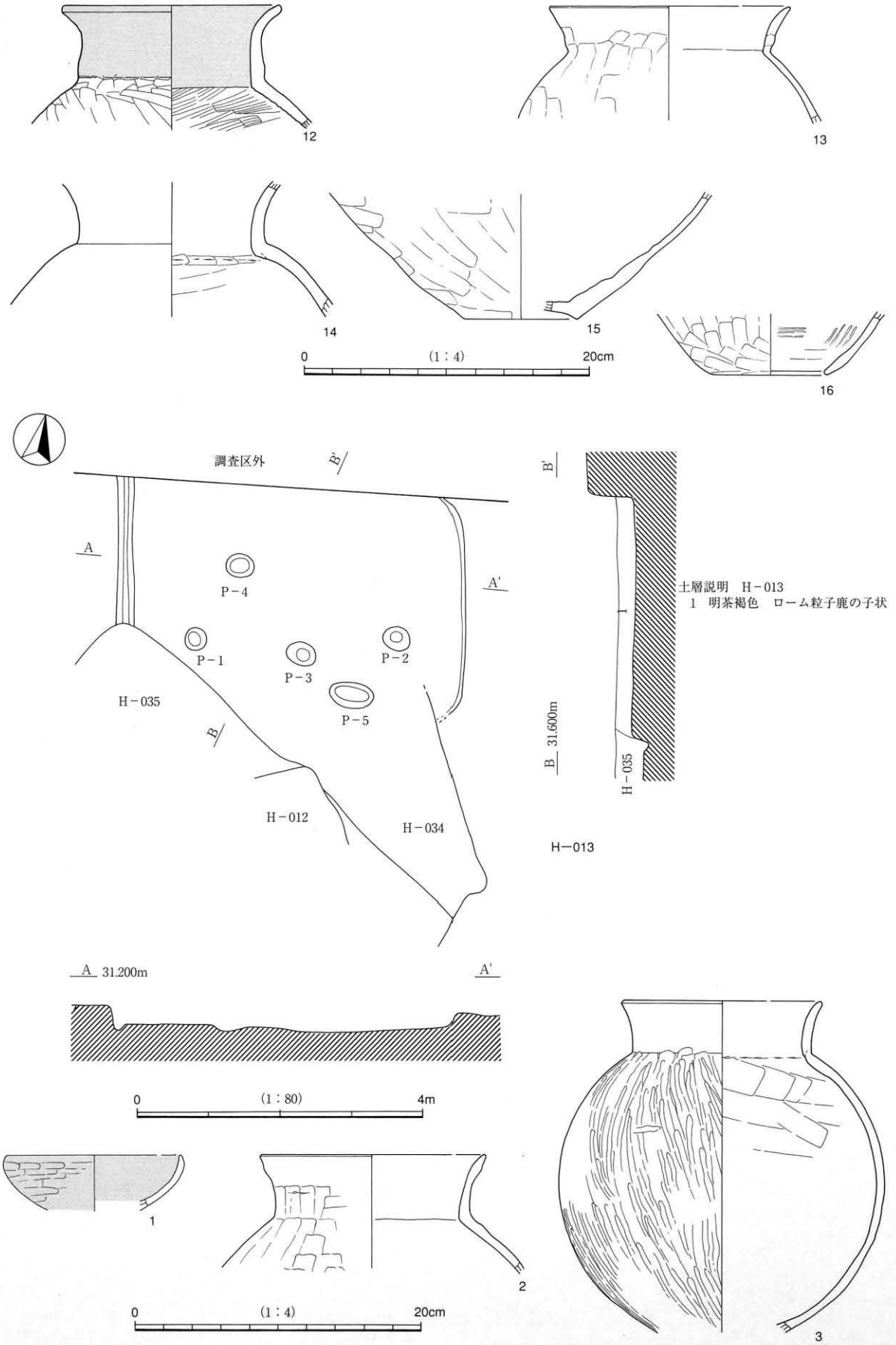

第56図　Ｈ－009出土遺物（２）



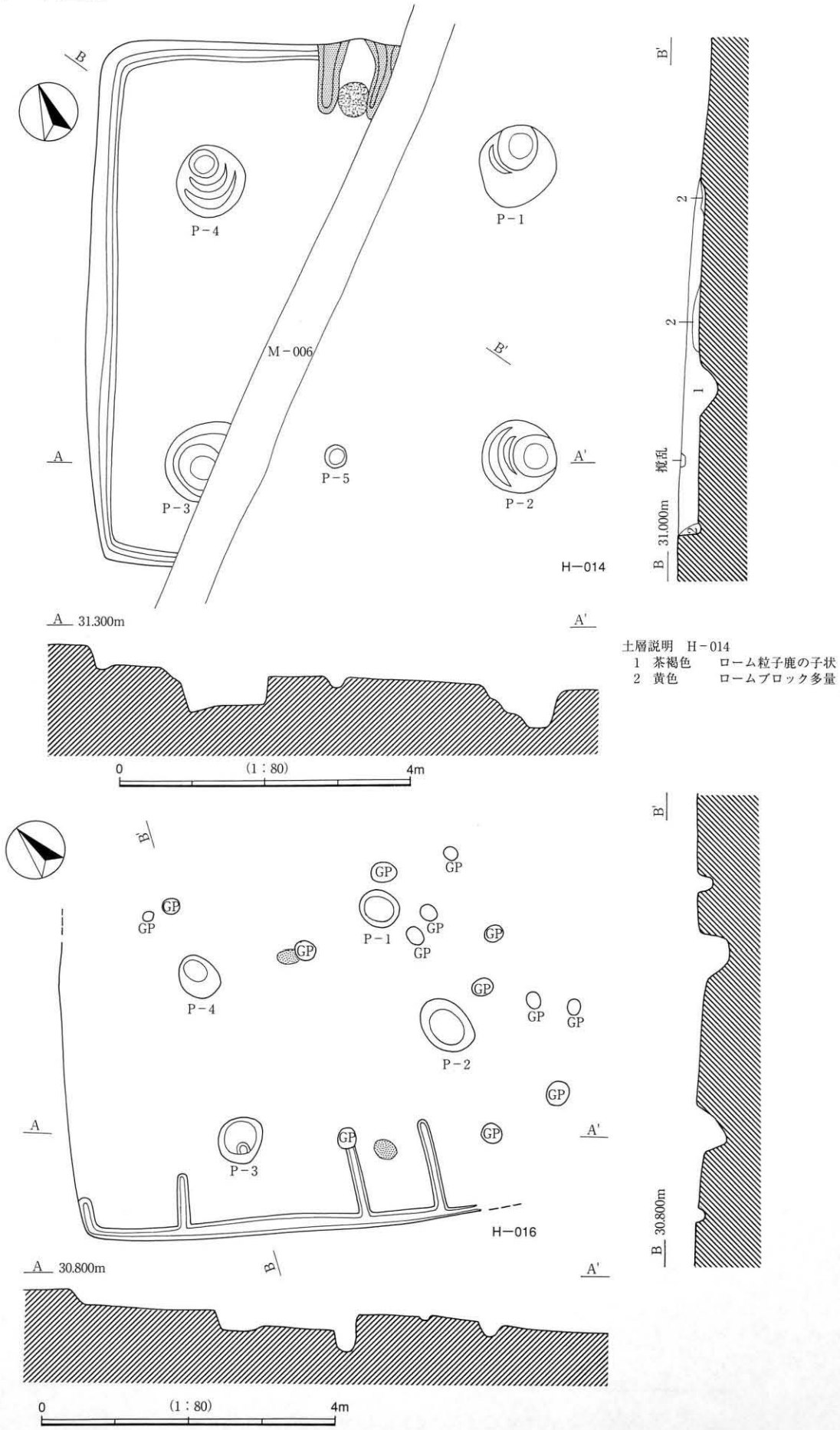

第57図　H－010実測図・出土遺物



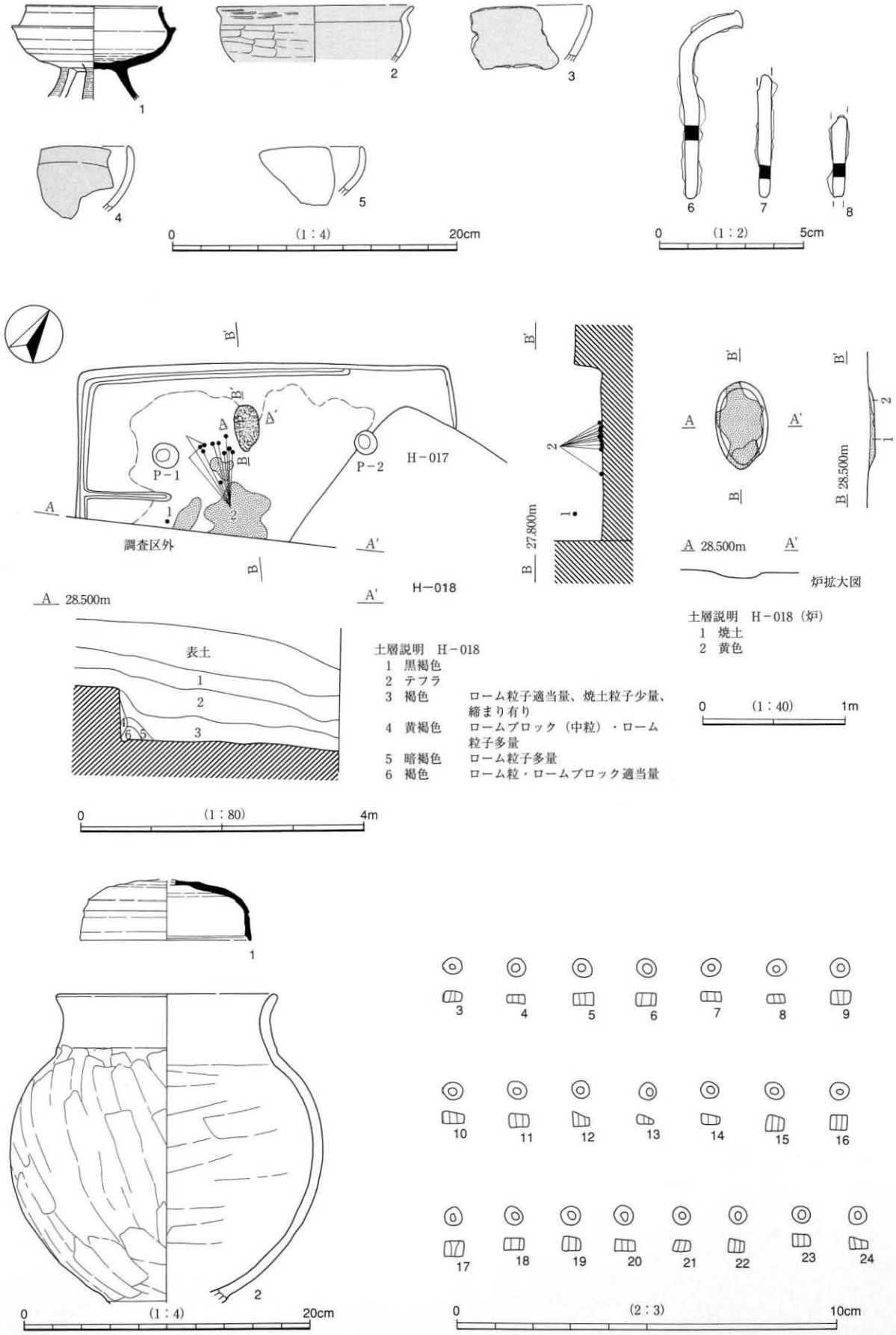

第58図　H－011実測図・出土遺物（１）



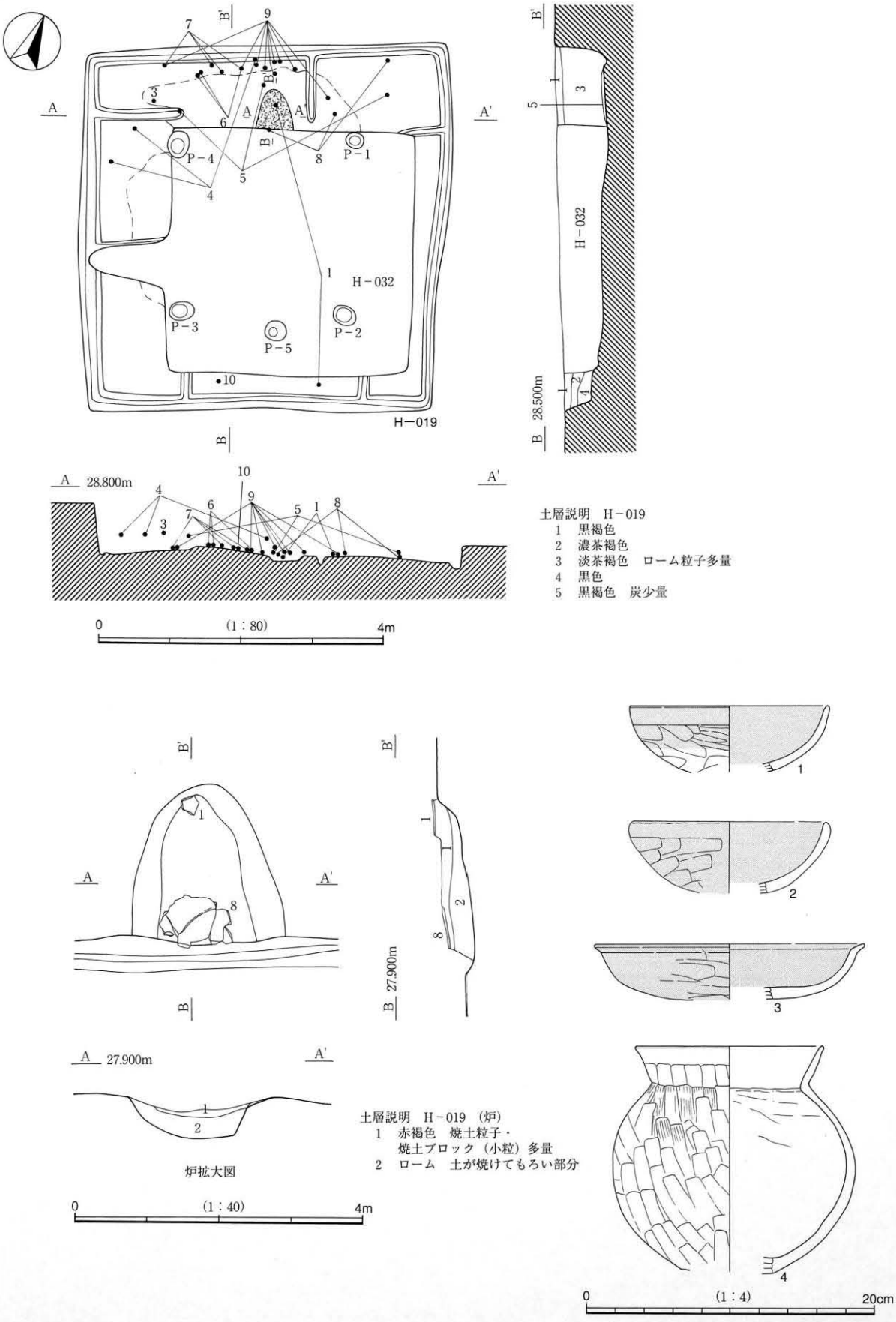

第59図　H－011出土遺物（２）・H－013実測図・出土遺物




第60図　H－014・H－016実測図

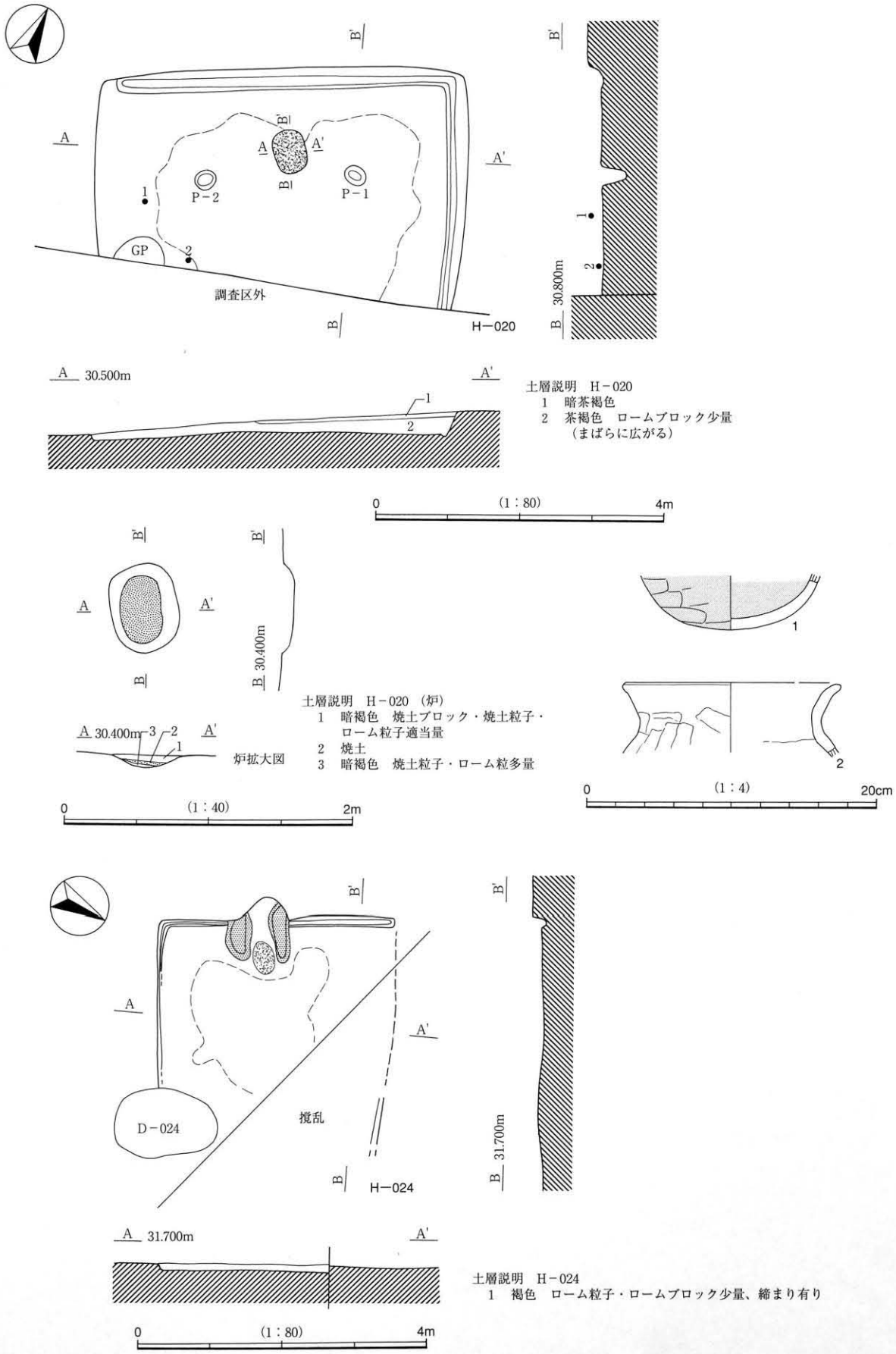



第61図　Ｈ－016出土遺物・Ｈ－018実測図・出土遺物

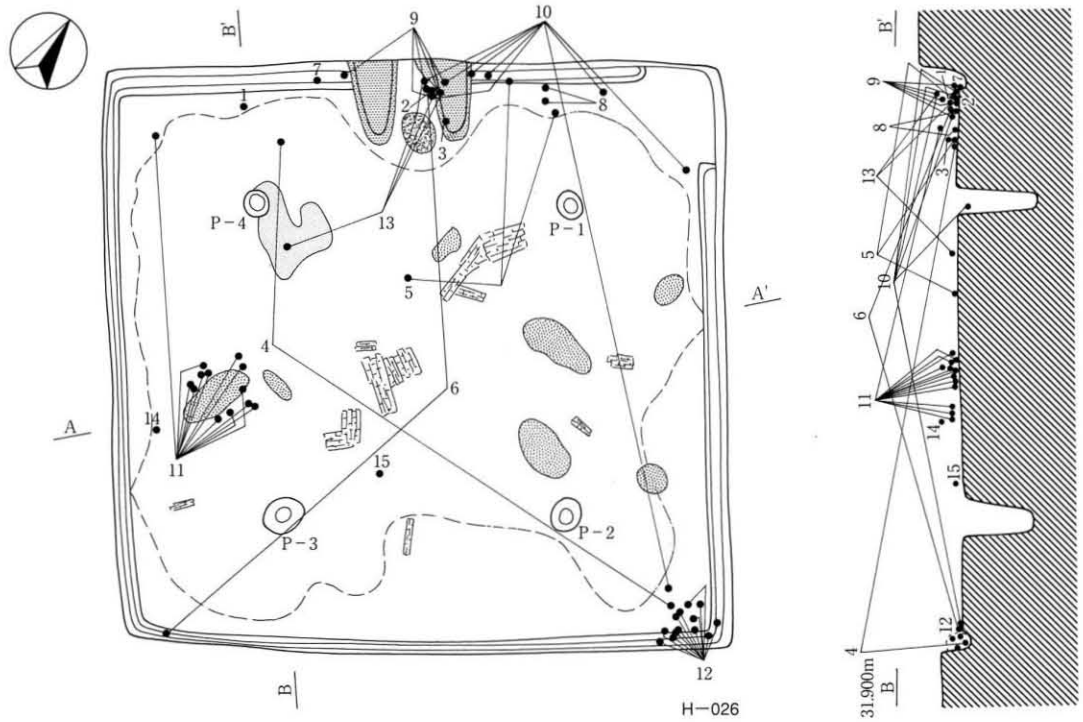


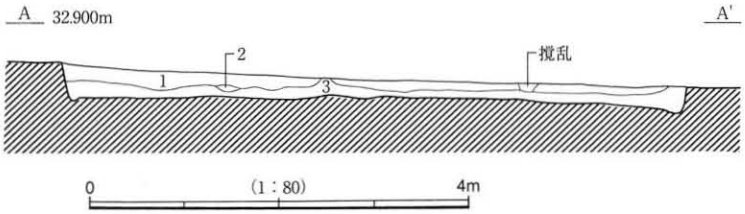

第62図　H－019実測図・出土遺物（１）

第63図　Ｈ－019出土遺物（２）

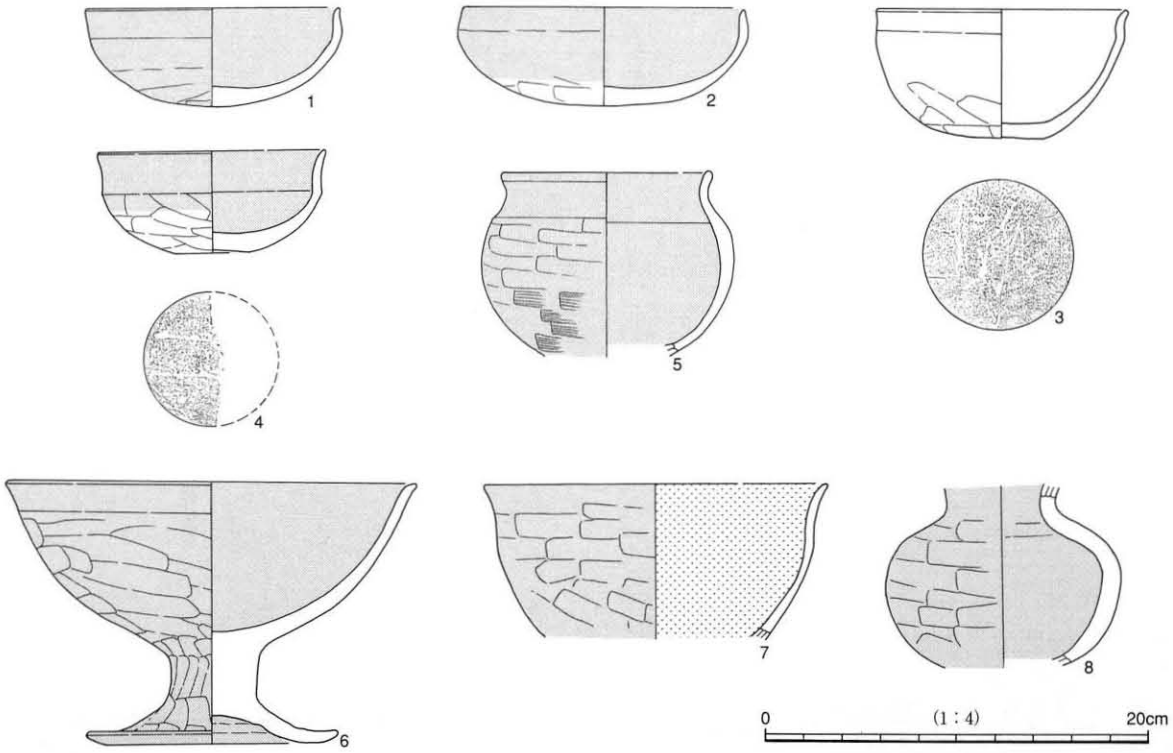



第64図　H－020実測図・出土遺物・H－024実測図

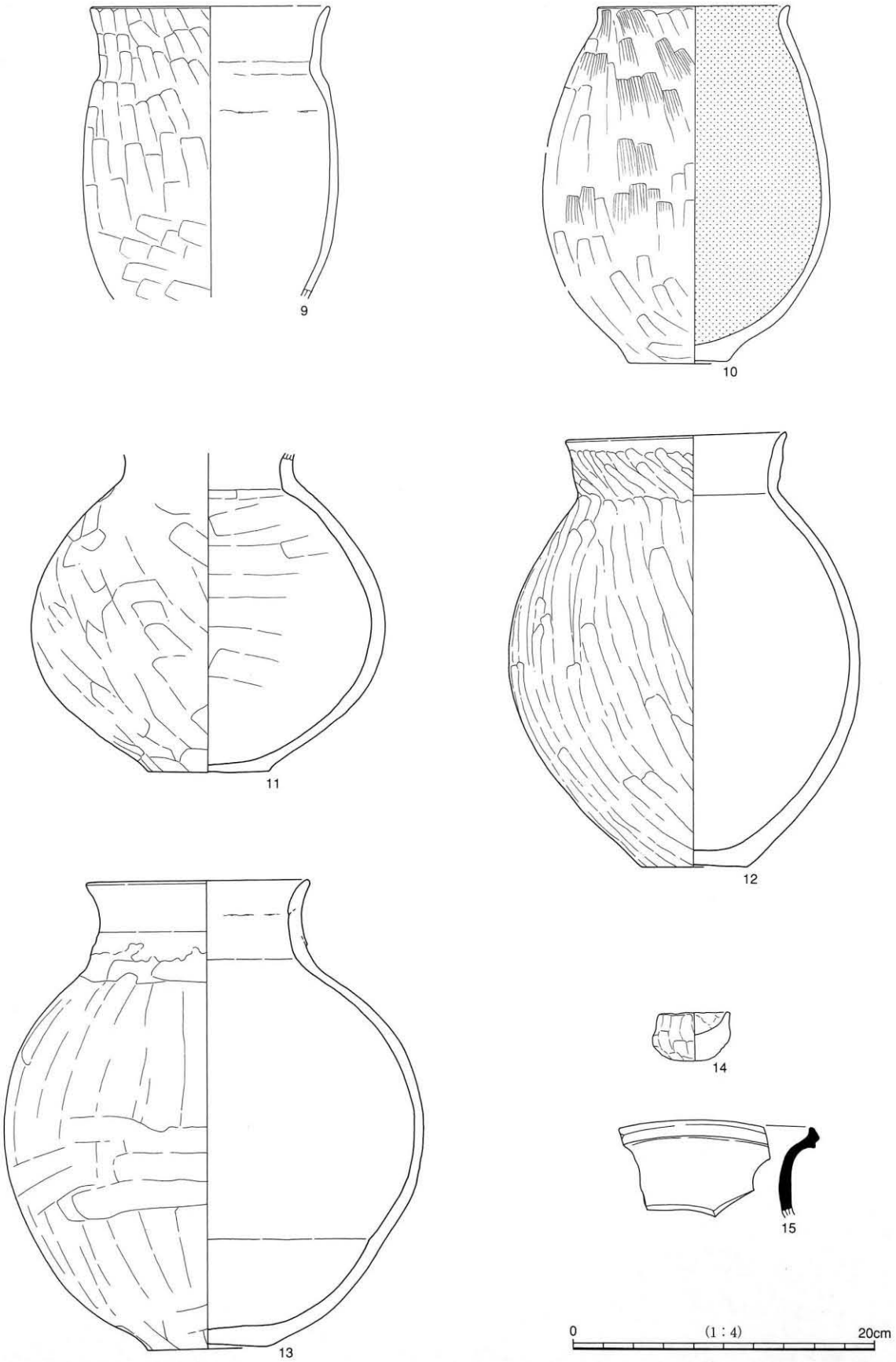


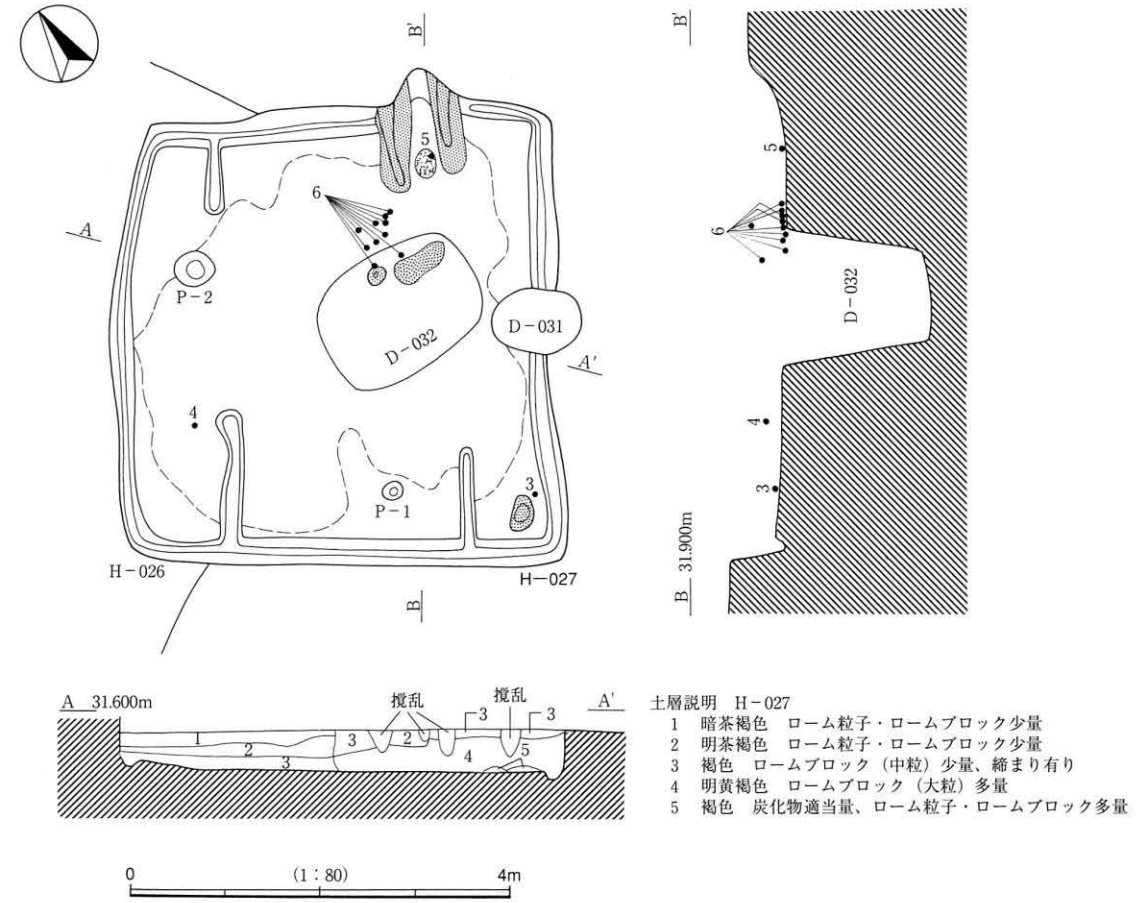

土層説明　H－026
1　暗茶褐色　ローム粒子・ロームブロック少量
2　黒褐色
3　明茶褐色　ローム粒子少量

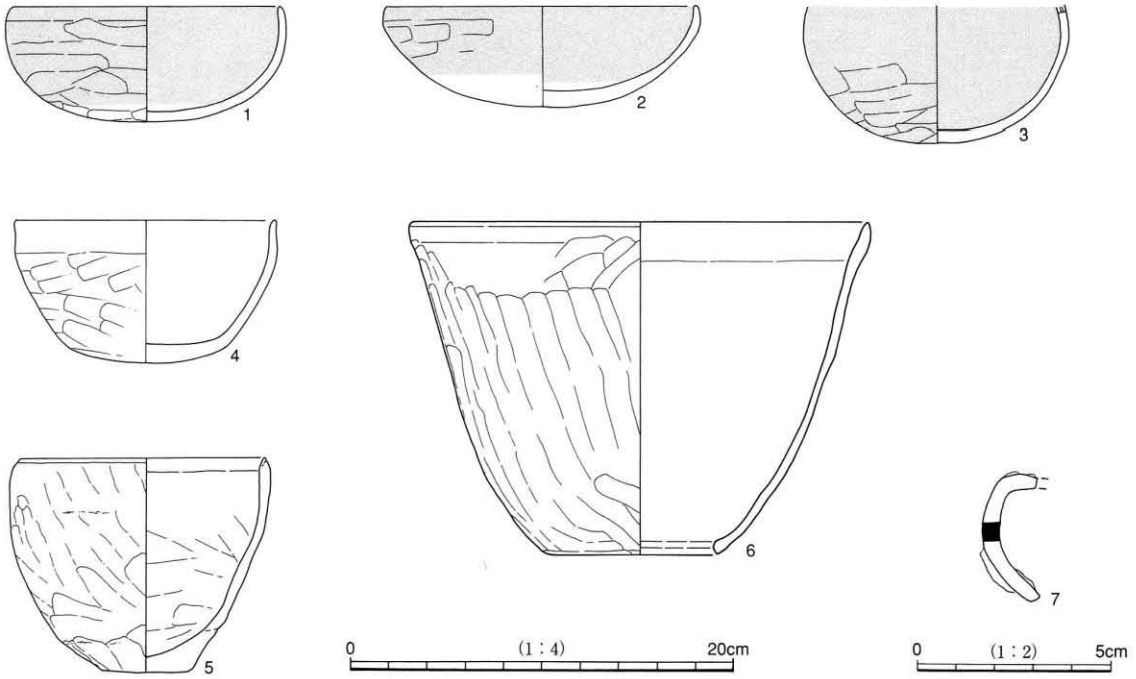



第65図　H－026実測図・出土遺物（1）

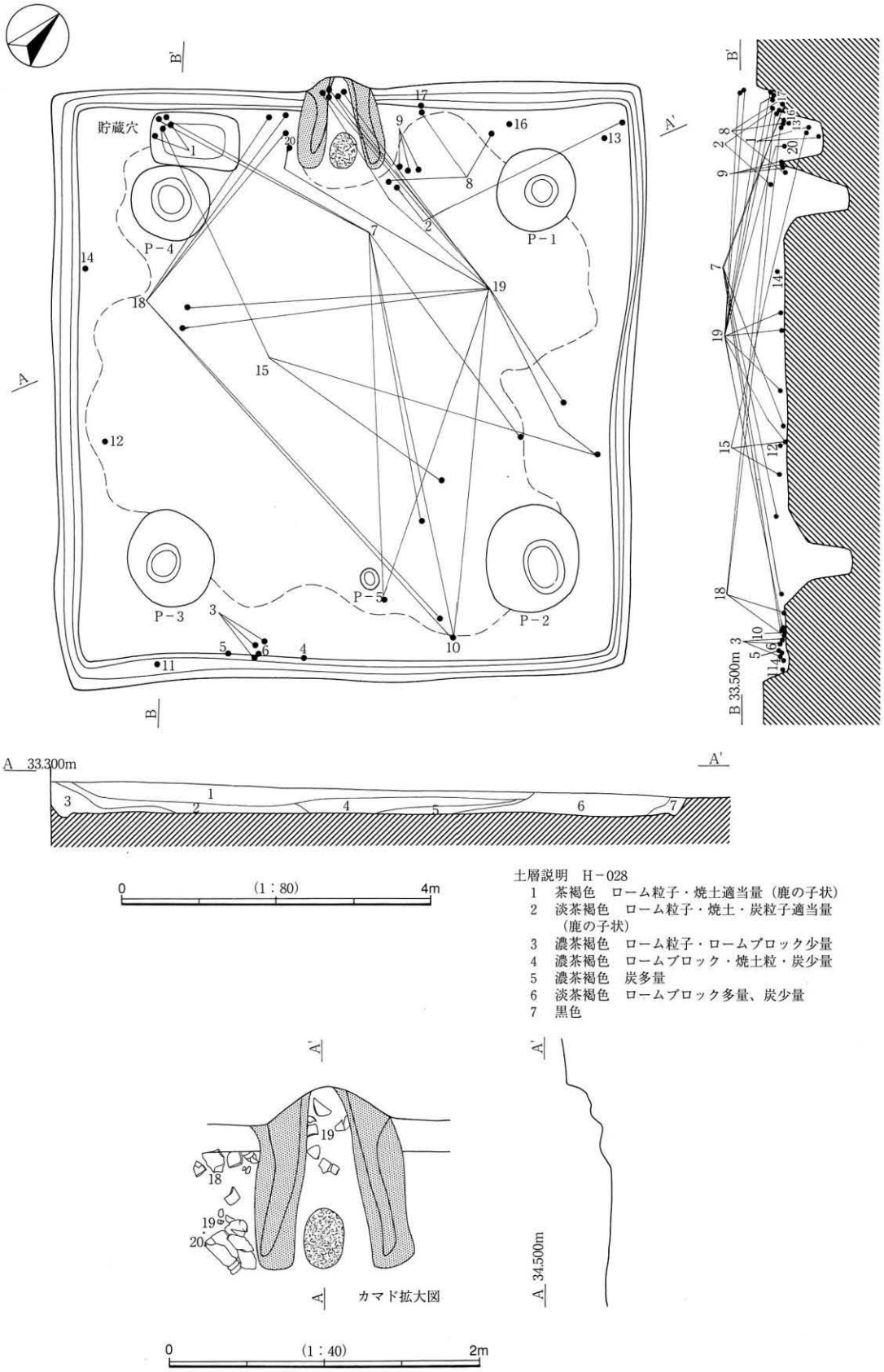



第66図　Ｈ－026出土遺物（２）



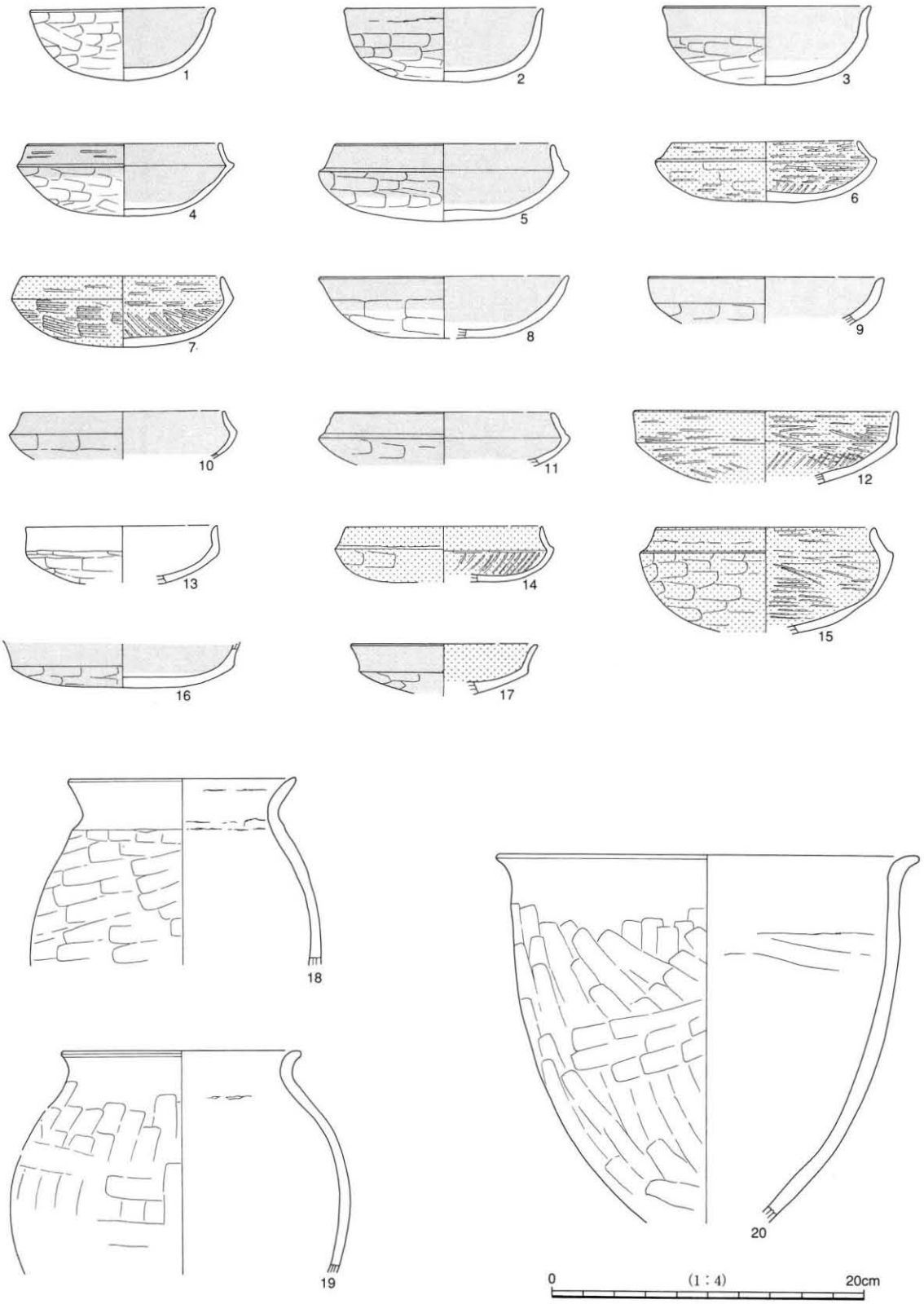

第67図　Ｈ－027実測図・出土遺物



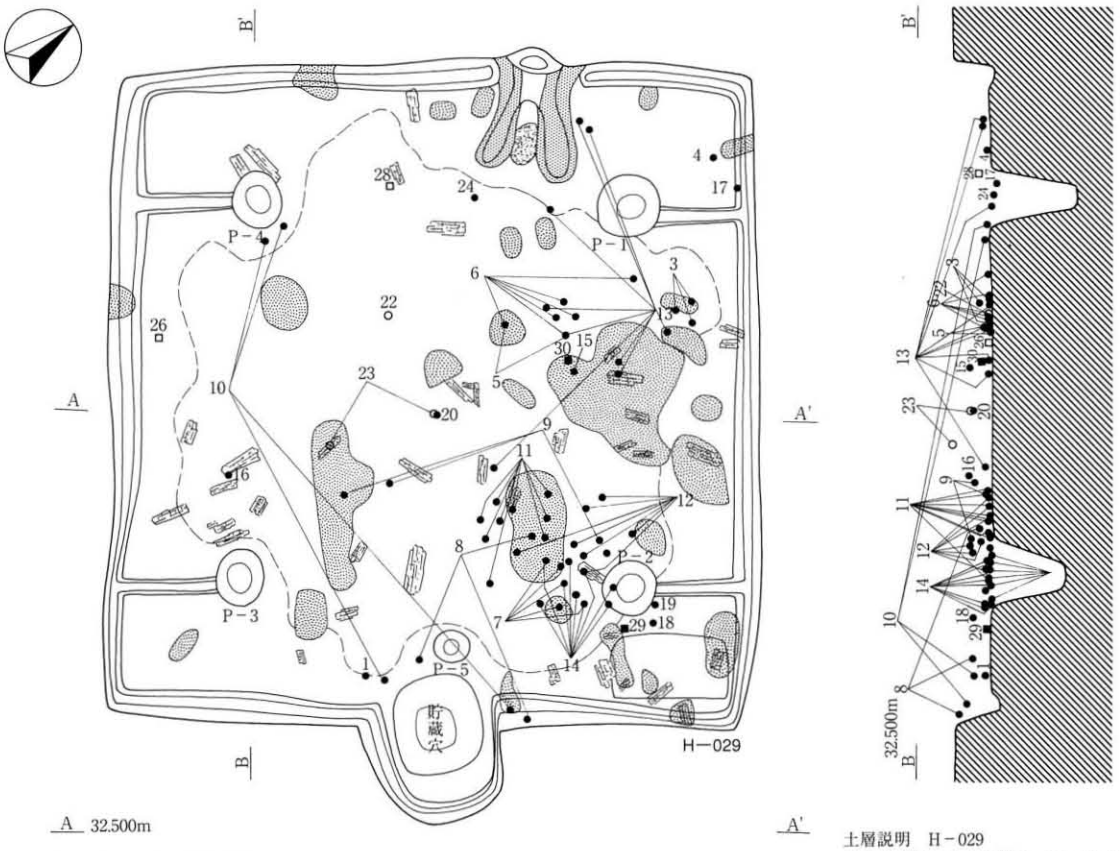

土層説明　H－028

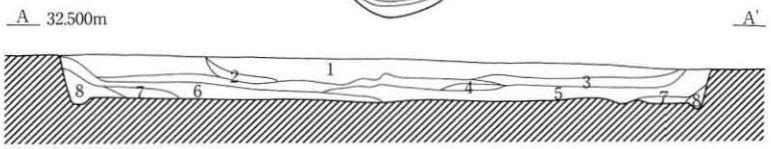
1　茶褐色　ローム粒子・焼土適当量（鹿の子状）
2　淡茶褐色　ローム粒子・焼土・炭粒子適当量（鹿の子状）
3　濃茶褐色　ローム粒子・ロームブロック少量
4　濃茶褐色　ロームブロック・焼土粒・炭少量
5　濃茶褐色　炭多量
6　淡茶褐色　ロームブロック多量、炭少量
7　黒色

第68図　H－028実測図




第69図　Ｈ－028出土遺物

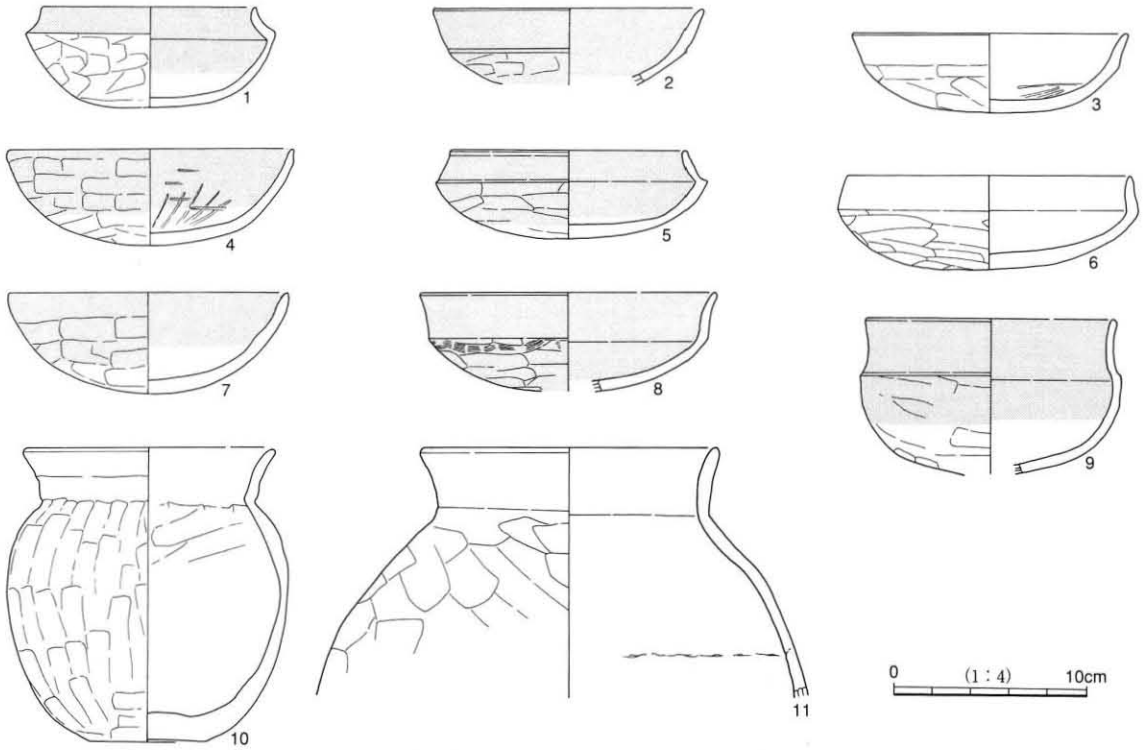


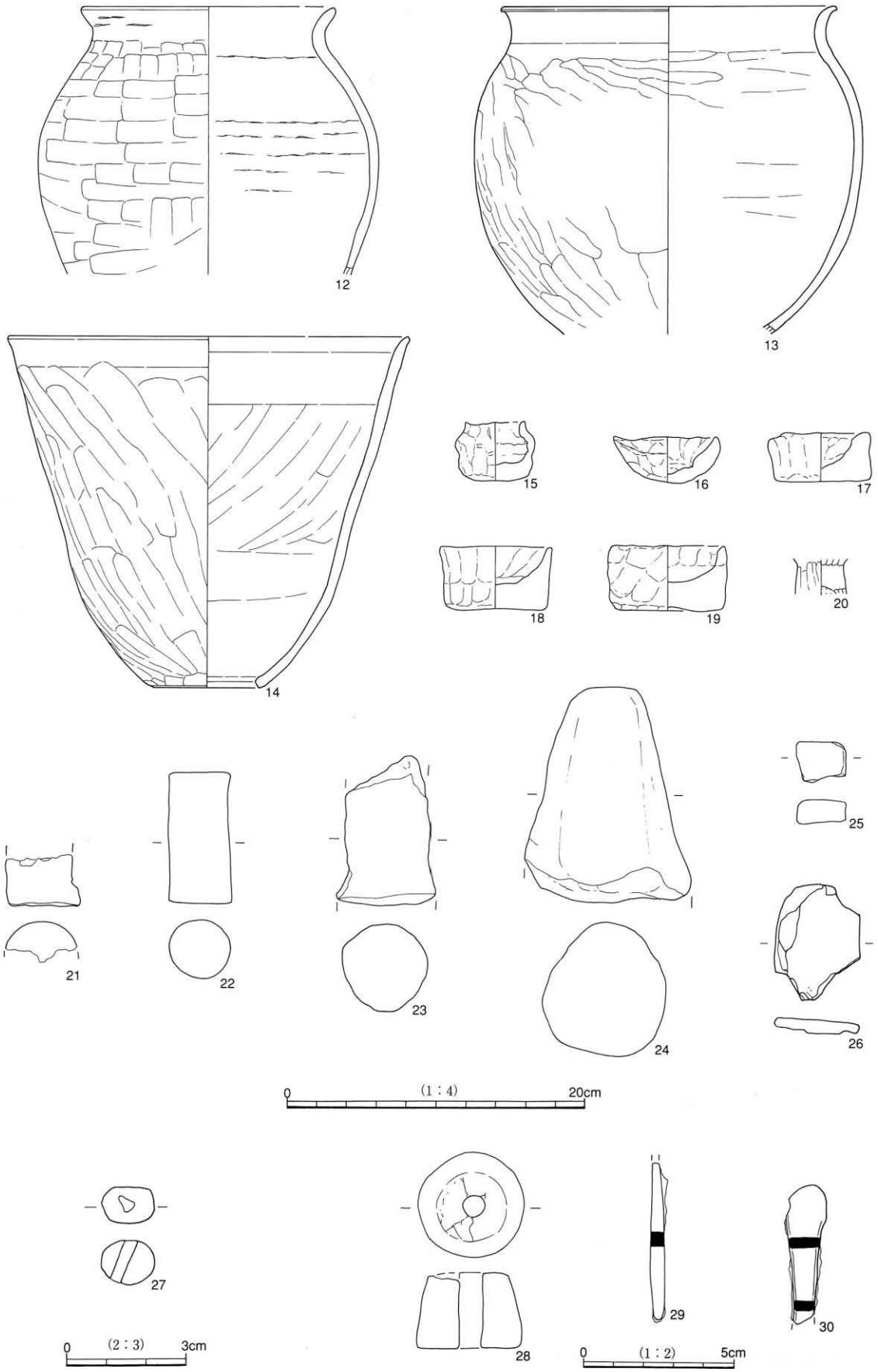

土層説明　H－029

1　褐色　ローム粒子・ロームブロック多量
2　明茶褐色　ローム粒子多量（鹿の子状）
3　暗褐色　ローム粒子・焼土粒少量
4　黒褐色　ローム粒子・焼土粒多量
5　茶褐色　ローム粒子・焼土粒・炭多量
6　明茶褐色　ローム粒子・ロームブロック多量（鹿の子状）
7　黒褐色　焼土粒・ローム少量
8　茶褐色　ロームブロック少量

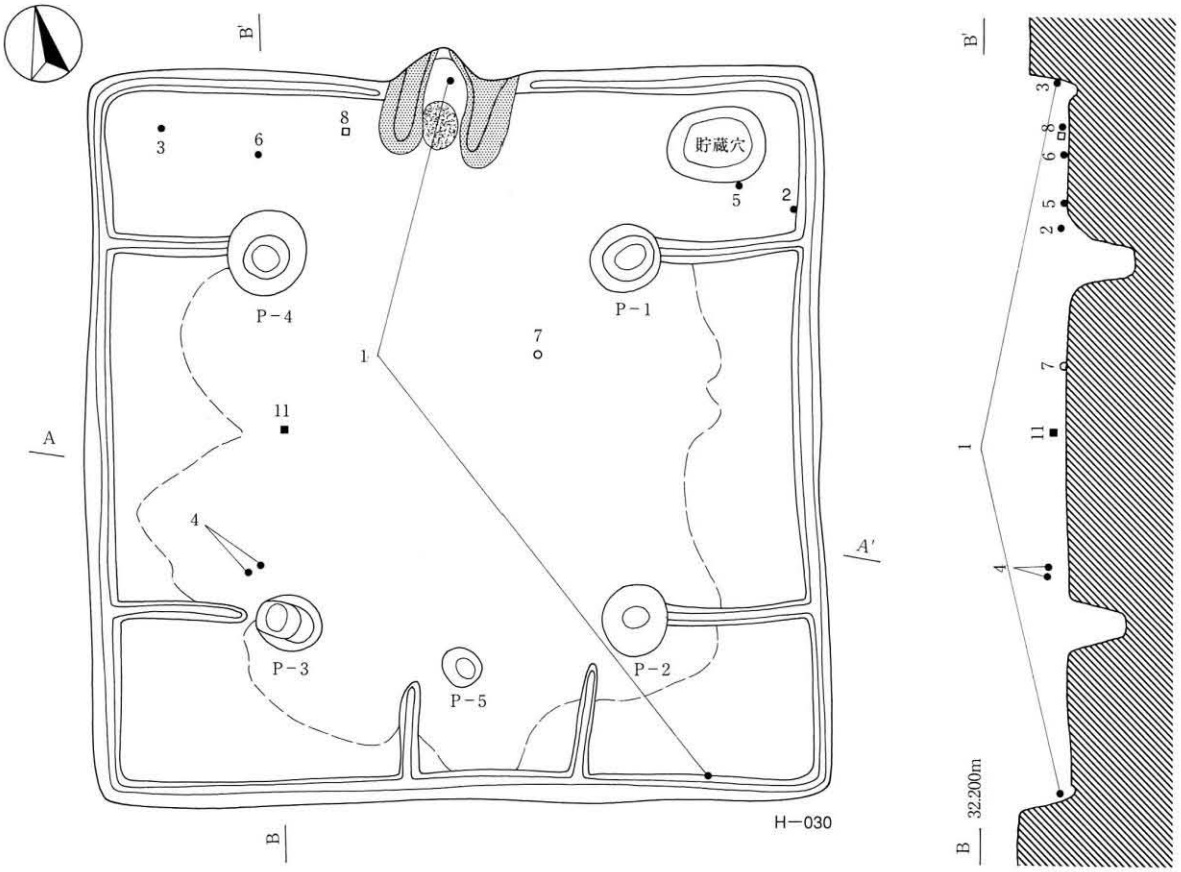
0　(1：80)　4m




第70図　H－029実測図・出土遺物（1）

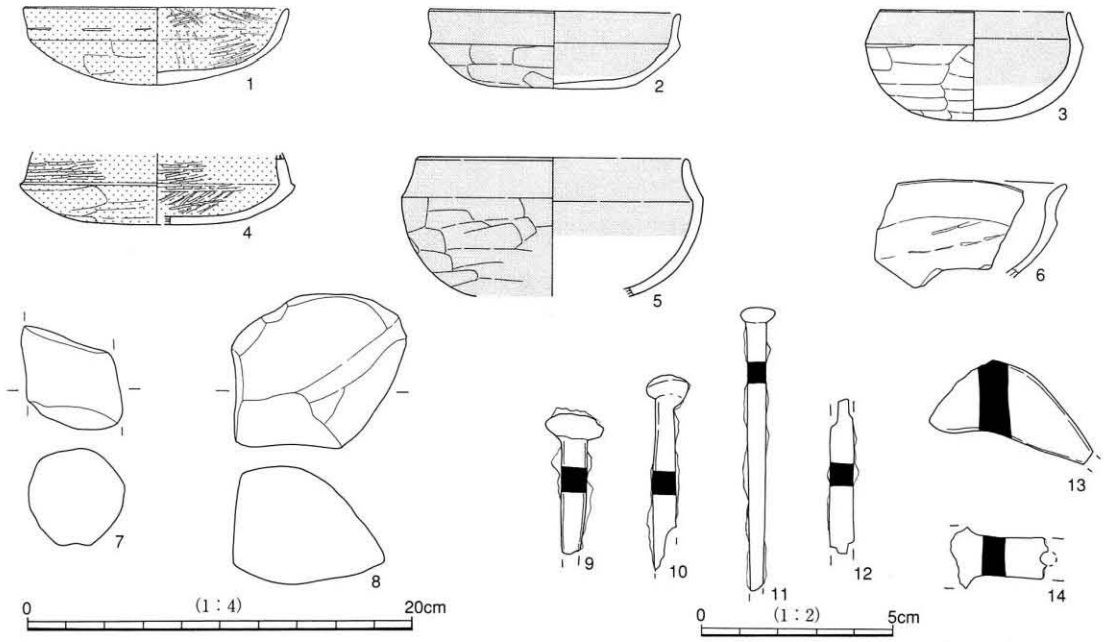



第71図　Ｈ－029出土遺物（２）

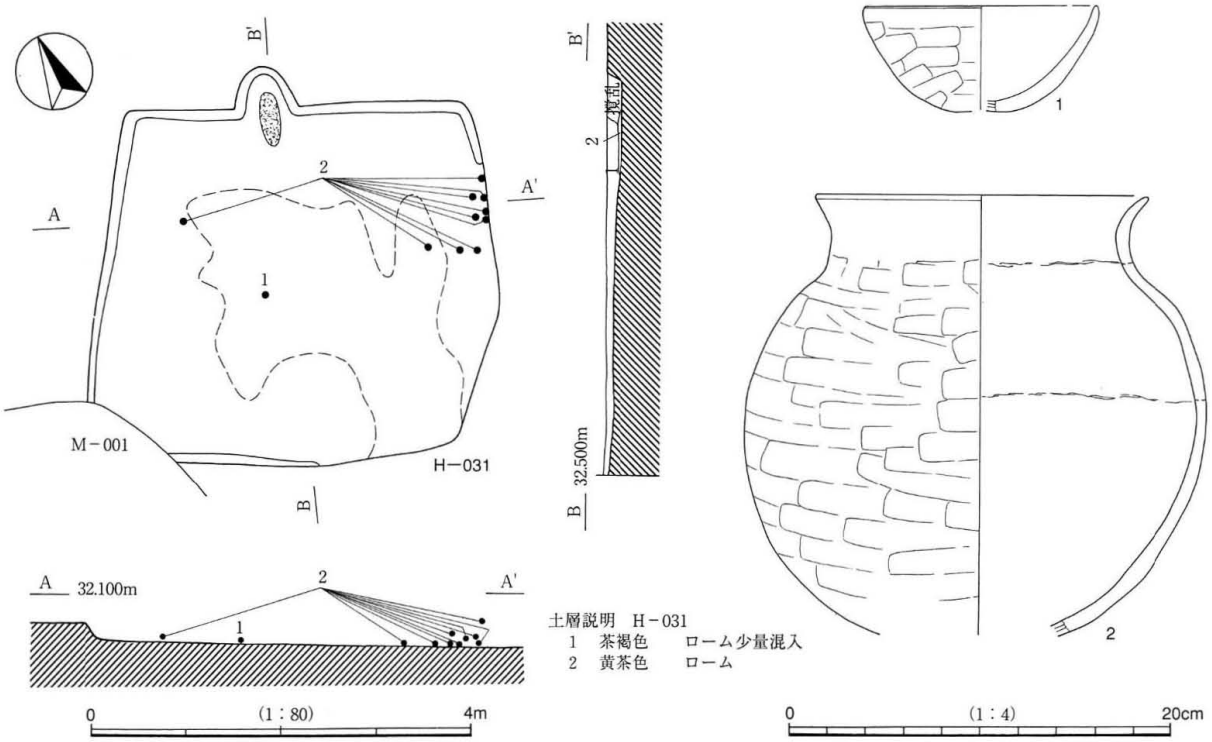



土層説明　H－030

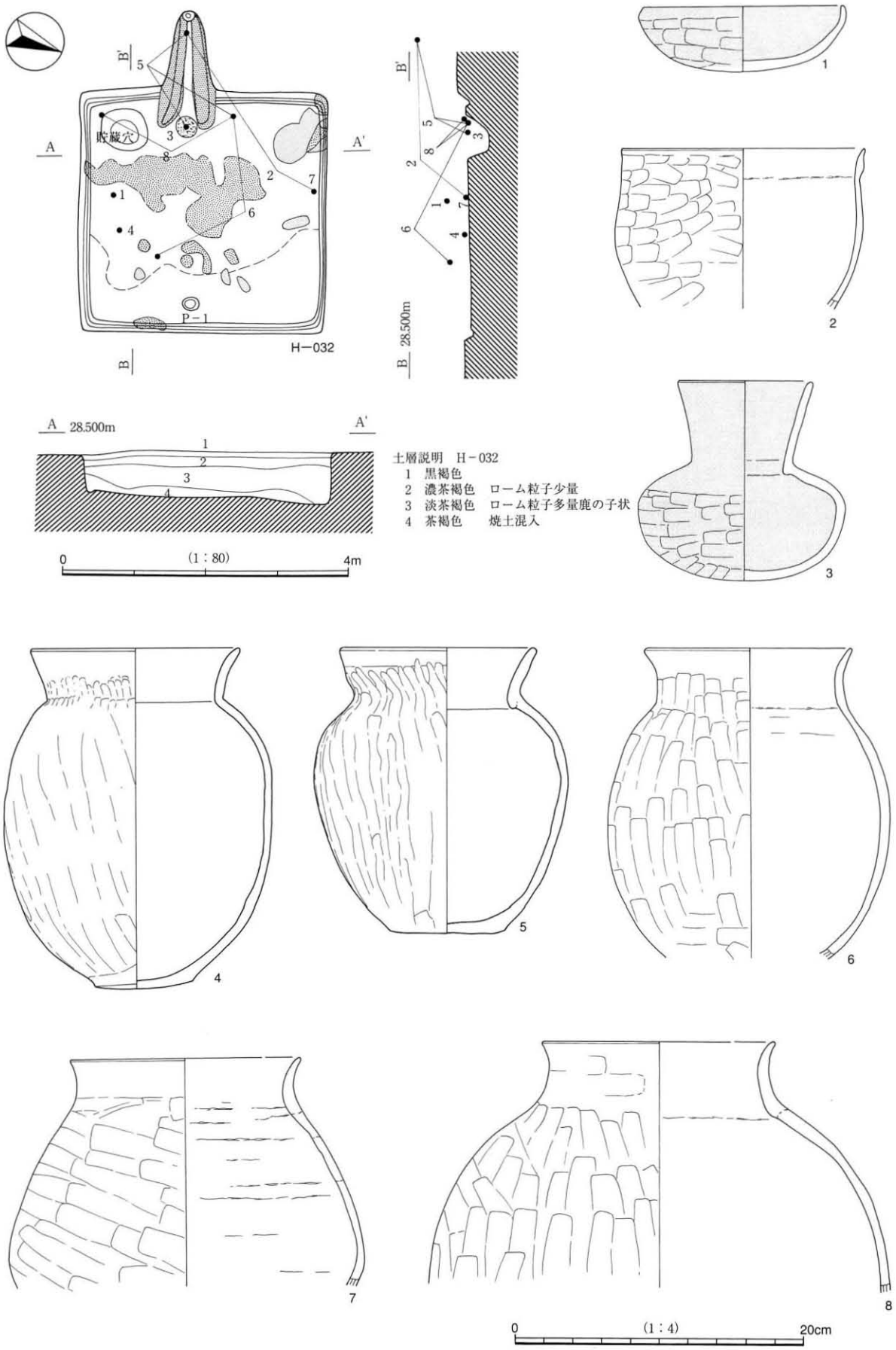
| | | |
|---|---|---|
| 1 | 明茶褐色 | ローム粒子鹿の子状 |
| 2 | 茶褐色 | ２層より濃い |
| 3 | 褐色 | ローム粒子多量、ロームブロック（中粒）適当量 |
| 4 | 褐色 | ロームブロック適当量・炭化粒子多量 |
| 5 | 茶黄褐色 | ローム粒子鹿の子状 |



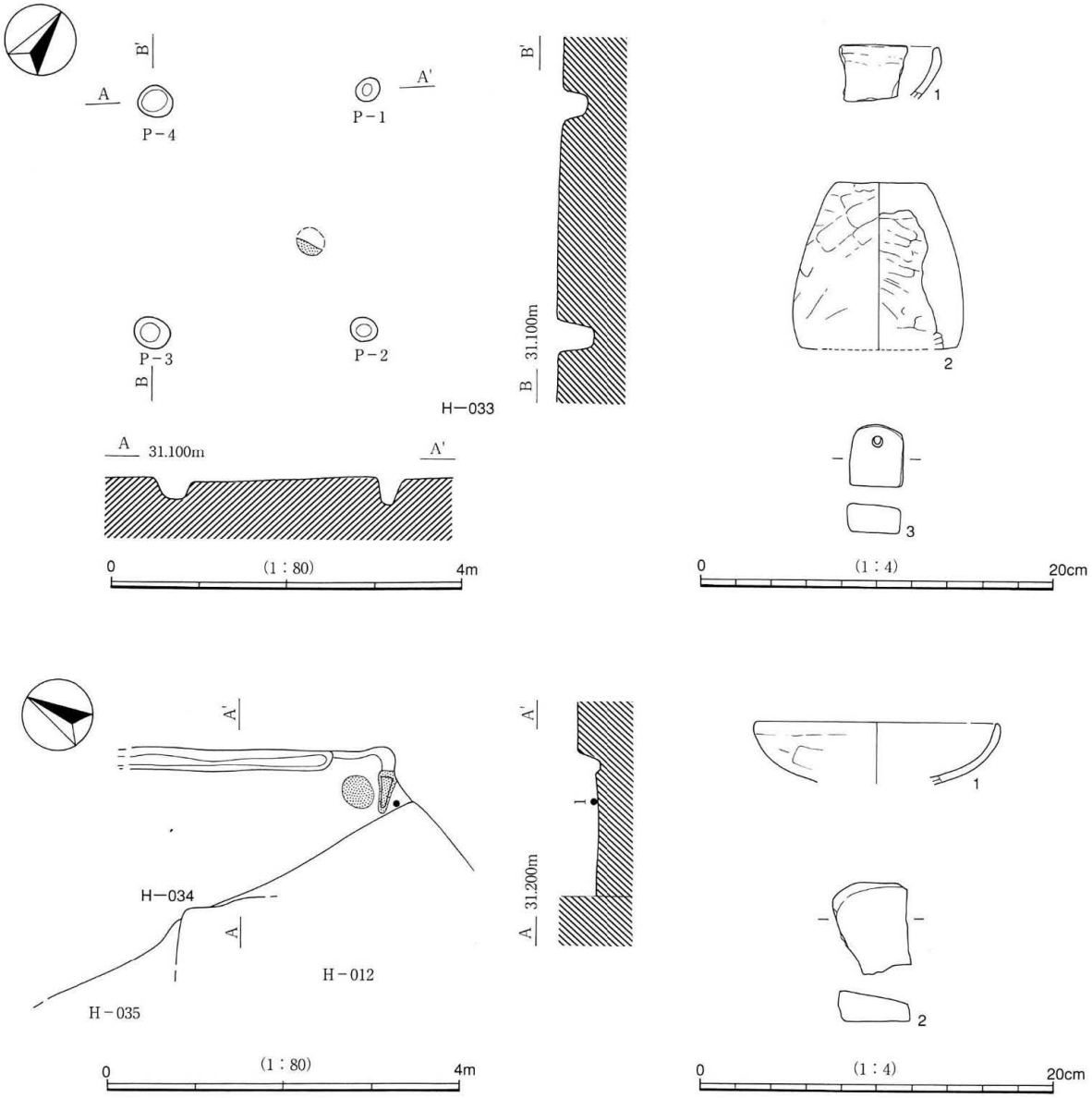

第72図　Ｈ－030実測図・出土遺物



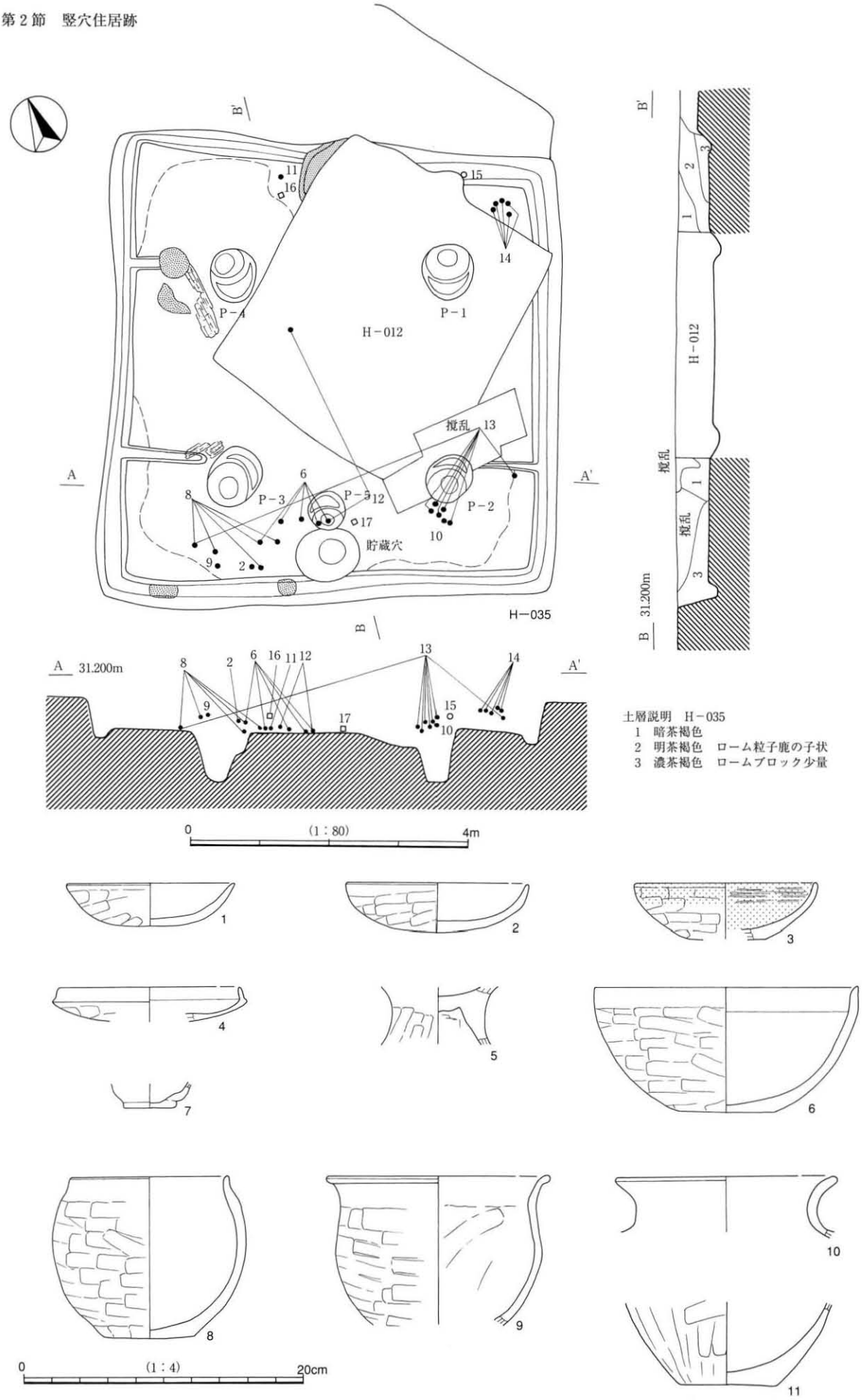

第73図　H－031実測図・出土遺物



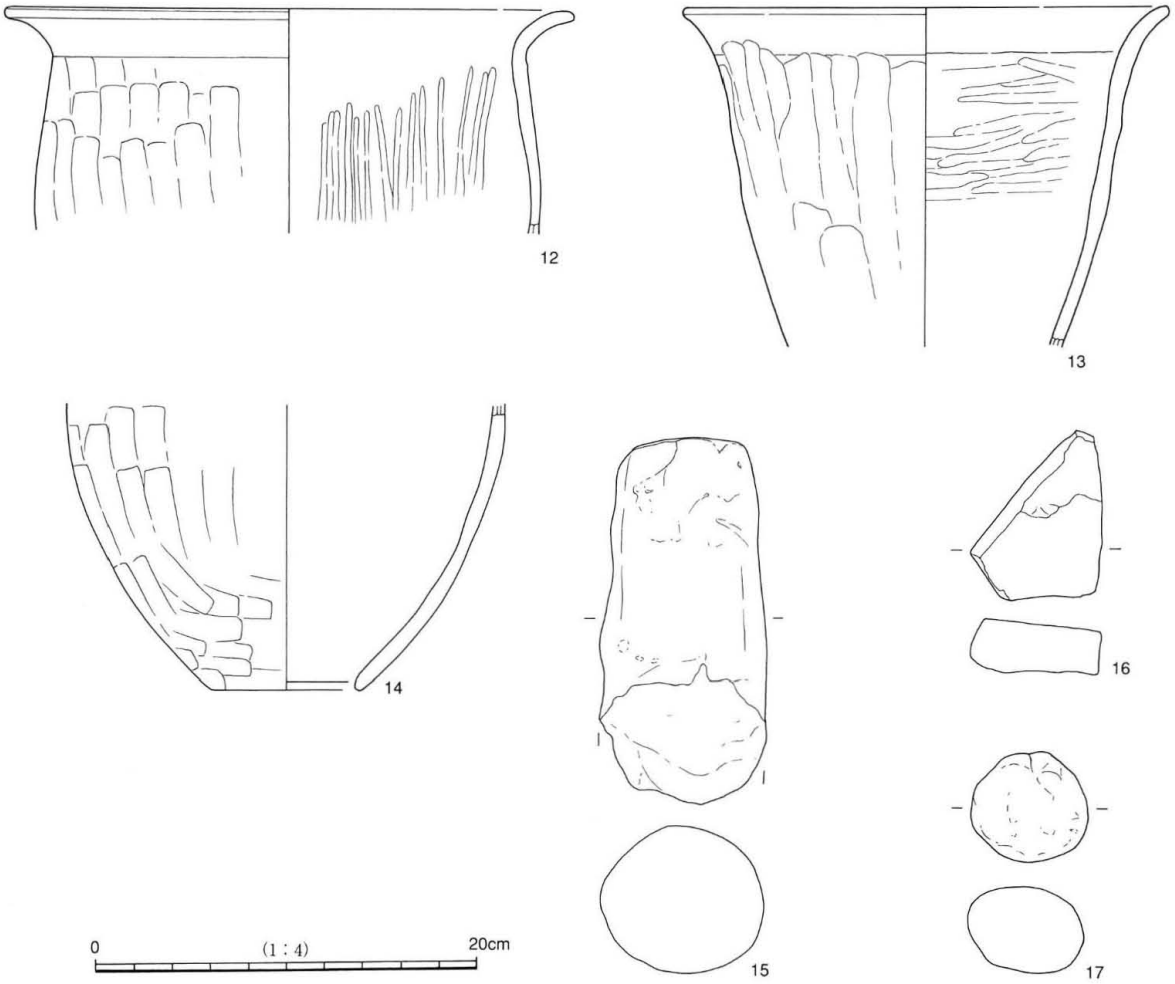

第74図　H－032実測図・出土遺物



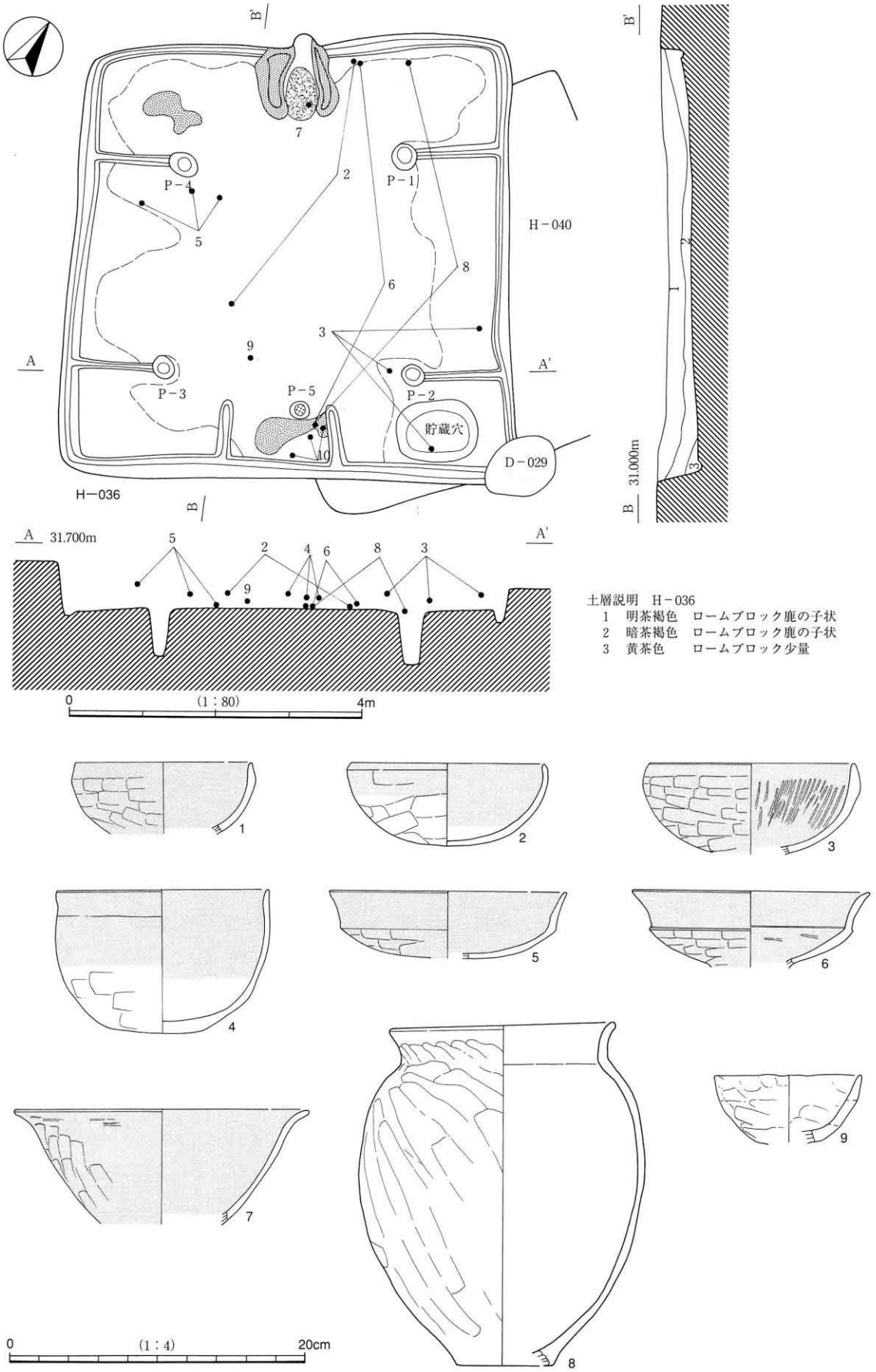

第75図　Ｈ－033・Ｈ－034実測図・出土遺物



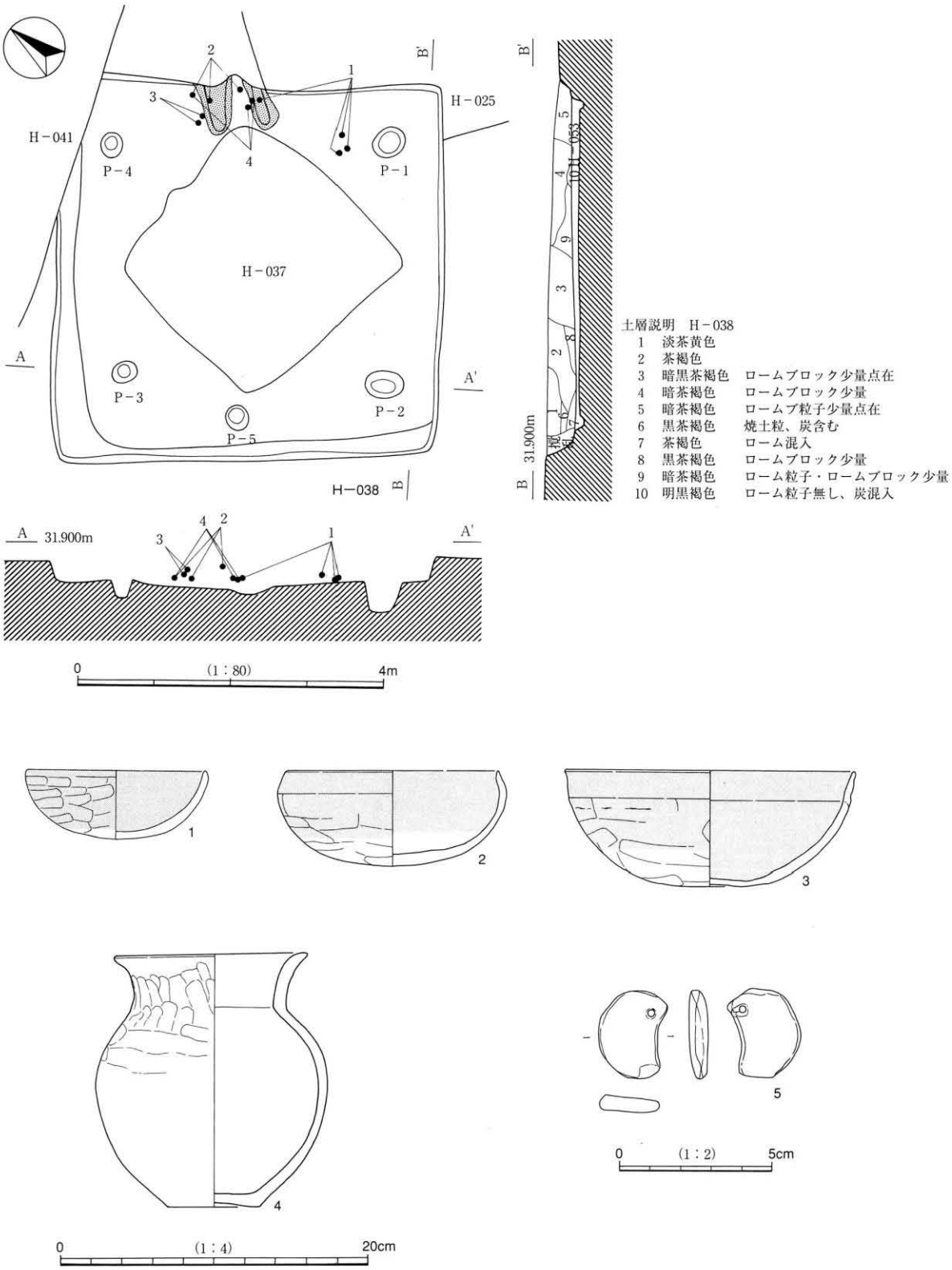

第76図　H－035実測図・出土遺物（1）



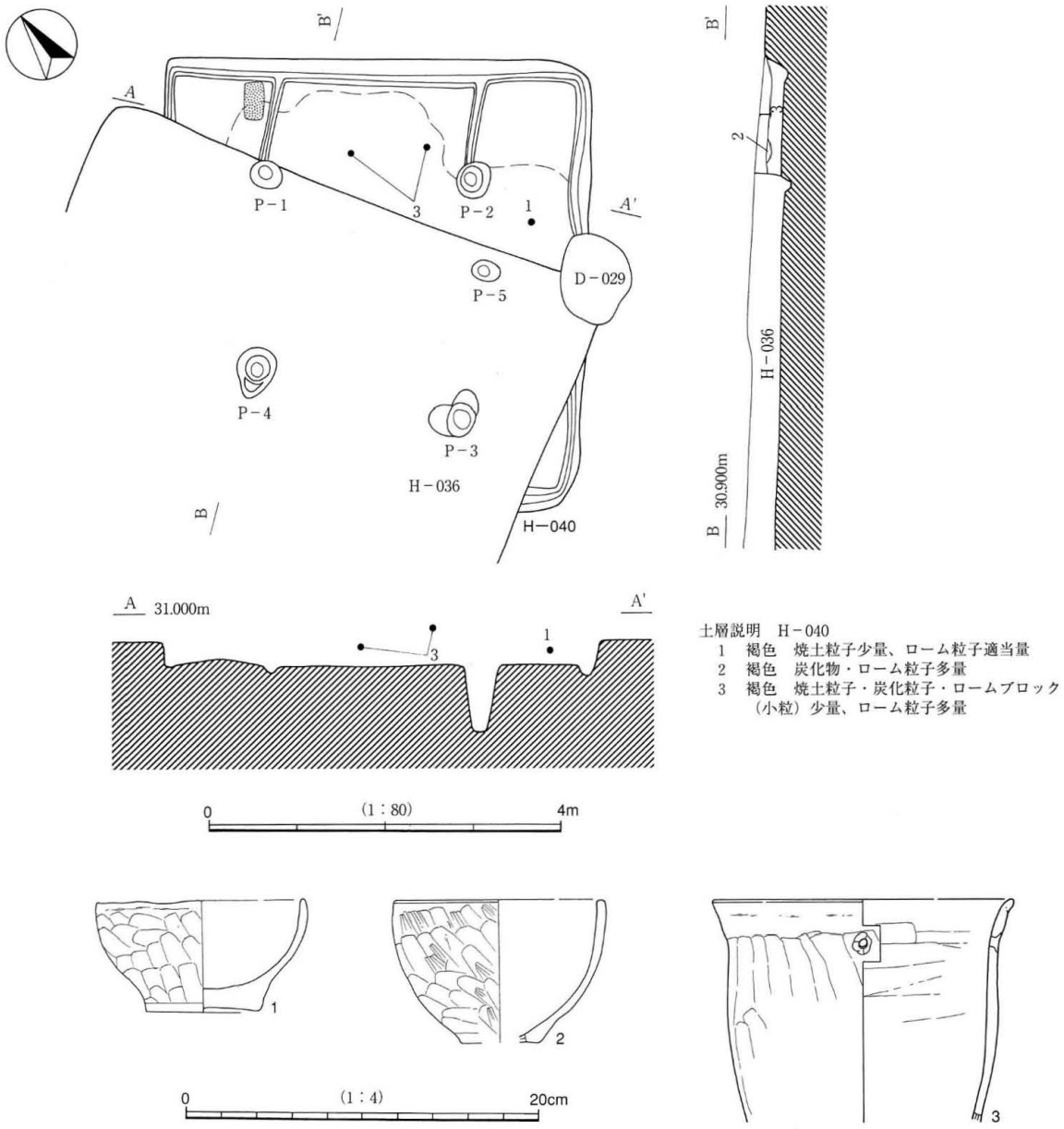

第77図　Ｈ－035出土遺物（２）



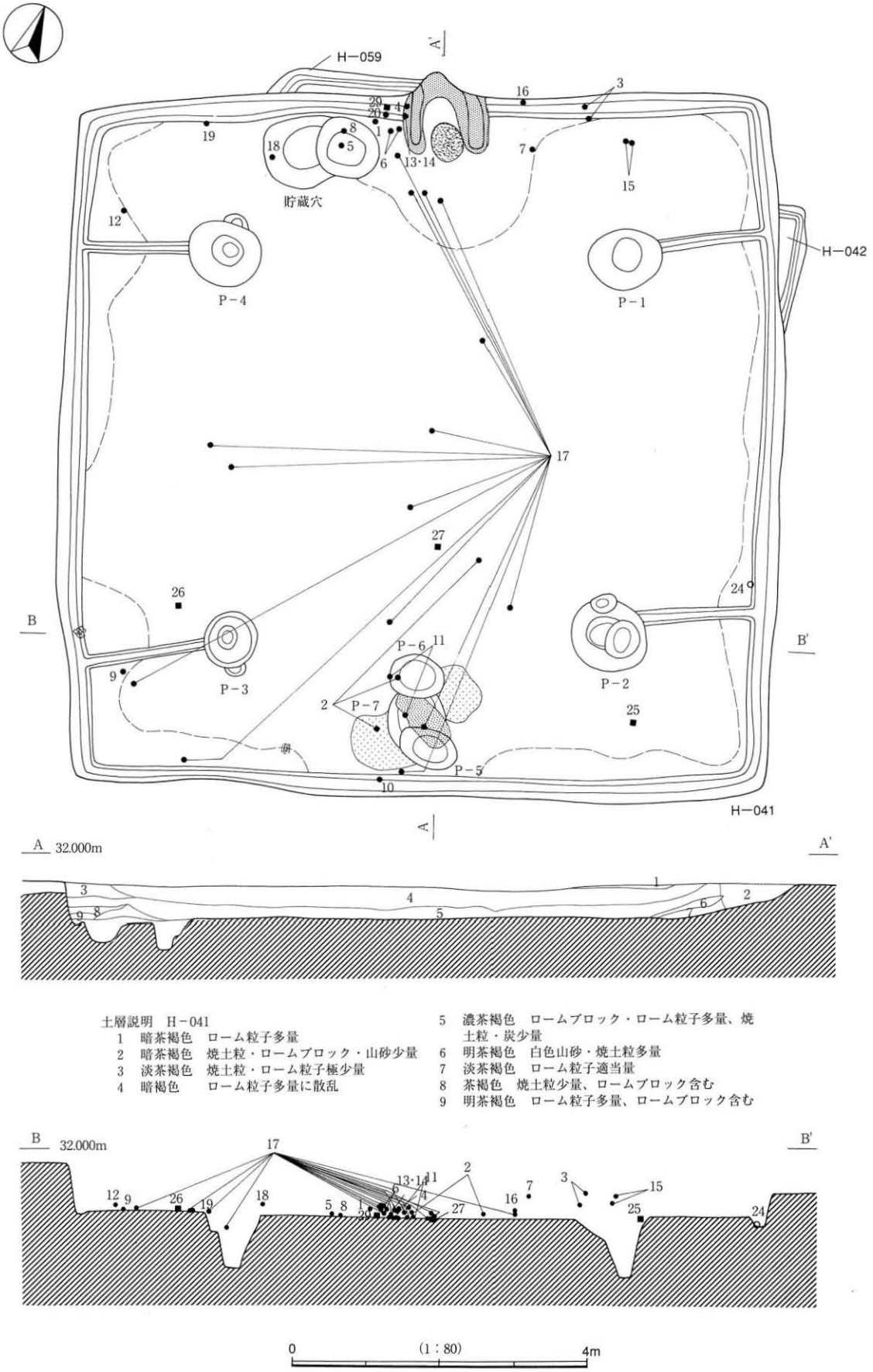

第78図　H－036実測図・出土遺物




第79図　H－038実測図・出土遺物



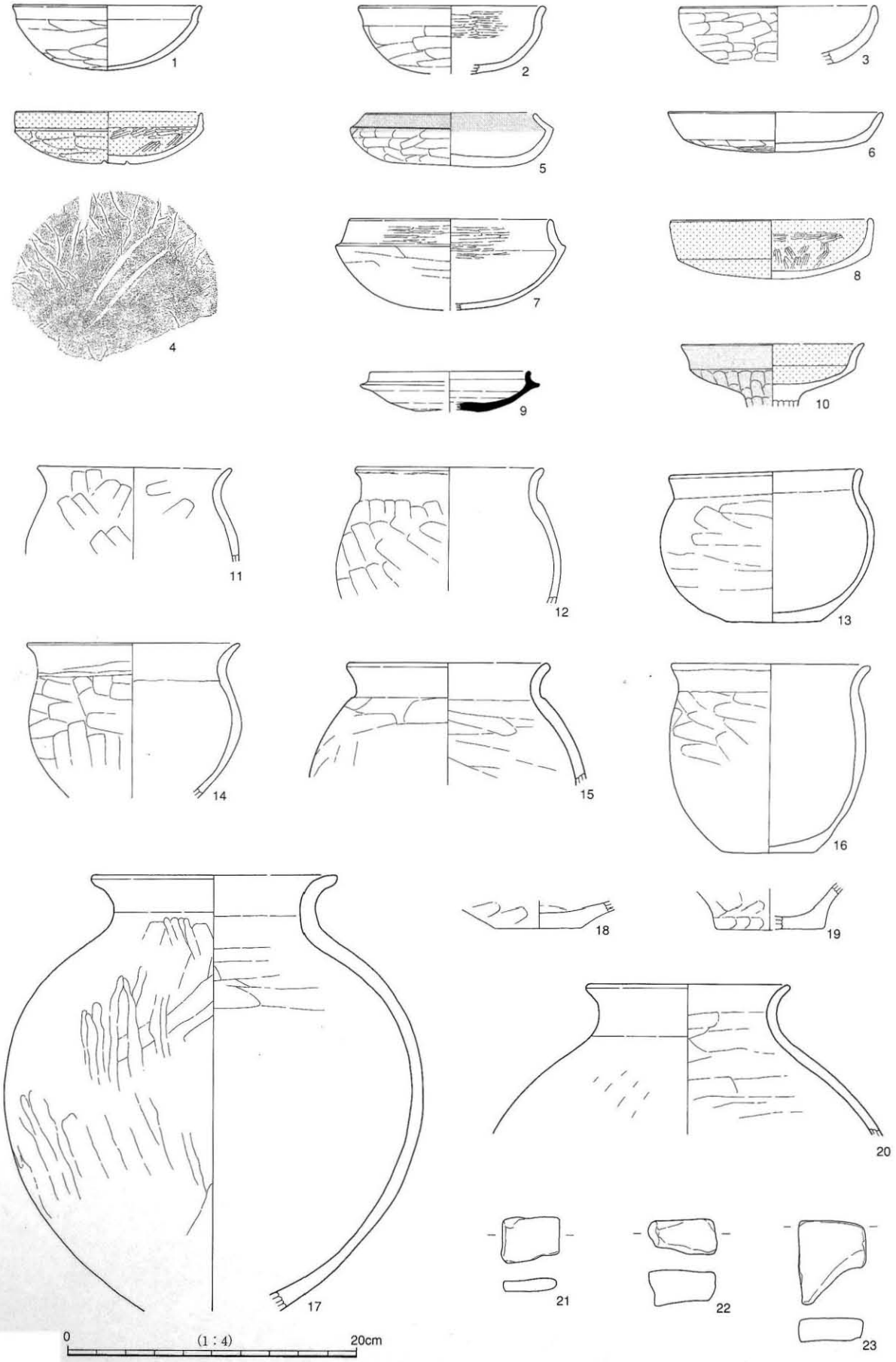

第80図　H－040実測図・出土遺物



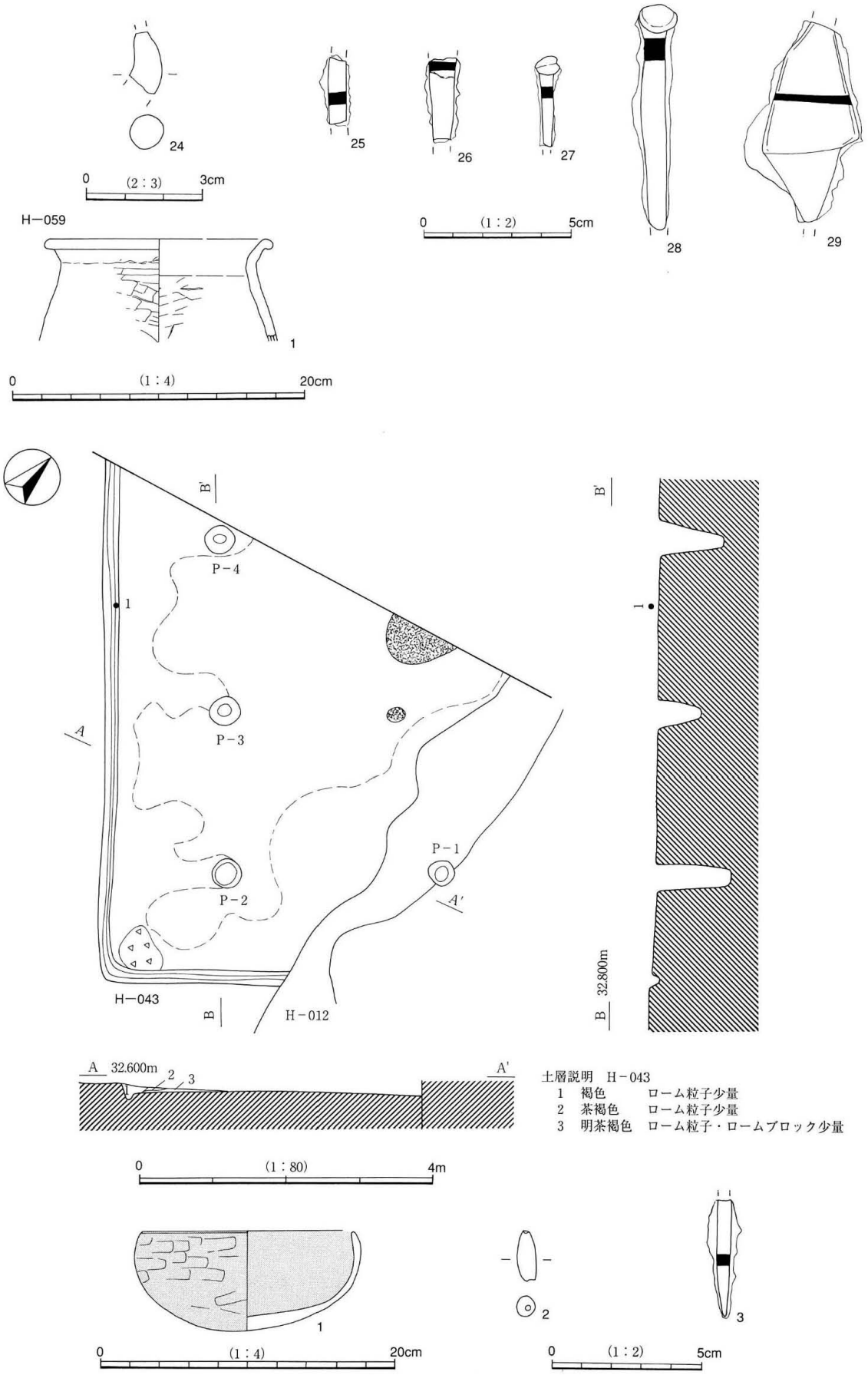

土層説明　H−041

1　暗茶褐色　ローム粒子多量
2　暗茶褐色　焼土粒・ロームブロック・山砂少量
3　淡茶褐色　焼土粒・ローム粒子極少量
4　暗褐色　ローム粒子多量に散乱
5　濃茶褐色　ロームブロック・ローム粒子多量、焼土粒・炭少量
6　明茶褐色　白色山砂・焼土粒多量
7　淡茶褐色　ローム粒子適当量
8　茶褐色　焼土粒少量、ロームブロック含む
9　明茶褐色　ローム粒子多量、ロームブロック含む

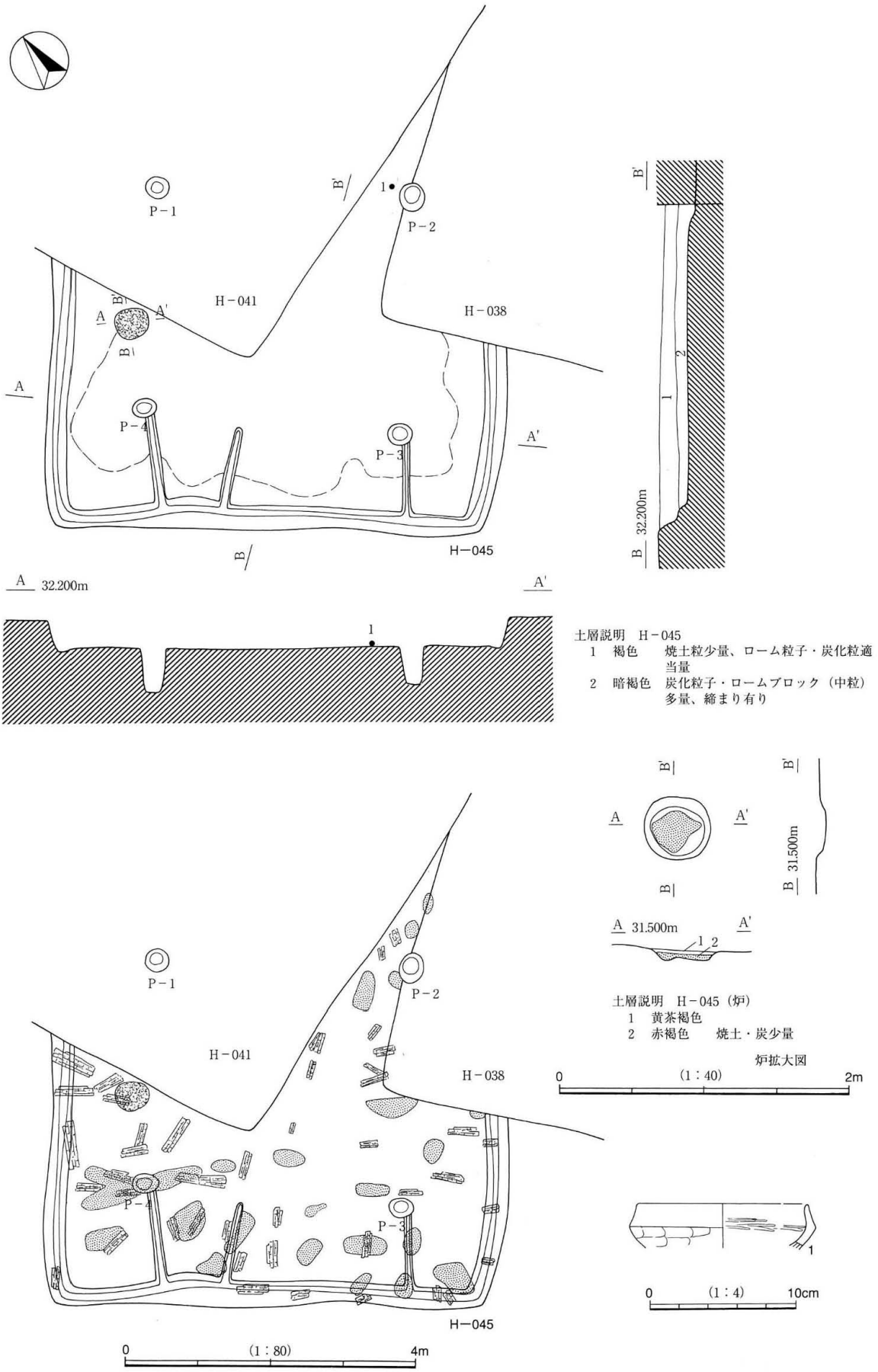
第81図　H−041・H−042・H−059実測図



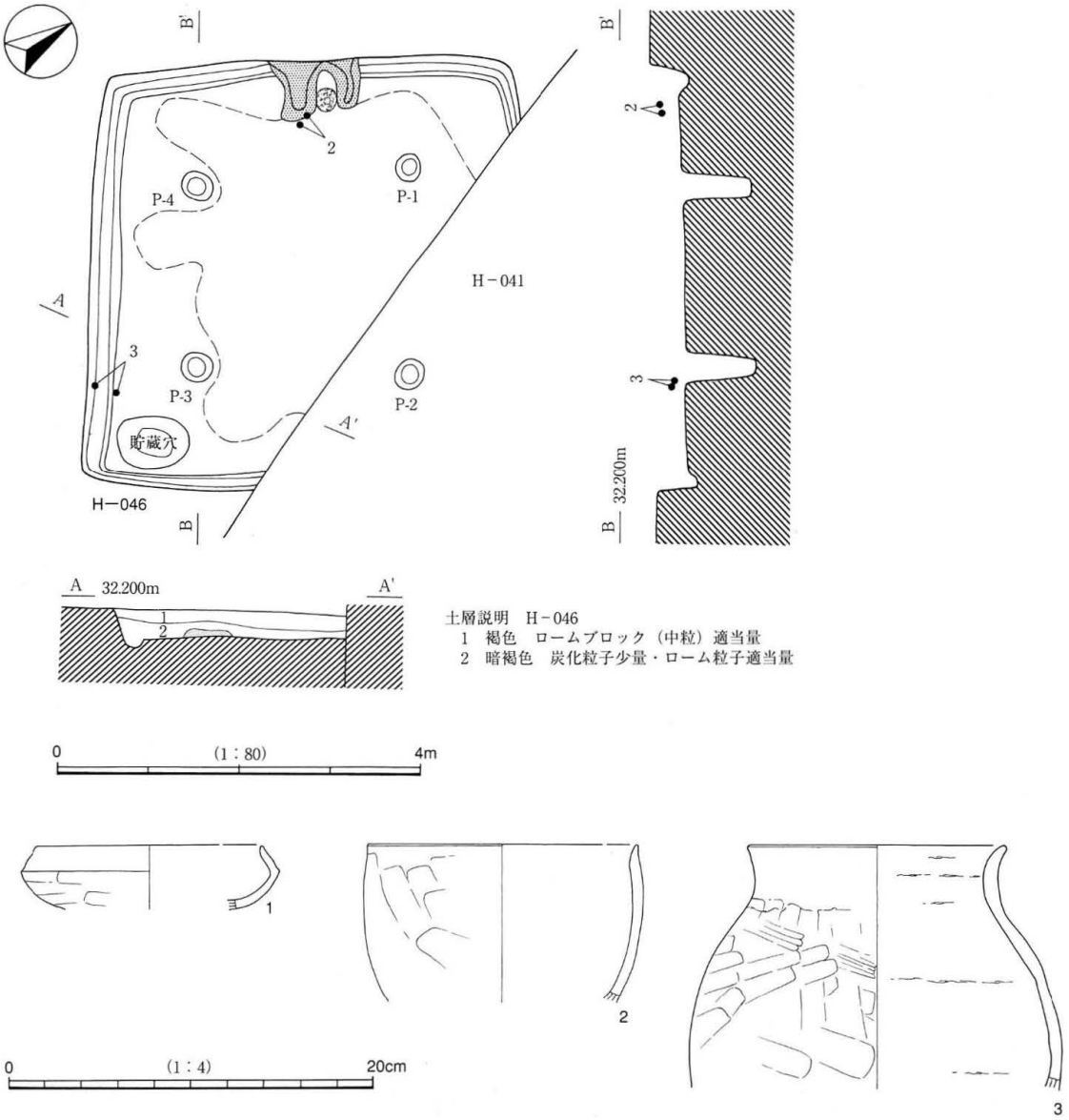

第82図　Ｈ－041出土遺物（１）



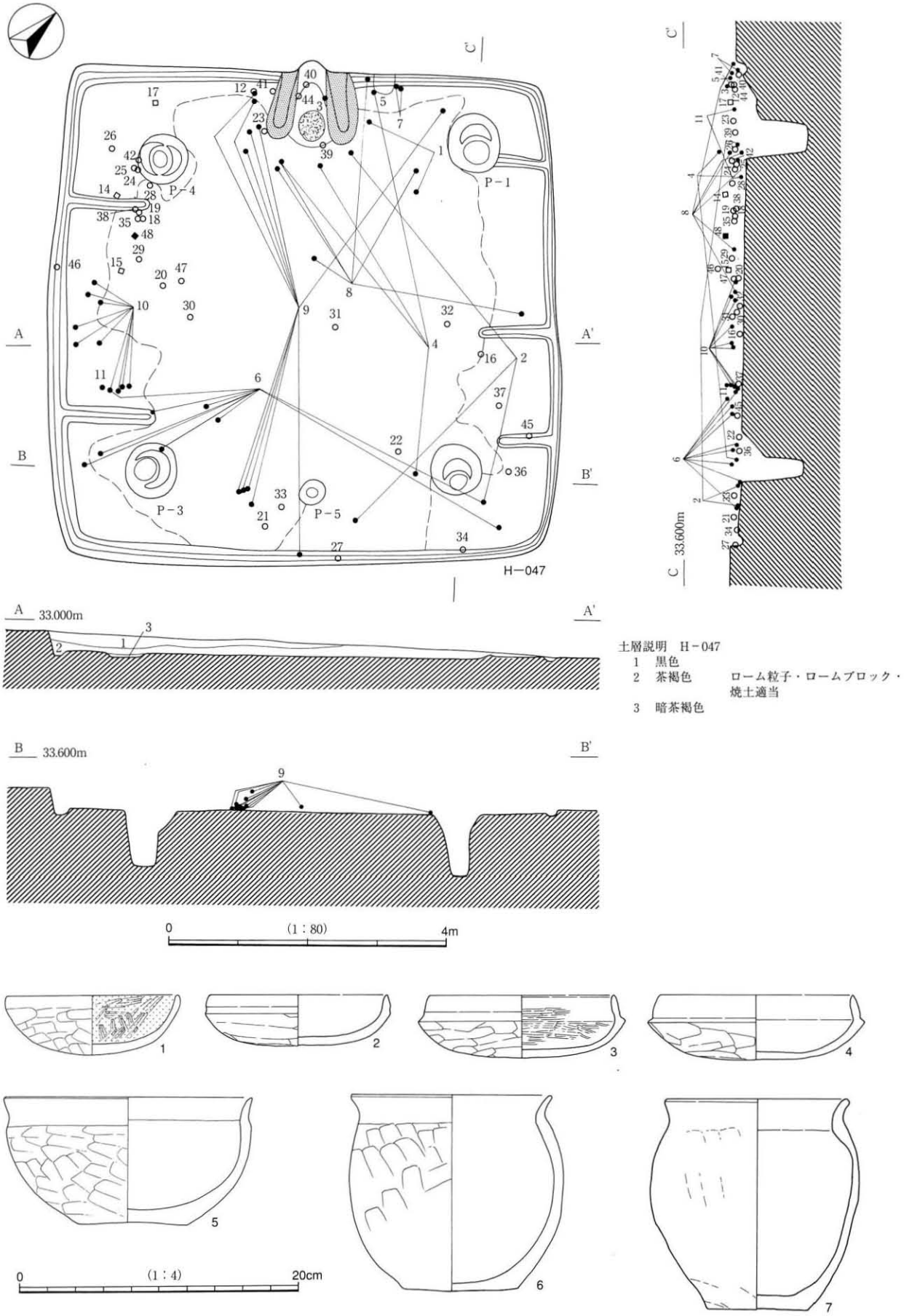

第83図　H−041・H−059出土遺物（２）・H−043実測図・出土遺物




第84図　H－045実測図・出土遺物

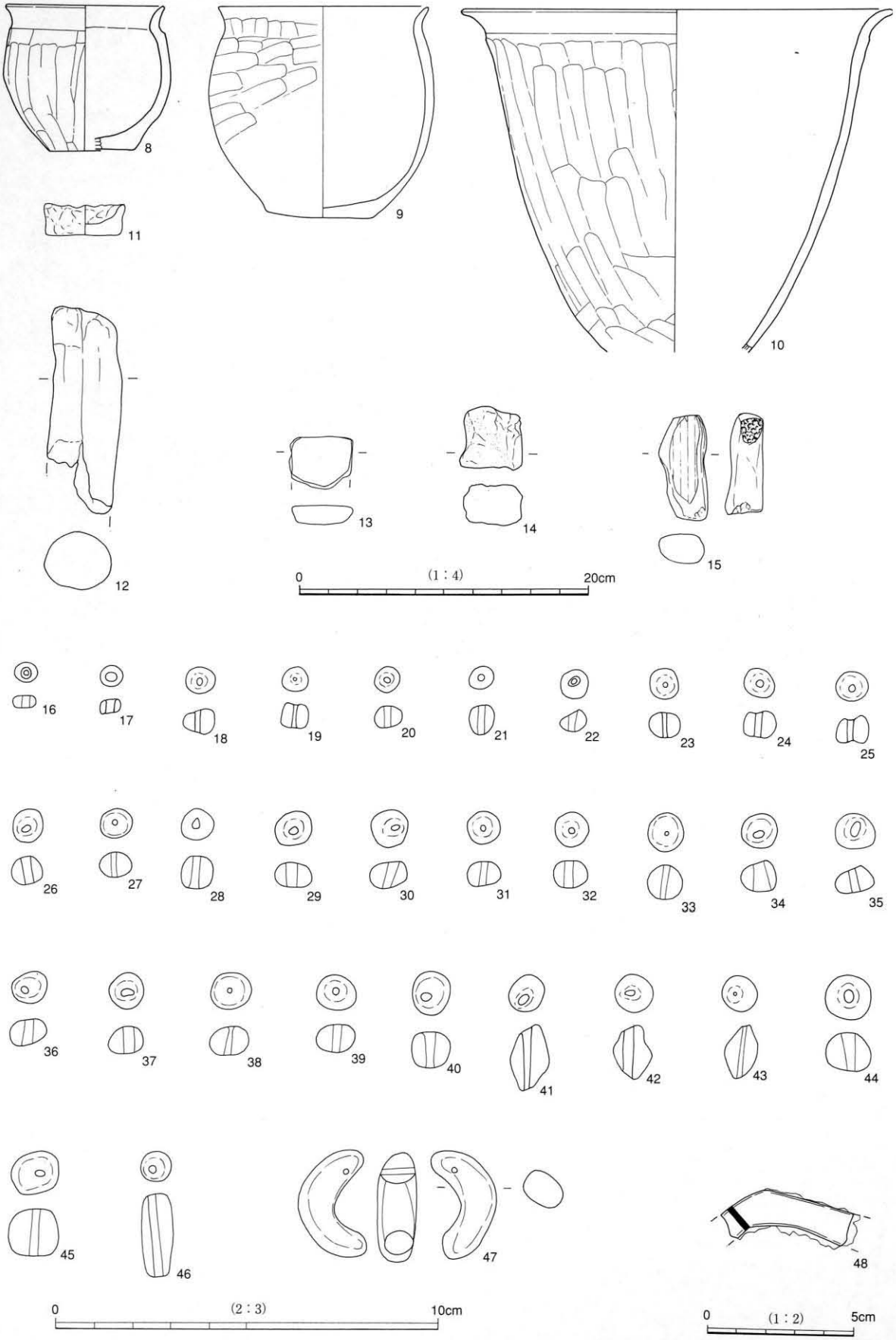



第85図　H－046実測図・出土遺物

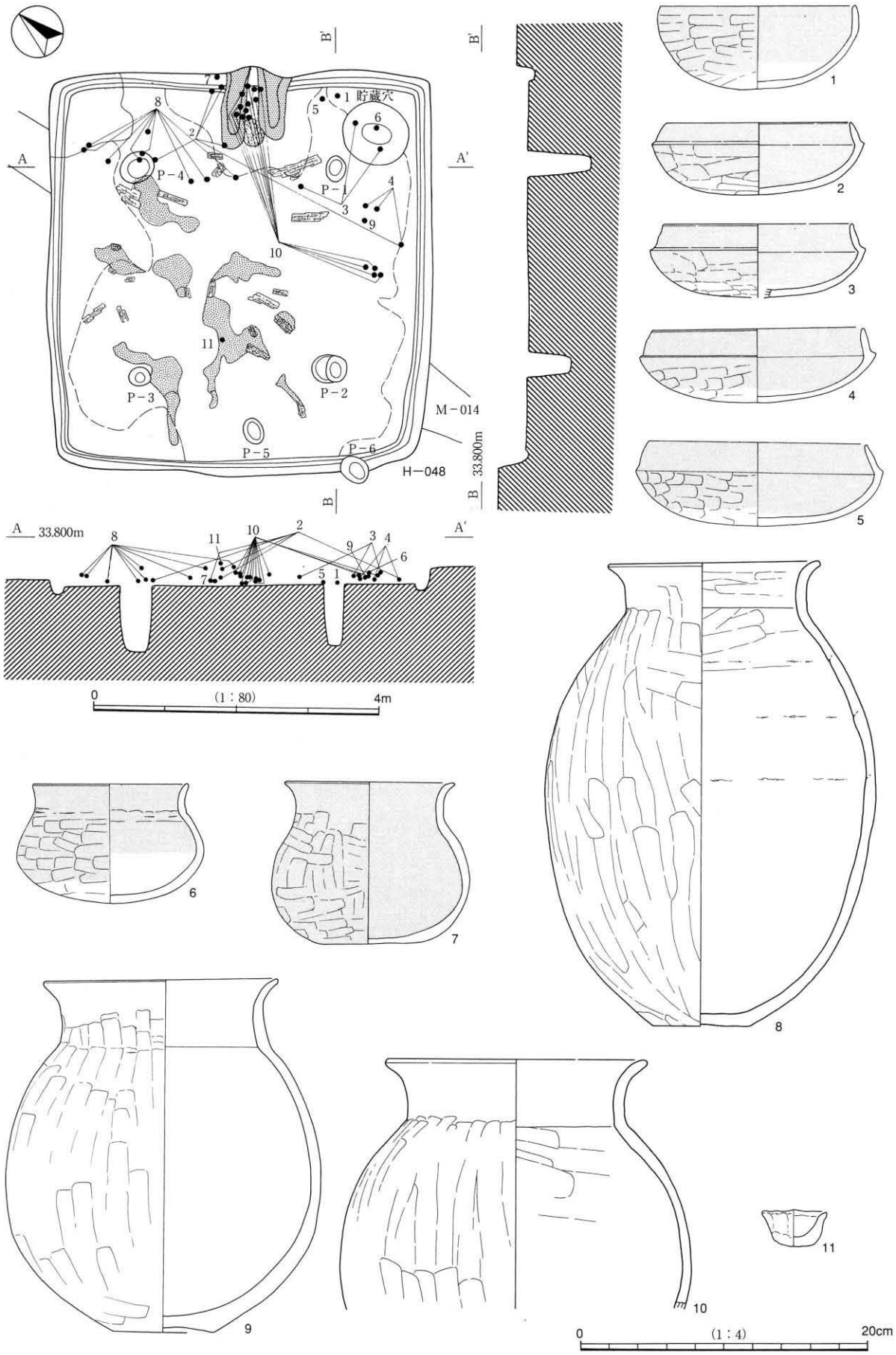



土層説明　H－047
1　黒色
2　茶褐色　　ローム粒子・ロームブロック・焼土適当
3　暗茶褐色

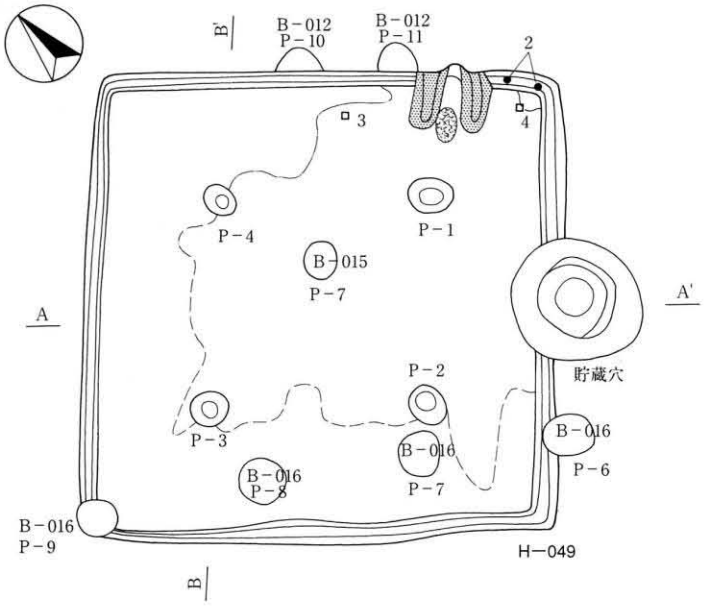
第86図　H－047実測図・出土遺物（1）

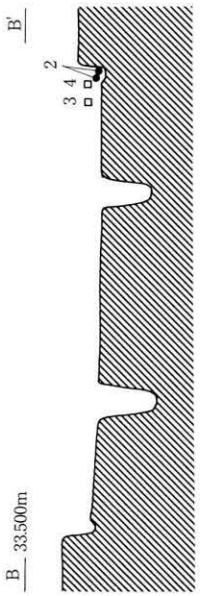


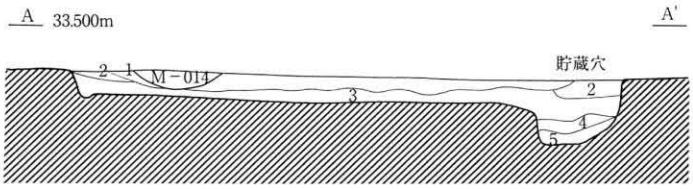

第87図　H－047出土遺物（２）




第88図　Ｈ－048実測図・出土遺物



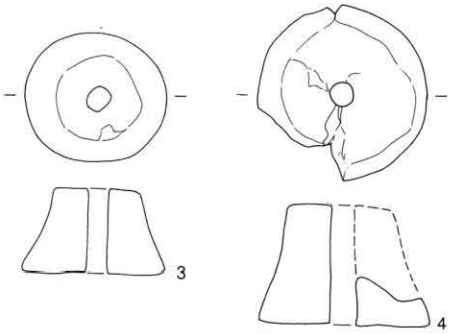




土層説明　H－049

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子適当量、ロームブロック（中粒）少量、締まり有り |
| 2 | 褐色 | ローム粒子多量、ロームブロック（小粒）少量、締まり有り |
| 3 | 暗褐色 | ソフトローム混入、ロームブロック（小粒）少量、締まり有り |
| 4 | 黒褐色 | ローム粒子適当量、締まり無し |
| 5 | 明褐色 | ローム粒子多量、ロームブロック（小粒）少量、締まり有り |

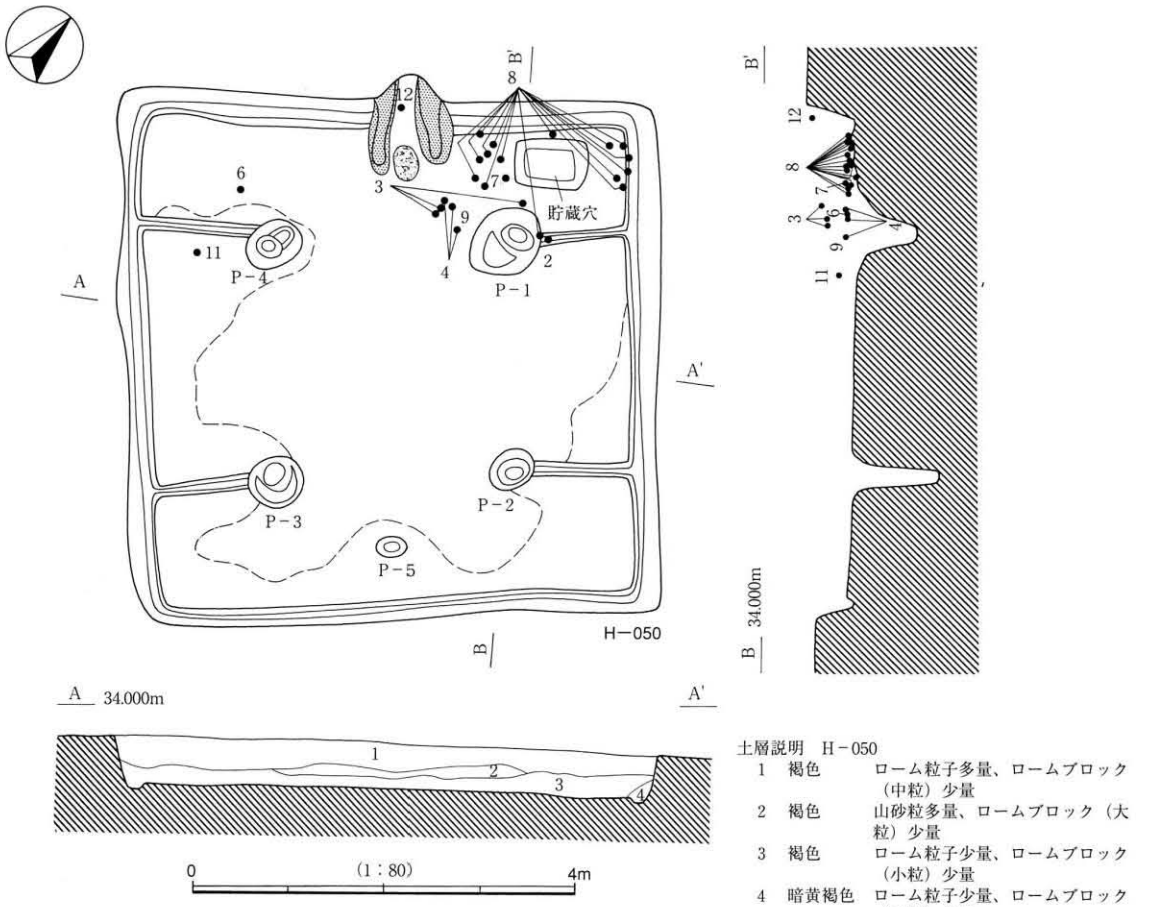
0　(1：80)　4m

0　(1：4)　20cm



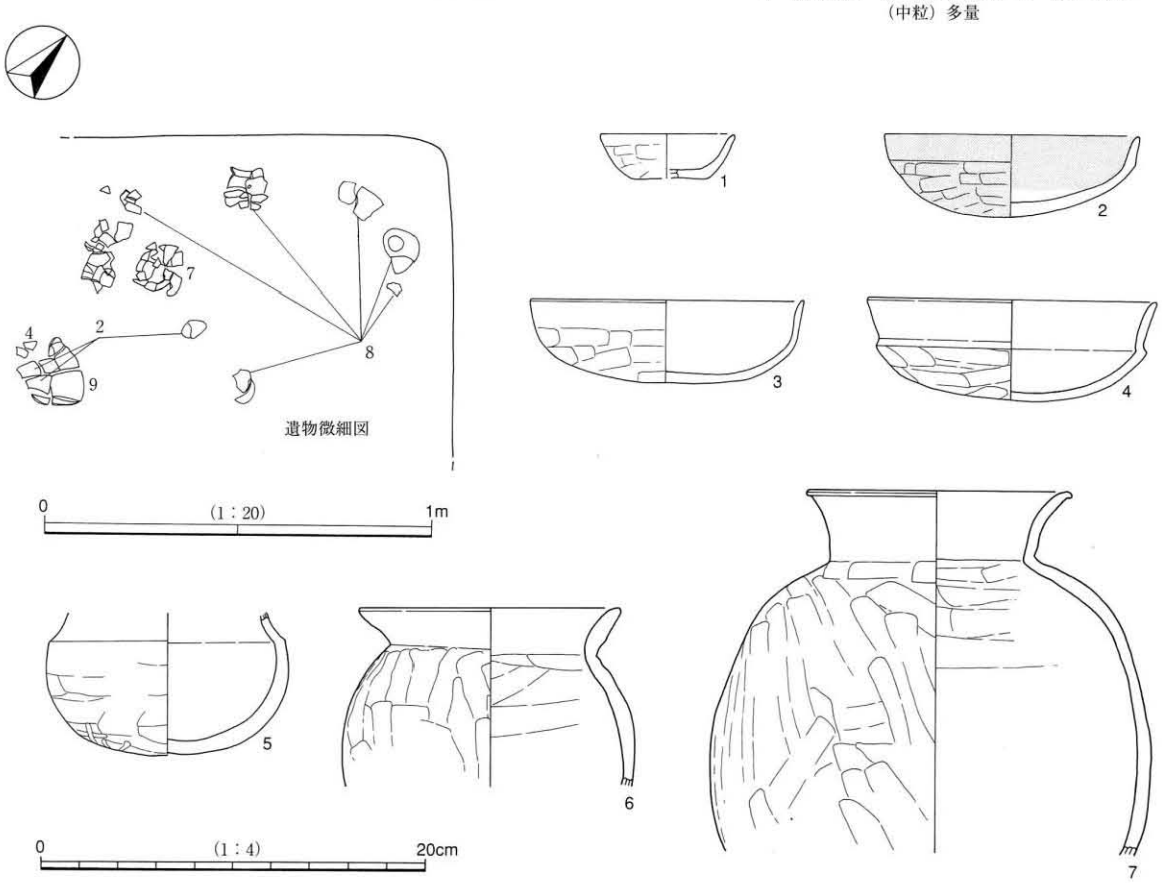

0　(1：2)　5cm

第89図　H－049実測図・出土遺物

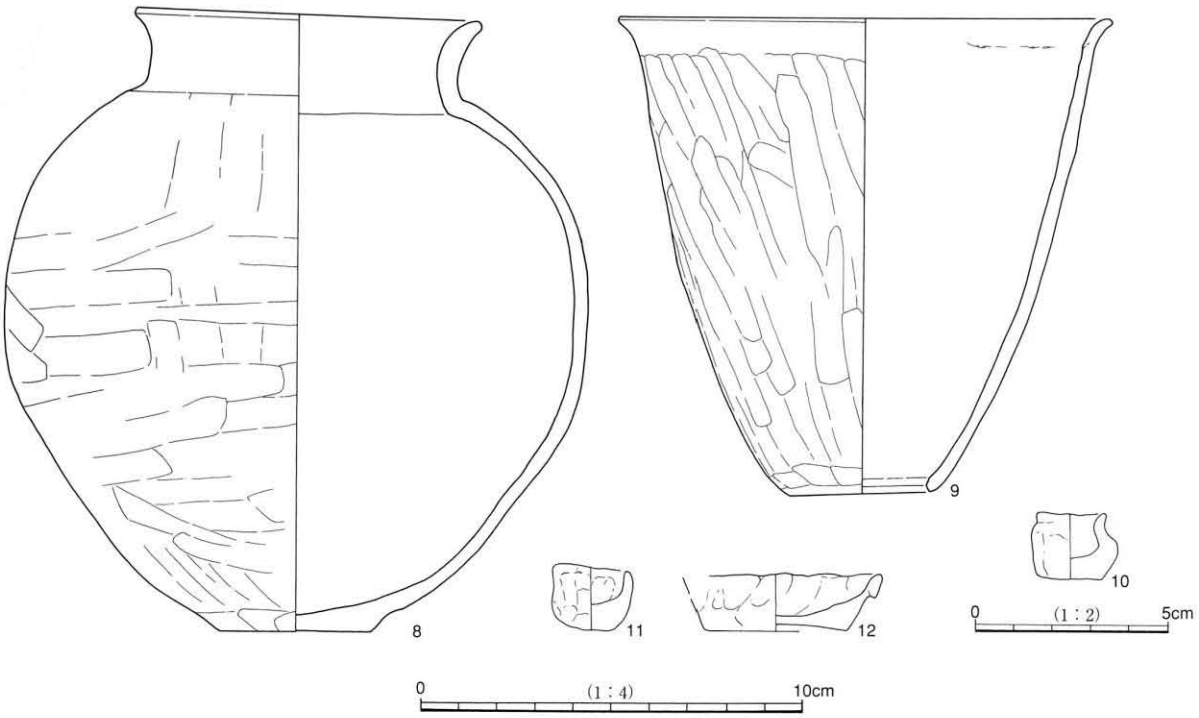


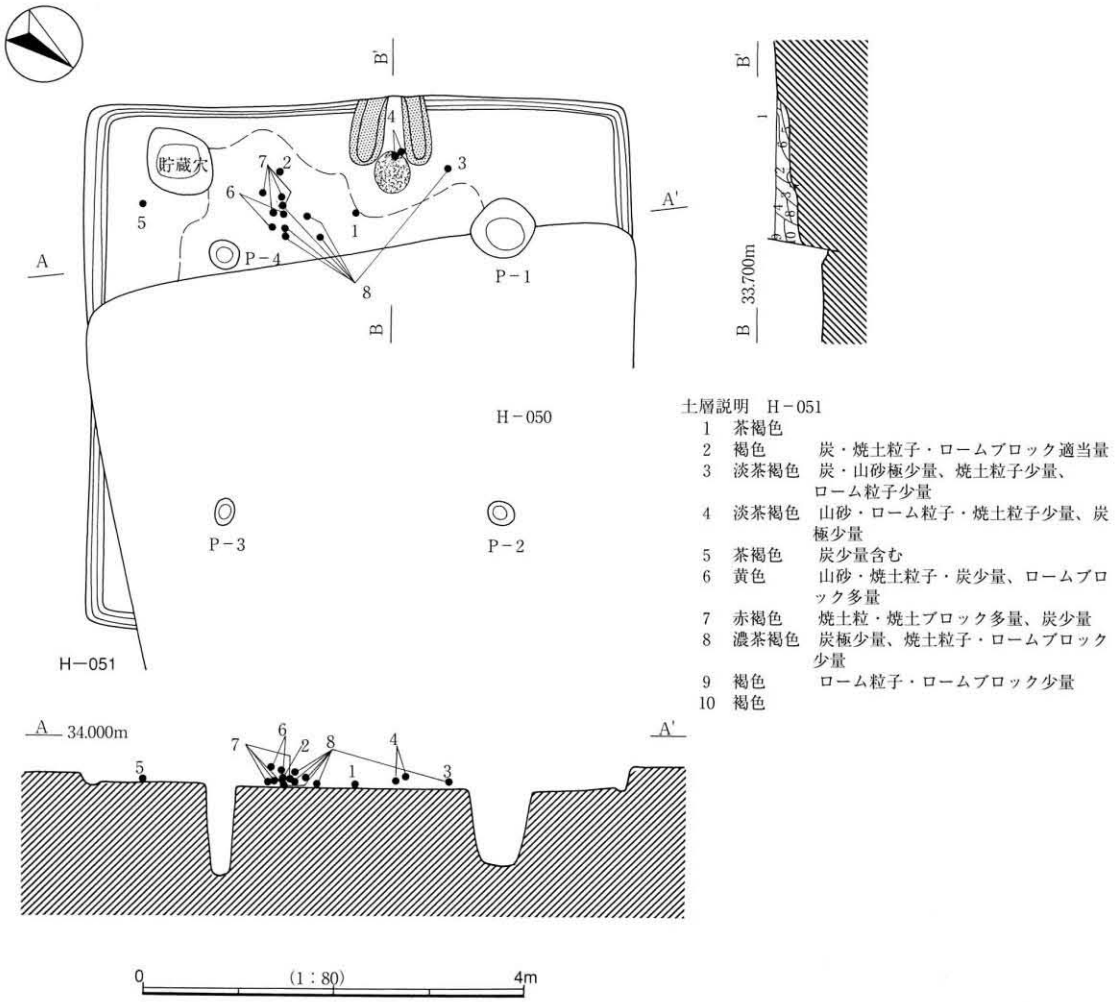

土層説明　H－050

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 褐色 | ローム粒子多量、ロームブロック（中粒）少量 |
| 2 | 褐色 | 山砂粒多量、ロームブロック（大粒）少量 |
| 3 | 褐色 | ローム粒子少量、ロームブロック（小粒）少量 |
| 4 | 暗黄褐色 | ローム粒子少量、ロームブロック（中粒）多量 |




第90図　H－050実測図・出土遺物（１）

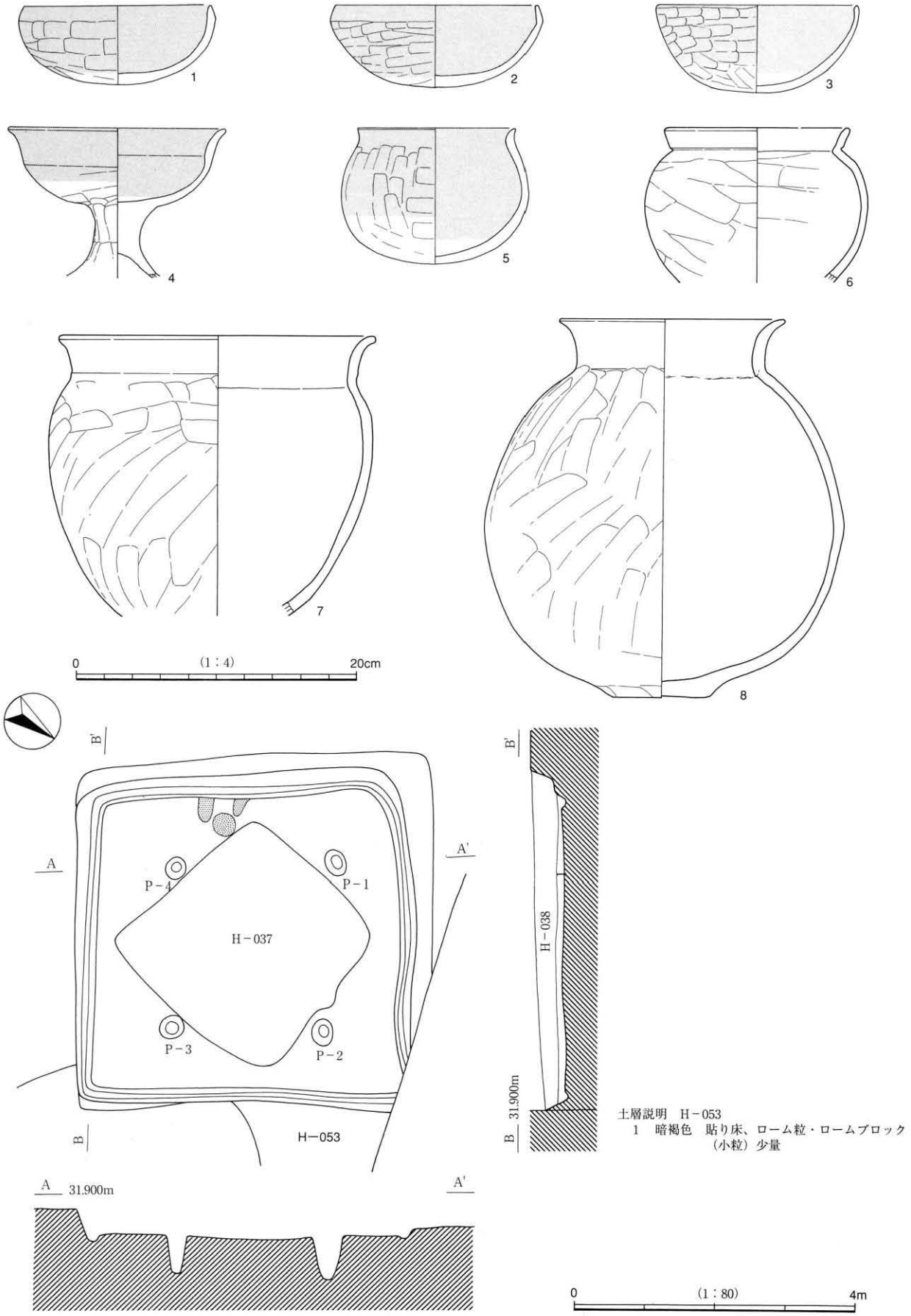


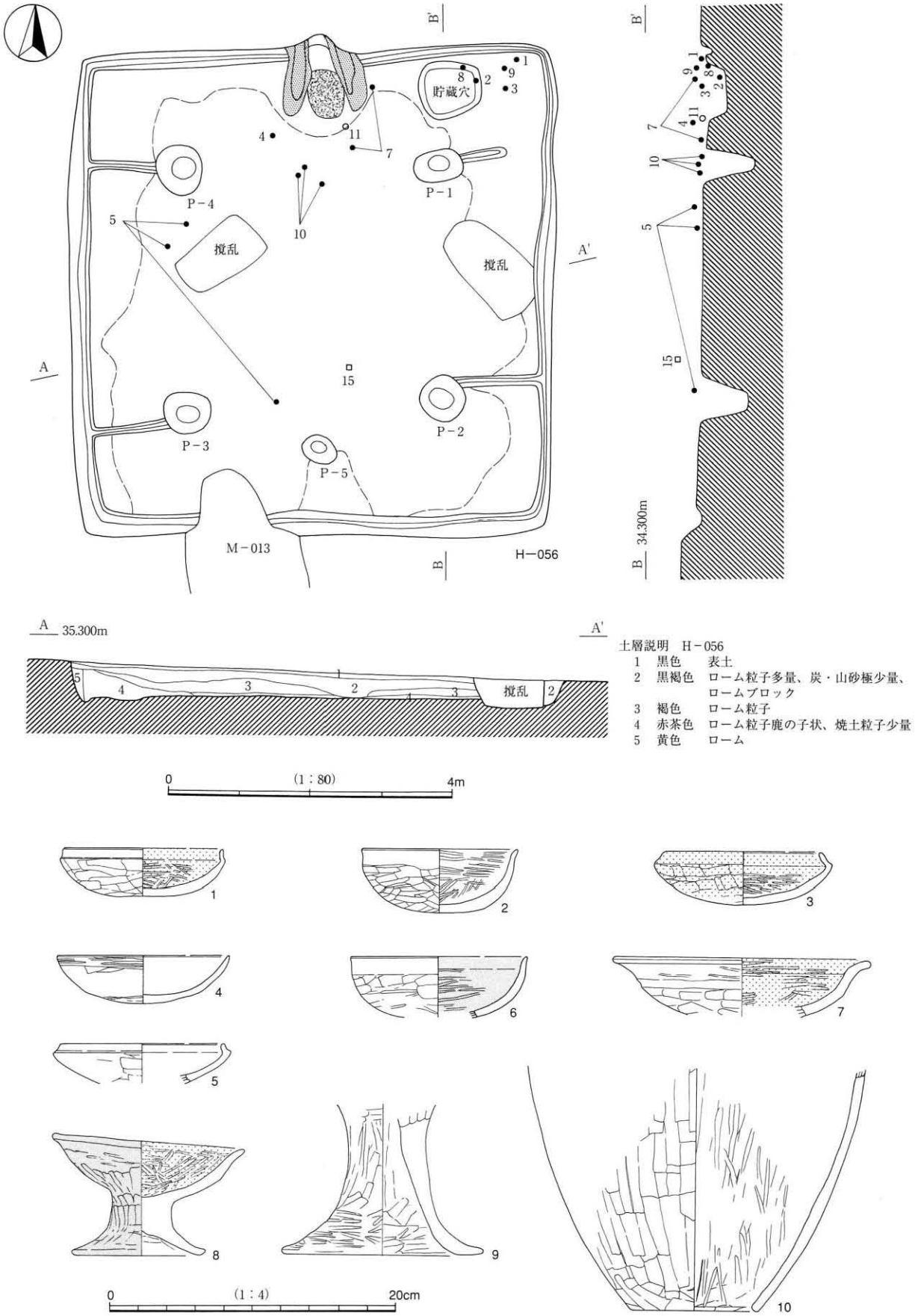

土層説明　H－051

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 茶褐色 | |
| 2 | 褐色 | 炭・焼土粒子・ロームブロック適当量 |
| 3 | 淡茶褐色 | 炭・山砂極少量、焼土粒子少量、ローム粒子少量 |
| 4 | 淡茶褐色 | 山砂・ローム粒子・焼土粒子少量、炭極少量 |
| 5 | 茶褐色 | 炭少量含む |
| 6 | 黄色 | 山砂・焼土粒子・炭少量、ロームブロック多量 |
| 7 | 赤褐色 | 焼土粒・焼土ブロック多量、炭少量 |
| 8 | 濃茶褐色 | 炭極少量、焼土粒子・ロームブロック少量 |
| 9 | 褐色 | ローム粒子・ロームブロック少量 |
| 10 | 褐色 | |

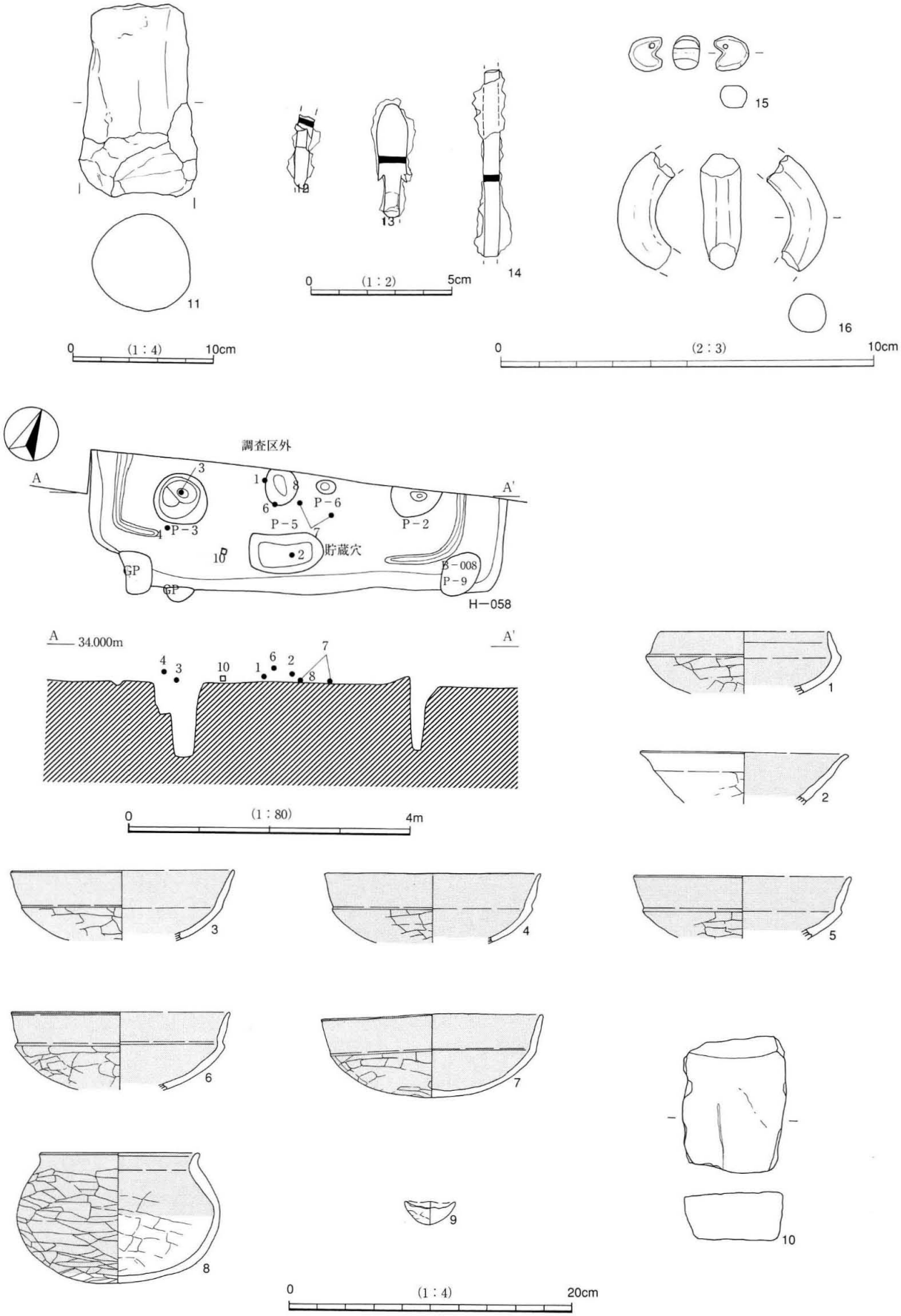
第91図　H－050出土遺物（２）・H－051実測図



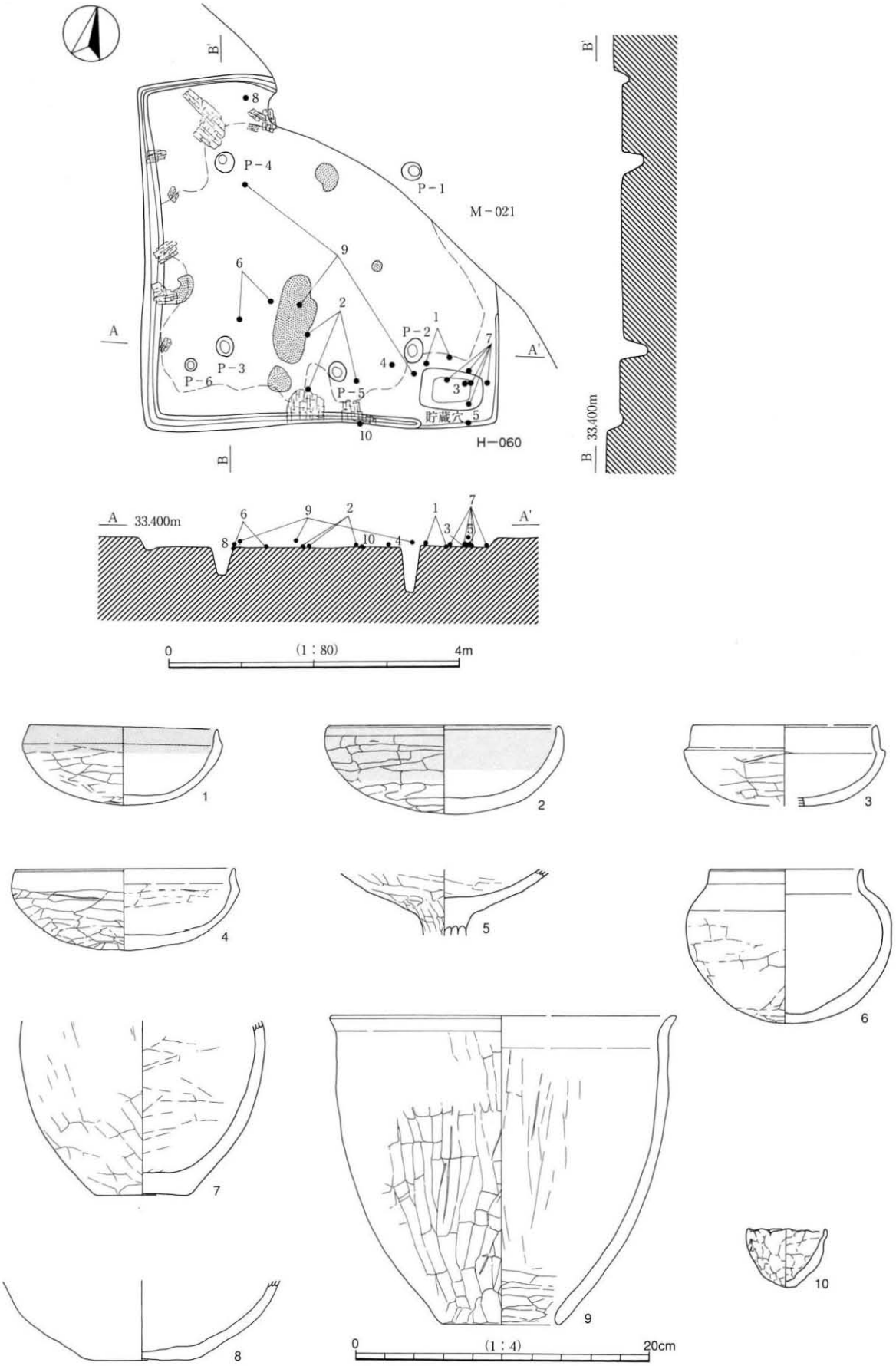

第92図　H－051出土遺物（２）・H－053実測図



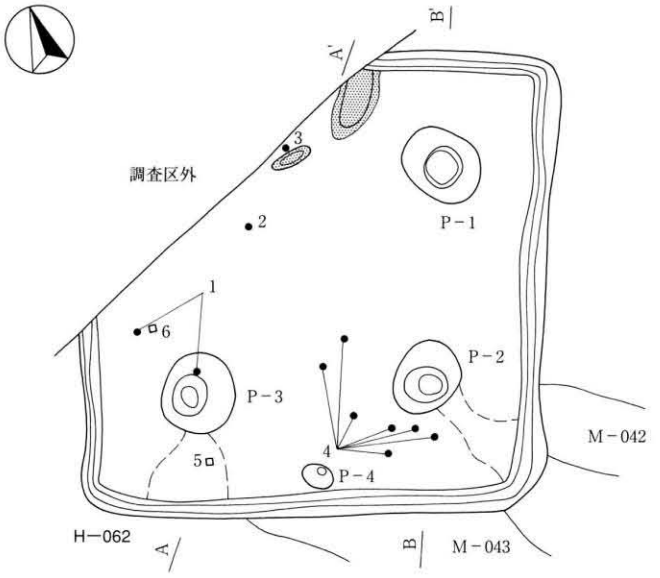

第93図　H－056実測図・出土遺物（1）

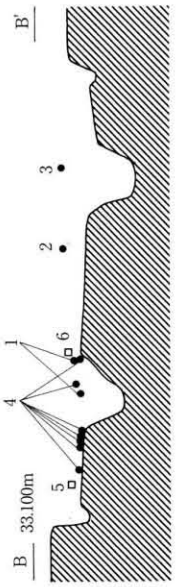


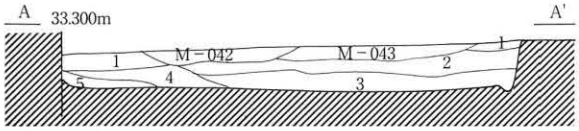

第94図　Ｈ－056出土遺物（２）・Ｈ－058実測図・出土遺物




第95図　Ｈ－060実測図・出土遺物



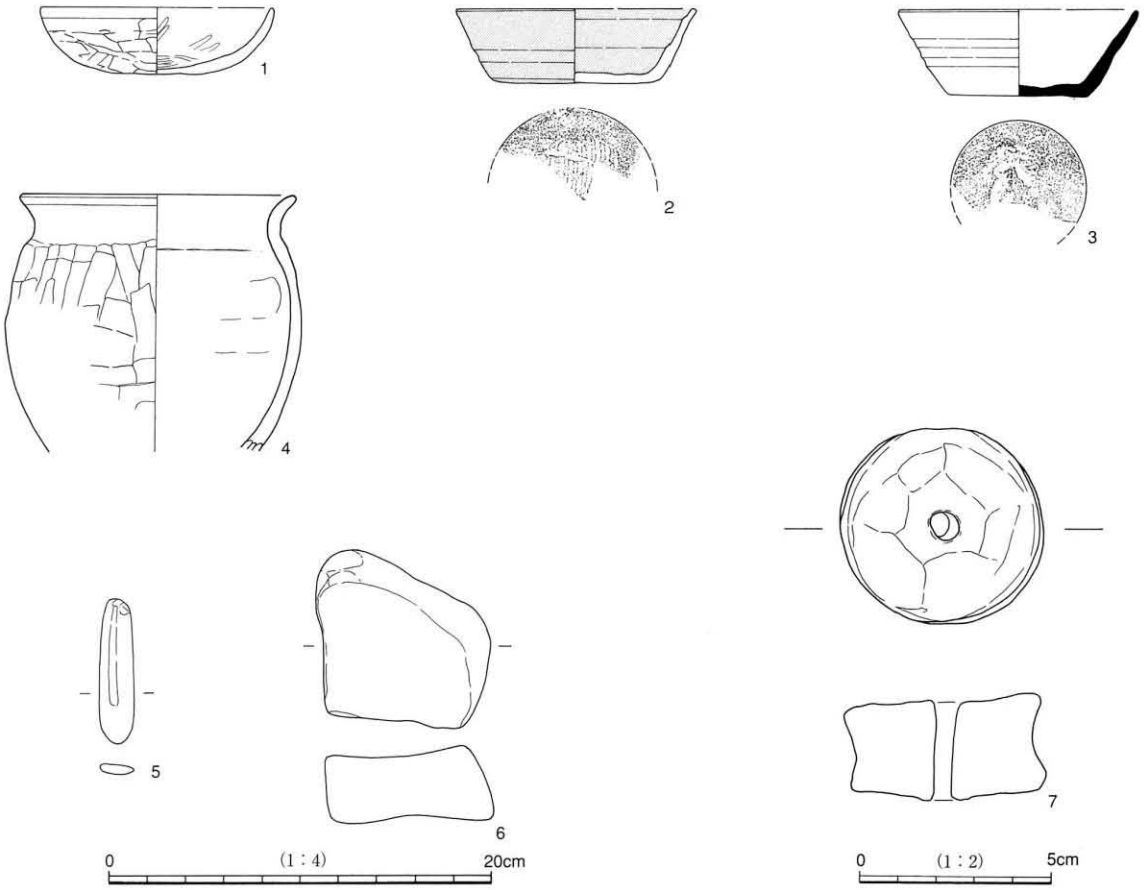



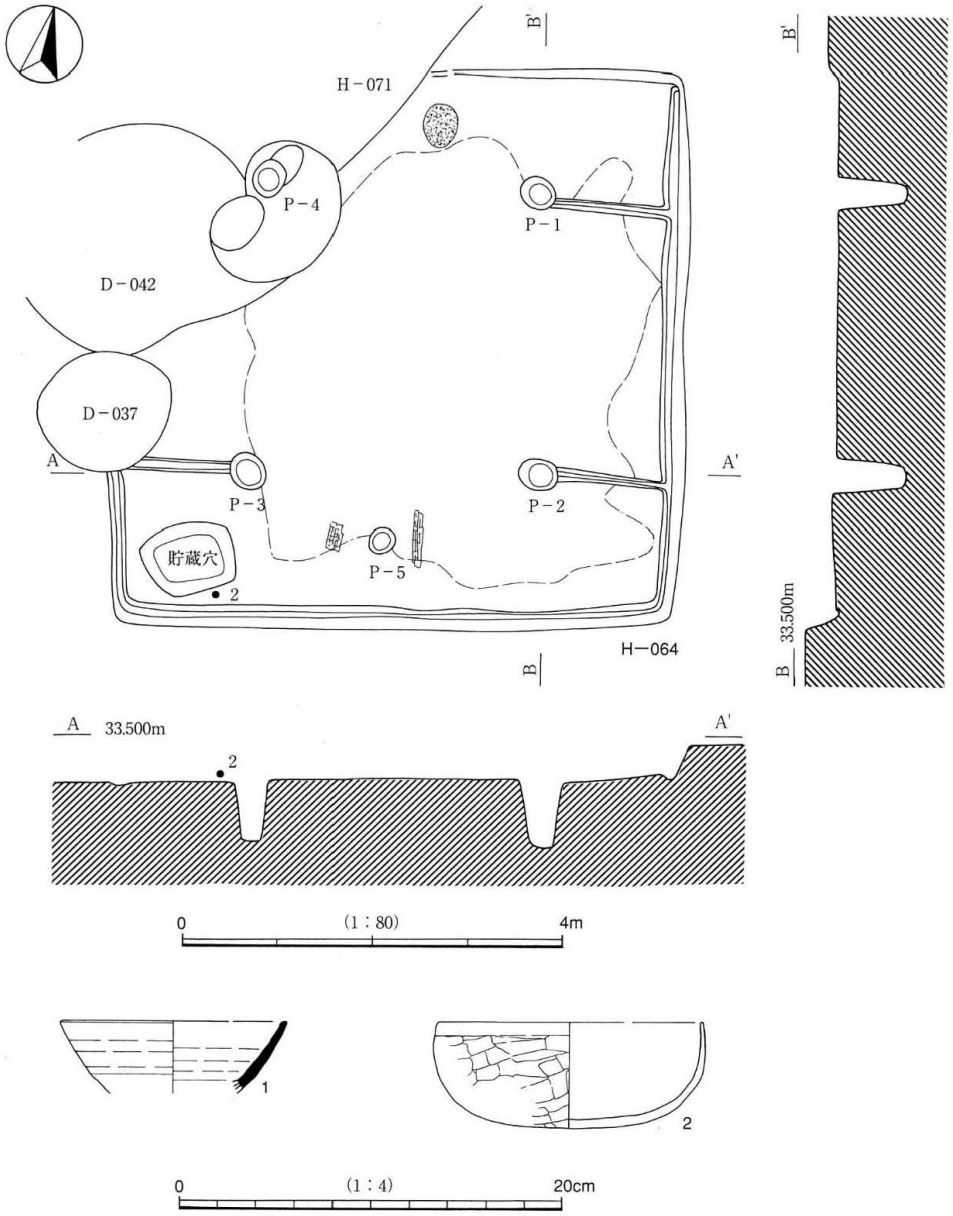

土層説明　H－062

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子適当量、ロームブロック（小粒）少量、締まり有り |
| 2 | 暗褐色 | １層より多少明るい、締まり有り |
| 3 | 褐色 | ロームブロック（小粒）少量、締まり有り |
| 4 | 褐色 | 山砂少量 |
| 5 | 褐色 | 山砂適当量 |

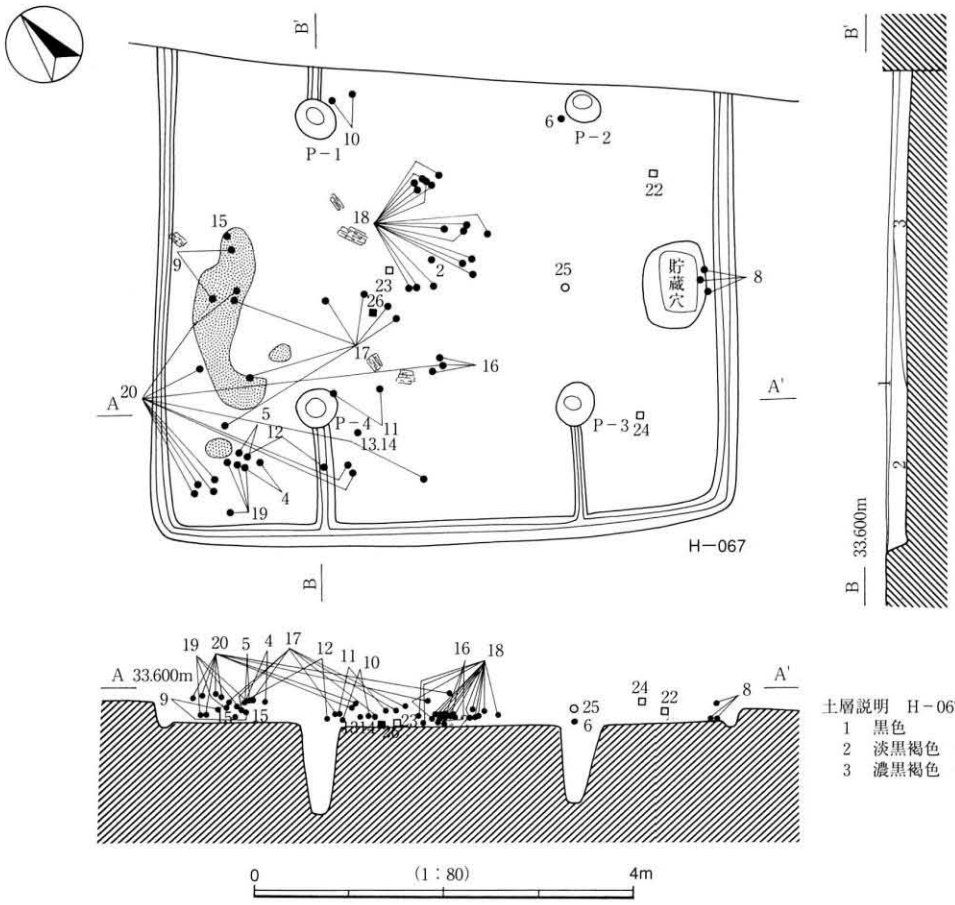
0　(1：80)　4m




第96図　H－062実測図・出土遺物

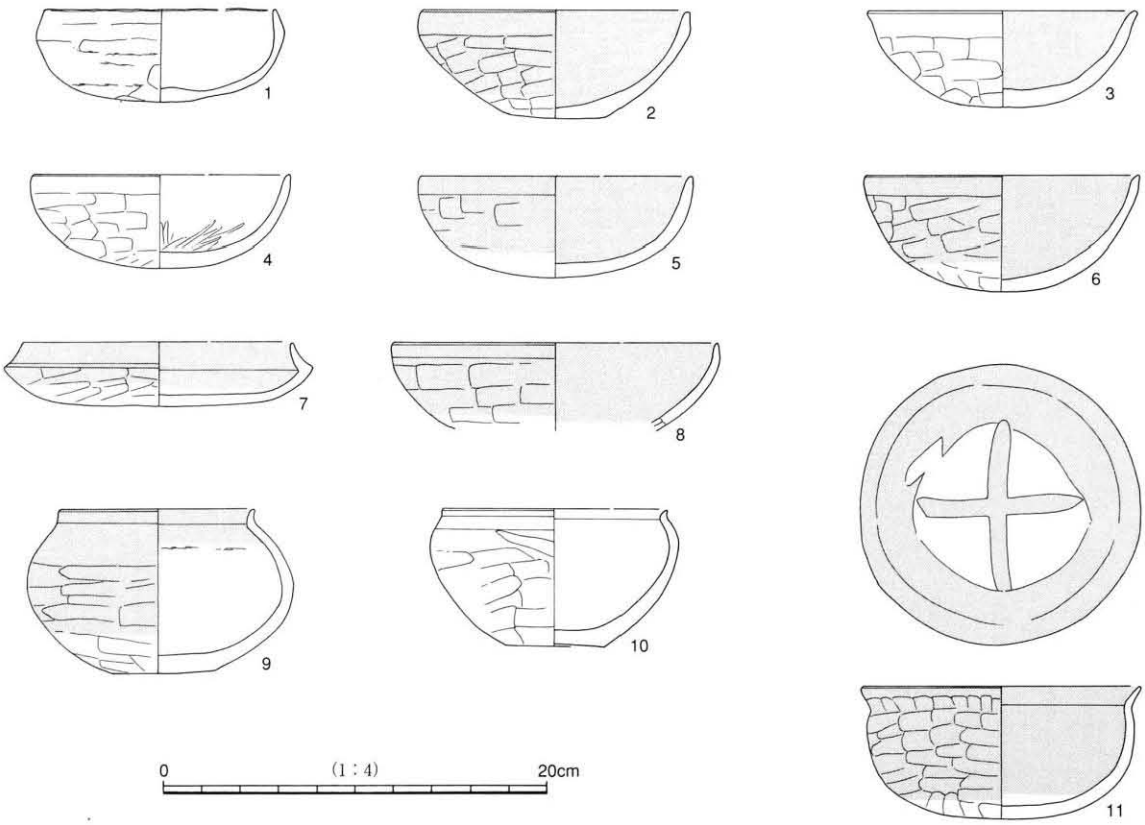



第97図　Ｈ－064実測図・出土遺物

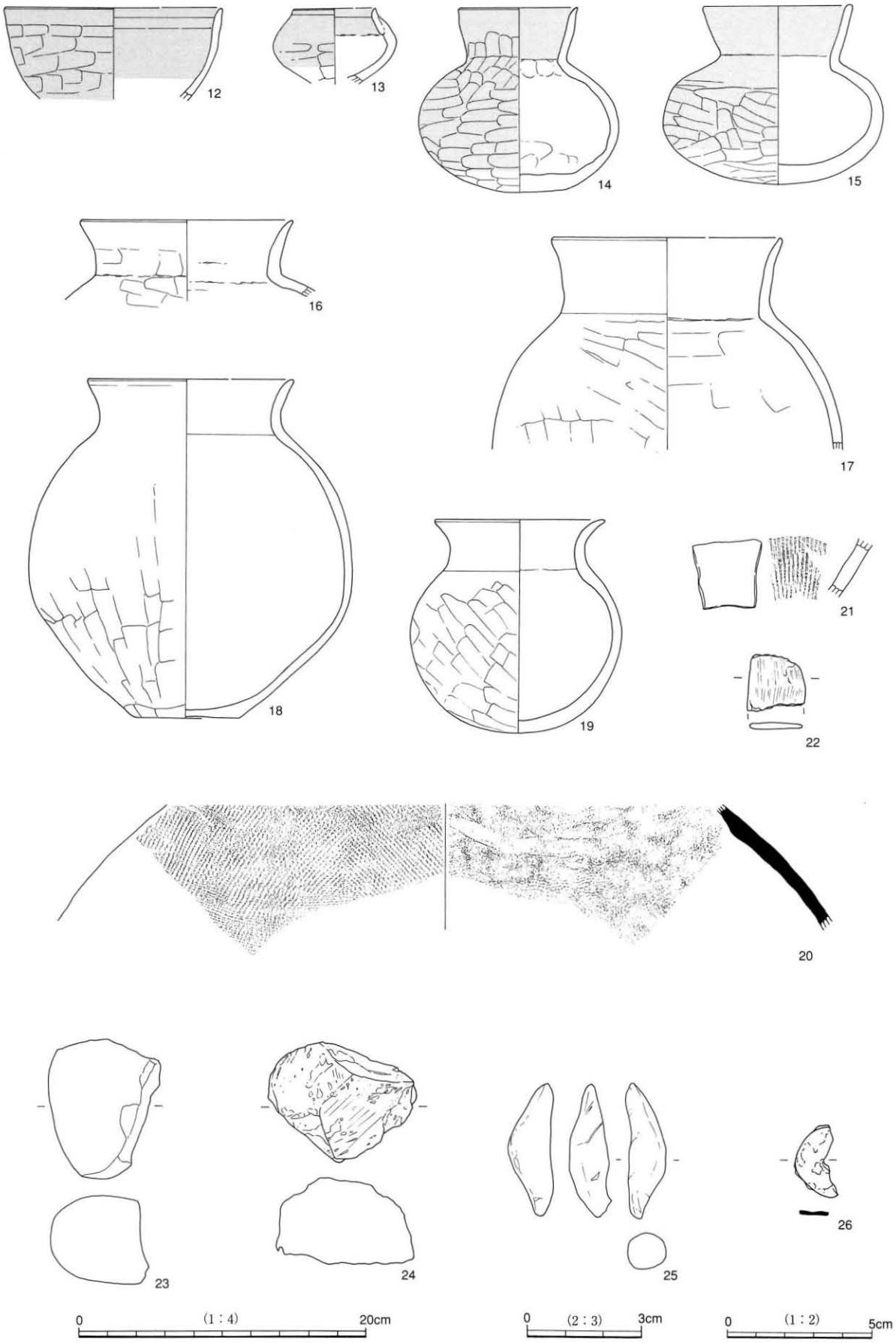



土層説明　H－067
1　黒色
2　淡黒褐色　焼土・ローム粒子適当量、鹿の子状
3　濃黒褐色　焼土・ローム粒子・炭粒子適当量、鹿の子状

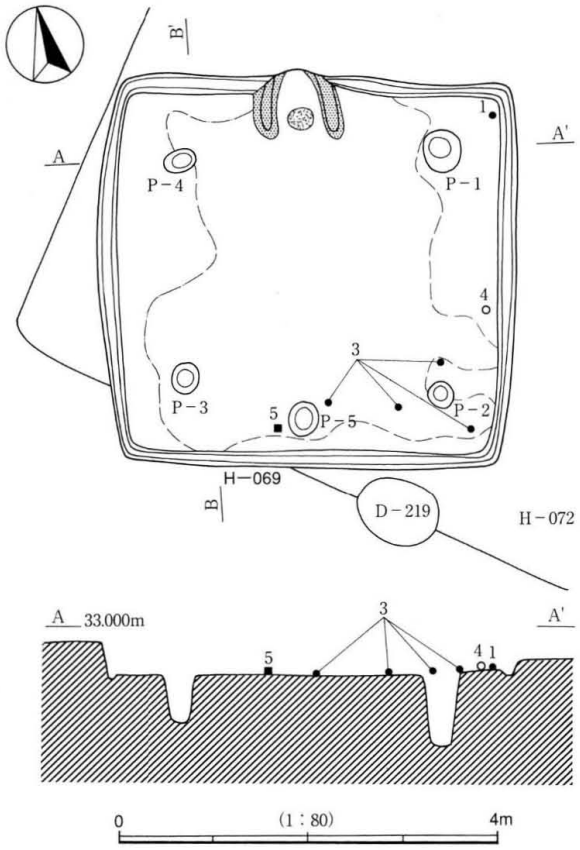
0　(1：80)　4m

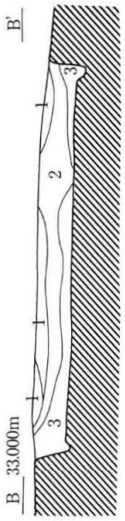



第98図　H－067実測図・出土遺物（1）

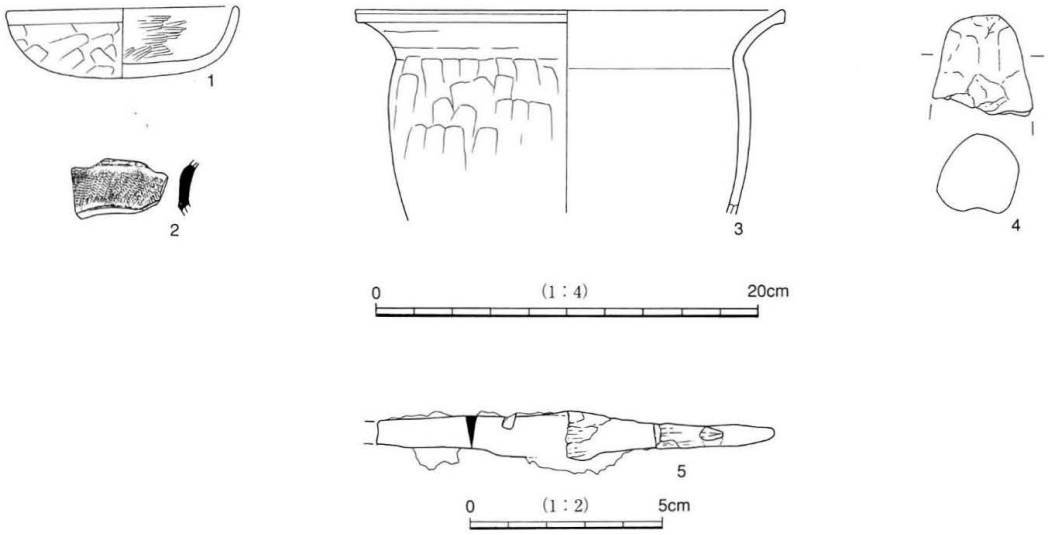



第99図　Ｈ－067出土遺物（２）

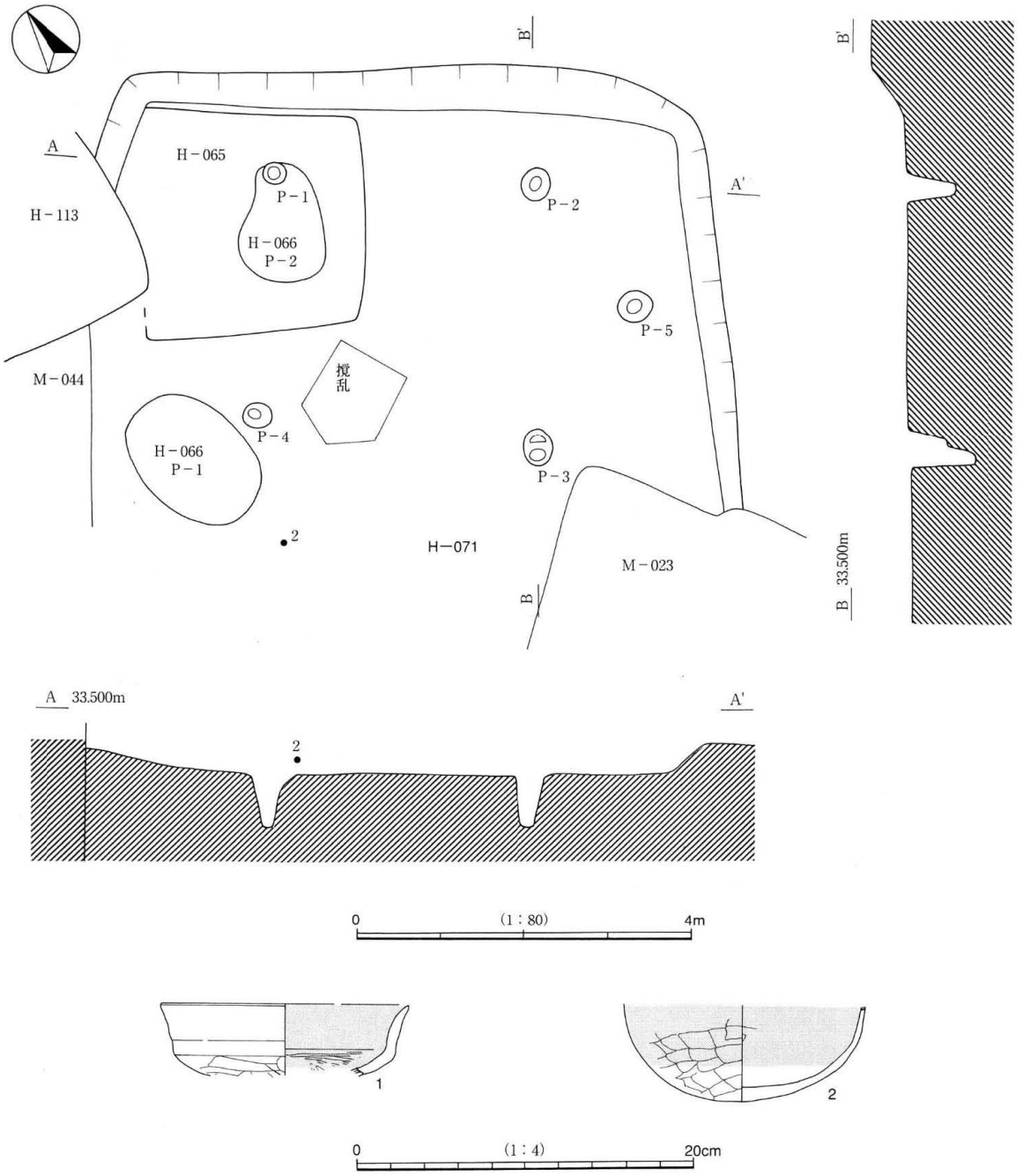


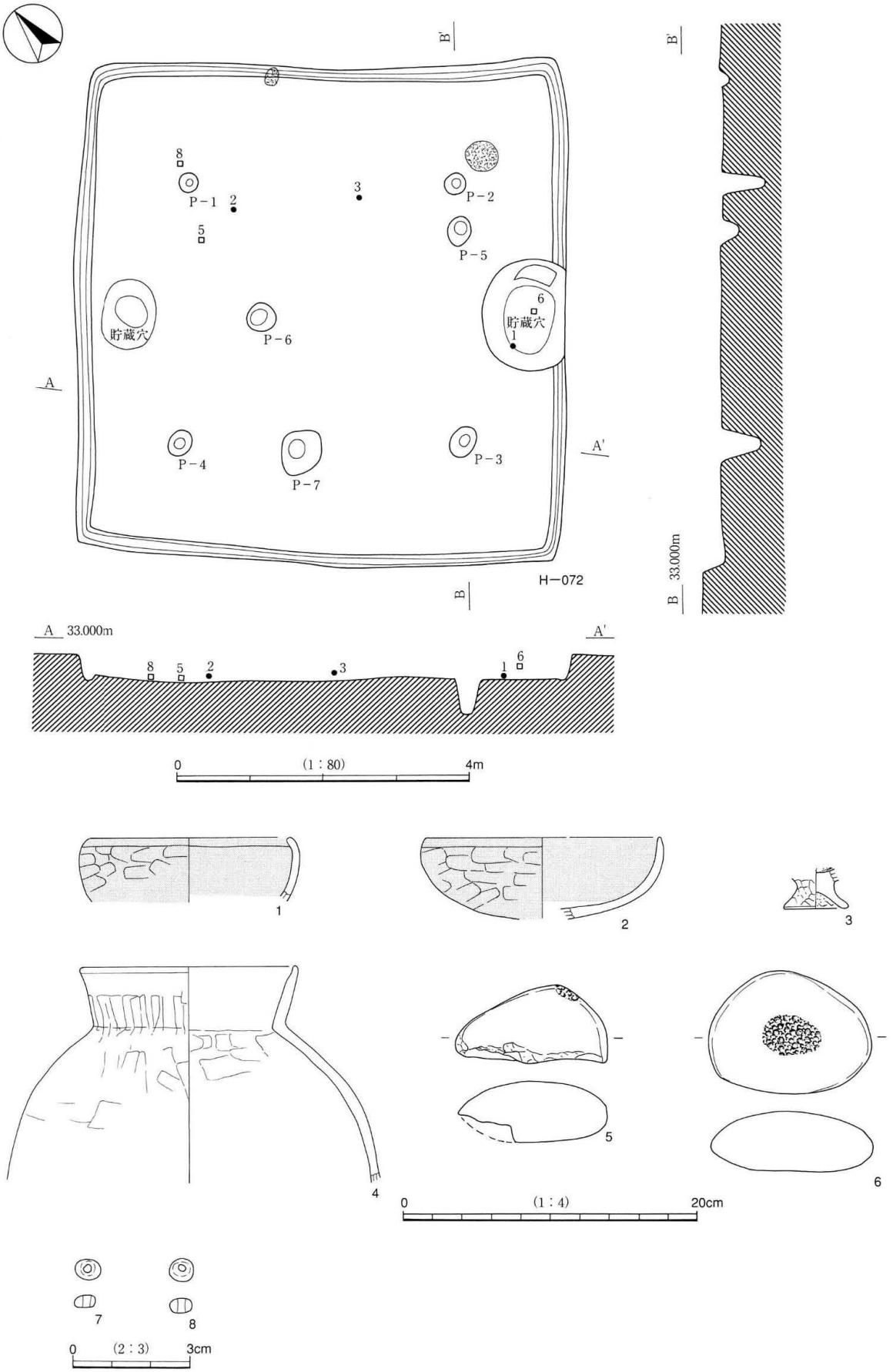

土層説明　H－069
1　黒色　ローム粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子鹿の子状、ロームブロック極少量
3　茶褐色　ローム粒子・ロームブロック多量



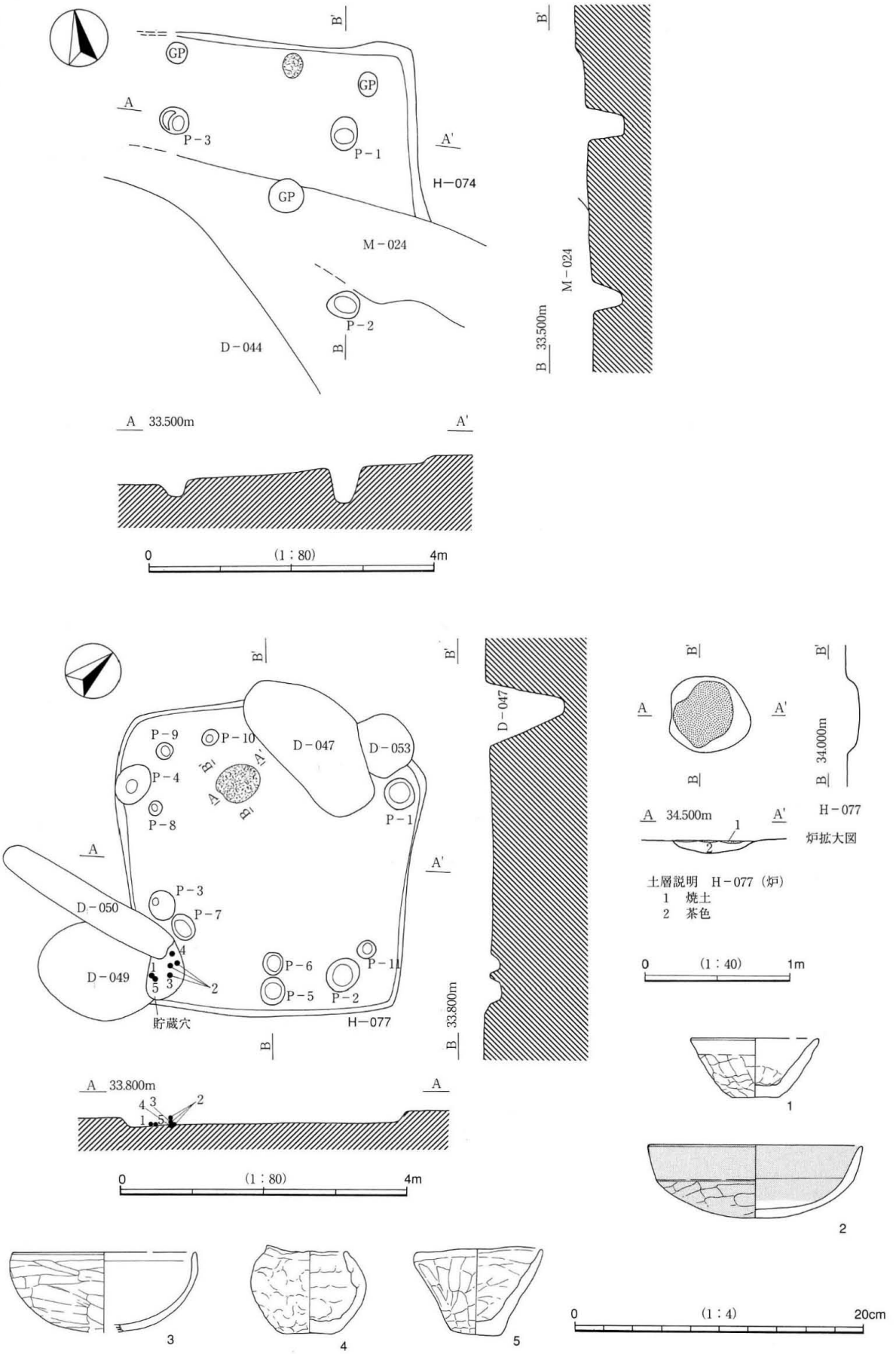

第100図　H－069実測図・出土遺物




第101図　Ｈ－071実測図・出土遺物

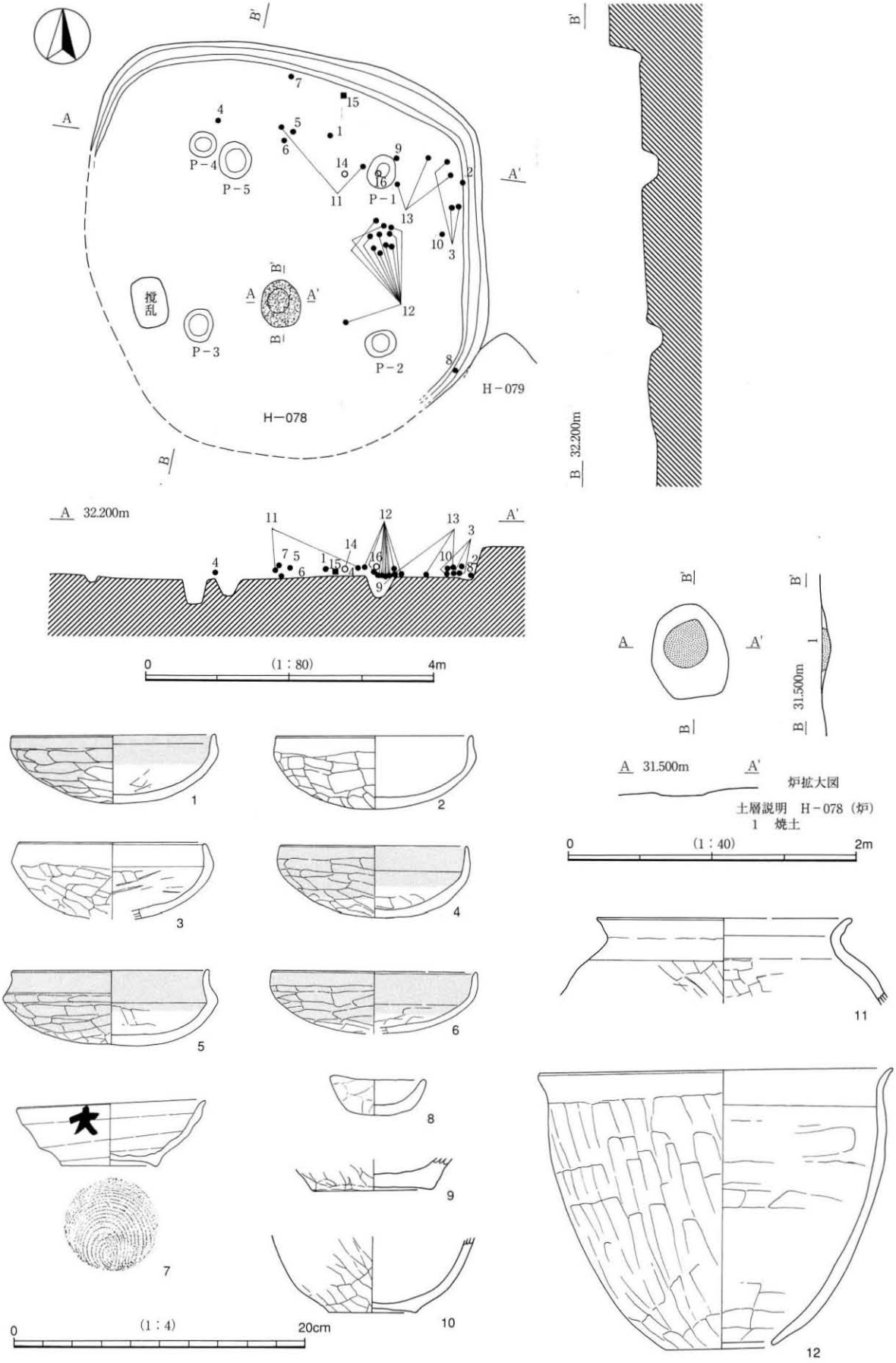



第102図　Ｈ－072実測図・出土遺物

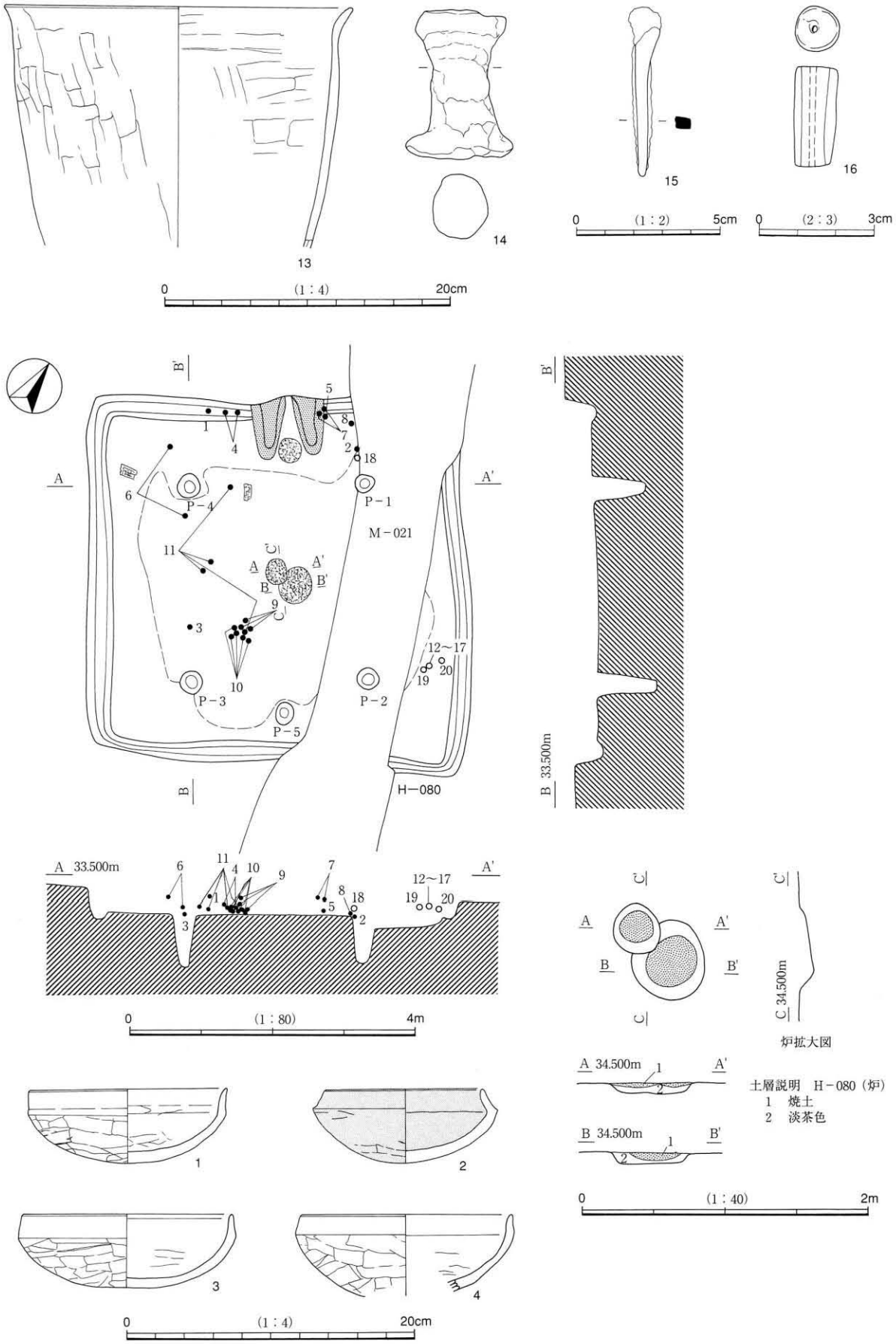



第103図　H－074・H－077実測図・出土遺物

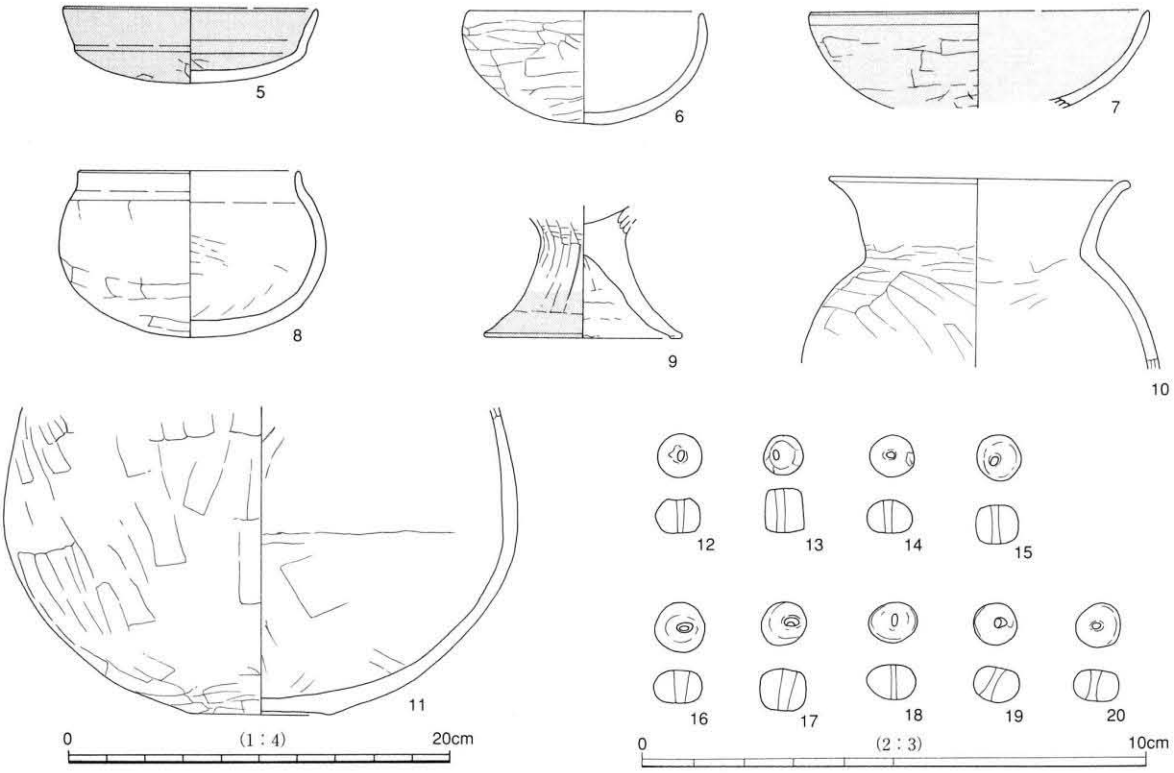
第104図　Ｈ－076実測図・出土遺物

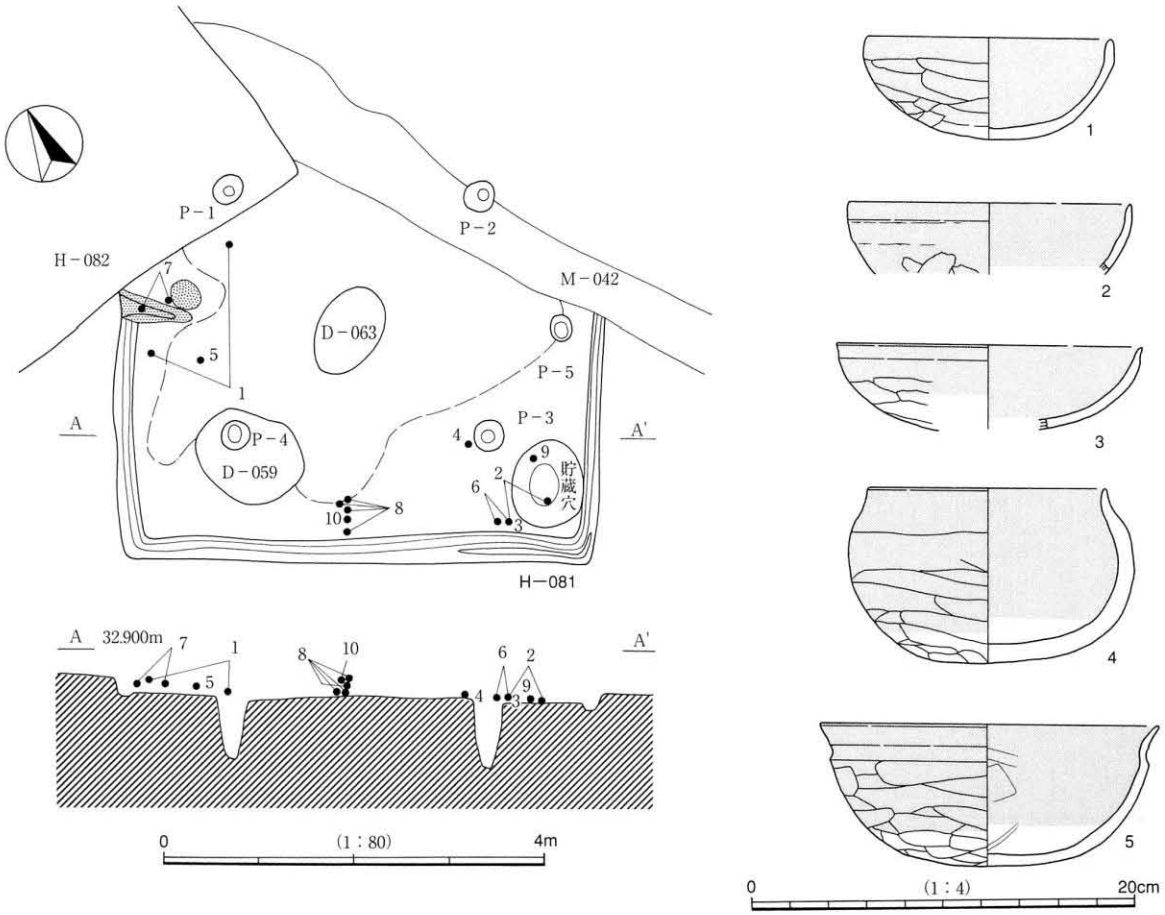



第105図　H－078実測図・出土遺物（1）

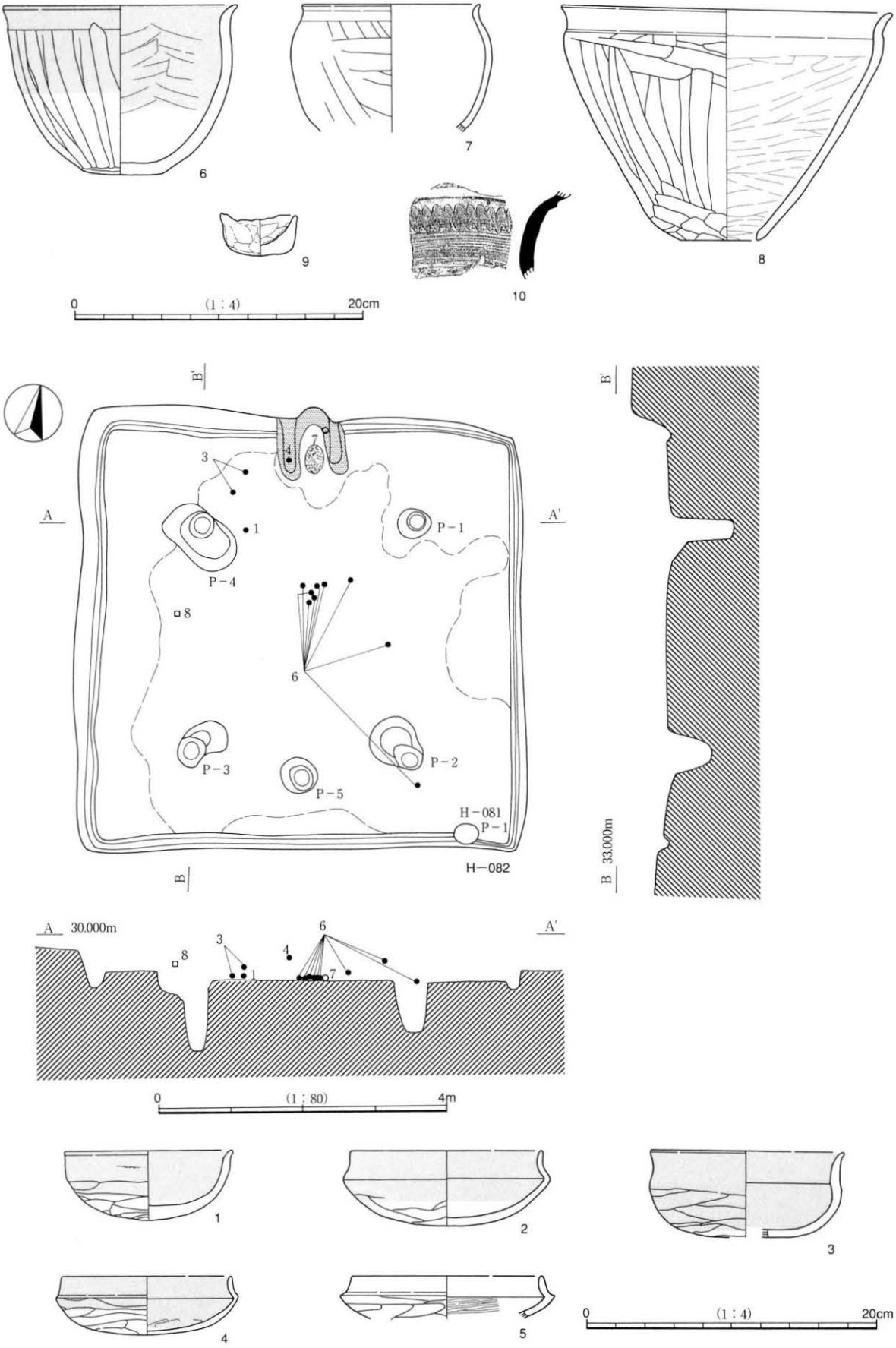



第106図　H－078出土遺物（２）・H－080実測図・出土遺物（１）

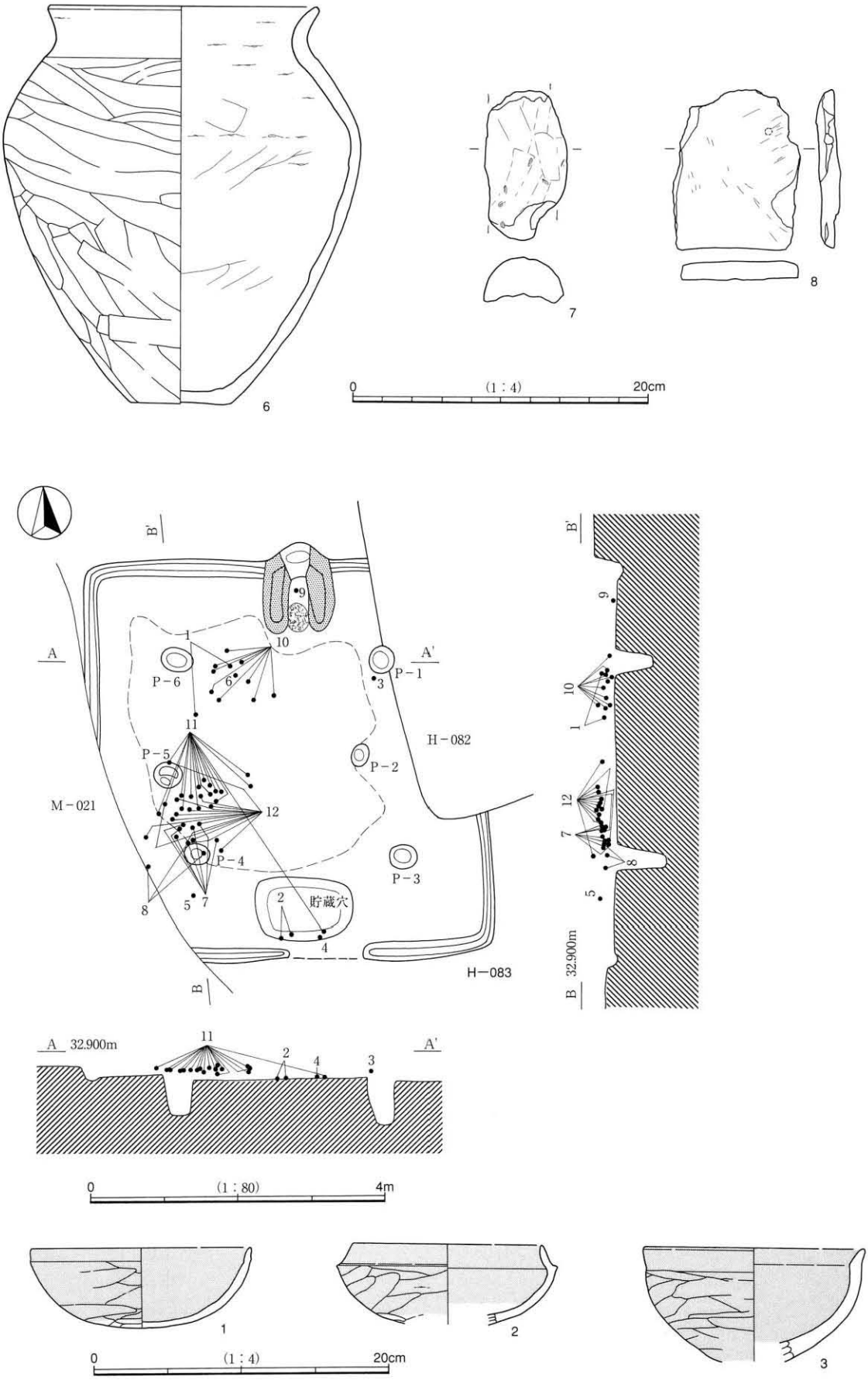


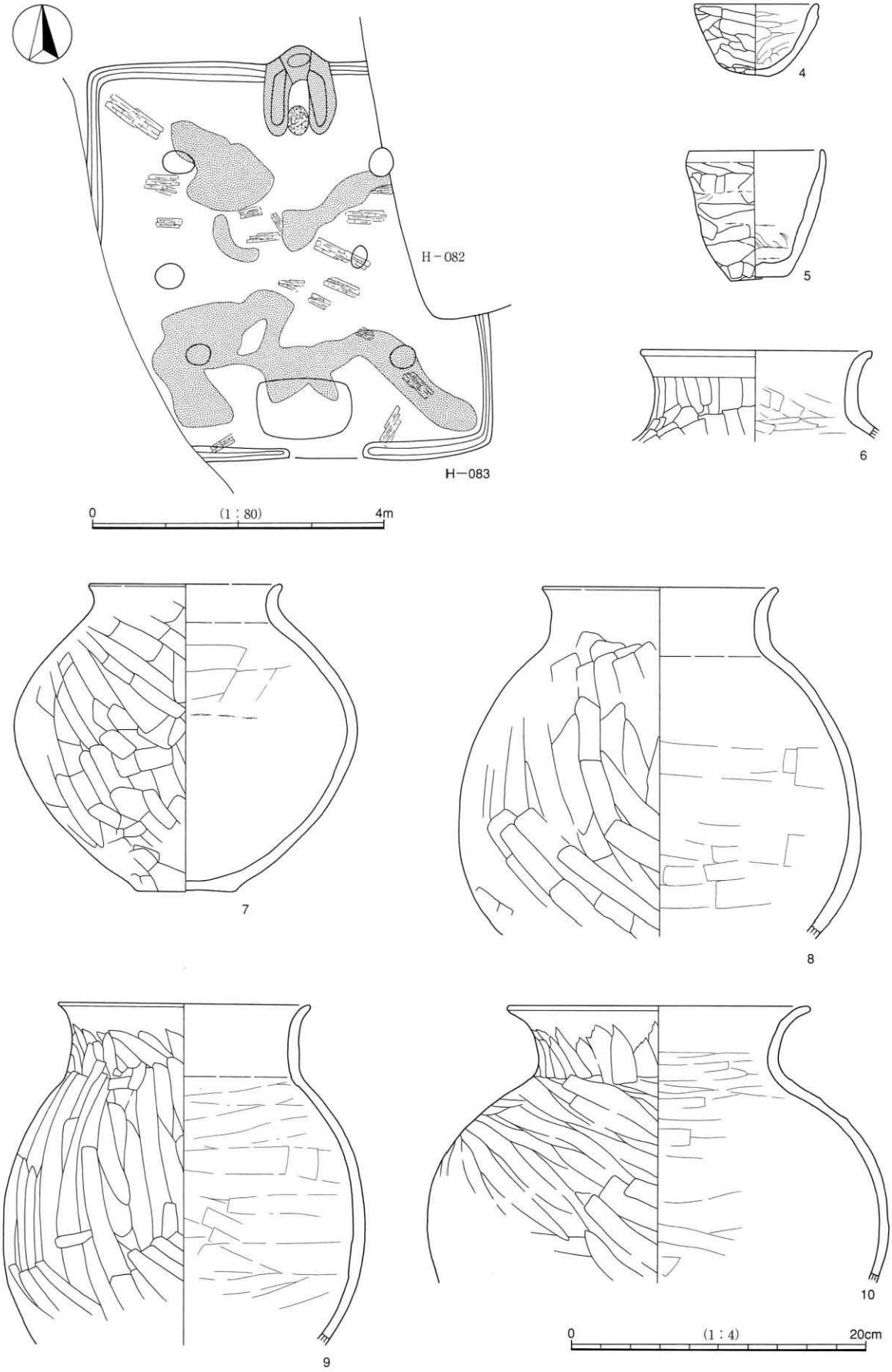

第107図　Ｈ－080出土遺物（２）・Ｈ－081実測図・出土遺物（１）



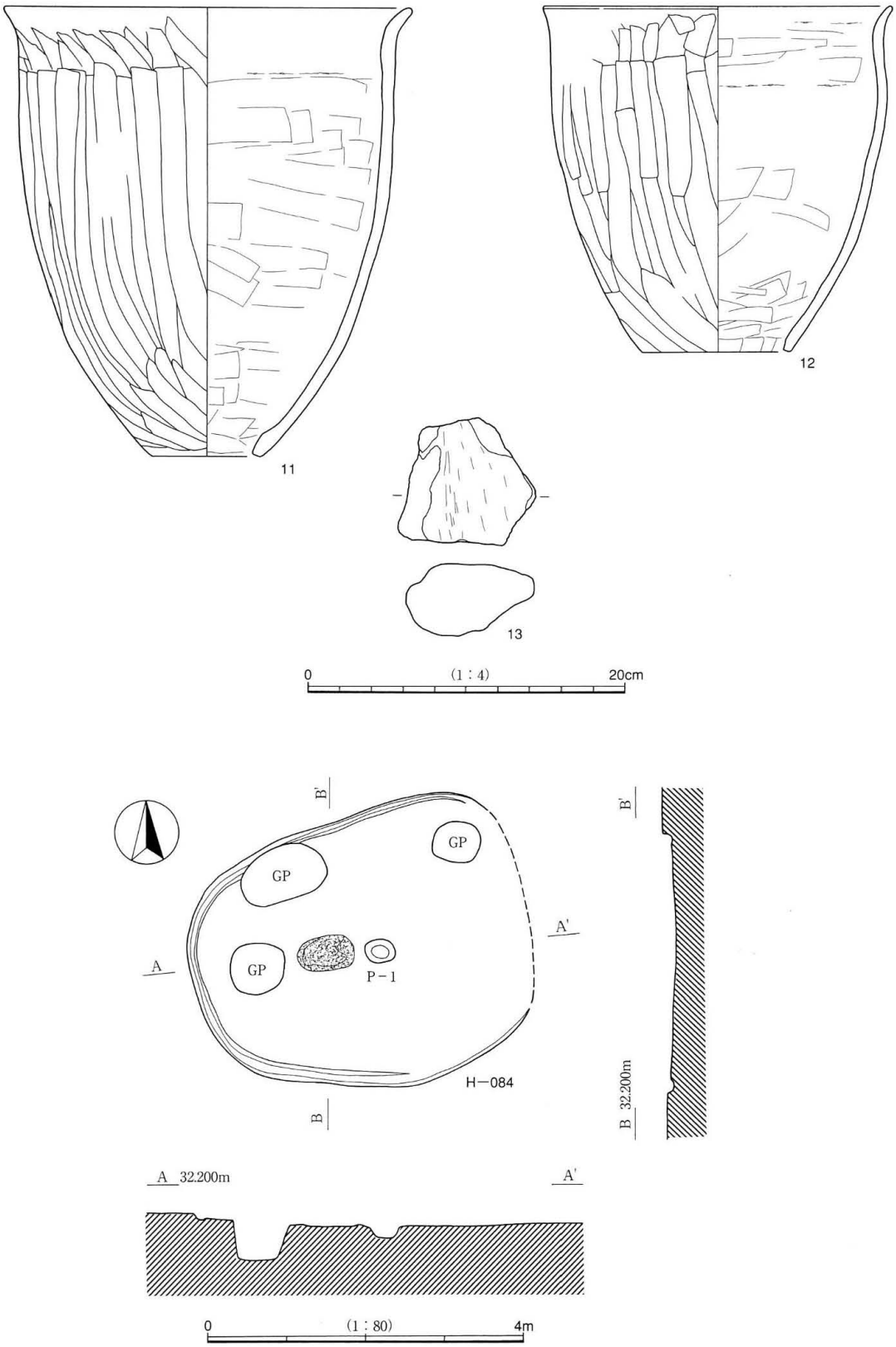

第108図　H－081出土遺物（２）・H－082実測図・出土遺物（１）



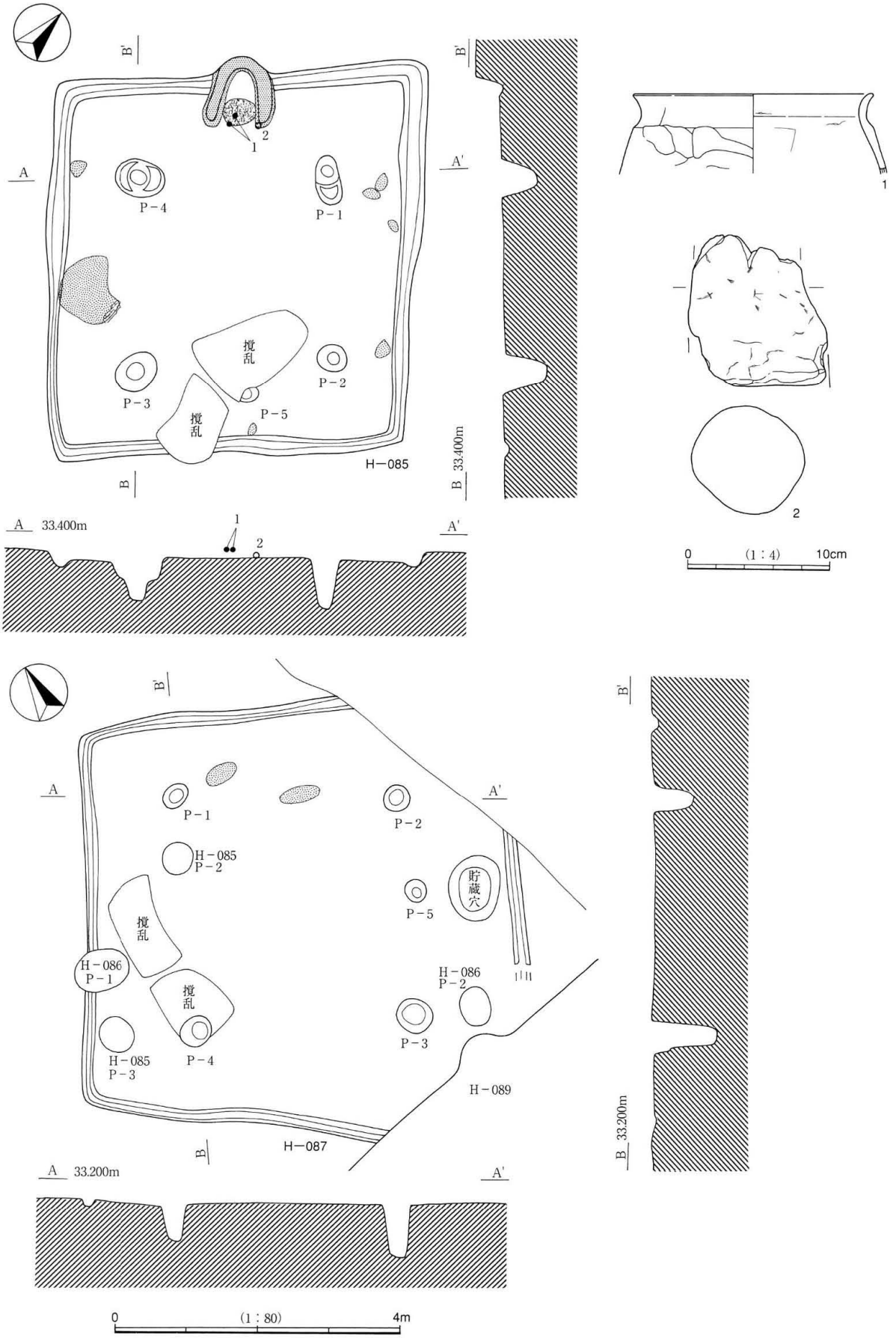

第109図　Ｈ－082出土遺物（２）・Ｈ－083実測図・出土遺物（１）



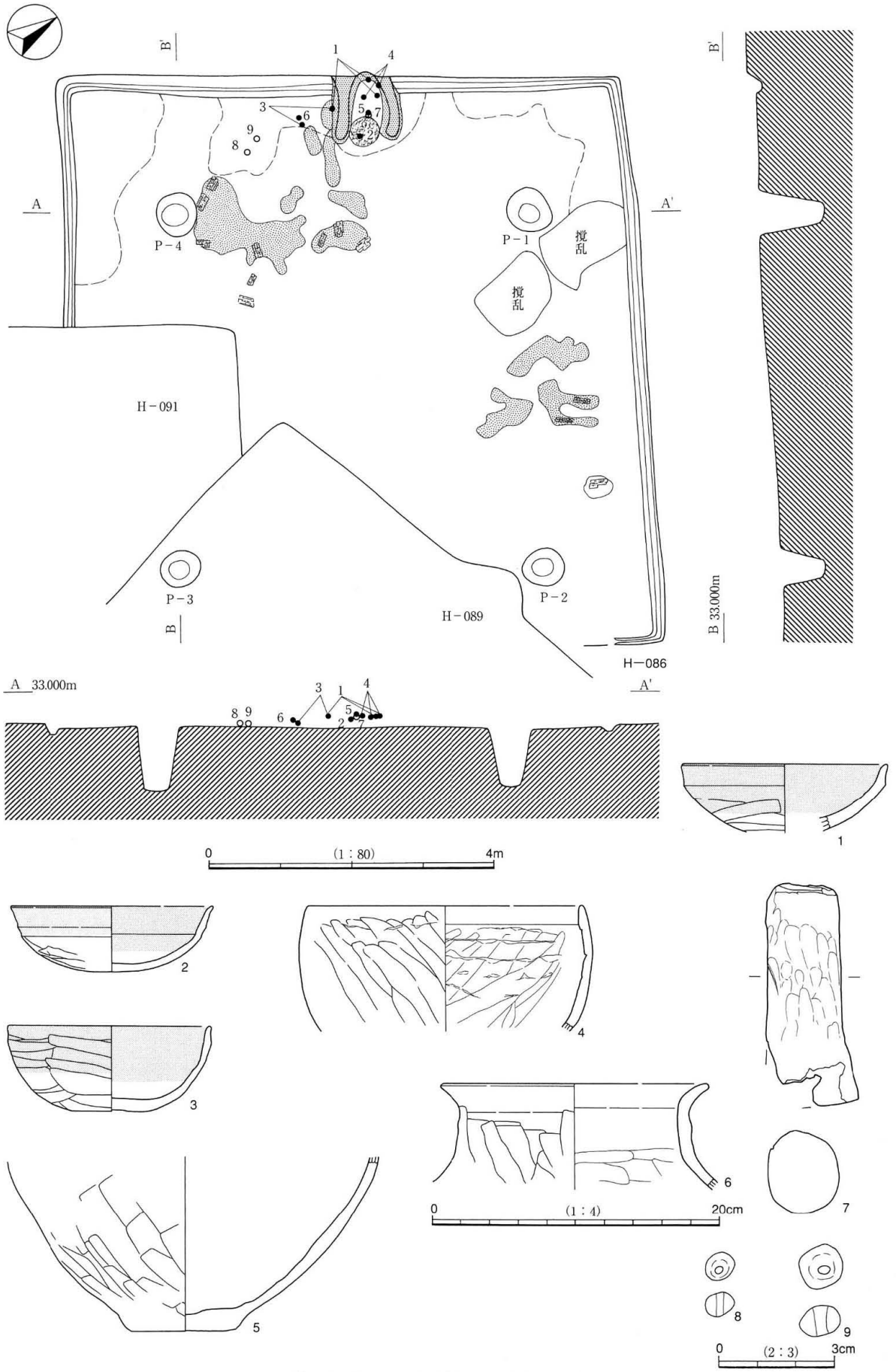

第110図　H－083実測図・出土遺物（２）



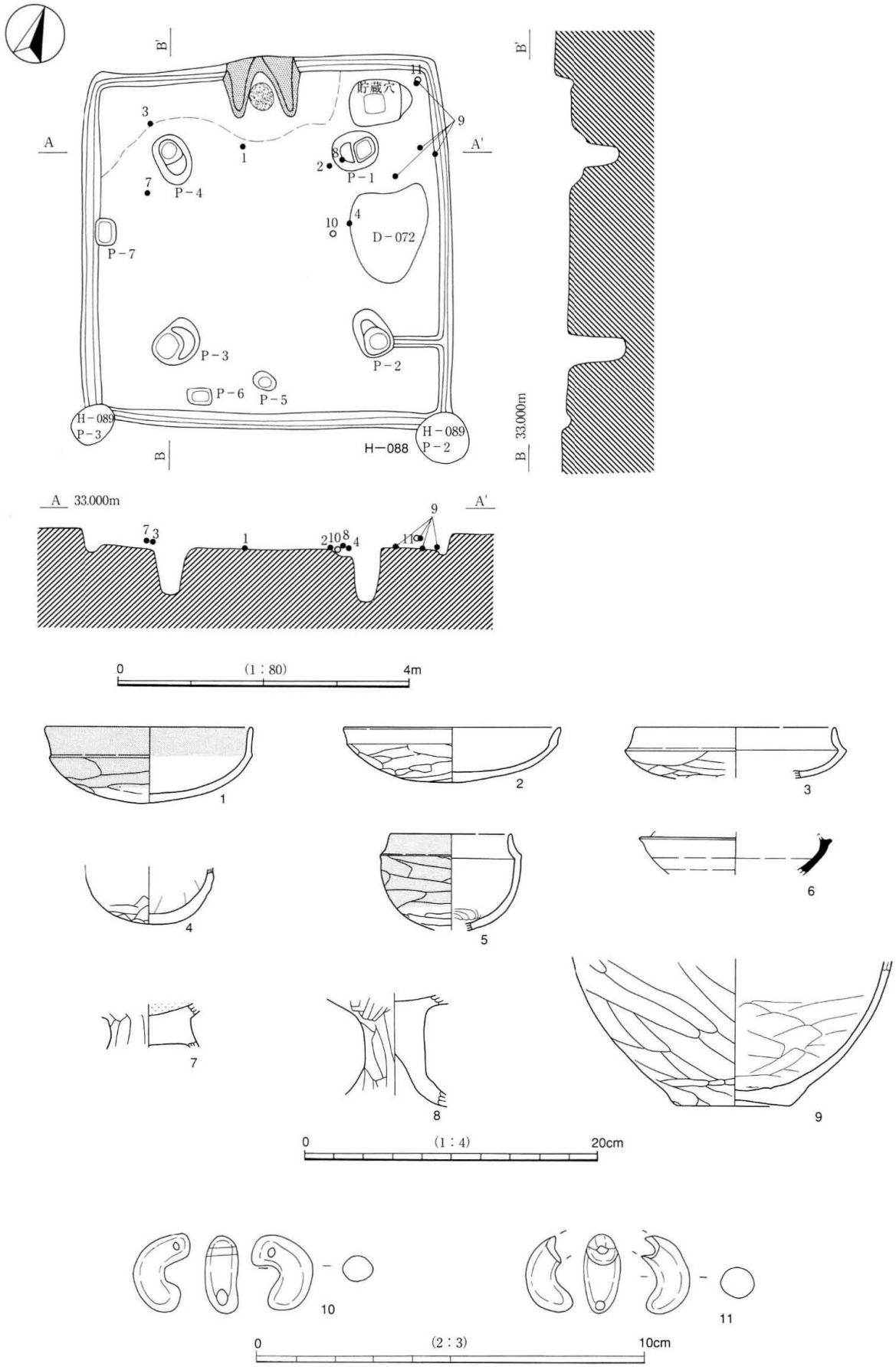

第111図　Ｈ－083出土遺物（３）・Ｈ－084実測図



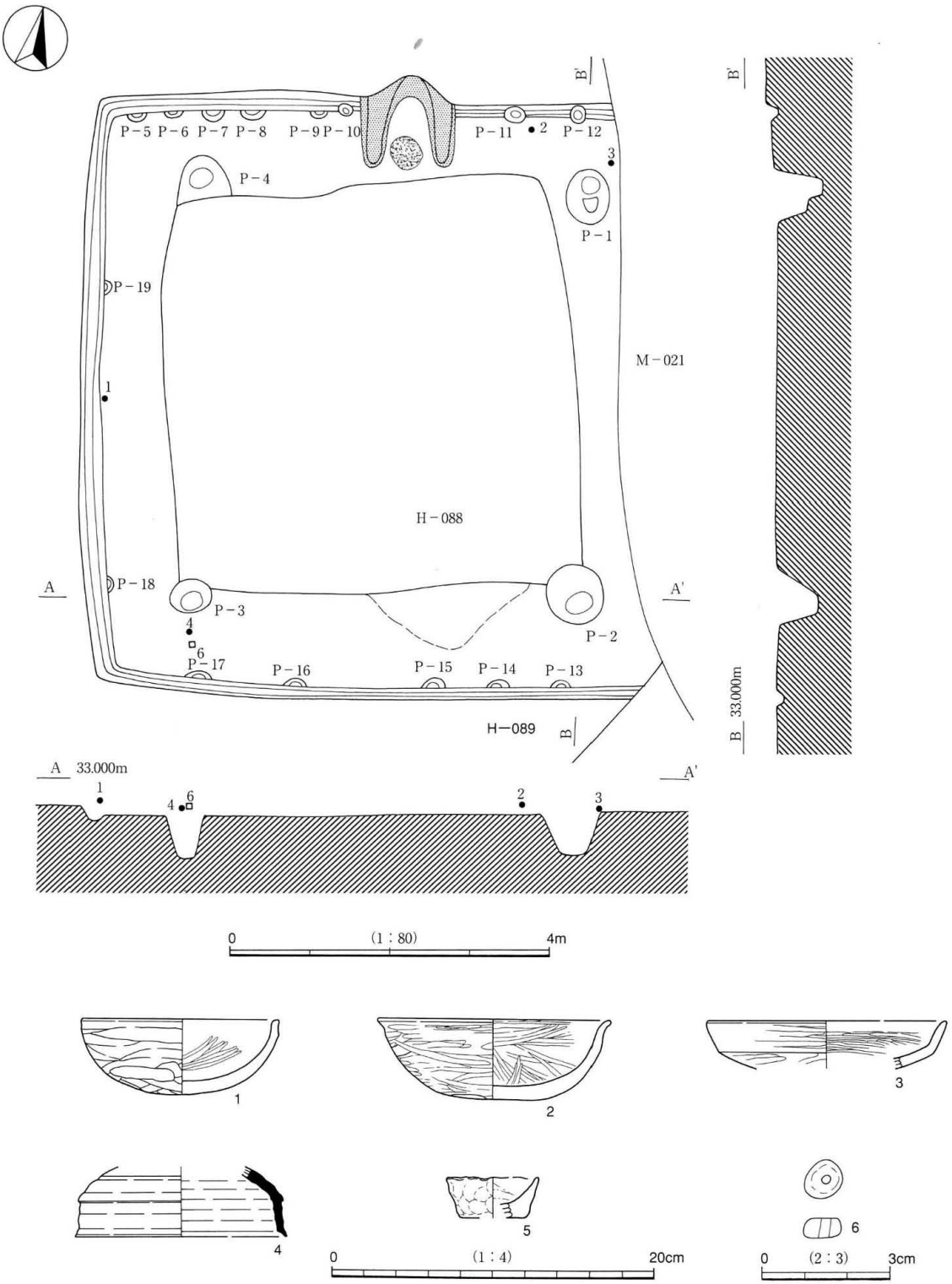

第112図　Ｈ－085実測図・出土遺物・Ｈ－087実測図



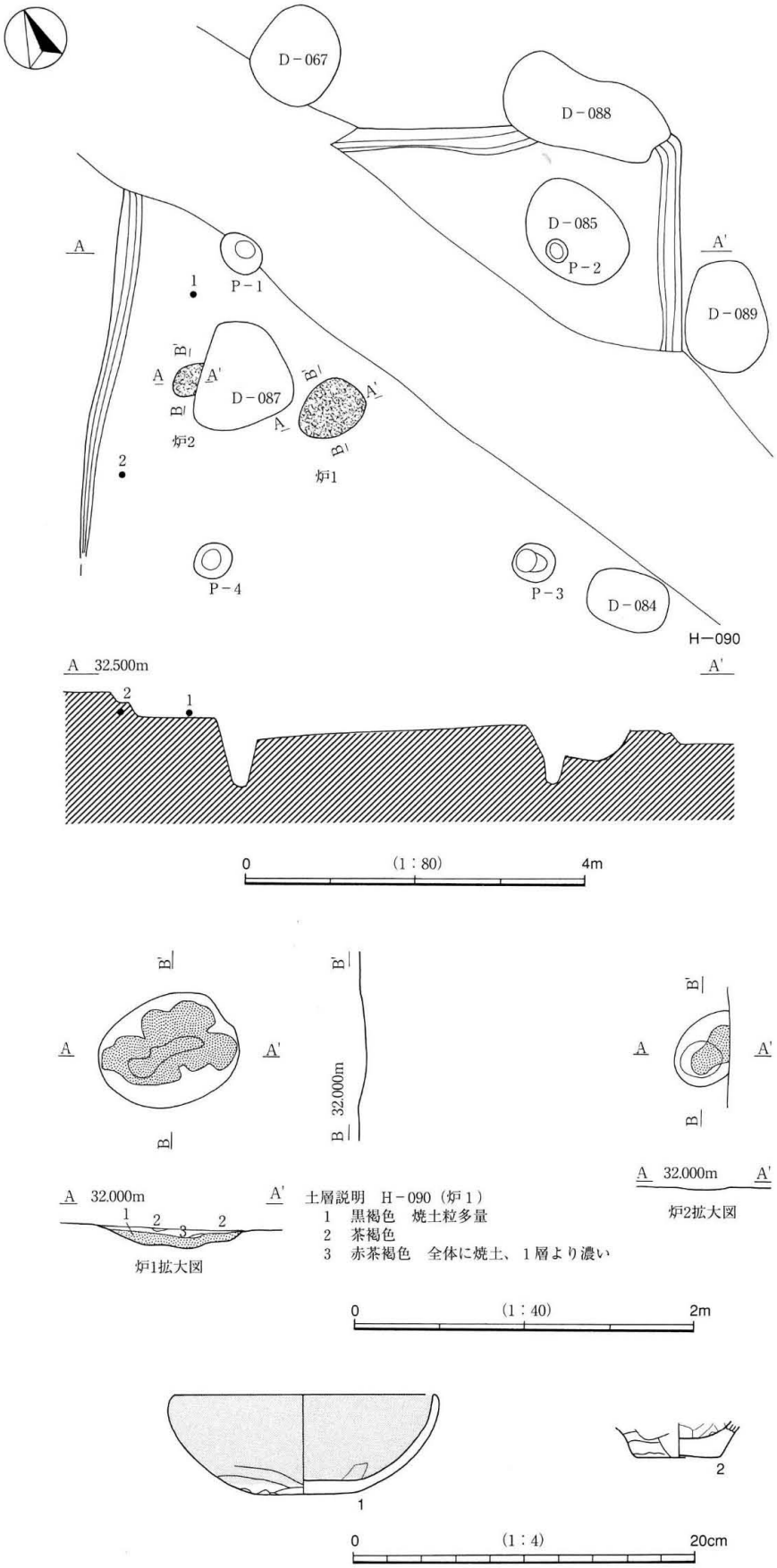

第113図　H－086実測図・出土遺物



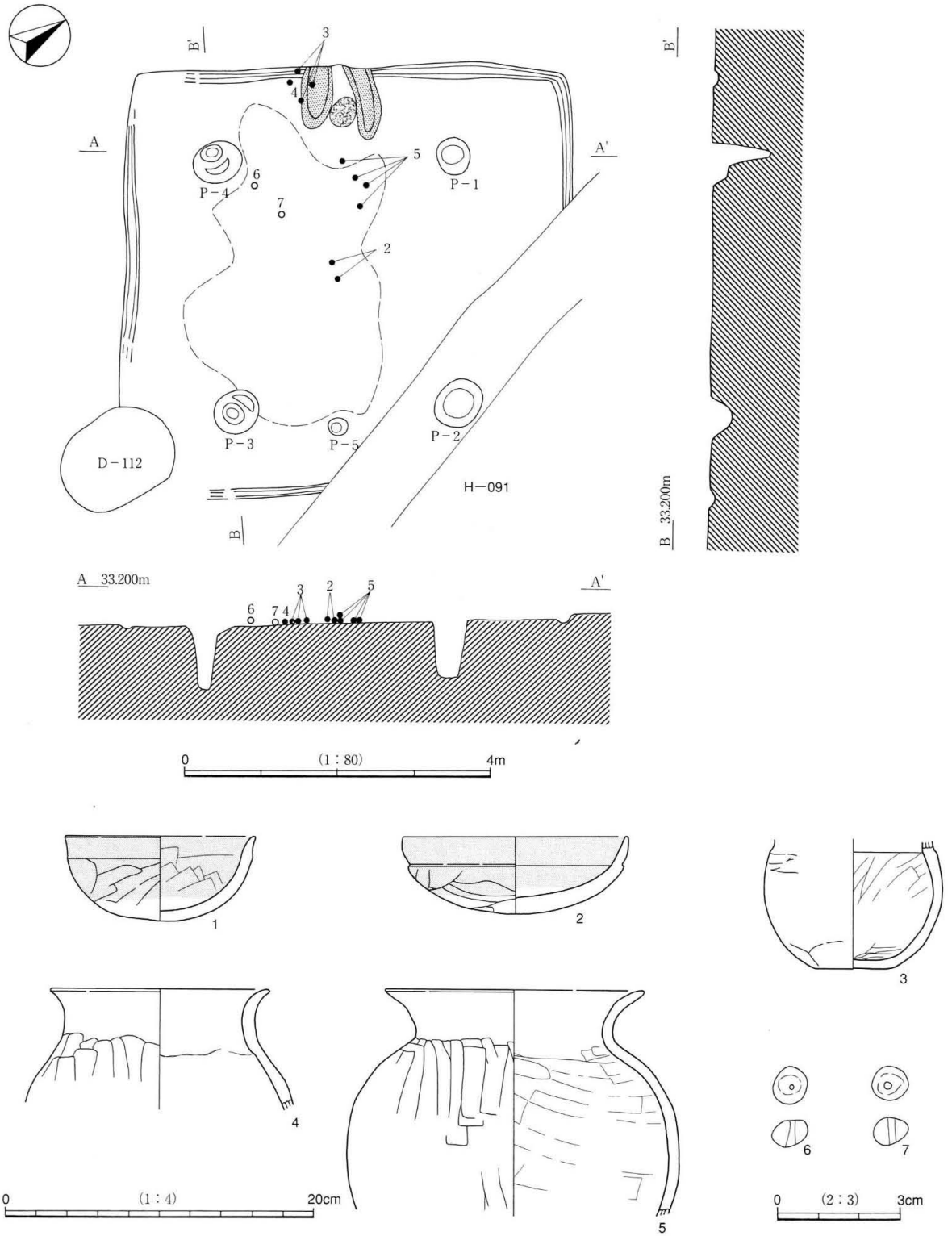

第114図　Ｈ－088実測図・出土遺物



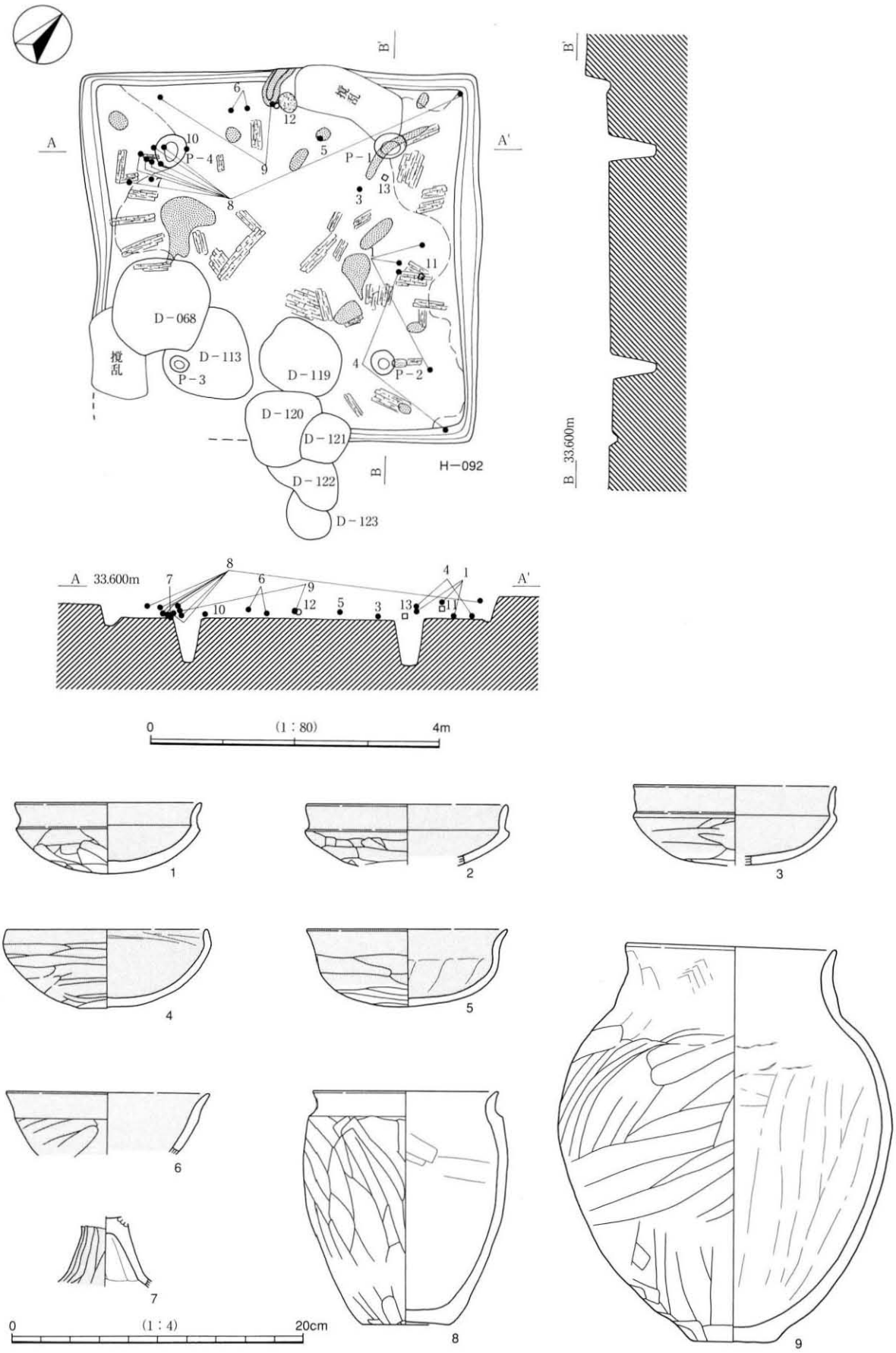

第115図　Ｈ－089実測図・出土遺物



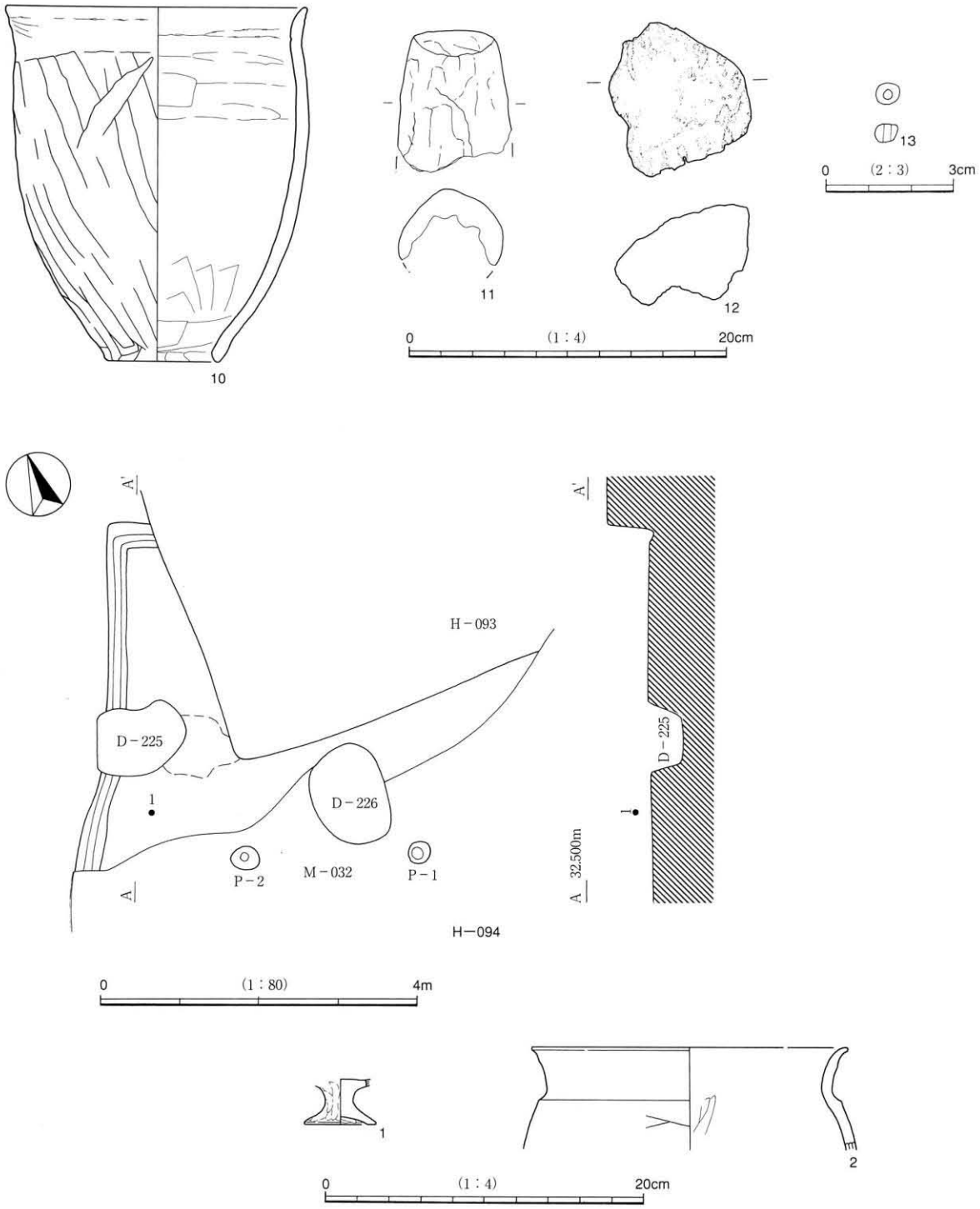

第116図　Ｈ－090実測図・出土遺物



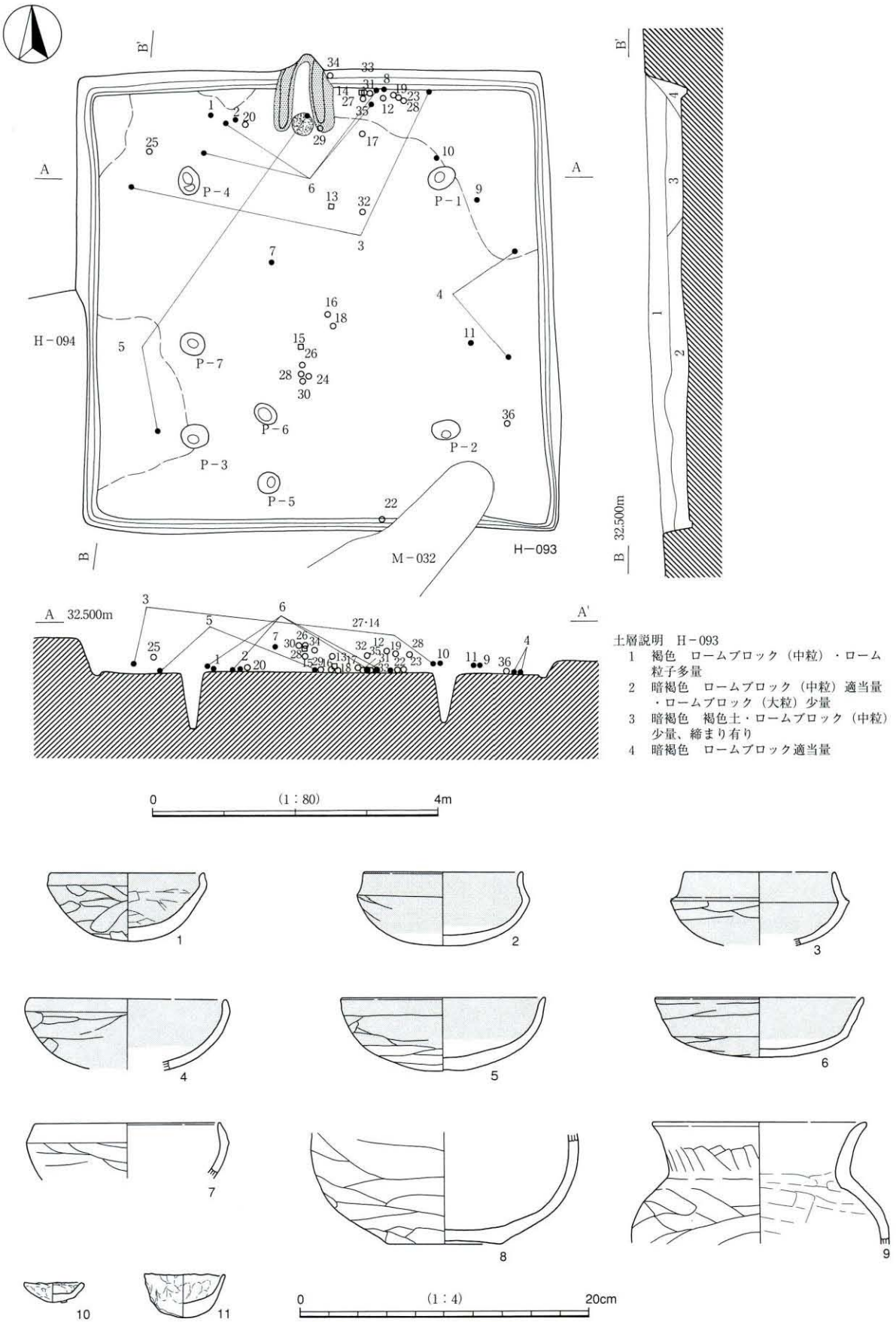

第117図　Ｈ－091実測図・出土遺物



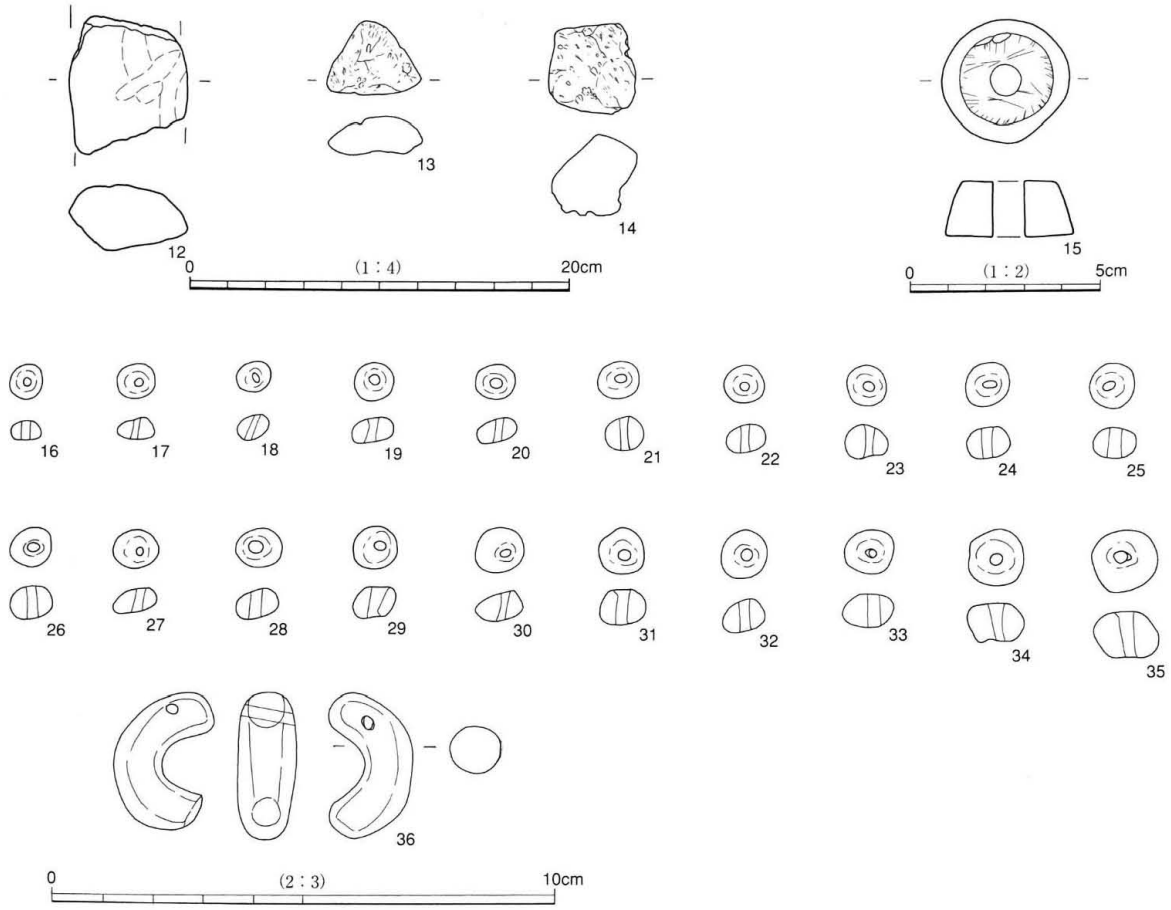

第118図　Ｈ－092実測図・出土遺物（１）



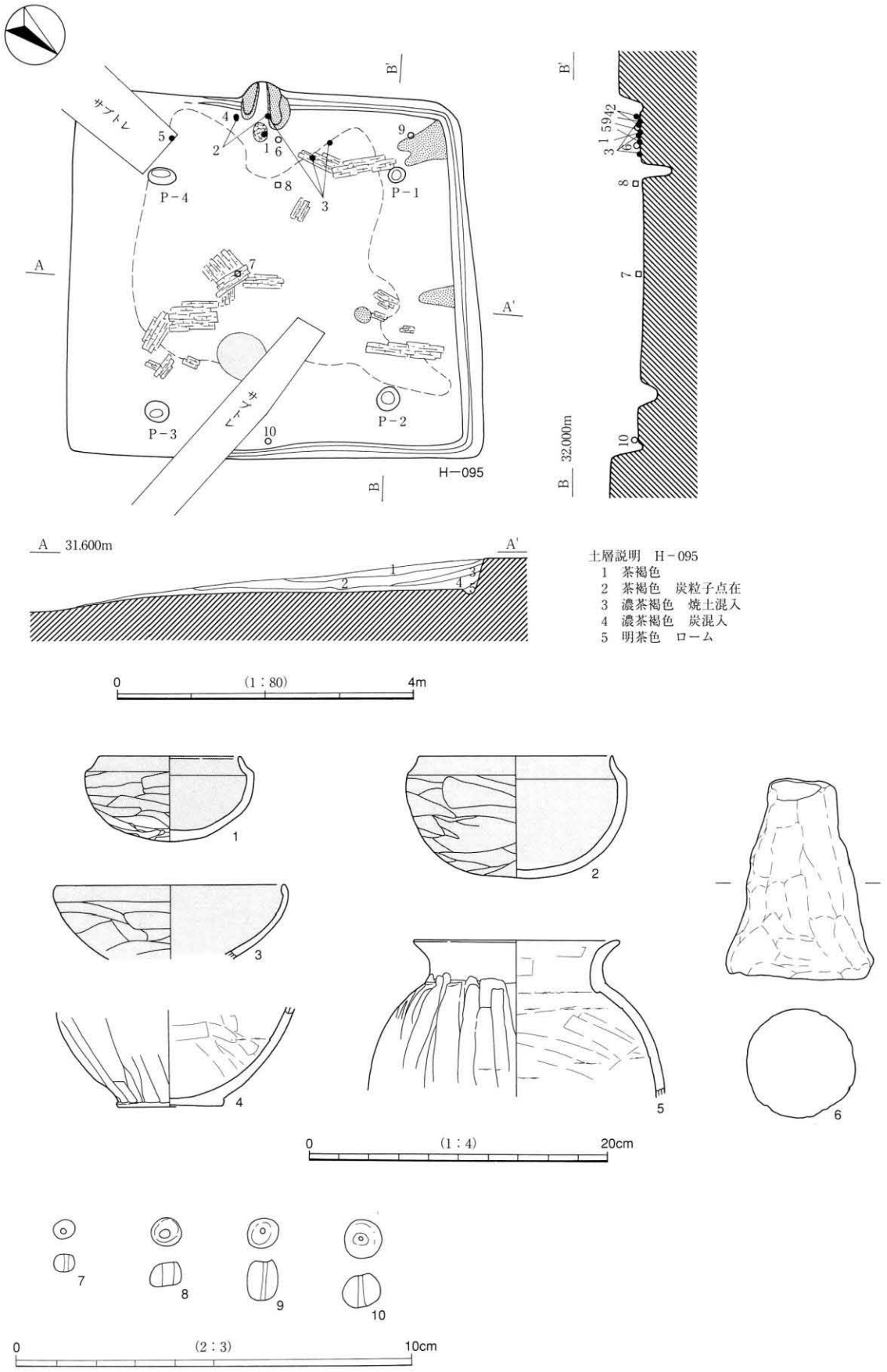

第119図　Ｈ－092出土遺物（２）・Ｈ－094実測図・出土遺物



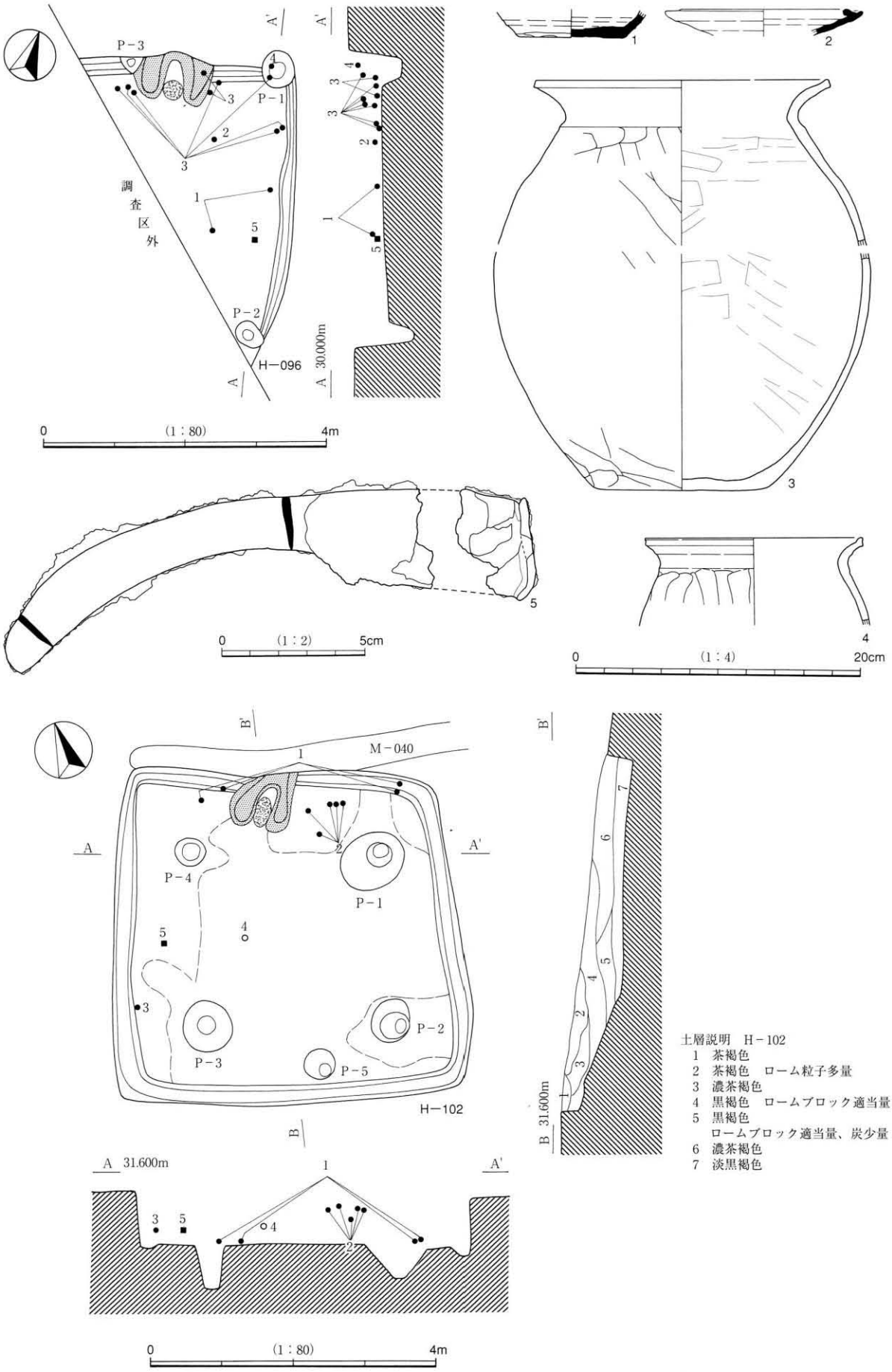

第120図　Ｈ－093実測図・出土遺物（１）



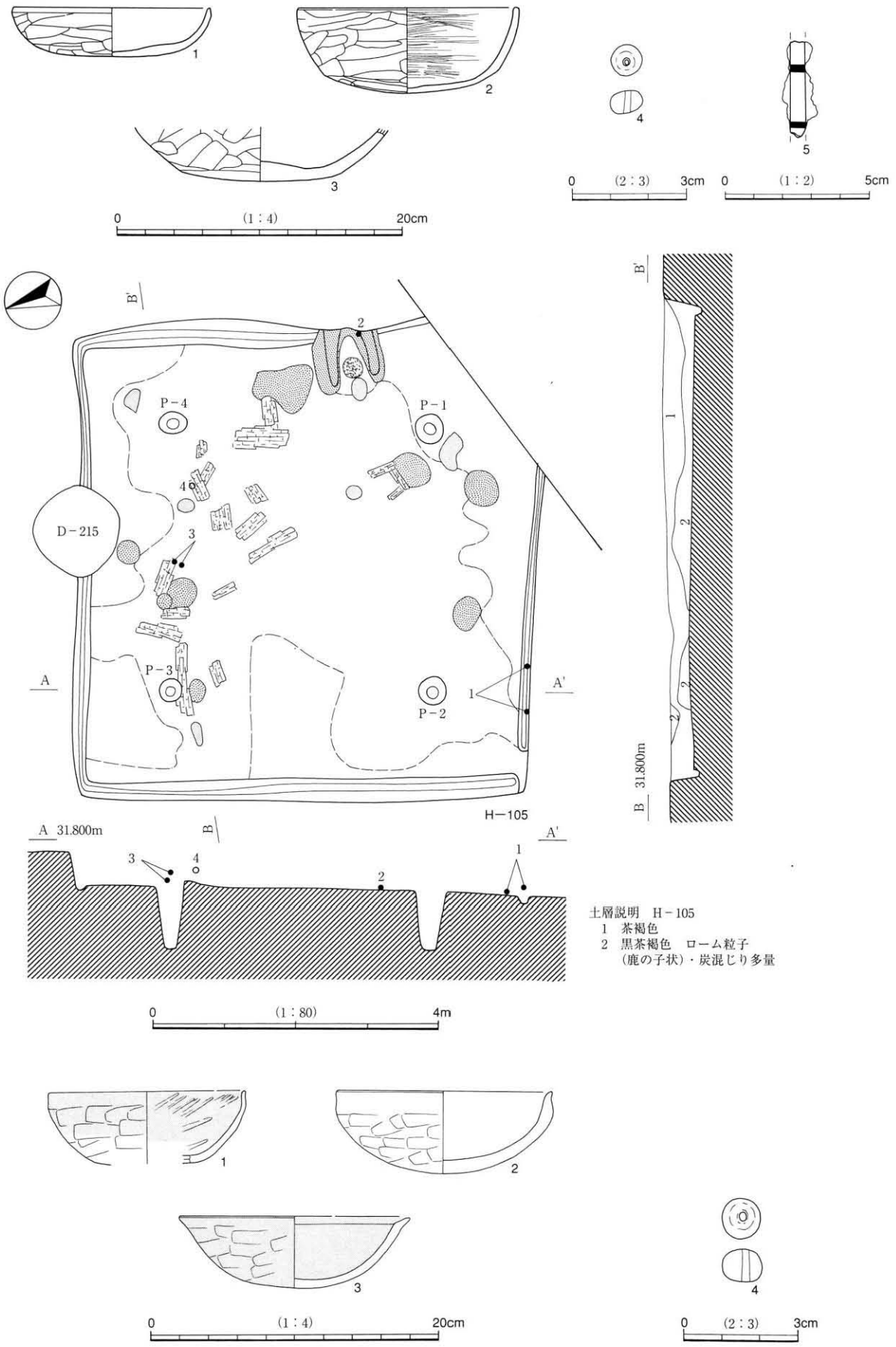

第121図　Ｈ－093出土遺物（２）



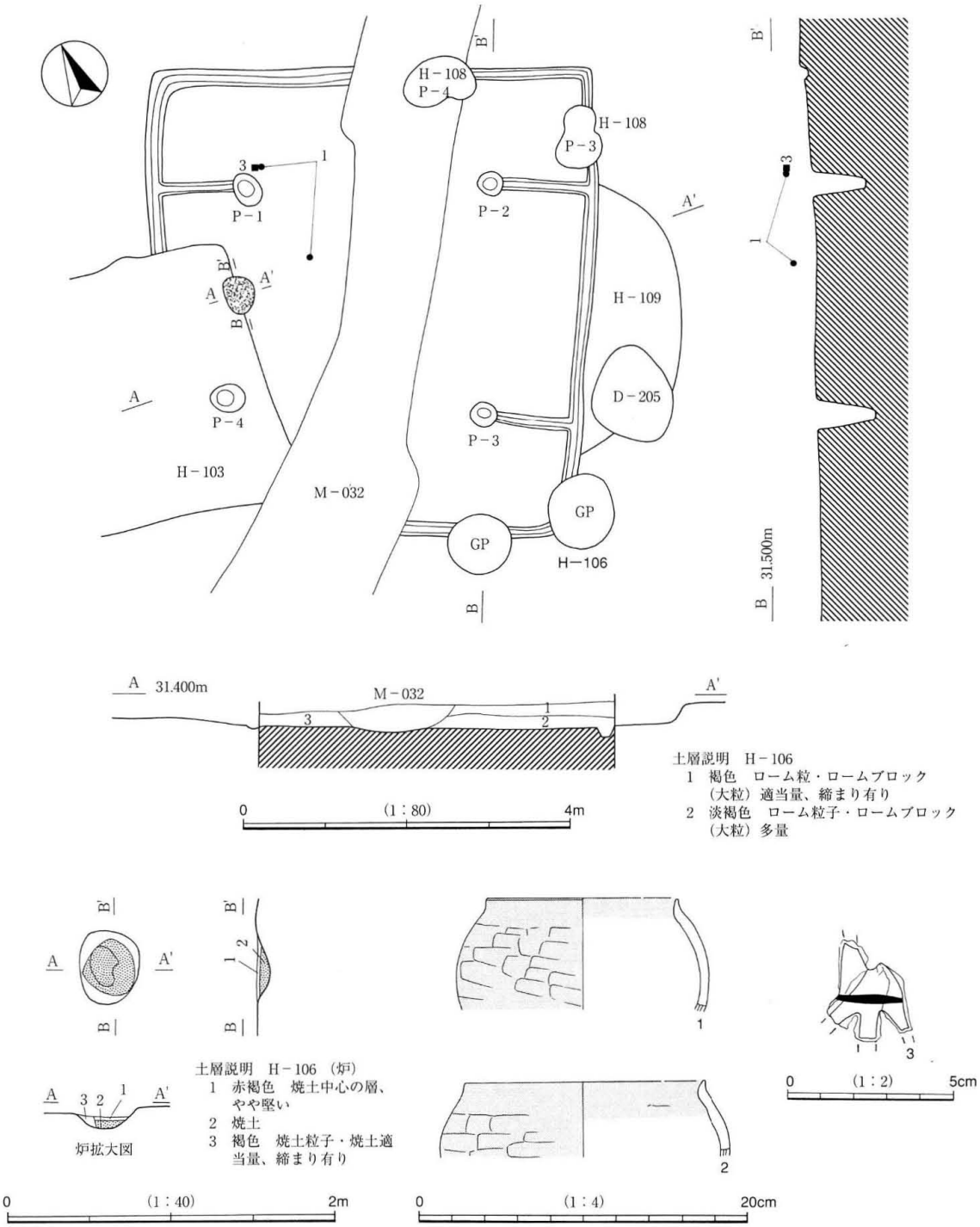

第122図　H－095実測図・出土遺物



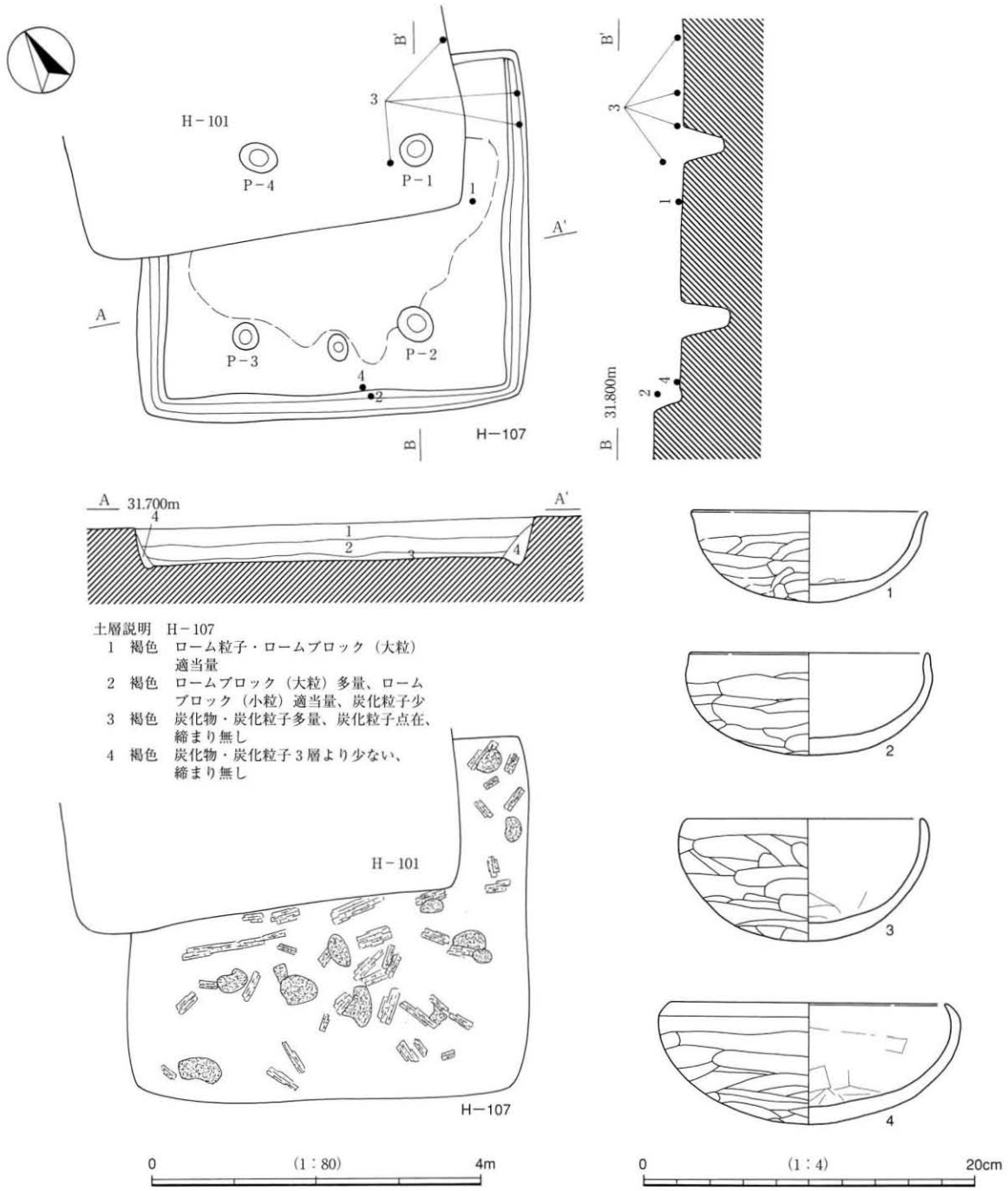

第123図　H－096実測図・出土遺物・H－102実測図



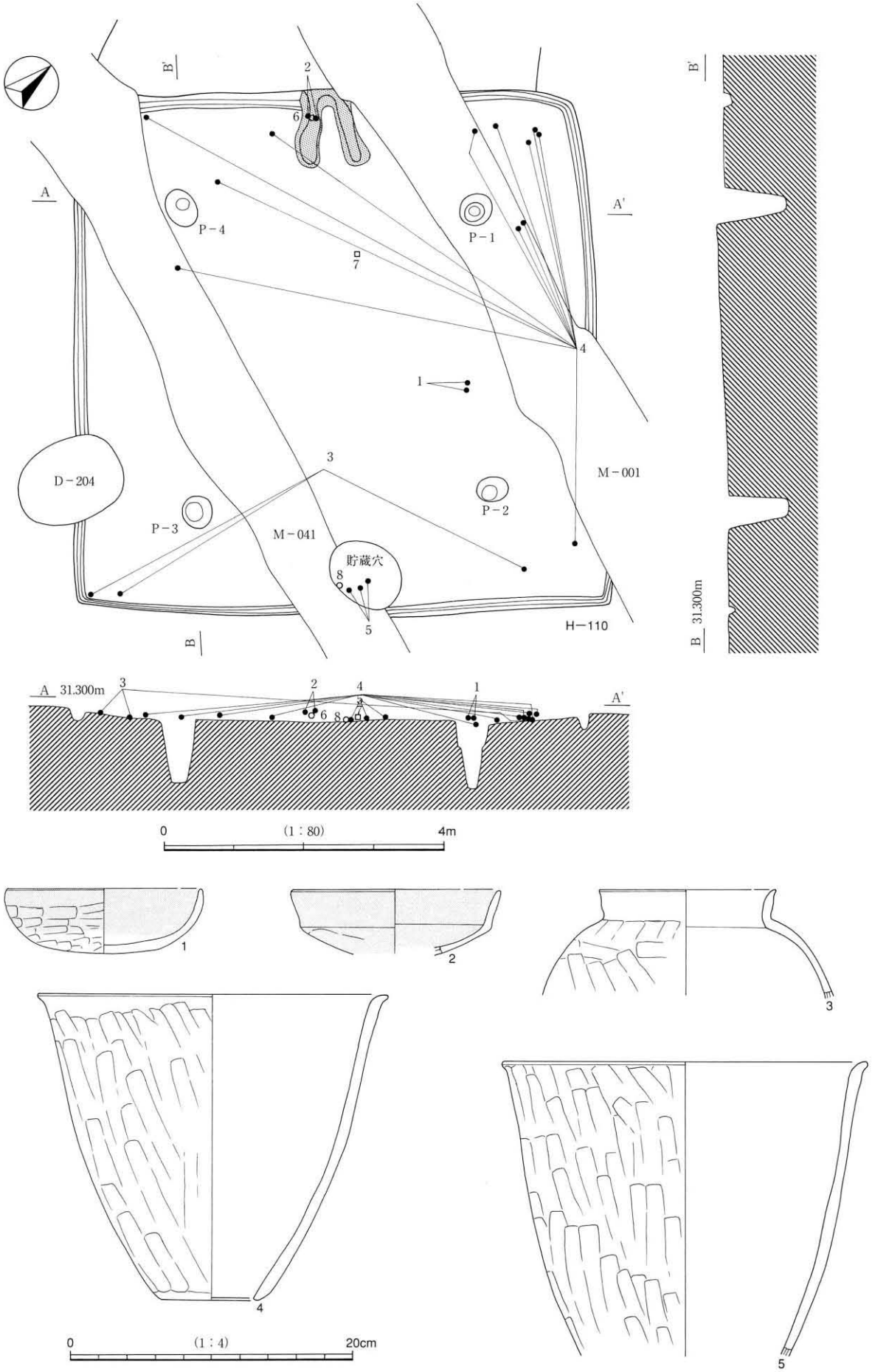

第124図　H－102出土遺物・H－105実測図・出土遺物



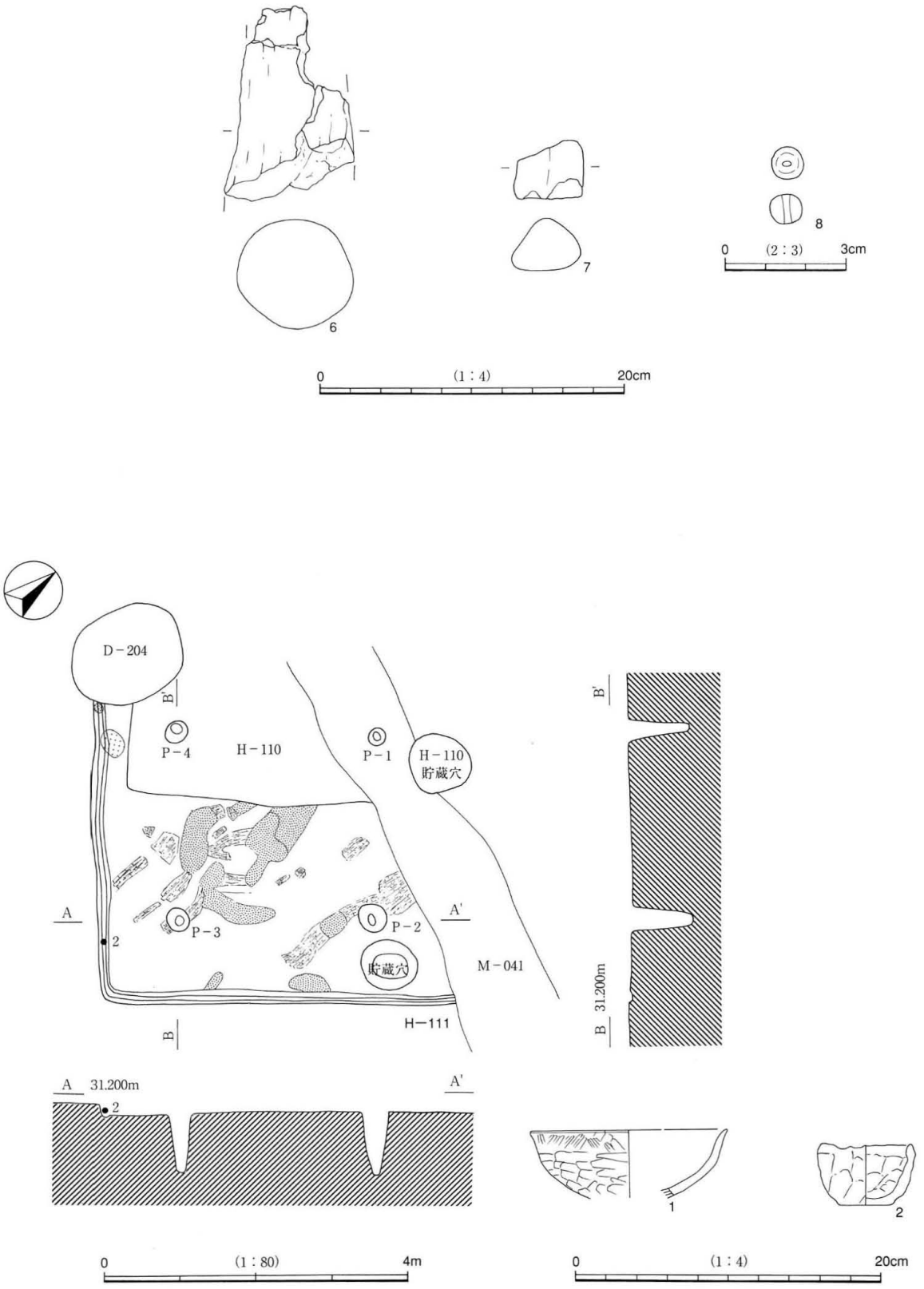

第125図　H－106実測図・出土遺物



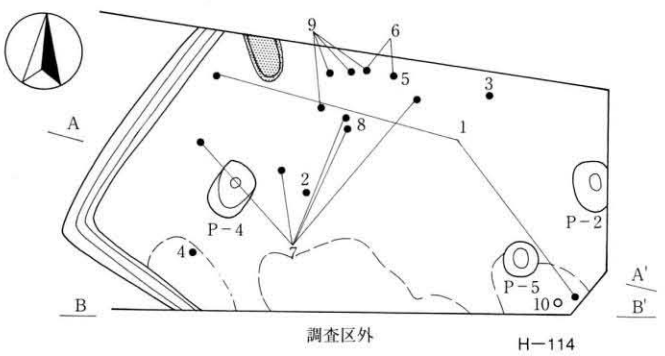

第126図　Ｈ－107実測図・出土遺物

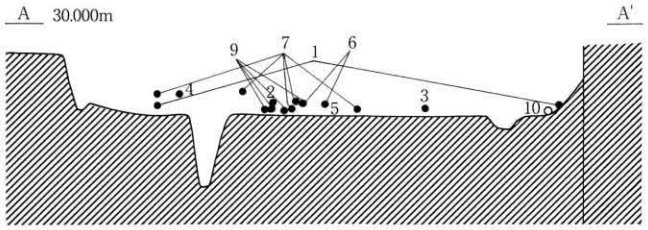


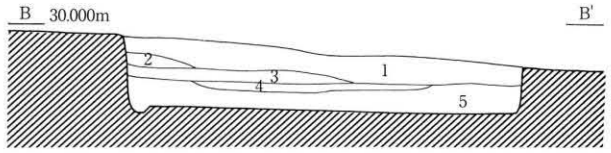

第127図　Ｈ－110実測図・出土遺物（１）




第128図　Ｈ－110出土遺物（２）・Ｈ－111実測図・出土遺物

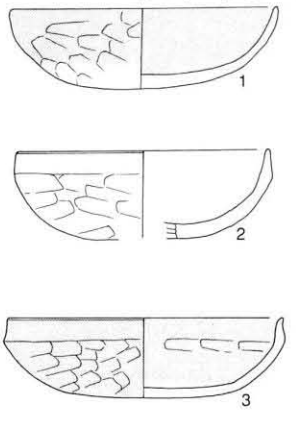


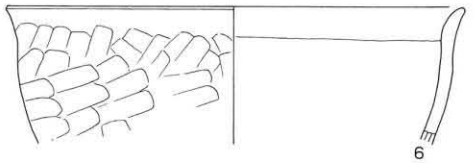



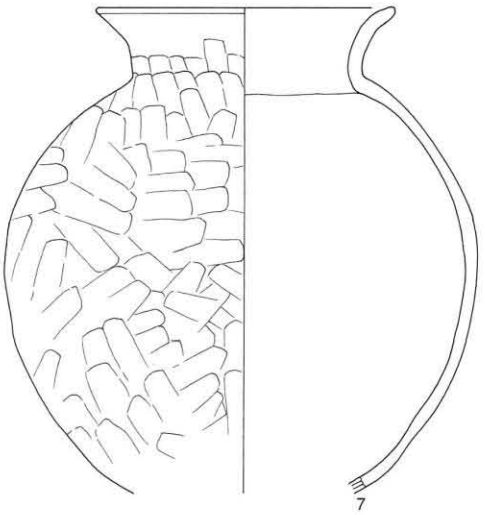



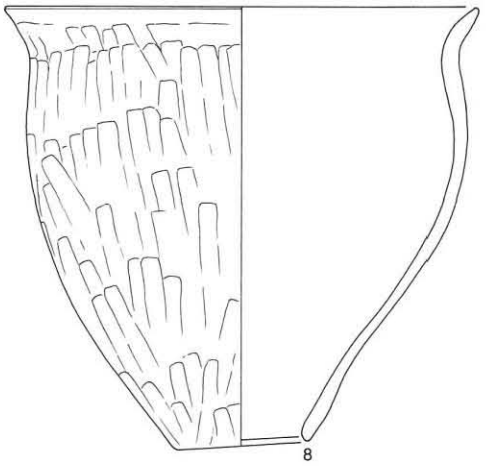

土層説明　H－114
1　黒褐色
2　濃灰褐色
3　淡灰褐色
4　茶褐色
5　赤褐色

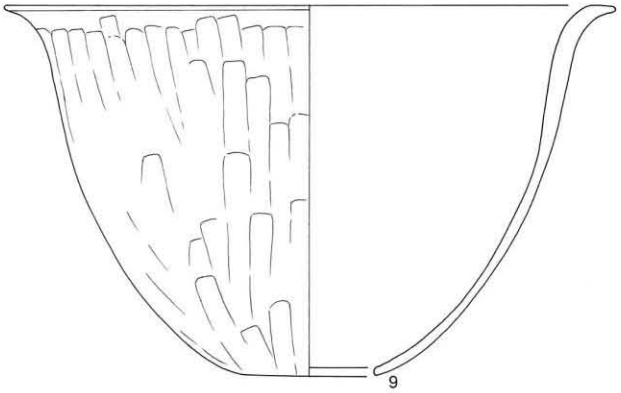
0　(1：80)　4m

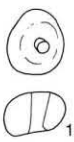












0　(2：3)　3cm

0　(1：4)　20cm

第129図　H－114実測図・出土遺物

## 第3節　土　坑（古墳）

D－028（第130図）

調査区中央部に位置する。H－036が重複している。平面形は，プラン・底部とも不明である。長径0.92m×短径（0.42）m×深さ0.31mを測る。

本土坑の性格は不明である。

D－029（第130図）

調査区中央部に位置する。H－036，040が重複する。平面形は，プラン・底部とも楕円形を呈する。長径1.1m×短径0.8m×深さ0.37mを測る。

本土坑の性格は不明である。

D－030（第130図）

調査区中央部に位置する。平面形は，プラン・底部とも円形を呈する。長径0.83m×短径0.70m×深さ0.27mを測る。

本土坑の性格は不明である。

D－035（第130図）

調査区中央部に位置する。平面形は，プラン・底部とも円形を呈する。長径1.1m×短径1.1m×深さ0.54mを測る。

本土坑の性格は不明である。

D－193（第130図）

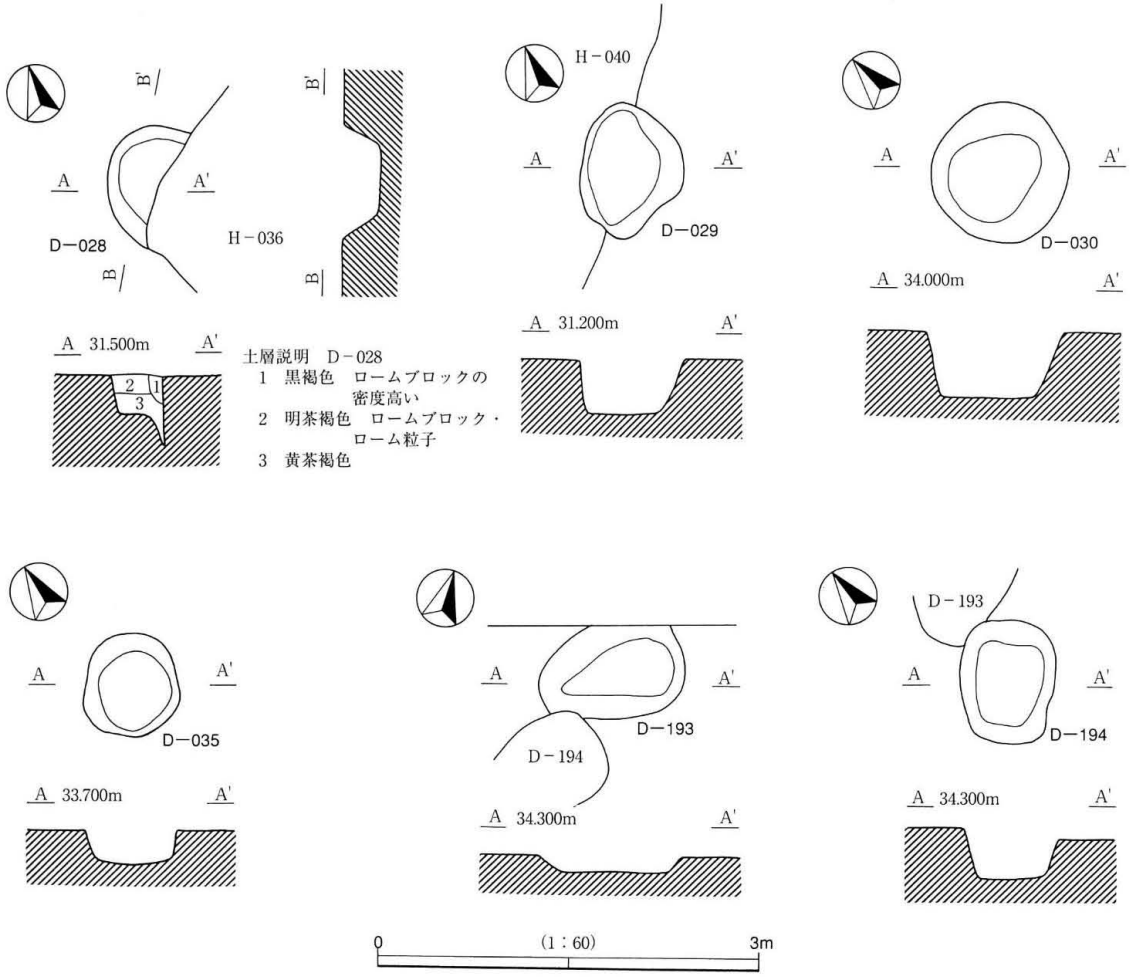
調査区北部に位置する。調査区域外，D－194に切られている。平面形は，プラン・底部とも楕円形を呈する。長径1.16m×短径（0.75）m×深さ0.18mを測る。

本土坑の性格は不明である。

D－194（第130図）

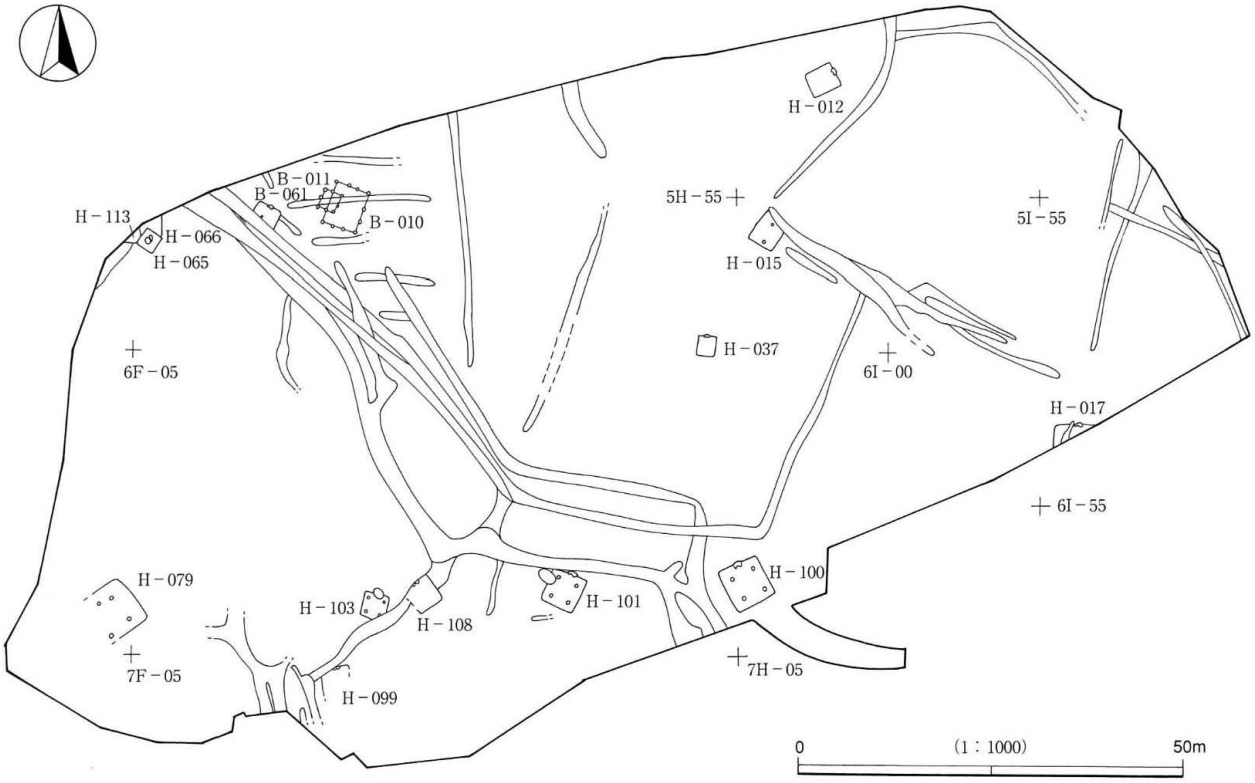
調査区北部に位置する。平面形は，プラン・底部とも隅丸長方形を呈する。長径1.0m×短径0.75m×深さ0.39mを測る。

本土坑の性格は不明である。




第130図　D−028・029・030・035・193・194実測図

# 第５章　奈良・平安時代




第131図　奈良・平安時代遺構配置図

# 第５章　奈良・平安時代

## 第１節　概　要

住居跡14軒，掘立柱建物２軒，土坑13基，溝４条が検出された。住居跡の数は減少し，住居も小型化してくる。調査区の北側や南側に点在している。

## 第２節　竪穴住居跡

Ｈ－012（第132図）

調査区東北部に位置する。Ｈ－013，Ｈ－034，Ｈ－035に切られる。規模は3.65m×4.08m を測り，形状は正方形を呈している。

覆土は３層に分層される。

カマド周辺からほぼ全体に硬化範囲である。周溝は，撹乱で切られる南側以外全周し，幅22cm，深さ9.2cmを測る。

ピットは床面に１本検出された。主柱穴はなく，入り口付近に検出されたピットのみである。Ｐ－１（径41cm×55cm，深さ41cm）を測る。カマドは北東壁中央部に位置し，火床部は検出されなかった。

本住居跡から出土した遺物のうち，坏４点，甕１点，甑１点，玉１点，鉄製品１点，計８点を図示した。

１～４は土師器坏である。１は口縁から底部の１／３が遺存する。ロクロ成形で，底部下端手持ちヘラケズリ，底部には「長子天」の墨書が施されている。法量は復元口径11.8cm，残存器高4.0cm，復元底径5.4cmを測る。２は口縁から体部の１／５遺存する。口縁部ヨコナデ後体部外面ヘラケズリ，体部内面ヘラミガキ，薄くはなっているが内外に黒色処理がみとめられる。法量は復元口径13.0cm，残存器高3.0cmを測る。３は口縁部から体部１／５遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラミガキ，内面ナデが施されている。復元口径12.4cm，残存器高4.0cmを測る。４は口縁から体部の１／４遺存する。ロクロ成形である。復元口径13.0cm，残存器高2.7cmを測る。

５は土師器甕である。口縁から胴部の１／３遺存する。口縁部ヨコナデ，体部外面ヘラケズリ，内面ナデ，外面赤彩。復元口径13.4cm，残存器高12.2cmを測る。

６は土師器甑である。口縁から底部の３／４が遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ヘラケズリ。口径26.8cm，器高27.0cm，底径8.0cmを測る。

７は土玉である。径2.1cm，幅1.7cm，孔径0.2cm，重量6.7g である。

８は鉄坩である。完形である。長さ32.5cm，厚さ0.5cm，重さ168.5g である。

Ｈ－015（第133図）

調査区東部に位置する。Ｄ－026，Ｍ－007に切られる。規模は3.45m×3.42m を測り，形状は方形を呈する。

覆土は，３層に分層される。２・３層の山砂はカマドを壊した際に飛んだと思われる。

硬化範囲が認められる。壁高は約20cmを測る。周溝は，北壁を除いて全周し，幅18cm，深さ3.7cmを測る。

ピットは床面に１本検出された。Ｐ－１（径23cm×24cm，深さ20cm）を測り，梯子穴と考えられる。カマドはＭ－007に壊され，北壁中央に火床部が検出された。

本住居跡から出土した遺物のうち，坏３点，石製品１点，鉄製品１点，計５点を図示した。

１～３は土師器坏である。１は口縁から底部の１／４が遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ後へ

ラミガキ，内面ナデ後ヘラミガキを施されている。法量は復元口径12.0cm，残存器高3.4cm，復元底径8.0cmを測る。２・３は土師器坏口縁片で，内外面に赤彩が施されている。

４は砥石である。長さ7.1cm，幅8.8cm，厚さ4.4cm，重さ455.4gを測る。

５は鉄製の紡錘車である。直径5.7cm，厚さ0.5cm，重さ17.69gを測る。

Ｈ－017（第134図）

調査区東南部に位置する。Ｈ－018,Ｍ－004に切られる。形状は正方形と思われる。

覆土は，３層に分層され人為的に埋め戻されている。

床面は中央一帯に硬化範囲が認められる。壁高は約30cmを測る（西壁）。周溝は，北西の隅部分のみ検出された。幅23cm，深さ6.0cmを測る。

ピットは床面に２本検出された。主柱穴はＰ－１（径80cm×60cm，深さ94cm）を測る。Ｐ－２は補助柱と思われ（径25cm×20cm，深さ20cm）を測る。カマドは北壁中央に検出され，両袖残存でよく焼けている。

本住居跡から出土した遺物のうち，坏４点，高坏１点，小甕１点，計６点を図示した。

１～４は土師器坏である。１は口縁から底部の４／５が遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径12.0cm，器高4.4cm，底径4.0cmを測る。２は口縁から底部の４／５が遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ後ヘラミガキ。法量は口径12.8cm，器高4.0cm，底径は丸底である。３はほぼ完形である。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデが施されている。法量は口径12.8cm，器高4.2cm，底径は丸底である。４はほぼ完形である。栗囲式土器である。外面ヘラケズリ，内面ナデ後ミガキか。法量は口径12.4cm，器高4.0cm，底部は丸底である。

５は土師器高坏である。坏部から脚部の１／３が遺存する。坏部内面ナデ，脚部外面ヘラケズリ，脚部内面ヘラナデが施されている。残存器高7.4cmを測る。

６は土師器小型甕である。口縁から底部の４／５が遺存する。口縁部内外面ヨコナデ後ヘラミガキ，胴部外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径11.4cm，器高9.0cm，底径5.4cmを測る。

Ｈ－037（第134図）

調査区中央部に位置する。Ｈ－038，Ｈ－053と重複する。規模は2.85m×2.86mを測り，形状は正方形を呈する。

覆土は，４層に分層され，人為的に埋め戻されている。

床面はカマド周辺から南壁にむかって硬化範囲が認められる。壁高は約36cmを測る。周溝はカマド部分と南東の角を除き全周し，幅17cm，深さ4.2cmを測る。

ピットは床面に１本検出され，Ｐ－１（径25cm×29cm，深さ10cm）を測る。カマドは北壁中央に検出された。両袖は残存しよく焼けている。

本住居跡から出土した遺物のうち，坏１点，甕２点，手捏土器１点，陶器１点，土製品１点，計５点を図示した。

１は土師器坏である。口縁から底部の１／３が遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。復元口径15.8cm，器高5.4cm，復元底径7.3cmを測る。

２と３は土師器甕である。２は口縁部から胴部の３／４が遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。口径13.4cm，残存器高7.3cmを測る。３は口縁部から胴部の１／４が遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。復元口径14.0cm，残存器高6.7cmを測る。

４は手捏土器である。高台のみが残存する。残存器高2.10cm，底径4.0cmである。

５は陶器の口縁片である。

６は棒状土製品である。長さ2.9cm，幅1.2cm，厚さ1.1cm，重量5.0gを測る。孔を穿こうとした痕がみとめられる。

土製品１点は写真のみの掲載である。

H－061（第135図）

調査区西北部に位置する。M－017に切られる。規模は3.13m×2.86mを測り，形状は正方形方形を呈する。

床面はカマド前面からP－１，P－２まで硬化範囲が認められる。壁高は約10cmを測る。周溝は，カマド部分及び重複部分を除きほぼ全周し，幅16cm，深さ８cmを測る。

ピットは床面に３本検出された。主柱穴はP－１（径40cm×36cm，深さ30cm）・P－２（径47cm×41cm，深さ23cm）・P－３（径60cm×43.9cm，深さ47cm）を測る。カマドは北壁中央に検出された。

本住居跡から出土した遺物のうち，坏２点，甕１点，計３点を図示した。

１土師器坏である。１は口縁部から底部の３／４が遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，底部静止糸切り。法量は復元口径12.5cm，器高3.9cm，復元底径8.8cmを測る。

２は高台付坏で，ほぼ完形である。ロクロ成形。体部下端外面ヘラケズリ，底部静止糸切り後回転ヘラケズリ。法量は口径13.8cm，器高5.0cm，底径9.5cmを測る。

３は土師器甕である。口縁から胴部の１／10が遺存する。調整は内外面とも器面剥離が激しく不明である。法量は復元口径16.0cm，残存器高6.0cmを測る。

H－065（第135図）

調査区西部に位置する。H－066とH－113に切られる。規模は2.56m×2.5mを測り，形状は正方形と思われる。

周溝は，西側壁を除き検出され，幅18cm，深さ４cmを測る。

本住居跡から出土した遺物のうち，坏３点を図示した。

１～２は土師器坏である。口縁から底部の１／６が遺存する。ロクロ成形。底部ヘラケズリ，内外面に薄く赤彩がみとめられる。法量は復元口径14.4cm，器高3.7cm，復元底径9.0cmを測る。

２は口縁片である。内外面に赤彩が施されており，調整は内外面ともに器面剥離のため不明である。法量は復元口径15.8cm，残存器高3.0cmを測る。

３は須恵器坏の底部片である。ロクロ成形。底部ヘラ切りか。法量は残存器高0.9cm，復元底径8.6cmを測る。

H－066（第136図）

調査区西部に位置する。H－065，H－071，H－113，M－044に切られる。規模，形状は不明。北東側一部の壁と床を検出した。ピットは床面に１本検出した。P－１（径29cm×25cm，深さ36cm）を測る。

本住居跡の出土遺物のうち，坏１点を図示した。

１は，土師器坏である。口縁から底部の１／２が遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ヘラナデ。復元口径12.0cm，器高4.0cm，底部は丸底である。

Ｈ－079（第136・137図）

調査区西南部に位置する。Ｈ－078と南西側を中世台地整形に切られる。規模は6.2m×5.8mで，形状は正方形と思われる。

床面は中央に硬化範囲が認められる。周溝は，北東，南東壁のみ検出し，幅24cm，深さ４cmを測る。

ピットは床面に９本検出された。主柱穴はＰ－１（径37cm×42cm，深さ70cm）・Ｐ－２（径65cm×65cm，深さ27cm）・Ｐ－３（径90cm×85cm，深さ71cm）・Ｐ－４（径38cm×40cm，深さ70cm）の４本が対角線上に配され，南壁付近にＰ－５（径43cm×43cm，深さ24cm）が配される。補助柱穴と考えれられるＰ－６（径106cm×不明，深さ40cm）・Ｐ－７（径60cm×55cm，深さ47cm）Ｐ－８（径32cm×48cm，深さ26cm）・Ｐ－９（径48cm×51cm，深さ23cm）・Ｐ－10（径44cm×62cm，深さ20cm）・Ｐ－11（径28cm×28cm，深さ16cm）を測る。

本住居跡の出土遺物のうち，甕２点，小甕１点，計３点を図示した。

１は土師器甕である。口径から胴部の１／８が遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ヘラナデ。法量は復元口径19.7cm，残存器高6.8cmを測る。２は底部３／４が遺存する。外面ヘラケズリ。法量は残存器高2.0cm，復元底径8.2cmを測る。

３は土師器小型甕である。底部のみが残存する。外面にヘラケズリがみとめられる。法量は残存器高1.3cm，器高3.6cmを測る。

Ｈ－099（第137図）

調査区西南部に位置する。Ｍ－032と重複，南東側を中世台地整形に切られる。形状は方形と思われる。

覆土は人為堆積で３層に分層される。

床面はカマド右側に硬化範囲が認められる。壁高は約33cmを測る。周溝は，南東側部分を除いて検出され，幅20cm，深さ５cmを測る。

ピットは床面に１本検出された。主柱穴はＰ－１（径19cm×46cm，深さ35cm）を測る。カマドは北壁中央東よりに検出された。

本住居跡の出土遺物のうち，坏４点を図示した。

１～４は土師器坏である。１は口縁部から底部の２／３遺存する。外面ロクロナデ調整，体部下端から底部は回転ヘラケズリ，底部ヘラ切り。外面底部には，ひだすき。法量は口径13.7cm，器高4.2cm，底径7.6cmを測る。２は口縁部から底部の１／３遺存する。外面ロクロ成形，体部下端から底部は手持ちヘラケズリ。法量は復元口径14.0cm，器高4.1cm，底径8.1cmを測る。３は口縁から底部の１／３遺存する。外面ロクロ成形，体部下端から底部は手持ちヘラケズリ，内面にはヘラミガキがみとめられるが，器面剥離が激しい。法量は復元口径12.8cm，器高3.8cm，復元底径8.8cmを測る。４は口縁部から底部の２／３遺存する。口縁部ヨコナデ，外面ヘラケズリ，内面ナデ。法量は口径12.2cm，器高4.2cm，底部は丸底である。

Ｈ－100（第138図）

調査区南部に位置する。規模は5.80m×6.07mを測り，形状は方形を呈する。

覆土は，人為堆積で２層分層される。

床面は住居跡中央に硬化範囲が認められる。壁高は約40cmを測る（西壁）。周溝は，カマド部分を除いて全周する。幅29cm，深さ４cmを測る。

ピットは床面に４本検出された。主柱穴はＰ－１（径37cm×27cm，深さ77cm）・Ｐ－２（径28cm×42cm，深さ87cm）・Ｐ－３（径46cm×38cm，深さ88cm）・Ｐ－４（径38cm×28cm，深さ69cm）の４本が対角線上に配さ